



2013年度前期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）

授業内容の見方

- 1 項～1 1 項 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
- 1 2 項～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られたものをそのまま掲載しています。

難易度
授業内容に応じて、A・B・C・Dの4段階に区分しています。詳しくは2ページを参照ください。

授業の目標
学習内容
授業計画
これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書などに記す番号です。

授業科目	ドイツ語A-2				
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟422	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前学期	必修選択区分	選必
対象学年	1年,2年	● 難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	文法の基礎				
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。				
● 学習内容	教科書に沿って行う。				
● 授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法				
● 受講要件	問わない。				
テキスト	ドイツ文法18歩				
参考書	無し				
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。				
● オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。				
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。				

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票などにもこの番号を記入します。

■学部等

◇授業実施の主体となる部局を指します。

■学期

◇この欄に「前学期（前半）」「前学期（後半）」と記載された授業については、前学期をさらに半分に分けて開講されます。「前学期（後半）」の開始時期は前学期スケジュール（P33）でご確認ください。

■曜日・時限

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当します〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当します〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当します〉

◇演習については、専門的な知識が必要であり、かつ、担当教員と面談を行うため、応募者が少ない場合でも、受講できないことがあります。

■受講料

◇半期全14回で9,200円が基本となっていますが、週2回開講の場合は13,200円、「前学期（前半）」の場合は7,200円、「前学期（後半）」の場合は6,200円です。

平成25年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕 〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
1	教養	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	エゲンベルグ・トーマス	前学期	月3・4	共P102	若干名	A	9,200円
2	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月3・4	共A405	若干名	A	9,200円
3	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	浅野 幸生	前学期	月3・4	共P202	若干名	A	9,200円
4	教養	初修外国語(スペイン語)入門Ⅰ	大原 志麻	前学期	月3・4	共A105	若干名	A	9,200円
5	教養	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月3・4	共A305	若干名	A	9,200円
6	教養	芸術論	ユーリック	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
7	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月5・6	共A405	若干名	A	9,200円
8	教養	化学の世界	釜谷 保志	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
9	教養	初修外国語(スペイン語)入門Ⅰ	大原 志麻	前学期	月5・6	共A105	若干名	A	9,200円
10	教養	生物と環境	大野 始	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
11	教養	初修外国語(中国語)入門Ⅰ	張 盛開	前学期	月5・6	共A403	若干名	A	9,200円
12	教養	哲学	田中 伸司	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
13	教養	生物と環境	徳岡 徹	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
14	教養	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月5・6	共A202	若干名	A	9,200円
15	教養	現代の社会	船橋 恵子	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
16	教養	数学Ⅳ(線形代数B)	清水 扇丈	前学期	月7・8	共A202	若干名	B	9,200円
17	教養	化学Ⅰ(物理化学A)	関根 理香	前学期	火1・2	共B301	若干名	A	9,200円
18	教養	数理の構造	依岡 輝幸	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
19	教養	生命科学	塩尻 信義	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
20	教養	化学の世界	山中 正道	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
21	教養	日本国憲法	小谷 順子	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
22	教養	ことばと表現	森本 隆子	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
23	教養	心理学	須藤 智	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
24	教養	経済と社会	川瀬 憲子	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
25	教養	物理の世界	嶋田 大介	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
26	教養	現代の社会	日詰 一幸	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
27	教養	科学と技術	平田 邦夫	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
28	教養	化学Ⅲ(有機化学)	山中 正道	前学期	水1・2	共A202	若干名	B	9,200円
29	教養	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前学期	水1・2	共P102	若干名	B	9,200円
30	教養	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅱ	エケンベルグ・トーマス	前学期	水5・6	共P102	若干名	A	9,200円
31	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	浅野 幸生	前学期	水5・6	共A102	若干名	A	9,200円
32	教養	初修外国語(スペイン語)入門Ⅱ	大原 志麻	前学期	水5・6	共A105	若干名	A	9,200円
33	教養	物理学概論A	渡邊 拓	前学期	水7・8	共A302	若干名	A	9,200円
34	教養	生物学Ⅰ(基礎A)	藤原 健智	前学期	木1・2	理B202	若干名	A	9,200円
35	教養	生物学Ⅰ(基礎A)	徳元 俊伸	前学期	木1・2	共D2	若干名	A	9,200円
36	教養	数学Ⅰ(微分積分A)	田中 直樹	前学期	木3・4	共A302	若干名	A	9,200円
37	教養	数学Ⅰ(微分積分A)	板津 誠一	前学期	木3・4	共A402	若干名	A	9,200円
38	教養	生物学概論A(基礎)	鳥山 優	前学期	金1・2	共D1	若干名	A	9,200円
39	教養	生物学概論A(アドバンス)	鳥山 優	前学期	金1・2	共D2	若干名	A	9,200円
40	教養	地球科学Ⅰ(基礎A)	和田 秀樹	前学期	金1・2	理B202	若干名	B	9,200円
41	教養	ことばの諸相	小町 将之	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
42	教養	静岡県防・減災と原子力	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
43	教養	現場から考える死生学	竹之内 裕文	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
44	教養	暮らしの中の新素材	澤渡 千枝	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
45	人文社会科学部	国際経済学Ⅰ	鐵 和弘	前学期	月1・2	未定	若干名	C	9,200円
46	人文社会科学部	マーケティング	鈴木 拓也	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
47	人文社会科学部	政策特論Ⅳ	太田 隆之	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
48	人文社会科学部	経営情報論	伊東 暁人	前学期	火3・4	未定	若干名	C	9,200円
49	人文社会科学部	地方財政論Ⅰ	川瀬 憲子	前学期	水3・4	未定	若干名	C	9,200円
50	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅰ	山下 隆之	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,200円
51	人文社会科学部	情報経済学Ⅰ	石橋 太郎	前学期	金1・2	未定	若干名	C	9,200円
52	人文社会科学部	世界経済論Ⅰ	安藤 研一	前学期	金1・2	未定	若干名	C	9,200円
53	人文社会科学部	環境政策Ⅰ	水谷 洋一	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
54	人文社会科学部	統計学Ⅰ	上藤 一郎	前学期	金5・6	未定	若干名	B	9,200円
55	人文社会科学部	金融論Ⅰ	鳥畑 與一	前学期	金7・8	未定	若干名	B	9,200円
56	人文社会科学部	財政学Ⅰ	櫻井 良治	前学期	金9・10	未定	若干名	B	9,200円
57	人文社会科学部	民族文化論Ⅰ	大野 旭	前学期	月9・10	未定	若干名	B	9,200円
58	人文社会科学部	臨床人間学	堂園 俊彦	前学期	火5・6	未定	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
59	人文社会科学部	日本中世文化史	湯之上 隆	前学期	火5・6	未定	最大10名程度	C	9,200円
60	人文社会科学部	発達臨床心理学 I	畠垣 智恵	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,200円
61	人文社会科学部	文化人類学学説史 I	原 知章	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,200円
62	人文社会科学部	言葉と論理	上利 博規	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,200円
63	人文社会科学部	社会学特論 II	吉田 崇	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,200円
64	人文社会科学部	地域社会論 I	長沼 さやか	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,200円
65	人文社会科学部	考古学研究法 I	篠原 和夫	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,200円
66	人文社会科学部	哲学の歴史 I	田中 伸司	前学期	水7・8	未定	若干名	B	9,200円
67	人文社会科学部	人格心理学 II	笠井 仁	前学期	水7・8	未定	若干名	B	9,200円
68	人文社会科学部	ギリシア語 I	田中 伸司	前学期	水9・10	未定	若干名	B	9,200円
69	人文社会科学部	西洋史概説 I	藤井 真生	前学期	水9・10	未定	若干名	B	9,200円
70	人文社会科学部	西洋社会史 II	岩井 淳	前学期	水9・10	未定	若干名	C	9,200円
71	人文社会科学部	異常心理学 II	田辺 肇	前学期	金1・2	未定	若干名	B	9,200円
72	人文社会科学部	共生の社会学	平岡 義和	前学期	金5・6	未定	若干名	B	9,200円
73	人文社会科学部	フランス事情Ⅲ	コルベイ・ステューブ	前学期	月1・2	未定	若干名	B	9,200円
74	人文社会科学部	フランス語コミュニケーション論 I	コルベイ・ステューブ	前学期	月3・4	未定	若干名	B	9,200円
75	人文社会科学部	日本語文化各論Ⅳ	森本 隆子	前学期	月3・4	未定	若干名	B	9,200円
76	人文社会科学部	言語学原書講読 I	熊谷 滋子	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
77	人文社会科学部	アメリカ文学文化読解 I	レッドフォード・ステューブン	前学期	火5・6	未定	若干名	D	9,200円
78	人文社会科学部	日本語文化各論 II	酒井 英行	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,200円
79	人文社会科学部	比較文学概論 I	田村 充正	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,200円
80	人文社会科学部	フランス言語文化演習 I	浅野 幸生	前学期	水7・8	未定	若干名	D	9,200円
81	人文社会科学部	映像文化論	コルベイ・ステューブ	前学期	水9・10	未定	3	B	9,200円
82	人文社会科学部	日本語文化基礎講読Ⅵ	勝山 幸人	前学期	木1・2	未定	若干名	B	9,200円
83	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	鈴木 実佳	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,200円
84	人文社会科学部	英語学各論 I	大村 光弘	前学期	木3・4	未定	若干名	C	9,200円
85	人文社会科学部	日本・アジア言語文化基礎論	小二田 誠二	前学期	金1・2	未定	若干名	A	9,200円
86	人文社会科学部	フランス文学概論 I	安永 愛	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
87	人文社会科学部	日本語文化基礎講読 II	袴田 光康	前学期	金5・6	未定	若干名	B	9,200円
88	人文社会科学部	会社法	西川 義晃	前学期	月3・4	未定	若干名	C	13,200円
					木3・4	未定			

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
89	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前学期	月7・8	未定	若干名	A	9,200円
90	人文社会科学部	民事訴訟法	坂本 真樹	前学期	月9・10	未定	若干名	B	13,200円
					金7・8	未定			
91	人文社会科学部	憲法総論・統治機構	小谷 順子	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
92	人文社会科学部	地方自治論	日詰 一幸	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
93	人文社会科学部	政治思想 I	井柳 美紀	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,200円
94	人文社会科学部	国際人権法	板倉 美奈子	前学期	金9・10	未定	若干名	C	9,200円
95	教育学部	微分積分学基礎	大田 春外	前学期	月1・2	教G201	若干名	A	9,200円
96	教育学部	代数学 I	谷本 龍二	前学期	月1・2	教G202	若干名	B	9,200円
97	教育学部	基礎生物学	伊藤 富夫	前学期	月1・2	教C309	若干名	A	9,200円
98	教育学部	集合と論理基礎	大田 春外	前学期	火3・4	教G001	若干名	A	9,200円
99	教育学部	幾何学 I	大田 春外	前学期	水1・2	教G201	若干名	B	9,200円
100	教育学部	解析学 I	谷本 龍二	前学期	水5・6	教G201	若干名	B	9,200円
101	教育学部	書写基礎	杉崎 哲子	前学期	木1・2	教A601	若干名	A	9,200円
102	教育学部	線形代数学基礎	山田 耕三	前学期	金9・10	教G201	若干名	A	9,200円
103	理学部	シミュレーション数理科学Ⅱ	清水 扇丈	前学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,200円
104	理学部	幾何学	保坂 哲也	前学期	月5・6	理B204	若干名	C	9,200円
105	理学部	線型代数学Ⅲ	毛利 出	前学期	月7・8	理B204	若干名	C	9,200円
106	理学部	解析学	清水 扇丈	前学期	火1・2	理B204	若干名	C	9,200円
107	理学部	代数学	毛利 出	前学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,200円
108	理学部	複素解析学	奥村 善英	前学期	水1・2	理B204	若干名	C	9,200円
109	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前学期	水3・4	共D3	若干名	C	9,200円
110	理学部	統計処理論	板津 誠一	前学期	水3・4	共D1	若干名	C	9,200円
111	理学部	数理論理学	依岡 輝幸	前学期	木1・2	理B204	若干名	C	9,200円
112	理学部	線型代数学 I	鈴木 信行	前学期	木3・4	理B204	若干名	B	9,200円
113	理学部	複素解析学Ⅱ	奥村 善英	前学期	金1・2	理B204	若干名	C	9,200円
114	理学部	微分積分学Ⅲ	田中 直樹	前学期	金3・4	理B204	若干名	C	9,200円
115	理学部	物理数学 I	松山 晶彦	前学期	月3・4	理B203	若干名	B	9,200円
116	理学部	素粒子宇宙物理学	青山 昭五	前学期(前半)	月3・4	理B211	若干名	C	7,200円
117	理学部	基礎物理学 I	溜淵 継博	前学期(前半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,200円
					水5・6				

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
118	理学部	基礎物理学Ⅱ(※)	溜瀧 継博	前学期(後半)	月5・6 水5・6	理B203	若干名	A	8,200円
119	理学部	物理数学Ⅱ	土屋 麻人	前学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,200円
120	理学部	電磁気学Ⅰ	松本 正茂	前学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,200円
121	理学部	電磁気学Ⅲ	鈴木 淳史	前学期	水3・4	共A302	若干名	C	9,200円
122	理学部	物理光学	富田 誠	前学期(前半)	木1・2	理B203	若干名	C	7,200円
123	理学部	統計力学Ⅰ	青山 昭五	前学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,200円
124	理学部	放射線物理学概論	奥野 健二	前学期	木5・6	共B501	若干名	B	9,200円
125	理学部	量子力学Ⅰ	土屋 麻人	前学期	金1・2	理B203	若干名	C	9,200円
126	理学部	量子力学Ⅲ	嘉規 香織	前学期	金3・4	理B203	若干名	C	9,200円
127	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前学期	金5・6	理B204	若干名	C	9,200円
128	理学部	物理実験学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	金7・8	理B203	若干名	B	9,200円
129	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前学期	月1・2	理B202	若干名	C	9,200円
130	理学部	構造有機化学	坂本 健吉	前学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,200円
131	理学部	熱化学Ⅰ	小堀 康博	前学期	火1・2	理B213	若干名	B	9,200円
132	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前学期	火1・2	理B202	若干名	C	9,200円
133	理学部	情報生化学	瓜谷 眞裕	前学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,200円
134	理学部	基礎量子化学	村井 久雄	前学期	火5・6	理B213	若干名	A	9,200円
135	理学部	有機化学Ⅰ	小林 健二	前学期	水1・2	理B202	若干名	A	9,200円
136	理学部	基礎生化学	大吉 崇文	前学期	水1・2	共D1	若干名	B	9,200円
137	理学部	有機反応論	塚田 直史	前学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,200円
138	理学部	溶液化学	加藤 知香	前学期	水3・4	共D2	若干名	B	9,200円
139	理学部	量子化学Ⅱ	三井 正明	前学期	水3・4	理B213	若干名	C	9,200円
140	理学部	構造錯体化学	近藤 満	前学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,200円
141	理学部	無機化学Ⅱ	菅野 秀明	前学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,200円
142	理学部	発生生物学Ⅰ	徳元 俊伸	前学期	月3・4	理B202	若干名	B	9,200円
143	理学部	植物生理学	栗井 光一郎	前学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,200円
144	理学部	生化学	天野 豊己	前学期	火1・2	理B212	若干名	C	9,200円
145	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前学期	火1・2	共D2	若干名	C	9,200円
146	理学部	基礎生物学Ⅰ	丑丸 敬史	前学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,200円
147	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,200円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
148	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,200円
149	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,200円
150	理学部	生物環境科学概論 I	生形 貴男	前学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,200円
151	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前学期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	7,200円
152	理学部	層序学	北村 晃寿	前学期	火1・2	理B201	若干名	C	9,200円
153	理学部	地球環境学	加藤 憲二	前学期	火3・4	理B201	若干名	C	9,200円
154	理学部	地球科学入門 I	石橋 秀巳	前学期	火5・6	理B202	若干名	A	9,200円
155	理学部	地球ダイナミクス概論 I	和田 秀樹	前学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,200円
156	理学部	堆積学	北村 晃寿	前学期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	7,200円
157	理学部	地球環境微生物学	加藤 憲二	前学期(後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,200円
158	理学部	地球変動学	道林 克禎	前学期	金1・2	理B201	若干名	C	9,200円
159	理学部	地球科学入門 II	鈴木 雄太郎	前学期	金7・8	理B201	若干名	A	9,200円
160	農学部	遺伝学	大村 三男	前学期	月1・2	農B201	若干名	B	9,200円
161	農学部	植物繁殖学	原田 久	前学期	月1・2	農B205	若干名	B	9,200円
162	農学部	植物病理学	平田 久笑	前学期	月3・4	農B201	若干名	B	9,200円
163	農学部	栄養化学	森田 達也	前学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,200円
164	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前学期	月3・4	農B203	若干名	B	9,200円
165	農学部	育種学	大村 三男	前学期	月5・6	農B201	若干名	B	9,200円
166	農学部	生化学概論	平井 浩文	前学期	火1・2	農B208	若干名	A	9,200円
167	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前学期	火1・2	農B205	若干名	B	9,200円
168	農学部	果樹園芸学	向井 啓雄	前学期	火1・2	農B203	若干名	B	9,200円
169	農学部	植物バイオサイエンス入門	切岩 祥和	前学期	火5・6	農B201	若干名	A	9,200円
170	農学部	室内環境学	渡邊 拓	前学期	火5・6	農B208	若干名	B	9,200円
171	農学部	測量学	近藤 恵市	前学期	火5・6	農A537	若干名	B	9,200円
172	農学部	人間環境科学論	鈴木 恭治	前学期	火7・8	農B210	若干名	A	9,200円
173	農学部	園芸生産学	向井 啓雄	前学期	火7・8	農B201	若干名	A	9,200円
174	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前学期	水1・2	農B208	若干名	B	9,200円
175	農学部	バイオマス利用論	鈴木 恭治	前学期	水1・2	農B210	若干名	B	9,200円
176	農学部	生物工学	朴 龍洙	前学期	水1・2	農B204	若干名	C	9,200円
177	農学部	森林生態管理学	今泉 文寿	前学期	水1・2	農B205	若干名	C	9,200円
178	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前学期	水1・2	農B203	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
179	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前学期	水3・4	農B201	若干名	B	9,200円
180	農学部	木質機能科学	安村 基	前学期	水3・4	農B205	若干名	B	9,200円
181	農学部	木質利用化学	西田 友昭	前学期	水3・4	農B203	若干名	C	9,200円
182	農学部	分析化学	原 正和	前学期	水3・4	農B208	若干名	B	9,200円
183	農学部	基礎微生物学	瀧川 雄一	前学期	水5・6	農B208	若干名	A	9,200円
184	農学部	基礎微生物学	徳山 真治	前学期	水5・6	農B201	若干名	A	9,200円
185	農学部	花卉園芸学	大野 始	前学期	木1・2	農B201	若干名	B	9,200円
186	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前学期	木1・2	農B210	若干名	C	9,200円
187	農学部	木材接着学	山田 雅章	前学期	木1・2	農B203	若干名	B	9,200円
188	農学部	基礎生態学	澤田 均	前学期	木3・4	農B201	若干名	B	9,200円
189	農学部	環境微生物学	小川 直人	前学期	木3・4	農B203	若干名	B-C	9,200円
190	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前学期	木3・4	農B210	若干名	B	9,200円
191	農学部	木質材料学	鈴木 滋彦	前学期	木3・4	農B205	若干名	B	9,200円
192	農学部	造園学	藤本 征司	前学期	木3・4	農B208	若干名	B	9,200円
193	農学部	材料力学	安村 基	前学期	金1・2	農B203	若干名	B	9,200円
194	農学部	食料経済学	柴垣 裕司	前学期	金1・2	農B201	若干名	A	9,200円
195	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前学期	金1・2	農B208	若干名	B	9,200円
196	農学部	一般昆虫学	田上 陽介	前学期	金3・4	農B208	若干名	A	9,200円
197	農学部	生物有機化学1	轟 泰司	前学期	金3・4	農B210	若干名	B	9,200円
198	農学部	樹木生化学	西田 友昭	前学期	金3・4	農B205	若干名	B	9,200円
199	農学部	樹木・組織学	水永 博己	前学期	金5・6	農B203	若干名	A	9,200円

<通年>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
200	人文社会科学部	フランス語学概論	浅野 幸生	通年	火9・10	未定	若干名	B	13,200円
201	人文社会科学部	民法総論	藤巻 梓	通年	木3・4	未定	若干名	A	13,200円

※基礎物理学Ⅱを受講する場合は、基礎物理学Ⅰと併せて受講することが望ましい。

平成25年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕
 <前学期>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
202	教養	電磁気学	藤間 信久	前学期	月1・2	未定	若干名	B	9,200円
203	教養	微分積分学Ⅰ	足達 慎二	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,200円
204	教養	力学・波動Ⅰ	藤間 信久	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,200円
205	教養	離散数学	中谷 広正	前学期	月9・10	未定	若干名	B	9,200円
206	教養	電磁気学	岡部 拓也	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
207	教養	哲学	吉田 寛	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
208	教養	経済と社会	高口 鉄平	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
209	教養	現代の社会	藤井 史朗	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,200円
210	教養	化学の世界	梅本 宏信	前学期	火1・2	未定	若干名	C	9,200円
211	教養	地球科学	岩崎 一孝	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
212	教養	法と社会	橋本 誠一	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
213	教養	日本国憲法	原田 伸一郎	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
214	教養	心理学	坂井 敬子	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
215	教養	科学と技術	平田 邦夫	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,200円
216	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	田中 柊子	前学期	火5・6	未定	若干名	A	9,200円
217	教養	線形代数学Ⅰおよび演習	中島 徹	前学期	火5・6	未定	若干名	A	13,200円
					火7・8	未定			
218	教養	心理学	漁田 武雄	前学期	水3・4	未定	若干名	B	9,200円
219	教養	現代の社会	中 正樹	前学期	水3・4	未定	若干名	B	9,200円
220	教養	ことばと表現	田中 柊子	前学期	水3・4	未定	若干名	B	9,200円
221	教養	線形代数学Ⅰおよび演習	中島 徹	前学期	水5・6	未定	若干名	A	13,200円
					水7・8	未定			
222	教養	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	木1・2	未定	若干名	A	9,200円
223	教養	工学基礎化学Ⅰ	平川 和貴	前学期	木1・2	未定	若干名	A	9,200円
224	教養	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,200円
225	教養	電磁気学	岡部 拓也	前学期	金1・2	未定	若干名	B	9,200円
226	教養	異文化と出会う	許山 秀樹	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
227	教養	ことば	近藤 真	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
228	教養	浜松市の交通を考える	戸田 三津夫	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
229	教養	こころの深層	太田 裕一	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
230	教養	エネルギーと環境	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,200円
231	教養	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	田中 柊子	前学期	金5・6	未定	若干名	A	9,200円
232	教養	工学基礎化学Ⅰ	植田 一正	前学期	金9・10	未定	若干名	A	9,200円
233	工学部	電気電子材料	喜多 隆介	前学期	月3・4	2-31	若干名	C	9,200円
234	工学部	塑性加工学	田中 繁一	前学期	火5・6	2-21	若干名	C	9,200円
235	工学部	弾性力学	島村 佳伸	前学期	金7・8	総34	若干名	C	9,200円
236	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前学期	月1・2	情22	若干名	A	9,200円
237	情報学部	博物館経営論	高松 良幸	前学期	火1・2	情22	若干名	B	9,200円
238	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前学期	火9・10	情22	若干名	B	9,200円
239	情報学部	情報学概論	藤井 史朗	前学期	金1・2	情13	若干名	A	9,200円

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅰ				
担当教員名	エゲンベルグ・トーマス		所属等	大学教育センター	
			研究室	人文学部A棟 225	
分担教員名					
クラス	学部共通3	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、落ち着いた雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S 言語行動 G 文法 L ドイツ事情</p> <p>1. Begrusung, Befinden（人と知り合う、調子・健康） S 様々な挨拶、スモールトーク G 動詞の人称変化（単数）、W 疑問文 L ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏</p> <p>2. Angaben zur Person, Studium, Beruf（自己紹介、勉強、仕事） S 自分のことについて話す G 動詞の人称変化（複数）、名詞の性別（1） L 名刺、上下関係、インターネット</p> <p>3. Familie（家族） S 家族や外国語について話す G Ja-Nein 疑問文、所有代名詞、不規則動詞 L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態</p> <p>4. Einkaufen, Möbel（買い物、家具） S お店での相談、値段を尋ねる、デザインなどについて話す G 定冠詞、名詞の性別（2） L ライフスタイル、住居シェアリング、建築</p> <p>5. Gegenstände, Produkte（物、製品） S 単語を教えてもらう、もう一回発音してもらう、物の描写 G 不定冠詞、否定冠詞 L フリーマーケット、時計、電化製品</p> <p>6. Büro & Technik（オフィスと技術） S 電話する、メールやSMSを書く、パソコンの使い方 G 格変化（1・4格） L 仕事、就職</p> <p>7. Freizeit, Komplimente（余暇、愛想を言う） S 趣味や特技について話す、人を褒める G 話法の助動詞（1）、文の構造 L 自由時間の過ごし方、環境意識、ワーク・ライフ・バランス</p> <p>8. Freizeit, Verabredungen（余暇、約束） S 約束する、時間表現 G 前置詞（1） L 自由時間の過ごし方、環境意識、ワーク・ライフ・バランス</p> <p>9. Essen und Trinken, Einladung zu Hause（食事、ホームパーティ） S 好き嫌いについて話す、食卓での会話 G 話法の助動詞（2）、複合語 L 食習慣</p> <p>10. Reisen, Verkehrsmittel（旅行、交通手段） S アナウンス、旅行の計画を立てる、予約する</p>				

	<p>G 分離動詞 L 異文化経験、旅の価値観 11. Mein Tag, Vergangenes (私の一日、過去のこと) S 日常の行動、一週間の予定、昨日(過去)のことを言う G 現在完了形(1)、前置詞(2) L 色々な人の一日 12. Feste, Vergangenes (お祝い・祭り、思い出) S インタビュー、思い出話をする G 現在完了形(2)、前置詞(3) L 季節、お天気 その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど</p>
受講要件	なし
テキスト	<p>必要なラーニング・ツール：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教科書：Menschen - Kursbuch (A1.1), Hueber 出版社, ISBN 978-3-19-301901-1 (900円弱) - 独和辞典 (電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります) - メディアプレーヤー
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題(復習・予習・下調べなど)が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	<p>授業中のアクティビティ・課題(あわせて20%)、小テスト(30%)、Showtime テスト(20%)、期末テスト(30%)。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可(2回の遅刻は1回の欠席扱い)。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日の昼休み。お気軽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です：jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp</p>
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟525		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	教科書『新・東京一パリ、初飛行』に沿い、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。フランス語圏の文化に少しずつ触れていきます。				
授業計画	1回 インTRODクシヨン：フランス語はどんな言葉か。フランス語の歴史。フランス語圏について。 2回 フランス語の音と綴りに慣れる。 3回 教科書第1課 4回 教科書第2課 5回 教科書第3課 6回 教科書第4課 7回 教科書第5課 8回 教科書第1課から第5課までの復習。 中間テスト 9回 教科書第6課 10回 教科書第7課 11回 教科書第8課 12回 教科書第9課 13回 教科書第10課 14回 口頭テスト 15回 復習・問題練習				
受講要件					
テキスト	駿河台出版社『新・東京一パリ、初飛行』				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験の結果をメインとし、出席状況、授業中の小テスト、中間テスト、口頭テストの結果を勘案して、総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するので、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月3・4
キーワード	読解力、会話力、フランス文化に関する理解				
授業の目標	フランス語の力をつける				
学習内容	語学面の訓練・背景文化の理解				
授業計画	<p>大体以下のように進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の注意。 2) 名詞の性・冠詞 3) 基本的不規則動詞 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文 5) 形容詞、規則動詞の活用 6) 指示形容詞・指示代名詞 7) それ以降はテキストに沿って進行する。 				
受講要件	フランス語初心者				
テキスト	『エメ・ヴ・ラ・フランス?』小倉孝誠著・第三書房。生協にて購入のこと。				
参考書	フランス語の辞書が必要。最初の時間に説明。				
予習・復習について	特に予習が大切。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験の成績				
オフィスアワー	月13:00~14:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（スペイン語）入門Ⅰ				
担当教員名	大原 志麻		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 522	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	スペイン、スペイン語、ラテンアメリカ、国際理解、資格、比較文化				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、教科書の練習問題やオーラル・プラクティスを通じて、それをしっかり身につけること。				
学習内容	まず動詞の現在形の活用や冠詞、形容詞の性数一致といった、日本語や英語とは異なるスペイン語の仕組みに慣れることに始まり、ser, estar, ir, tener といった重要な動詞の使い方や数詞、過去形・未来形といった時制や、再帰動詞、gustar 形の動詞といった、基本的な文法事項及びスペイン語独特の文法事項を学んでいきます。				
授業計画	<p>初修外国語（スペイン語）入門Ⅰは、初めてスペイン語に接する学生を対象とした科目で、スペイン語の基礎を学びます。後期同じ時間に開講される選択科目の「入門Ⅱ」とは、単位上は別個の科目ですが、週1回1年間、一貫した授業として進められてゆきます。用いるテキストは各クラスとも共通ですが、担当教員によって進行の仕方や成績評価基準が変わることがあります。最初の授業で説明がされますので、注意して聞いて準備してください。</p> <p>なお、教育・理学・農学部の1年生は事前にクラス指定がされます。農学部の2年生は原則として自由にクラスが選べますが、前期後期共に受講する場合は、原則として同じ教員のクラスに属してもらいます。また人数が極端に偏った場合は、別のクラスに移ってもらうこともあります。調整は授業に差し支えないよう、4月の早い時点で行います。</p>				
受講要件	教育・理学部の1年生（選択必修）、及び農学部の2年生。				
テキスト	西川喬『さあ、始めよう！ スペイン語』同学社、2,500円。				
参考書	『西和中辞典』小学館、1990年。もしくはスペイン語電子辞書などを必ず授業に持ってくること。				
予習・復習について	外国語を初めて学ぶときは、授業時間内での活動以上に、単語の暗記をはじめとする予習復習が重要です。宿題や単語調べはもちろん、最低要求された課題は、確実に行ってください。				
成績評価の方法・基準	平常点（出席・授業への参加）・小テスト・期末テストなどを、総合的に評価します。				
オフィスアワー	月・水曜日のお昼休みに大原研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	国際競争力が問われることが当たり前となってきた昨今、目的意識を持って有用性の高いスペイン語の授業に臨んでください。授業中には「恥ずかしい」などという気持ちを捨て、大きな声を出し、積極的に発言するよう、心がけてください。この授業が、世界二位の話者を誇る広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを、願っています。				

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅰ				
担当教員名	南 富鎮		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	1 年,2 年,3 年,4 年	難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	韓国語、韓国語文法				
授業の目標	現代韓国語の基礎的な文法を覚え、自立的に勉強する土台を作る。				
学習内容	現代韓国語の基礎的な文法を覚える。				
授業計画	1 回 韓国語の紹介 2 回 母音の発音 3 回 母音の発音 4 回 子音の発音 5 回 子音の発音 6 回 子音と母音の組み合わせ 7 回 複母音の発音 8 回 です、ます的な表現 9 回 指示代名詞 10 回 助詞 11 回 否定文 12 回 動詞の連用形 13 回 形容詞の連用形 14 回 連体形 15 回 総復習				
受講要件	教育学部 1 年・理学部 1 年、農学部 2 年（選択）				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼうー初級』朝日出版社、2006 年				
参考書	とくになし				
予習・復習について	その都度教員が指示する。				
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%				
オフィスアワー	最初の時間に知らせる				
担当教員からのメッセージ	難易度 A				

授業科目名	芸術論				
担当教員名	ユーリック	所属等	大学教育センター		
		研究室	共 A513 (東)		
分担教員名					
クラス	学部共通 3	学期	前学期	必修選択区分	選必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ジャズ				
授業の目標	ジャズについての基本的な知識を身につけることと、それにより深くジャズと関わる可能性を高める。				
学習内容	ジャズの概論（歴史、音楽家、特徴など）を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Guidance 2. The Roots of African-American Music 3. The Blues and Ragtime 4. Early Jazz 5. Louis Armstrong 6. Swing Jazz 7. Duke Ellington 8. Bebop 9. Charlie Parker 10. Midterm Exam 11. Modern Jazz 12. Modal Jazz and Free Jazz 13. John Coltrane 14. Fusion 15. Neo-traditionalism, Current trends in jazz, Review 16. Final Exam 				
受講要件	授業は基本的に日本語で行う。（このシラバスの授業計画のように名前などを英語で書くこともあり。）				
テキスト	テキストはなし。初回の授業で紹介される 1,000 円程度の CD を購入すること。				
参考書					
予習・復習について	授業時間内に指示する。				
成績評価の方法・基準	教室内外での課題(30%)、中間テスト(25%)、 期末試験(45%)。				
オフィスアワー	電子メール(steve@uricks.net)でアポイントを申し込むこと。				
担当教員からのメッセージ	ジャズに興味のある学生を歓迎する。定員を 3 5 人とし、場合によっては初回抽選を行う。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟525		
分担教員名					
クラス	人1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月5・6
キーワード	フランス語の初歩、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の音やリズムに慣れる。フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	ビデオ・DVD 付属の教科書『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』に沿って「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	1回 イントロダクション：フランス語はどんな言葉か。フランス語の歴史・フランス語圏について 2回 フランス語の音と綴りに慣れよう 3回 教科書第1課 前半 4回 教科書第1課 後半 5回 教科書第2課 前半 6回 教科書第2課 後半 7回 教科書第3課 前半 8回 教科書第3課 後半（中間テスト） 9回 教科書第4課 前半 10回 教科書第4課 後半 11回 教科書第5課 前半 12回 教科書第5課 後半 13回 教科書第6課 前半 14回 教科書第6課 後半 15回 まとめと復習				
受講要件					
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande! (新・彼女は食いしん坊!) 1』				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験の結果をメインとし、出席状況、授業中の筆記小テスト、口頭テスト、中間テストの結果を勘案し、総合的に判断します。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を学ぶのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	釜谷 保志	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 502 研究室		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期	必修選択区分	選必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	分子、生命、ヒト				
授業の目標	分子の目線で生命の成り立ちと営みについて見ることにより、生命への理解を深める。				
学習内容	分子についての基礎的な事柄、生体を構成する成分の構造と性質、様々な生命の営みについて学ぶ。				
授業計画	<p>下記項目をテキストにそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 分子の基礎 原子、分子、イオン、有機化合物、立体構造 3. 生体分子 脂質、糖質、タンパク質、核酸 4. 生命の営み 視覚、味覚、嗅覚、食事、呼吸、代謝、遺伝、寿命 				
受講要件	特になし				
テキスト	川井正雄 著、『生命を知るための基礎化学』、丸善出版（2012）、ISBN978-4-621-08504-2、2310 円				
参考書					
予習・復習について	予習復習には、テキストや授業で紹介する参考書などを利用されたい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	特に指定しないので、適宜連絡予約されたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（スペイン語）入門Ⅰ				
担当教員名	大原 志麻	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 522		
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	スペイン、ラテンアメリカ、西洋文化、比較文化、資格、スペイン語				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、教科書の本文訳読や練習問題、オーラル・プラクティスを通じて、それをしっかり身につけること。				
学習内容	まず ser, estar といった重要な動詞の使い方や、様々な動詞の現在形の活用、冠詞や形容詞の性数一致といった、日本語や英語とは異なるスペイン語の仕組みに慣れることに始まり、スペイン語独特の文法事項を学んでいきます。				
授業計画	人文社会科学部の学生は、前期開講の必修科目「初修外国語（スペイン語）入門Ⅰ・Ⅱ」および後期開講の学部指定履修科目「初修外国語（スペイン語）Ⅰ・Ⅱ」の4科目で1冊の教科書（コピー配布）を使用し、スペイン語文法の基礎を学びます。これらの4科目は、単位上は別個の科目ですが、週2回、1年間、全ての授業が連携して進められてゆきます。月曜・水曜および前期・後期で担当教員が変わって組み合わせられることもありますが、扱う内容は変わりません。具体的な授業の進め方は担当教員によって異なる場合があるので、最初の授業でよく聞いてください。				
受講要件	人文社会科学部の1年生（クラス指定あり）。				
テキスト	授業において配布するコピーを利用します。また授業時に紹介する推薦辞書のうち1冊を選び、必ず購入するようにしてください。				
参考書					
予習・復習について	初めて習う外国語の独習は難しいので、授業に必ず出席してください。また授業時間内での活動以外に、単語の暗記をはじめとする予習復習が不可欠です。				
成績評価の方法・基準	出席および授業への参加と小テストの成績、期末テストの成績で総合的に評価します。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	国際競争力が問われることが当たり前となってきた昨今、目的意識を持って有用性の高いスペイン語の授業に臨んでください。授業中には「恥ずかしい」などという気持ちを捨て、大きな声を出し、積極的に発言するよう、心がけてください。この授業が、世界第二位の話者を誇る広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを、願っています。				

授業科目名	生物と環境				
担当教員名	大野 始	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 342 研究室		
分担教員名	西東 力, 澤田 均, 本橋 令子				
クラス	学部共通 2	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	花、虫、生態学、遺伝子				
授業の目標	生物は周りの環境との密接なかかわりの中で、その生活を営んでいる。ここでは、その生物と環境および生物と生物の関係についての理解を深める。				
学習内容	4人の教員が、文系の受講者を念頭に、それぞれの専門分野から興味深い話題を選び、オムニバス形式で、やさしく紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、花の話 2. ラン（蘭）の生きざま 3. 花の色の話 4. 虫は身近な生き物 5. 虫の利用 6. 虫の危害 7. 環境と虫の関係 8. 生態学 1. 生態学とはどんな学問か？ 9. 生態学 2. 生物階層(1) 10. 生態学 3. 生物階層(2) 11. 生態学 4. 時間スケール 12. 遺伝子について 13. 遺伝子組換え植物について 14. 葉緑体と光合成について 15. ノーベル賞とデータ捏造事件について 分担：大野（3回）、西東（4回）、澤田（4回）、本橋（4回）				
受講要件	特になし。				
テキスト	必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	復習を中心にし、疑問点などは遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	4人の教員が、その分担回数に応じた持ち点で、小テストの成績や宿題・レポートに基づいて採点し、その合計で評価する。				
オフィスアワー	随時。				
担当教員からのメッセージ	気軽に質問に来て下さい。				

授業科目名	初修外国語（中国語）入門Ⅰ				
担当教員名	張 盛開	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A324		
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	中国語、入門、会話、中国人の幼少時代の記憶				
授業の目標	初級の文法事項を押さえながら、中国語の日常会話や常用表現を身につけます。併せて、中国人なら誰もが懐かしい、幼少時代の記憶を彩ったさまざまなを取り上げながら、現代中国への理解を深めます。				
学習内容	日常生活で使う実用的な会話表現を、応答練習などを通して実践的に学びます。外国語をある程度使いこなすためには、やはり相当数の単語を記憶する必要があります。				
授業計画	この授業は、「初修外国語（中国語）入門Ⅰ」（水 5・6 時限、桑島道夫担当）と同一教科書を使ったリレー授業となります。授業計画の詳細は、初回の授業でお話します。				
受講要件					
テキスト	相原茂・殷文怡共著『中国語入門 きらきらの童年』（朝日出版社）				
参考書	守屋宏則著『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）／鐘ヶ江信光著『中国語のすすめ』／三宅登之著『一冊目の中国語』／辞書『デイリーコンサイズ中日・日中辞典』				
予習・復習について	復習について：授業で学んだことを復習するのはもちろんですが、特に暗記は大切です。①就寝前に CD・テープを何度も聴きながら（CD の話者のリズムやスピードを徹底的に真似ながら）憶える。②翌朝に定着度をチェックしながら、今度は反射的によどみなく話せるように練習する。③適宜日数を置いて①と②の練習を 2クール繰り返す。たとえばこんなふうに、徹底的に耳を鍛え、口を動かしましょう。				
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加、授業中の質疑応答、小テスト数回と期末試験 1 回の成績によって評価します。				
オフィスアワー	火曜日お昼休み 人文 A 棟 324				
担当教員からのメッセージ	楽しく中国語を学び、中国語と中国文化に親しんで中国へ旅をしましょう！中国語を学んで日本語を見直しましょう。				

授業科目名	哲学				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟419	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月5・6
キーワード	哲学、倫理				
授業の目標	哲学的思考に触れるとともに、哲学的と呼ばれる概念を用いることができるようになる。				
学習内容	13のテーマをめぐり、哲学的な概念とそれを使用した思考を紹介します。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 5分前に世界が創造された？ 3回 世界とは何か？ 4回 信じることと想像すること 5回 私たちは実存する？ 6回 アイデア論とは何か？ 7回 ネコはしゃべる？ 8回 アンドロイドは行為する？ 9回 死とは？ 10回 愛することと友であること 11回 時間は流れるのか？ 12回 過去や未来はどこかにある？ 13回 <自分自身>とは？ 14回 ありふれていること 15回 まとめ				
受講要件	ありません。				
テキスト	授業の前日までに、使用するファイルを学務情報システムにアップしておきます。各自で、ダウンロードしてください。				
参考書	授業の「参考書」というものは特にありません。気になった人がいれば、次々とその人の本を読んでください。				
予習・復習について	前日までには、授業で使用するファイルを学務情報システムにアップします。ダウンロードしておいてください。授業の中で、毎回、何人かの思想家を紹介します。より深く考えたいと思う人は、図書館で探してみてください。				
成績評価の方法・基準	授業内の小レポート（60％＝5×12回）及び最終テスト（40％）によって評価する。				
オフィスアワー	火曜のお昼休み（12:00-13:00）				
担当教員からのメッセージ	情報量が多いかもしれません。じぶんで取舍選択しながら、ポイントをつかんでください。				

授業科目名	生物と環境				
担当教員名	徳岡 徹	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 517		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	生物学、植物学、分類、系統、進化、多様性、形態、生活環				
授業の目標	地球上には実に多種多様な植物が生育している。この多様性は生物を取り巻く環境の変化に適応し、進化してきた結果である。この多様な植物の特徴を人間は長い時間をかけて観察を積み重ねてきた。現在までの知見を理解し、多様性を生み出してきた進化という現象の理解を深める。				
学習内容	陸上植物を対象として、その生活環や形態・分類を解説する。維管束植物が環境に適応してきた道のり（系統、進化）を論じる。 高校で生物Ⅱを選択しなかった学生を基準に授業を進めます。				
授業計画	1 ガイダンス 2 系統分類学の実際 3 系統解析の基礎 1 4 系統解析の基礎 2 5 身近な植物群落：照葉樹林 6 植物の生殖 7 シダ植物 8 身近な植物群落：夏緑樹林 9 裸子植物 10 身近な植物群落：針葉樹林 11 心皮とは 12 被子植物の特徴 13 原始的被子植物 14 単子葉植物 15 双子葉植物				
受講要件	なし				
テキスト	テキストは特に指定しない 必要な資料は随時配布します				
参考書	維管束植物の形態と進化、アーネスト・ギフォード、エイドリアンズ・フォスター（著）、長谷部 光泰ほか（訳）、1989、文一総合出版、4829921609 植物自然史、戸部 博、1994、朝倉書店、4254170874				
予習・復習について	必ず予習・復習をしてください。特に復習は重要です。				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験（記述式）により評価します。				
オフィスアワー	出張以外はたいてい研究室にいます。気軽に研究室を訪ねてください。				
担当教員からのメッセージ	地球上には実に様々な植物が様々な環境に適応して暮らしています。授業ではその多様性をできる限り紹介していきたいと思えます。				

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅰ				
担当教員名	南 富鎮	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟527		
分担教員名					
クラス	人1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	月5・6
キーワード	韓国語、韓国語文法				
授業の目標	現代韓国語の基礎的な文法を覚え、自立的に勉強する土台を作る。				
学習内容	現代韓国語の基礎的な文法を覚える。				
授業計画	1回 韓国語の紹介 2回 母音の発音 3回 母音の発音 4回 子音の発音 5回 子音の発音 6回 子音と母音の組みあわせ 7回 複母音の発音 8回 です、ます的な表現 9回 指示代名詞 10回 助詞 11回 否定文 12回 動詞の連用形 13回 形容詞の連用形 14回 連体形 15回 総復習				
受講要件	人文1年				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼうー初級』朝日出版社、2006年				
参考書	とくになし				
予習・復習について	その都度教員が指示する。				
成績評価の方法・基準	出席40%、試験60%				
オフィスアワー	最初の授業で知らせる。				
担当教員からのメッセージ	難易度A				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	船橋 恵子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文C棟408	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月5・6
キーワード	人口変動、家族、ジェンダー、次世代育成、社会階層、国際比較				
授業の目標	人口構造、社会構造の変化に伴って、家族のあり方は大きく変わってきている。歴史的、国際的な視野の広がりの中で、私たちが今直面している現代家族の諸問題について理解し、解決への洞察力を身につけることを目標とする。				
学習内容	下欄にあげられているトピックを主な論点として取り上げ、上記の目標の実現を目指す。				
授業計画	1回 ガイダンス、社会のなかの家族 2回 少子高齢化と家族変動 3回 結婚と家族形成 4回 グローバル化する家族 5回 アメリカの家族と子育て 6回 フランスの家族と子育て 7回 スウェーデンの家族と子育て 8回 アジア・日本の家族と子育て 9回 アジアの高齢者と家族 10回 スウェーデンの高齢者と家族 11回 日本の高齢者と家族 12回 父親と家族 13回 ドメスティック・バイオレンス 14回 貧困・社会的排除と家族 15回 まとめ、家族の行方				
受講要件	特になし				
テキスト	宮本みち子・善積京子編著『現代世界の結婚と家族』日本放送出版協会				
参考書	講義内容に関する有用な文献については適宜紹介する。				
予習・復習について	予習としては教科書の関連する章を読んでおくこと。復習としては、授業でさらに理解が深まった点や新たに加えられた議論をノートに整理しておくこと。				
成績評価の方法・基準	毎回のコメントペーパーと期末試験によって評価する。				
オフィスアワー	水曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ	家族は私的なものに過ぎないのではなく、社会のあり方に大きく規定されています。広い視野から家族をとらえ直し、生まれ育ってきた家族を理解するとともに、将来みなさんが作る家族へのヒントを得ていただければ幸いです。				

授業科目名	数学IV (線形代数B)				
担当教員名	清水 扇丈	所属等	理学部		
		研究室	理 C510		
分担教員名					
クラス	理PC	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	月 7・8
キーワード	ベクトル空間、線型写像、固有空間、行列の対角化、内積空間				
授業の目標	「ベクトル空間」と「線形写像」を学びます。行列が線形写像の表現であること、「行列」の対角化を学び、さらに「内積空間」では高次元空間の幾何について学ぶことを目標とします。				
学習内容	数学 II (線形代数A) および本講義は、線形代数を学びます。空間の図形を考えると単なる空間の点の集まりとして見るのではなく、点と点との関係 (ベクトル) を考えることが数学の対象であり、線形代数ではベクトルとベクトルの関係を扱います。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトル空間 ベクトル空間一次独立と一次従属 ベクトルの1次独立な最大個数 ベクトル空間の基と次元 2. 線形写像 線形写像 線形写像の表現行列 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 3. 内積空間 内積 正規直交化と直交行列 対称行列の対角化 				
受講要件	数学 II (線形代数A) を受講していること。				
テキスト	三宅敏恒 著「入門線形代数」(培風館)				
参考書					
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	レポートおよび試験によります。試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	最初の授業時間に述べます。				
担当教員からのメッセージ	予習復習は効果的な勉強法です。自宅での自発的かつ積極的な勉強なくしては、身に付くものも少ないです。大学の講義は、これを前提にしています。しっかり予習復習しましょう。				

授業科目名	化学 I (物理化学A)				
担当教員名	関根 理香	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 3 階 3 0 2 号室		
分担教員名					
クラス	理 B G	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1 年,2 年,3 年,4 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	原子構造、周期表、化学結合、気体の状態方程式、結晶構造、状態図、束一的性質				
授業の目標	基礎的 chemistry として、原子の構造、化学結合、気体の性質、物質の状態変化、溶液中のイオンを理解する。				
学習内容	化学は、私たちの身の回りの世界において常に重要な現象として生活に関わりあっている。この学問は、物質の性質・構造・変化を対象としている。化学現象を統一的に理解するには、その根底にある原理・法則を学ぶことが重要である。この講義では原子の構造、原子構成粒子である電子の軌道、その軌道による化学結合形成の原理を学び、化学結合で形成される分子の構造と形状について学習する。次に、分子の集合によって生じる液体・固体の性質・構造を学び、気体・液体・固体間の状態変化と状態表示法についても学習する。さらに、純粋な物質の混合によって生じる混合物・溶液についても学ぶ。				
授業計画	<p>授業計画 (シラバス)</p> <p>テキストの章を以下の順序で講義する。(カッコ内は授業予定回数)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の内部 有核原子・周期表・原子とスペクトル・化学と原子核 (第 1 ~ 3 回) 2. 化合物の内部 化学結合の原理と関連する問題 (第 4、5 回) 3. 分子を調べる 質量分析法・分子分光法・X 線回折法 (第 6 回) 4. 自由な粒子 (第 7、8 回) 気体の性質と諸法則・実在気体 5. 固体の内部 (第 9、10 回) 凝集力・結晶構造 6. 物の状態変化 (第 11 回) 液体の構造・状態図・相 7. 混合物中の物 (第 12、13 回) 状態図・束一的性質 8. 溶液中のイオン (第 14 回) 電解質溶液・イオン性溶液の性質・イオン伝導率 <p>まとめ (第 15 回)</p>				
受講要件	高校レベルの化学の知識				
テキスト	P. W. Atkins, M. J. Clugston 「物理化学の基礎」千原・稲葉 訳 (東京化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習：授業関連分野に関して、高校の化学の教科書を読みなおしておくこと。 復習：毎回宿題を課すので、提出すること。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト(10%)、レポート(20%)、期末試験(70%)				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	質問はコメントペーパーを活用してください				

授業科目名	数理の構造				
担当教員名	依岡 輝幸		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 C616	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	自然数、数学的帰納法、数理論理学、計算論、不完全性定理				
授業の目標	数学的な論証を理解することを目標とします。				
学習内容	まずは、高校で習う数学的帰納法について復習し、その応用例をいくつかお見せします。そして、素因数分解の一意性を証明します。 その後、自然数の公理系にまつわる様々なお話を行います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学的帰納法 2. ユークリッドの互除法と素因数分解 3. 数理論理学とペアノ算術 4. 完全性定理 5. 帰納的関数論と計算論 6. 不完全性定理 7. 数学的帰納法再考 				
受講要件	ありません。				
テキスト	指定しません。				
参考書	数学基礎論, 新井敏康, 岩波書店, 978-4-00-005536-9 その他、授業中にいくつかご紹介します。				
予習・復習について	数学は積み重ねの学問です。一度でも抜けてしまうと取り返しがつきません。毎回、しっかり復習してください。 また、この授業では度々、授業中に小テストを行う予定です。				
成績評価の方法・基準	小テストとレポート 50%, 期末試験 50%で評価します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	最大の目標は、この授業を希望しなかったのに履修することになった受講生に「履修して良かった」と言わせることです。 素因数分解の一意性までは証明も付けて解説しますが、それ以降の部分は数学のアイデアを説明することに焦点を合わせたいと思います。				

授業科目名	生命科学				
担当教員名	塩尻 信義	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 611		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	臓器移植、再生医療、万能細胞、癌、遺伝子、DNA、タンパク質、細胞、生命倫理				
授業の目標	最近の生命科学の進歩はめざましい。毎日とっていいほど、新聞紙上には関連記事が掲載されている。この授業では、新聞記事に話題をもとめながら、生命科学の基本的な事柄（遺伝、遺伝子、タンパク質、細胞、臓器、発生など）の理解をめざす。				
学習内容	基本的には高校の理科／生物の知識をもとに、生命科学関係の新聞記事を理解することをめざす。あわせて、一般常識としての生命科学と最近の生命科学の進歩についても理解を深める。				
授業計画	1. はじめに 2. わたしたちの体のなりたち（肝臓移植） 3. 再生医学・再生医工学 4. 細胞とは 5. 細胞小器官 6. 生体をつくる物質 7. 細胞増殖のしくみ 8. 癌とは 9. 遺伝の話 10. 遺伝子とは 11. 遺伝子のはたらき 12. 遺伝子治療 13. 発生のしくみと内分泌攪乱物質 14. クローン動物と発生工学 15. まとめ				
受講要件	まじめに勉強する方。				
テキスト	テキストは指定しないが、次の本のレベルを理解してほしいと考えている。 武村政春他著(2010) 「生命科学～身近な話題から学ぶ」 実教出版				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	できるだけ予習復習をしてほしい（特に復習）。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、期末テストを基準に成績評価をします。				
オフィスアワー	出張以外は大体研究室にいますので、質問のある方は研究室に来てください。				
担当教員からのメッセージ	ズルをせず、一緒に勉強しましょう。				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	山中 正道	所属等	理学部		
		研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室		
分担教員名	加藤 知香				
クラス	学部共通 2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード					
授業の目標	日常の身近な事象を題材として、それを切り口とした化学の話題を提供する。無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトを学ぶ				
学習内容	無機化学、環境化学、有機化学、生物化学に関する化学の基本コンセプトと関連する化学の最新情報				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 銅と文明 3 回 鉄と生活 4 回 周期律と元素 5 回 電気と化学 6 回 触媒と反応 7 回 水と生命 8 回 地球環境と化学 9 回 貴金属の利用 10 回 重金属と人間 11 回 ケイ素とアルミニウム 12 回 アルカリ土類金属と人間 13 回 アルカリ金属と化学工業 14 回 エネルギーと化学 15 回 燃焼と火災				
受講要件	高校で化学 I か理科総合 A を履修していることを前提に授業を行う。				
テキスト	芝 哲夫 著 「化学物語 2 5 講 生きるために大切な化学の知識」 化学同人				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポートにより評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	小谷 順子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 6 1 2	
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	日本国憲法、憲法、国家、法の支配、基本的人権、権利、自由、立憲主義				
授業の目標	受講生が、憲法及び立憲主義に関する基礎知識を習得したうえで、とくに人権分野の重要論点及び時事問題に関する憲法学上の問題点を理解することを目標とする。				
学習内容	憲法の歴史的背景及び意義について確認した上で、基本的人権の総論（享有主体性、私人間への憲法の適用）、基本的人権の各論（精神的自由、私生活の自由）、裁判員制度をめぐる憲法学上の論点を、判例を中心に解説する。				
授業計画	1 回 法とはなにか 2 回 憲法と憲法判例（憲法の意味と法源） 3 回 基本権と権利保障（総論：基本権の享有主体） 4 回 基本権と権利保障（総論：私人間の権利保障） 5 回 基本権と権利保障（包括的権利：幸福追求権） 6 回 基本権と権利保障（平等原則：差別的取扱） 7 回 基本権と権利保障（平等原則：私生活の平等） 8 回 統治の原理と組織（選挙制度：投票価値の平等） 9 回 基本権と権利保障（精神的自由：思想良心の自由） 10 回 基本権と権利保障（精神的自由：信教の自由） 11 回 基本権と権利保障（精神的自由：政教分離原則） 12 回 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 13 回 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 14 回 裁判員制度と憲法 15 回 まとめ				
受講要件					
テキスト	大石眞・大沢秀介編『判例憲法（第2版）』（有斐閣、2012年）				
参考書	必要があれば授業中に指示する。				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で授業支援システム（学務情報システム上）にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	最終成績は、期末試験と平常点（授業支援システムの小テスト）に基づいて算出する。なお、最終成績に占める期末試験の重みは 60-80%、平常点は 20-40%程度 の予定である。				
オフィスアワー	毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	高校の「現代社会」又は「政治経済」の教科書の日本国憲法や民主主義に関する説明部分を熟読して理解したうえで履修することが望ましい。また、日常的に新聞やニュースに目を通して、社会・政治の動きを把握しておくこと。				

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	森本 隆子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟520-2	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろう？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。偉大なる人気作家たちは、規範に閉塞せず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。</p> <p><血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p><幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。</p> <p>「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情… —— 「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』 —— 2つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <私的空間>の発生 —— 純白の愛と性欲と ・ 男たちの絆 —— 三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・ 「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮 —— 愛と友情の連続体 <p>第7、8回 「新しい女」の生成と流通 —— 夏目漱石 VS. 森鷗外</p> <p>第9、10回 小津安二郎『麦秋』と家族神話 —— 性・テキストの見えない中心</p> <p>第11、12回 村上春樹『ノルウェイの森』 —— 「まとも」であることの断念・社会からの逃走＝闘争</p> <p>第13回 サブカルの世界像 — 「ナウシカ」から「ポニョ」へ、国家の退場・女による救済？</p> <p>第14、15回 女性作家の時代 —— ばななの「夢のキッチン」と江国の「きらきら」& 「流しのした」</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて提示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ることで、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	須藤 智	所属等	大学教育センター		
		研究室	共 A513 (西)		
分担教員名					
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる（配布資料有）				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学 1 (脳の機能と役割を考える) 3.生理心理学 2 (脳の機能と役割を考える) 4.感覚・知覚 1 (外界と心の相互作用を考える) 5.感覚・知覚 2 (外界と心の相互作用を考える) 6.学習 (学ぶということ) 7.認知 1 (知のメカニズムを知る) 8.認知 2 (記憶のメカニズムを知る) 9.認知 3 (注意とは何か?) 10.発達 1 (乳児期から児童期までの発達を知る) 11.発達 2 (青年期から死までの発達を知る) 12.性格 (性格とは何か?) 13.最新のトピック 1 (高齢者の心理) 14.最新のトピック 2 15.まとめ 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	<p>授業で扱う内容は以下の参考書に準じる。予習・復習で利用すること。</p> <p>兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ (ナカニシヤ出版)、477950385X (生協で販売予定)</p>				
予習・復習について	<p>予習：参考書 (テキスト) を一読してくること。</p> <p>復習：配布資料、ノートについて、1 時間程度読み直しをすること。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>学期末レポート + α (エクストラクレジット) で評価を決定する。</p> <p>学生の受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。</p> <p>学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。</p> <p>※エクストラクレジット制の導入：指定した心理学の実験、調査に参加した場合、体験学習に参加したと解釈し加点する。制度の詳細については、授業の初回時に説明資料を配付する。</p>				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通 A 棟 5F513 室 火曜日 5,6 限				
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン : http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定。				

授業科目名	経済と社会				
担当教員名	川瀬 憲子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟409	
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	日本を中心に国際比較などを交えながら、現代社会が直面する諸問題や課題についての基本的な理解を深める。				
学習内容	現代社会は大きな転換期を迎えている。経済のグローバル化、サービス経済化、少子高齢社会への転換、財政危機、地球規模の環境問題などは、現代社会のシステムを大きく変革させようとしている。本講義では、日本の政治経済、社会問題を中心に、公共部門の役割、公共投資・地域開発、社会保障、税財政改革、まちづくり、コミュニティと住民参加、環境政策など、基本的かつ重要なテーマを取り上げ、現状と改革の課題を明らかにしていく。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 現代国家と公共性 3回 国家の役割と財政 4回 戦後日本の地域開発ーコンビナート開発と公害問題 5回 産業構造の転換とリゾート開発 6回 バブル崩壊後の地域開発と内発的発展 7回 少子高齢社会と社会保障① 年金と医療 8回 少子高齢社会と社会保障② 児童福祉と高齢者福祉 9回 規制緩和と民営化 10回 分権改革と自治体の役割 11回 市町村合併・三位一体改革・道州制と私たちの暮らし 12回 まちづくりにおける住民参加ー小さな自治体の大きな挑戦と大都市の試み 13回 税制改革と国民負担 14回 地球規模の環境問題とサステイナブル・ソサイエティへの転換 15回 分権型福祉社会の展望				
受講要件	現代の社会に関心を持ち、新聞を読んでおくこと。				
テキスト	参考文献を参照。				
参考書	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政ー住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社、宮本憲一(2003)『公共政策のすすめ』有斐閣、同『維持可能な社会の向かって』岩波書店、川瀬憲子(2001)『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社など。その他の参考文献は、講義の進展にあわせて適宜紹介する。				
予習・復習について	前回の授業内容を復習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	出席時に感想やまとめなどの小レポートを課しそれを評価して出席点とする。出席点(30%)と試験(70%)により、総合評価を行う。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	科目等履修生：認める。 単位互換：認める。				

授業科目名	物理の世界				
担当教員名	嶋田 大介	所属等	理学部		
		研究室	理A407 (理学部A棟)		
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	電磁波、光、磁気、電気				
授業の目標	科学や物理学に興味を持ち、自分で調べる力を付ける。				
学習内容	日常生活の中で起こる自然現象の中には、物理学で解明できるものが多い。 また、普段使っている製品にも物理学の原理が使われている物も多い。 この授業では、できるだけ数式を使わずパワーポイントで絵や図を多く使用して行う予定である。 また、簡単な実験もいくつか行う予定である。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・単位について ・光とは何か、電磁波について ・光速の測定、反射と屈折、屈折の応用、身近に起こる自然現象 ・光の散乱、色、見えない光 ・光源 (電球、蛍光灯、発光ダイオード、レーザー) ・電波の発生 ・ラジオ、テレビの原理 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	授業中に必要に応じて紹介する				
予習・復習について	予習は必要ないが復習は必ず行い、課題がある場合はそれを行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席状況、レポート、試験によって決める				
オフィスアワー	金曜日の12時-14時 理学部B棟207室にて				
担当教員からのメッセージ	物理の思考方法を学んでください。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	日詰 一幸	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟621		
分担教員名					
クラス	学部共通2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	現代政治、政治のしくみ、政治と社会、政治と世界				
授業の目標	現代政治を見る目を養うことを第一の目標にします。新聞やテレビなどで政治が報道され、それを読んだり視聴したりすることは多いと思いますが、それをもう少し理論を交えて理解することをめざします。				
学習内容	現代政治の基礎をいくつかの側面からアプローチします。それらは、制度の側面からはじまり、政治や社会、そして国際問題の領域まで及びます。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 国会 3回 内閣と総理大臣 4回 官僚 5回 政治と利益集団 6回 官と民の関係 7回 政治と企業 8回 選挙と政治 9回 地域主権 10回 マスメディアと政治 11回 政治と世界(1) 12回 政治と世界(2) 13回 政治と世界(3) 14回 静岡県知事選挙と静岡県の今後 15回 参議院選挙と日本政治の今後				
受講要件	特にありません。				
テキスト	北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣				
参考書	講義の中でその都度紹介します。				
予習・復習について	毎日、新聞を読んでください。				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験の双方を勘案して成績評価をします。				
オフィスアワー	水曜日 13:00~14:00 (事前に連絡をください。)				
担当教員からのメッセージ	講義時間内における私語、携帯電話の使用(特にスマートフォン)、他の授業の準備等を禁じます。				

授業科目名	科学と技術				
担当教員名	平田 邦夫		所属等	工学部	
			研究室	R504	
分担教員名	中村 篤志				
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード					
授業の目標	「科学と技術」では、科学（物理界を支配する理論や原理を明確にする）と技術（科学的な知識を基にして実用的な機械を生産する）の実例を学ぶことにより、科学と技術のかかわりについて学生の理解を深め、今日の高度に発達した科学技術社会に対応する力を養うことを目的とします。				
学習内容	この授業では、機械分野の「ロケットの宇宙飛行」と「光とレーザーの精密計測」を取り上げ、先端技術のロケット、光やレーザーについて、科学（理論：唯一解）の観点と技術（実用：多様解）の観点から解説し、科学や技術に関する教養的基礎知識を習得します。				
授業計画	1. グリーンテクノロジーとナノ材料（担当：中村） <ol style="list-style-type: none"> 1.1 環境とエネルギー・・・環境対策、エネルギー効率、グリーンニューディール 1.2 再生可能エネルギー・・・太陽エネルギー、風力、バイオマス、水力、地熱 1.3 要素技術・・・エレクトロニクス、材料技術、ナノテクノロジー 1.4 半導体製造技術・・・バルク結晶、薄膜成長、グリーン半導体材料 1.5 太陽電池と周辺技術・・・発電原理と種類、メガソーラー 1.6 二次電池技術・・・蓄電池（リチウムイオン電池他）、自動車の電化 1.7 燃料電池と水素利用・・・原理と種類、水素社会 1.8 スマートエネルギー・・・エナジーハーベスティング、省エネ技術 2. ロケットの宇宙飛行（担当：平田） <ol style="list-style-type: none"> 2.1 軌道力学・・・宇宙空間とは、人工衛星の飛行軌道 2.2 重力飛行・・・ロケットの飛行経路、誘導制御、打上げ運用 2.3 ロケット・・・ロケットの飛行原理、実用ロケットの技術 2.4 エンジン・・・エンジンの推進原理、実用エンジンの技術 2.5 信頼性・・・ロケットの故障、信頼性の向上 2.6 水素燃料・・・液化水素（未来エネルギー）の特徴、取扱技術 2.7 開発手法・・・ロケット（大型プロジェクト）の技術開発 				
受講要件	授業に出席し、受講、議論参加、レポート提出に積極的に取り組むことを約束できること。				
テキスト	特にテキストは使用せず、随時プリントを配布します。				
参考書	ロケットを飛ばす（上條謙二郎・平田邦夫共著、オーム社） 光とレーザー（陳・山本、オーム社）				
予習・復習について	授業に関連して予習および復習のレポートを課すので、レポートに十分な時間を費やすことが求められます。				
成績評価の方法・基準	学習に積極的に取り組んだか、教養的基礎事項を理解できたかを評価基準として、記述試験およびレポート提出を勘案して総合的に評価します。				
オフィスアワー	遠隔授業ですので、E-mail 等で随時質問等を受け付めます。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、現代社会に溢れる高度な科学技術上の事柄を理解する力を養うために、学生が主体的に自らの力で考えて理解する習慣を身に付けることに重点を置きます。				

授業科目名	化学Ⅲ（有機化学）				
担当教員名	山中 正道	所属等	理学部		
		研究室	理学部 B棟 311室		
分担教員名					
クラス	理MP	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水1・2
キーワード	混成軌道、付加反応、置換反応、脱離反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道など、量子化学の知識を用いて各種の有機分子の構造や性質について系統的な理解を深める。また、種々の有機化学反応の基本となる反応機構を理解し、単純な分子から複雑な分子への変換法を修得する。				
学習内容	<p>我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。また、有機化学は実際に物質を取り扱うので、物質科学全体の基礎でもある。</p> <p>有機化合物の構造と反応は量子力学に基づいた理論によって体系化されている。本講義では、有機化合物の結合様式と分子の種類について系統的に学ぶ。さらにこれらの化合物の反応について、その反応機構を踏まえて学習する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の電子配置と共有結合・・・原子の電子配置、共有結合の成り立ち 2. 混成軌道と電子の偏り・・・混成軌道と分子の形、誘起効果と共鳴効果 3. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性と命名法 4. シストランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン-環状炭化水素の形 5. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 6. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンの安定共鳴構造、「芳香族性」と多様な化合物 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム、いろいろなラジカル反応 9. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、カルボカチオンとハロゲンの付加 10. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基の配向性と反応性への影響 11. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 12. カルボニル化合物の求核付加反応・・・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』（化学同人）				
参考書					
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	主として試験結果をもとに評価する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	化学Ⅲ（有機化学）				
担当教員名	山本 歩		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 311	
分担教員名					
クラス	理BG	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水1・2
キーワード					
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかりと学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基づいた反応について学ぶ。				
授業計画	<p>教科書にそって、以下の項目を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の電子配置・・・・・・・・・・原子の電子配置、共有結合の成り立ち 2. 混成軌道と電子の隔たり・・・・混成軌道と分子の形、誘起効果と共鳴効果 3. 構造式と化合物の分類、命名・・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性と命名法 4. シス・トランス異性と立体配座・結合回転による異性、シクロアルカン―環状炭化水素の形 5. キラル炭素と鏡像異性・・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 6. ベンゼンと芳香族化合物・・・・ベンゼンの安定共鳴構造、「芳香族性」と多様な化合物 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・・ラジカル反応のメカニズム、いろいろなラジカル反応 9. アルケンの求電子付加反応・・・・付加反応のメカニズム、カルボカチオンとハロゲンの付加 10. ベンゼンの求電子置換反応・・・・置換反応のメカニズム、置換基の配向性と反応性への影響 11. ハロアルカンの求核置換反応・・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 12. カルボニル化合物の求核付加反応・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』（化学同人）				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでくること。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅱ				
担当教員名	エゲンベルグ・トーマス	所属等	大学教育センター		
		研究室	人文学部A棟 225		
分担教員名					
クラス	人1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、落ち着ける雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>S 言語行動 G 文法 L ドイツ事情</p> <p>1. Begrusung, Befinden（人と知り合う、調子・健康） S 様々な挨拶、スモールトーク G 動詞の人称変化（単数）、W 疑問文 L ドイツ語と日本語、ヨーロッパのドイツ語圏</p> <p>2. Angaben zur Person, Studium, Beruf（自己紹介、勉強、仕事） S 自分のことについて話す G 動詞の人称変化（複数）、名詞の性別（1） L 名刺、上下関係、インターネット</p> <p>3. Familie（家族） S 家族や外国語について話す G Ja-Nein 疑問文、所有代名詞、不規則動詞 L 家族暮らし、恋愛・婚姻の形態</p> <p>4. Einkaufen, Möbel（買い物、家具） S お店での相談、値段を尋ねる、デザインなどについて話す G 定冠詞、名詞の性別（2） L ライフスタイル、住居シェアリング、建築</p> <p>5. Gegenstände, Produkte（物、製品） S 単語を教えてもらう、もう一回発音してもらう、物の描写 G 不定冠詞、否定冠詞 L フリーマーケット、時計、電化製品</p> <p>6. Büro & Technik（オフィスと技術） S 電話する、メールやSMSを書く、パソコンの使い方 G 格変化（1・4格） L 仕事、就職</p> <p>7. Freizeit, Komplimente（余暇、愛想を言う） S 趣味や特技について話す、人を褒める G 話法の助動詞（1）、文の構造 L 自由時間の過ごし方、環境意識、ワーク・ライフ・バランス</p> <p>8. Freizeit, Verabredungen（余暇、約束） S 約束する、時間表現 G 前置詞（1） L 自由時間の過ごし方、環境意識、ワーク・ライフ・バランス</p> <p>9. Essen und Trinken, Einladung zu Hause（食事、ホームパーティ） S 好き嫌いについて話す、食卓での会話 G 話法の助動詞（2）、複合語 L 食習慣</p> <p>10. Reisen, Verkehrsmittel（旅行、交通手段） S アナウンス、旅行の計画をたてる、予約する</p>				

	<p>G 分離動詞 L 異文化経験、旅の価値観 11. Mein Tag, Vergangenes (私の一日、過去のこと) S 日常の行動、一週間の予定、昨日(過去)のことを言う G 現在完了形(1)、前置詞(2) L 色々な人の一日 12. Feste, Vergangenes (お祝い・祭り、思い出) S インタビュー、思い出話をする G 現在完了形(2)、前置詞(3) L 季節、お天気 その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど</p>
受講要件	なし
テキスト	<p>必要なラーニング・ツール：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教科書：Menschen - Kursbuch (A1.1), Hueber 出版社, ISBN 978-3-19-301901-1 (900円弱) - 独和辞典(電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります) - メディアプレイヤー
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題(復習・予習・下調べなど)が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	<p>授業中のアクティビティ・課題(あわせて20%)、小テスト(30%)、Showtime テスト(20%)、期末テスト(30%)。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可(2回の遅刻は1回の欠席扱い)。</p>
オフィスアワー	<p>水曜日の昼休み。お気軽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です：jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp</p>
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	人2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード	着実、積極性の重視、繰り返し				
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、フランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。				
学習内容	バランスのとれた能力の獲得を目指す。				
授業計画	<p>概ね以下のように進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フランス・フランス語全般に関して。学習上の注意。 2) 名詞の性・冠詞・綴り字と発音 3) avoir, etre 4) 挨拶・紹介等の表現、否定文・疑問文。 5) 形容詞、規則変化動詞の活用。 6) 指示代名詞・指示形容詞、aller と venir 7) それ以降はテキストに沿って進行する。 				
受講要件	フランス語初心者。				
テキスト	生協教科書売り場にて購入のこと。最初の時間に説明する予定。				
参考書	フランス語の辞書は絶対に必要。最初の時間に紹介する。				
予習・復習について	特に予習が大切				
成績評価の方法・基準	平常点と試験の点数。				
オフィスアワー	月13:00～14:00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（スペイン語）入門Ⅱ				
担当教員名	大原 志麻		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 522	
分担教員名					
クラス	人 2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	スペイン、ラテンアメリカ、スペイン語、比較文化、ヨーロッパ文化、資格				
授業の目標	スペイン語の基礎文法を学び、教科書の本文訳読や練習問題、オーラル・プラクティスを通じて、それをしっかり身につけること。				
学習内容	前期に引き続き語幹母音変化動詞の活用や疑問詞、目的格人称代名詞、 gustar 型動詞の使い方や過去時制など、スペイン語の文法事項を学んでいきます。				
授業計画	<p>人文社会科学部の学生は、前期開講の必修科目「初修外国語（スペイン語）入門Ⅰ・Ⅱ」および後期開講の学部指定履修科目「初修外国語（スペイン語）Ⅰ・Ⅱ」の4科目で1冊の教科書（コピー配布）を使用し、スペイン語文法の基礎を学びます。これらの4科目は、単位上は別個の科目ですが、週2回、1年間、全ての授業が連携して進められてゆきます。月曜・水曜および前期・後期で担当教員が変わって組み合わせられることもあります。扱う内容は変わりません。具体的な授業の進め方は担当教員によって異なる場合があるので、最初の授業でよく聞いてください。</p> <p>後期の授業では前期に学んだことを前提として、授業が進んでいきます。後期もクラス指定がありますので、これにしたがって授業を受けてください。担当教員が変わる場合もあるので、注意してください。</p>				
受講要件	人文社会科学部の1年生（クラス指定あり）。				
テキスト	授業において配布するコピーを利用します。また授業時に紹介する推薦辞書のうち1冊を選び、必ず購入するようにしてください。				
参考書					
予習・復習について	初めて習う外国語の独習は難しいので、授業に必ず出席してください。また授業時間内での活動以外に、単語の暗記をはじめとする予習復習が不可欠です。				
成績評価の方法・基準	出席状況、受講態度、小テスト及び期末テストから総合的に成績をつけます。				
オフィスアワー	授業の前後の共A講師控え室にて。				
担当教員からのメッセージ	国際競争力が問われることが当たり前となってきた昨今、目的意識を持って有用性の高いスペイン語の授業に臨んでください。授業中には「恥ずかしい」などという気持ちを捨て、大きな声を出し、積極的に発言するよう、心がけてください。この授業が、世界第二位の話者を誇る、広大で変化に富むスペイン語世界への入り口になってくれることを、願っています。				

授業科目名	物理学概論A				
担当教員名	渡邊 拓	所属等	農学部		
		研究室	共通教育 C 棟 307-2 号室、農学部 A 棟 506 号室		
分担教員名					
クラス	農 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年,2 年,3 年,4 年	難易度	A	曜日・時限	水 7・8
キーワード	力学				
授業の目標	力学の基礎を理解する。				
学習内容	<p>物理学は現代の科学技術の根幹をなしています。したがって、物理学は科学技術の世界を把握し、批判精神を養うためにも是非身につけて欲しい学問の一つです。しかも、バイオサイエンスに代表される農学での新しい潮流は、物理学的な考え方をもち、さまざまな測定技術を駆使できる人々を必要とするようになっています。</p> <p>この授業では、物理学の土台となる力学を教えます。高校時代に物理を選択しなかった学生を念頭に、基本から教えたいと思います。</p> <p>なお、クラス分けは別途掲示します。</p>				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 運動の表し方 3 回 運動の表し方 4 回 運動の法則 5 回 運動の法則 6 回 力と運動、単振動 7 回 力と運動、単振動 8 回 力と運動、単振動 9 回 仕事とエネルギー 10 回 仕事とエネルギー 11 回 角運動量と回転運動の法則 12 回 角運動量と回転運動の法則 13 回 質点系と剛体の運動 14 回 質点系と剛体の運動 15 回 総括				
受講要件					
テキスト	基礎物理学 (原 康夫) 学術図書出版				
参考書	高校の教科書など。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験により評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物学 I (基礎A)				
担当教員名	藤原 健智	所属等	理学部		
		研究室	総 614		
分担教員名					
クラス	理MP	学期	前学期	必修選択区分	選必
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	微生物、生物の多様性、進化、環境				
授業の目標					
学習内容	微生物学の勉強をとおして、生命活動の仕組み、生物進化、自然環境と生物との相互作用等を理解する。教育ビデオや教材、プリントを用いる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の宇宙 2. 生命のつながり 3. 代謝 4. 生命の暗号を読む 5. 遺伝子の移動 6. 微生物の進化 7. 微生物の多様性 8. 微生物のエコロジー 9. 微生物のコントロール 10. 微生物の相互作用 11. 人体の防衛 12. 微生物と人間の病気 				
受講要件					
テキスト	随時資料プリントを配布する。				
参考書	一般的な生物学教科書。				
予習・復習について	要復習				
成績評価の方法・基準	試験のかわりにレポート提出を課します。出席回数が10回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。				
オフィスアワー	月-金曜日午後 (12:00-16:00)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物学 I (基礎A)				
担当教員名	徳元 俊伸	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 625 室		
分担教員名					
クラス	理CG	学期	前学期	必修選択区分	必,選必
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	木1・2
キーワード	生きものとは、生命の起源、ダーウィン、細胞、細胞の生物学、進化論				
授業の目標	現代生物学の概略について理解する。				
学習内容	生物学は分子生物学的理解により急速に進歩し、複雑化してきている。その一方で、ゲノム情報を基盤とした分子レベルでの研究成果は生物の統合的な理解をもたらした。本講義では生物現象を進化論的に説明することを基本コンセプトに編集された下記の教科書を題材に現代生物学の概略を理解する。				
授業計画	1 インTRODクシヨN 生物学とは 2 科学的探求 3 ダーウィンの進化論 4 生命の化学的基礎1 5 生命の化学的基礎2 6 生命の起源と初期の進化 7 細胞の構造1 8 細胞の構造2 9 細胞の構造3 10 細胞はいかに分裂するか1 11 細胞はいかに分裂するか2 12 DNA: 遺伝物質1 13 DNA: 遺伝物質2 14 遺伝子とその働き1 15 遺伝子とその働き2 16 試験				
受講要件	「生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト	レーヴン/ジョンソン 生物学、培風館、 P.レーヴン/G.ジョンソン/J.ロソス/S.シンガー著 6,400円 (生協で販売)				
参考書	特に指定しない。				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験1回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日7・8時限(2時25分～3時55分)を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより現代生物学の基礎が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	数学Ⅰ（微分積分A）				
担当教員名	田中 直樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理PCBG3	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	高等学校の数学Ⅰ,ⅡBまで習得している学生（クラス3）と、高等学校の数学Ⅲ,Cまで習得している学生（クラス1,2）に分けて、3クラスで講義を行います。 講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法（解析）と統合的手法（代数、幾何）があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。 講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲは、各々3クラスに分けて講義をします。前期の数学Ⅰの第1回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3クラスの担当教員は、</p> <p>クラス1： 数学Ⅰ 久村教員－数学Ⅱ 千葉教員－数学Ⅲ 田中（直）教員 クラス2： 数学Ⅰ 板津教員－数学Ⅱ 横山教員－数学Ⅲ 奥村教員 クラス3： 数学Ⅰ 田中（直）教員－数学Ⅱ 浅芝教員－数学Ⅲ 毛利教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2次方程式 2. 実数の性質 1次関数、2次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数 3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号Σと級数 4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限 5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分 6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理 7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理 8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積 				
受講要件					
テキスト	「入門微分積分」,水田義弘 著,(サイエンス社),1996, ISBN-10: 4781908225, ISBN-13: 978-4781908229				
参考書	「微分積分概論」,越 昭三 監修,高橋泰嗣,加藤幹雄 著,(サイエンス社),1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示します。				

担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。
--------------	---------------------------------------

授業科目名	数学 I (微分積分 A)				
担当教員名	板津 誠一		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 605	
分担教員名					
クラス	理 P C B G 2	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	極限、微分、積分				
授業の目標	高等学校の数学 I, II B まで習得している学生 (クラス 3) と、高等学校の数学 III, C まで習得している学生 (クラス 1, 2) に分けて、3 クラスで講義を行います。 講義では微分および積分において数式の計算とその応用について身につけることを目標とします。				
学習内容	大学での数学は最初に微分積分と線形代数を学びますが、数学での取り組み方に分析的手法 (解析) と統合的手法 (代数、幾何) があります。このうち微分積分では、分析的手法の第一歩を学びます。 講義では微分では極限の説明があり、また積分では区分求積法の説明で積分の定義を学びます。ノートと筆記用具を用意しておいて進めることが数学を学ぶための手段です。またレポートや演習で講義の内容を確かめます。				
授業計画	<p>数学 I, II, III は、各々 3 クラスに分けて講義をします。前期の数学 I の第 1 回講義に試験を行い、クラスを決定します。試験を必ず受けて下さい。再履修の受講生は前年度までのクラス分けに従って受講してください。3 クラスの担当教員は、</p> <p>クラス 1 : 数学 I 久村教員 - 数学 II 千葉教員 - 数学 III 田中 (直) 教員 クラス 2 : 数学 I 板津教員 - 数学 II 横山教員 - 数学 III 奥村教員 クラス 3 : 数学 I 田中 (直) 教員 - 数学 II 浅芝教員 - 数学 III 毛利教員</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式 数と文字、文字式、平方根、2 次方程式 2. 実数の性質 1 次関数、2 次関数、不等式、三角比、三角関数、指数、対数 3. 極限 数列の極限、実数の連続性、和の記号 Σ と級数、優級数定理 4. 関数 関数の定義域と値域、関数の極限 5. 微分 整式の微分、導関数、積・商の微分、合成関数・逆関数の微分 6. 平均値の定理 平均値の定理、関数の増減、三角関数の微分、指数関数・対数関数の微分、ロピタルの定理 7. テイラーの定理 高階導関数、テイラーの定理 8. 積分 不定積分、置換積分、部分積分、定積分、広義積分、曲線の長さ、面積・体積 				
受講要件					
テキスト	水田義弘 著「入門微分積分」(サイエンス社), ISBN4-7819-0822-5, ISBN 978-4-7819-0822-9				
参考書	「微分積分概論」, 越 昭三 監修, 高橋泰嗣, 加藤幹雄 著, (サイエンス社), 1998, ISBN-10: 478190873X, ISBN-13: 978-4781908731				
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度・レポートを加えて評価します。 評価は試験では論述的な解答が求められます。				
オフィスアワー	講義の際に、各教員より提示します。				
担当教員からのメッセージ	復習は必要です。テキストや参考書の演習問題を解くことで理解が身に付きます。				

授業科目名	生物学概論 A (基礎)				
担当教員名	鳥山 優	所属等	農学部		
		研究室	共通教育 C 棟 509 号室		
分担教員名	原田 久				
クラス	農 (基礎)	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1 年,2 年,3 年,4 年	難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	教科書の第 2 章「分子から細胞へ」をそれぞれのクラスの進度に応じて理解する。				
学習内容	生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造、細胞小器官のはたらきを理解する。生体膜の構造と働き、細胞分裂を学習したのち、細胞内で行われている異化反応である好気呼吸、同化反応である光合成の基本を学ぶ。最後に、古典的なメンデルの法則を理解した後に、遺伝情報を担っている DNA の働きについて学習を進める。				
授業計画	1 回 ガイダンスー生物学を勉強するにあたってー(ガイダンス後、すぐに本論に入る) 2 回 生体を構成する分子ー生体元素と水ー 3 回 生体を構成する分子ー核酸とタンパク質ー 4 回 生体を構成する分子ー糖質と脂質ー 5 回 細胞の構造と細胞小器官 6 回 生体膜の働き 7 回 体細胞分裂と細胞間情報伝達 8 回 同化と異化・解糖系 9 回 T C A 回路と電子伝達系 10 回 光合成 11 回 メンデルの法則とセントラルドグマ 12 回 DNA の複製 13 回 転写とその制御 14 回 タンパク質への翻訳 15 回 質問日				
受講要件	なし				
テキスト	①生命科学のための基礎シリーズ 生物 大島泰郎監修 実教出版 ②ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍				
参考書	必要な場合は授業中に適宜紹介する				
予習・復習について	予習：授業は①のテキストにしたがって進むので、次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでくること 復習：担当する教員によって、適宜復習のためのプリントを配布するので、それも活用すること				
成績評価の方法・基準	クラス分け：入学試験科目の選択状況ならびに高校での履修状況にしたがって、入学時に行われる。 成績：期末に行われる試験（100点満点）のうち40点を基礎・アドバンストクラス共通問題とし、その獲得点数に応じてクラスごとの評価の配分を行う。その基準は36点以上を秀、32点～35点を優、28点～31点を良、24点～27点を可、23点以下を不可とする。期末試験（レポートならびに出席点を加えることもある）の得点が多いものから順に評価をクラスごとに配分された各評価の数に基づき、秀、優、良、可、不可の順でつけ(同点の場合は上位の成績とする)、この科目の成績とする。				
オフィスアワー	個別の教員のオフィスアワーに関しては授業の際に紹介する。鳥山は月曜日授業ある日の午後。				
担当教員からのメッセージ	農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい。				

授業科目名	生物学概論A (アドバンス)				
担当教員名	鳥山 優	所属等	農学部		
		研究室	共通教育C棟509号室		
分担教員名	山脇 和樹				
クラス	農 (アドバンス)	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード					
授業の目標	教科書の第2章「分子から細胞へ」をそれぞれのクラスの進度に応じて理解する。				
学習内容	生物を構成する物質の化学構造と特徴についての理解から始まって、細胞の構造、細胞小器官のはたらきを理解する。生体膜の構造と働き、細胞分裂を学習したのち、細胞内で行われている異化反応である好気呼吸、同化反応である光合成の基本を学ぶ。最後に、古典的なメンデルの法則を理解した後に、遺伝情報を担っているDNAの働きについて学習を進める。				
授業計画	1回 ガイダンスー生物学を勉強するにあたってー(ガイダンス後、すぐに本論に入る) 2回 生体を構成する分子ー生体元素と水ー 3回 生体を構成する分子ー核酸とタンパク質ー 4回 生体を構成する分子ー糖質と脂質ー 5回 細胞の構造と細胞小器官 6回 生体膜の働き 7回 体細胞分裂と細胞間情報伝達 8回 同化と異化・解糖系 9回 TCA回路と電子伝達系 10回 光合成 11回 メンデルの法則とセントラルドグマ 12回 DNAの複製 13回 転写とその制御 14回 タンパク質への翻訳 15回 質問日				
受講要件	なし				
テキスト	①生命科学のための基礎シリーズ 生物 大島泰郎監修 実教出版 ②ダイナミックワイド図説生物・総合版 石川統・辻英夫・水野丈夫監修 東京書籍				
参考書	必要な場合は授業中に適宜紹介する				
予習・復習について	予習：授業は①のテキストにしたがって進むので、次回の授業で取り上げる部分をあらかじめ読んでくること 復習：担当する教員によって、適宜復習のためのプリントを配布するので、それも活用すること				
成績評価の方法・基準	クラス分け：入学試験科目の選択状況ならびに高校での履修状況にしたがって、入学時に行われる。 成績：期末に行われる試験(100点満点)のうち40点を基礎・アドバンスクラス共通問題とし、その獲得点数に応じてクラスごとの評価の配分を行う。その基準は36点を秀、32点~35点を優、28点~31点を良、24点~27点を可、23点以下を不可とする。期末試験(レポートならびに出席点を加えることもある)の得点が多いものから順に評価をクラスごとに配分された各評価の数に基づき、秀、優、良、可、不可の順でつけ(同点の場合は上位の成績とする)、この科目の成績とする。				
オフィスアワー	個別の教員のオフィスアワーに関しては授業の際に紹介する。鳥山は月曜日授業ある日の午後。				
担当教員からのメッセージ	農学部で学習するさまざまな専門科目の基礎となる基幹科目であることを念頭において学習してほしい。				

授業科目名	地球科学 I (基礎A)				
担当教員名	和田 秀樹	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 501 室		
分担教員名					
クラス	理 C B	学期	前学期		必修選択区分 必,選必
対象学年	1 年,2 年,3 年,4 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	現代に生きる我々は、どの様にして地球の生きている姿を認識するようになったか?最新の技術により宇宙から地球内部まで、そして、地球の過去に起きた出来事を明らかにしてきた。その認識の発展過程を理解する。				
学習内容	私たちの住む地球は,現在にも過去にも大きな変化をしてきた。 現在の変化は地球環境問題や資源問題とからみ,人間の将来を決める重要な問題を含んでいる。 この変化を,人間と自然との相互作用としてとらえ,将来の地球の姿を考える基礎的な問題を概説する。				
授業計画	1) 地球システムの構成要素(3 回) 元素の宇宙存在度、元素の地球存在度、原子,分子,結晶の構造、地球に存在する元素,地殻,マントル,コアの組成岩石はどのようにつくられたか。 教科書第 1 章、5 章 2) 自然と人間の相互作用;資源の問題を考える(3 回) 天然資源と資源問題、元素の性質と濃集機構、鉱床の形成、天然に存在する,92 番までの元素はどのようにして人類は手に入れたか.この元素を,人類は如何に利用しているか,エネルギー資源と環境問題 教科書 第 1 章、2 章、3 章、 3) 物質循環の歴史と地球の進化を知ろうとする試み(3 回) 海にたまった物質の行方.風化作用と堆積作用と続成作用、炭酸塩と有機物質の歴史,安定同位体の威力 堆積物の脱水,固結,分解 教科書 第 1 章、2 章、3 章、 4) 地球の進化と元素の大循環(3 回) 天然放射性元素と壊変則・隕石の放射能をはかる、地球物質の放射年代をはかる、沈み込みと物質循環、変成岩の形成と物質循環が変成岩の元になる 教科書 第 1 章、2 章、3 章、 5) 現代の地球観(3 回) 教科書 第 3 章、4 章				
受講要件					
テキスト	浜島書店 新詳地学図表 ニュービジュアル版				
参考書					
予習・復習について	地球科学に関する普及書を紹介するので、広く現代の地球観を養っていただきたい。				
成績評価の方法・基準	レポート(40%)、期末の試験(60%)、出席状況を総合的に評価する。				
オフィスアワー	毎週金曜日の午後				
担当教員からのメッセージ	今や、学生でも手軽に世界中を旅することができる時代となり、実際自分が目にすることのできる地球空間は半世紀前とは比べものにならないくらい、四半世紀前と比べても格段に広がった。地球の絶妙な自然を実感できるチャンスを逃さぬように、そして、地球システムの仕組みを知って、新たな発見をすべく豊かな自然を見ることのできるようになってほしい。				

授業科目名	ことばの諸相				
担当教員名	小町 将之		所属等	大学教育センター	
			研究室	共通教育 A 棟 5 階 514	
分担教員名	堀内 裕晃, 田村 敏広, コルベイ				
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	言語学、言語心理学、社会言語学、生成文法、認知言語学、表象文化論				
授業の目標	ことばは人間に固有の認知能力であり、人間を特徴づける重要な手がかりが隠されているといわれている。この講義では、人間を理解する手がかりとして、ことばのさまざまな側面について検討する。				
学習内容	授業では、ことばと他の要因との関わりを切り口として、各担当者の視点から理論的、また実証的にことばの性質について議論を展開する。				
授業計画	<p>言語学、言語心理学、表象文化論などを専門とする 4 名の担当者が分担して以下のテーマで講義を行う。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 6 回 ことばと心 (小町) 第 7 回 ことばと身体 (田村) 第 8 回～第 9 回 ことばとコミュニケーション (田村) 第 10 回～第 11 回 ことばと文化 (堀内) 第 12 回～第 14 回 ことばの表象 (コルベイ) 第 15 回 まとめ</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	各講師が必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	各担当者の講義では、その担当者による前回の講義内容を理解していることを前提として講義をすすめる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するように努めること。				
成績評価の方法・基準	各担当者ごとに課題を課し、各 25 点満点で評価したものを合計して最終的な得点とする。未提出のレポートがある場合には提出されているものの評価にかかわらず最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	火曜 7・8 限 (小町)、その他はアポイントメントによる。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名	奥野 健二,矢永 誠人,熊野 善介				
クラス	学部共通 1	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 討論とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 <ol style="list-style-type: none"> 11. 目で見える放射線とその防護（1） 12. 目で見える放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ 講義の順番は前後することがある。				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）当日配布します。				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、討論での発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	現場から考える死生学				
担当教員名	竹之内 裕文		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部A棟327	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード					
授業の目標	受講生一人ひとりが「生」と「死」をとり巻く現代日本の社会的・文化的・宗教的状况に対する洞察を深め、それぞれの死生観を培っていくこと、それが本講義の目標である。				
学習内容	テキストの読解とゲスト講師によるレクチャーを組み合わせながら、講義を進める。講義で使用するテキスト(教科書)は、医学、ソーシャルワーク、社会学、宗教学、文化人類学、教育学、哲学、日本思想史、国文学など多岐の専門的背景をもつ執筆陣によって編まれた学際的なテキストである。またゲスト講師は、現場の一線で看取りに従事する専門職である。テキストとレクチャーを通して鮮烈な問題提起を受けとめながら、「生」と「死」の関係について理解を深めていく。				
授業計画	1回 ガイダンス 序「どう生き どう死ぬのか——現場から考えるということ」 2回 死とむきあう「こころの時代～宗教・人生：医師・岡部健」(NHK) 3回 第1章「在宅ホスピスの現場から」 4回 ゲスト講師による講義1(緩和ケア医 河原正典氏) 5回 第2章「看取りを支える、生を支える」 6回 ゲスト講師による講義2(看護師・看護学 齊藤美恵氏) 7回 ゲスト講師による講義3(介護専門職 藤下品子氏) 8回 第3章「最期の選択」 9回 第4章「教育現場の生と死」 10回 第5章「死すべきものとして生きる——死から生をつかむ」 11回 エリザベス・キューブラー＝ロス『最期のレッスン』(NHKスペシャル) 12回 第8章「"あの世"はどこへ行ったか」 13回 ゲスト講師による講義4(宗教社会学者 諸岡良介氏) 14回 ゲスト講師による講義4(ビハラー僧 調整中) 15回 総括と展望 「死生観と看取り——死生について改めて考える」				
受講要件	生と死をめぐる問題に関心があり、討議などに積極的に参加する意欲のあること。				
テキスト	『どう生き どう死ぬか——現場から考える死生学』(清水哲郎監修、岡部健・竹之内裕文編、弓箭書院、2009年)				
参考書	『高齢社会を生きる 老いる人／看取るシステム』(清水哲郎編、東信堂、2007年)、『シリーズ生命倫理学 第4巻 終末期医療』(安藤泰至・高橋都編、丸善出版、2012年)、『安楽死問題と臨床倫理』(日本臨床死生学会、青海社、2009年)など。				
予習・復習について	講義は上掲のテキストを事前に読んでおくことを前提に進められるので、各章のリポーター(報告担当者)以外にも、当該の章に目を通して講義に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	15回の講義でとりあげたテーマに基づき、受講生が自分で問題を立て回答する形式で、学期末に記述式の試験を実施する。なお各章の報告担当者については、その報告内容の評価をもって替えることができる。評価は、試験の評価(ないし各章の報告)に(70%)、質問・意見表明など講義への参加意欲を加味する(30%)。				
オフィスアワー	水曜と金曜の午後、農学部A327号室へ電話もしくは直接来室のこと。				
担当教員からのメッセージ	「死」という重いテーマですが、確かに「生きる」ため、避けて通れない問題です。自分と異なった見解に耳を傾け、毎回の討議を通じて、自分なりの死生観を培っていきましょう。肩の力を抜いて、でも真摯に、深くて大きな問いをともに問うていきましょう。				

授業科目名	暮らしの中の新素材				
担当教員名	澤渡 千枝		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部C棟208	
分担教員名					
クラス	学部共通1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード	機能性材料、バイオマス、生物材料、セルロース、繊維、プラスチック、生分解性材料、光、無機材料				
授業の目標	近年の科学技術の進歩は著しく、それらは気づかぬうちに私たちの生活のなかに活かされている。この講義では専門を異にする3名の教官が、暮らしの中で出会ういくつかの新技术や製品をとりあげ、その成り立ちやしくみ、開発の経緯などについて解説する。また、可能な限り、実物呈示等をおこなって視覚に訴える授業を心がける。				
学習内容	大別すれば、次の3つの分野の素材の現状を学習する。 1) 生物生産物とそれを利用した新素材、 2) 生物生産物を出発点とした新素材、 3) 無機材料からの新素材。				
授業計画	回	内容			
	1	授業の概要についてガイダンス (澤渡・近藤)			
	2	バイオマス (生物生産物) と私達の暮らし (鈴木)			
	3	森林バイオマスの新利用技術-1 (鈴木)			
	4	森林バイオマスの新利用技術-2 (鈴木)			
	5	農業及び海洋バイオマスの生物材料としての利用 (鈴木)			
	6	衣料用繊維材料：ファッション界、スポーツ界における新材料 (澤渡)			
	7	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-1 (澤渡)			
	8	産業用繊維材料：高性能・高機能材料-2 (澤渡)			
	9	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-1 (澤渡)			
	10	プラスチック：化石燃料依存型からの脱却をめざして-2 (澤渡)			
	11	金属を含む機能材料：金属を含む素材が示す多様な構造と機能 (近藤)			
	12	地球温暖化対策を指向した素材：二酸化炭素の除去や太陽電池について (近藤)			
	13	電池について：携帯電話やパソコンの長時間使用は何故可能になったか (近藤)			
	14	色の化学：～色が出るしくみと素材 (近藤)			
	15	水をきれいにする材料：海水を真水に変える素材 (近藤)			
	16	テスト			
受講要件	学ぶ意欲があり、出席出来る学生なら、指定外の学部生も可。				
テキスト	授業の中で紹介する				
参考書	授業の中で紹介する				
予習・復習について	授業でとりあげる新素材は、多様な新素材の一部であり、それらの解説は授業者の視点からである。受講生は、授業を聞くだけでなく、各自で関連した素材や、異なる観点からの見解等に興味・関心を広げ、ものを観る目を養ってほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況とテスト (テストの得点と出席状況・受講態度を考慮して評価する。テストの点数が合格点に満たない場合、欠席が授業回数の1/3を上回る学生には、再試の資格を与えない。				
オフィスアワー	澤渡のオフィスアワーは毎週木曜 14:30～16:00、近藤のオフィスアワーは毎週水曜 11:30～12:30、鈴木はE-mailにて対応します(afksuzu@agr.shizuoka.ac.jp)。				
担当教員からのメッセージ	「理系」的な科目に対して苦手意識を持っている、自称文系の人にとってはつらい授業かもしれません。「興味ない」とか「わからない」とか、決め込んでしまわず、心のバリアを取り払って、生活に溶け込んでいる科学技術のタネを知ろう、という気持ちで受講する学生の期待に応えるような授業である、と自負しています。				

授業科目名	国際経済学 I				
担当教員名	鐵 和弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 3 1 6		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 1・2
キーワード	世界経済、理論経済、マクロ経済学				
授業の目標	世界の国々で起こっている経済問題を読み解く力をつける。				
学習内容	現代においては、我々はあらゆる海外の情報を新聞やテレビを通じてすぐさま知ることが可能です。当然ながら、世界中の国の経済に関するニュースも毎日のように新聞やテレビから流れてきます。この授業では、このような世界で起こっている経済問題に関するニュースを見たり聞いたりしたときに、その内容を正確に理解できるようになるために必要な基礎的事項について講義していきたいと考えています。なお、この国際経済学 I ではマクロの視点から国際経済を分析します。				
授業計画	(1) 世界経済展望 ・豊かな国と貧しい国 (2) 対外経済取引 ・外国との取引をどのようにとらえるのか (3) 貿易黒字・赤字 ・貿易黒字はよいことで貿易赤字は悪いことなのか？ (4) 外国為替 ・為替レートはどのようにして決まるのか？ (5) 国際通貨制度 ・IMF,世界銀行、WTO の役割は？ 以上のような項目について講義を進めていきます。				
受講要件	特にありません。理科系の思考を必要とする箇所がいくつかあります。				
テキスト	特にありません。				
参考書	クルグマン・オブズフェルド『国際経済 II・国際マクロ経済学』（新世社） 吉本佳生『ニュースと円相場から学ぶ使える経済学入門』（日本評論社） クルグマン（山形浩生訳）『クルグマン教授の経済入門』（主婦の友社） 伊東元重『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社）				
予習・復習について	新聞や雑誌などで国際経済関連の記事見つけたら、授業で解説した部分との関連性に注意しながら読む癖をつけてください。				
成績評価の方法・基準	学期末のテストで評価を行う。				
オフィスアワー	授業の最初に知らせます。また、メールでアポイントを取ることも可能です(jktetsu@ipc.shizuoka.ac.jp)。				
担当教員からのメッセージ	世の中で実際に起こっている現象を、理論的に理解・説明できることの楽しさを感じてほしい。 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	マーケティング				
担当教員名	鈴木 拓也		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 413	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	マーケティングの 4P、戦略計画、顧客価値・顧客満足、マーケティングの STP、消費者行動、ブランド・エクイティ、リレーションシップ				
授業の目標	マーケティングの基本を一通り理解し、それを使って考える能力を養う。				
学習内容	<p>マーケティングは、企業が自社の商品が売れるようになるために行う諸活動（製品開発、ブランド付け、価格付け、広告など）の総称です。現代ビジネスにおいてマーケティングは必要不可欠のものとなっています。特に多くの業界が成熟している現在においては、いかにして他社との違いを明確にし、それを消費者に認識させるのか、価格をいくりにしたら消費者に受け入れられるのか、最適な販路は何かといったマーケティングの課題が企業の戦略において大きな比重を占めるようになっていきます。</p> <p>そこでこの授業では、主に消費財メーカーのマーケティングを想定し、製品、ブランド、消費者行動、プロモーションといったマーケティングの基本について理解します。なお、この授業ではマーケティングの総論を、後期開講科目「企業経済特論Ⅱ」ではマーケティングの各論（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、マーケティング・コミュニケーション戦略）を主に取り上げます。したがって、「マーケティング」と「企業経済特論Ⅱ」の両方を履修することでマーケティングの基本全般を学ぶとお考え下さい。</p>				
授業計画	<p>下記のテーマを主に取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは何か 2. マーケティング計画の立案と実行 3. 市場、市場需要、マーケティング環境の理解 4. 顧客価値、顧客満足、顧客ロイヤルティの創造 5. 消費者行動分析 6. 市場セグメントとターゲットの明確化 7. ポジショニング 8. ブランド・エクイティの創出 				
受講要件	経営学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。				
テキスト					
参考書	授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストの該当部分を読んでくる。 復習：教科書、ノート、配布資料を見直す。				
成績評価の方法・基準	定期試験 70%、ミニレポート 30%（抜き打ちで複数回課す予定です）。				
オフィスアワー	毎週月曜日の 16:00～17:00、18:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 後期「企業経済特論Ⅱ」はこの授業の続きです。マーケティングの基本全般をしっかりと身に付けたい人は、後期の「企業経済特論Ⅱ」を必ず履修して下さい。				

授業科目名	政策特論IV				
担当教員名	太田 隆之	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通教育L棟 328号室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	経済のグローバル化、地域、地域政策、持続可能な発展				
授業の目標	経済のグローバル化を中心に、現代の経済、社会を規定する諸要素について理解するとともに、その中で我々にとって身近な経済、社会をどうしていくかを考える基礎的視点を習得する。				
学習内容	<p>本講義では、現代の経済、社会に大きな影響を与えている「経済のグローバル化」を中心に据えて進める。「経済のグローバル化」とは何か、そのメリットやデメリットは何か、これが我々の生活にどのような影響を与えているのかなど、「経済のグローバル化」の内容を解説する。その上で、地域という視点に立ち、こうした動きが進む中で今後の地域経済や社会はどうなっていくのか、そしてどうあるべきかについて考えていく。</p> <p>これらのことを通じて、現代の経済や社会について関心を持つとともに、今後どうなるのか、そしてどうしていくべきかを受講生が主体的に考えていくヒントを提示していく。</p>				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 経済のグローバル化とは何か① 3回 経済のグローバル化とは何か② 4回 経済のグローバル化とは何か③ 5回 経済のグローバル化とは何か④ 6回 経済がグローバル化する中での地域の経済・社会① 7回 経済がグローバル化する中での地域の経済・社会② 8回 経済がグローバル化する中での地域の経済・社会③ 9回 経済がグローバル化する中での地域の経済・社会④ 10回 これまでの地域政策はどうだったか① 11回 これまでの地域政策はどうだったか② 12回 これまでの地域政策はどうだったか③ 13回 経済がグローバル化する中での地域政策のあり方① 14回 経済がグローバル化する中での地域政策のあり方② 15回 経済がグローバル化する中での地域政策のあり方③				
受講要件	日々の報道も注視しながら、主体的に勉強をすることが望ましい。				
テキスト	レジュメと資料用いて講義を行う予定である。詳細は初回の講義で説明する。				
参考書	講義の中で紹介していくが、さしあたり以下を挙げる。 トーマス・フリードマン(2008),『フラット化する世界(上)(下)』,日本経済新聞出版社 細川昌彦(2008),『メガ・リージョンの攻防』,東洋経済新報社 諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中公叢書 神野直彦・高橋伸彦編著(2010),『脱成長の地域再生』,NTT 出版社 リチャード・フロリダ(2010),『クリエイティブ都市経済論』,日本評論社 他、経済のグローバル化や、この中での国際的動向や地域の動向を知り、考える上では日本経済新聞の記事も1つの視点を提示している。				
予習・復習について	講義内容の復習をすることが望ましいと考えるが、その際、講義内容と日々の報道を関連付けながら現実の経済や社会の動向を把握し、考える事にも取り組んでほしい。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと期末試験で評価を行う予定であるが、受講生数を見て最終的な方法を決定する。詳細は初回の講義で説明する。				
オフィスアワー	初回の講義で説明する。				
担当教員からのメッセージ	県立大学単位互換(認める)、科目等履修生(認める)、難易度(B) 受動的に本講義を受講するのではなく、積極的な姿勢で受講してほしい。今、世界、国、地域で何が起きており、どうなっているのかを報ずる日々の報道に注視するとともに、興味を持った図書や論文は実際に手にとって、現実の動きやそこに認められる課題や、その課題を自分ならどうしていくかを考えてみよう。				

授業科目名	経営情報論				
担当教員名	伊東 暁人		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通L棟414	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	組織（おもに企業）における ICT 利用の変遷を概観したうえで、ICT が組織における意思決定やコミュニケーションに与える影響、ビジネスプロセスの変革、これからの課題について理解してもらうこと。あわせて、経営情報管理にかかわる ICT の基礎的な知識を習得してもらうことです。				
学習内容	経営情報論は、経営学の領域のなかでは最も新しい分野の一つで、その学問体系は必ずしもまだ確立していません。本講義では、組織（おもに企業）における情報技術活用の変遷を踏まえたうえで、どのような考え方でシステム利用が発展してきたのか？、技術と人間の関係はどうあるべきなのか？これからの情報システムの課題は何か？、といったことを考察します。また、授業の中で、情報処理とデータ通信の基礎的な知識を習得してもらう予定です。こうした基礎知識を身につけることは、これから先に、みなさんが様々な新しい情報技術に直面した時にも、その理解の助けとなるでしょう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> はじめに 講義の概要説明、経営情報論とは何か？ <ul style="list-style-type: none"> 情報社会の到来と企業経営 ・経営資源としての情報 ・組織体と情報システム 経営情報論の意義 経営情報論の前提としての組織論、戦略論、経営科学（OR） <ul style="list-style-type: none"> 経営組織論 ・経営戦略論 ・システムとネットワーク ・オペレーションズリサーチ 経営情報システム概念の変遷 <ul style="list-style-type: none"> ADP から MIS ・DSS ・OA ・SIS ・BPR ICT の進展とその基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> データ処理能力の向上 ・標準化の進展 ・DB 技術の発展と活用 コミュニケーションネットワーク ・インターネットコンピューティング ICT とビジネスプロセス革新 <ul style="list-style-type: none"> 現代の競争環境 ・プロセス革新と企業戦略 ・プロセス革新と ICT 講義のまとめと今後の課題・展望 (講義の展開と進行上、内容が前後したり割愛することがあるかもしれませんが、ご承知おきください) 				
受講要件	経営学の初歩的な知識があることを前提とします。				
テキスト	遠山・村田・岸『経営情報論（新版）』（有斐閣）ほかに、レジュメと参考資料を授業 HP から DL してもらいます。				
参考書	大阪市立大商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ2 経営情報』（有斐閣、2003年）など。授業内で適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストで次回授業の箇所を読み、授業 HP からレジュメと参考資料を DL し目を通す。復習：テキストの該当章末練習問題を解いてみる。				
成績評価の方法・基準	月末レポート4回（10%×4回＝40%）、期末試験（60%）で評価する予定です。一定回数のレポート提出が期末試験の受験前提資格となります。				
オフィスアワー	初回授業で連絡します。				
担当教員からのメッセージ	<p>日ごろから、新聞、雑誌、TVなどで企業や情報システムの実際について関心を持っていることが望ましいです。</p> <p>1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度：C（専門的） 後期「企業経済特論Ⅲ」をあわせて受講することをお勧めします。 旧カリの単位読替は本講義と後期「企業経済特論Ⅲ」をあわせて、旧「経営情報論」（4単位）となると思っています。（学務資料で確認してください）</p>				

授業科目名	地方財政論 I				
担当教員名	川瀬 憲子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 409	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	資本主義国家における地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	内容的には、地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのようにして発達してきたのかを、財政思想の紹介などを交えながら、幅広い観点から取り上げる。また、市町村合併、三位一体の改革、地域主権改革によって、国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすく説明を加えることにしている。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 地方財政のしくみと地方自治 3回 「分権改革」と地方財政の課題 4回 三位一体の改革・地域主権改革と地方財政 5回 17世紀ヨーロッパの市民的財政思想 6回 自由主義的財政思想とイギリス産業革命 7回 社会政策思想と19世紀末期英独の地方財政改革 8回 ケインズ主義とアメリカニューディール期の財政改革 9回 新自由主義とイギリスサッチャー政権期の地方財政改革 10回 明治地方自治制と地方財政 11回 大正デモクラシー期の自治要求 12回 昭和恐慌と井上・高橋財政 13回 戦後改革とシャウブ勧告 14回 まちづくりと住民参加 15回 分権型福祉社会の制度設計				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子（2011）『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社				
参考書	川瀬憲子（2001）『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、宮本憲一・遠藤宏一編（2006）『セミナー現代地方財政 I』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳編（2008）『セミナー現代地方財政 II』勁草書房、川瀬憲子（2012）『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかり読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	出席（30%）と試験（70%）をもとに評価を行う。出席点としては、適宜、感想やまとめを課す予定。テストは、中間テストと期末テストの2回に分けて実施する予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧表を参照のこと。				
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。 科目等履修生：認める。 難易度 C				

授業科目名	ミクロ経済学 I				
担当教員名	山下 隆之		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 3 1 2	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、生産者行動				
授業の目標	まずは基礎的な理論を正確に理解することを期待しています。市場の運行法則に関するスタンダードな考え方を身につけて、現代の経済事象を分析する力を養ってもらいたいと考えています。				
学習内容	<p>経済についての基本的な原理や考え方には、マルクス経済学と近代経済学の2つの系統があります。近代経済学は、さらに、国民所得や国民総生産など経済全体の運動を巨視的に捉える「マクロ経済学」と、経済活動の主体である個々の消費者や企業の活動から経済の法則性を考える「ミクロ経済学」の二本立てで構成されています。</p> <p>近代経済学の性格についての全体的な展望をした後に、ミクロ経済学の概要を講義します。消費者（家計）と生産者（企業）の動きから完全競争市場のメカニズムを学習します。</p>				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 近代経済学の歴史 3回 需要と供給 4回 市場均衡と価格決定 5回 市場の安定性 6回 需要・供給の変動 7回 弾力性とその応用 8回 社会的余剰 9回 市場と課税 10回 市場と価格規制 11回 生産者行動：生産関数 12回 生産者行動：費用関数 13回 生産者行動：利潤最大化 14回 生産者行動：損益分岐点 15回 生産者と供給				
受講要件	科目の性格上、高校数学Ⅱ（微分法）に関する知識が必要です。「経済数学Ⅰ」を履修すると効果的です。				
テキスト	N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第2版』東洋経済新報社、2005年。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。 復習…ノートの整理。				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験（100%）				
オフィスアワー	木曜日 12:00-12:45（通年）、研究室（L312）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） ミクロ経済学の題材は、TVや新聞の経済ニュースはもちろんのこと、小説、スポーツ、音楽など、私たちの身の回りに沢山見出すことができます。そうした事例を紹介しながら、授業を展開したいと考えています。				

授業科目名	情報経済学 I				
担当教員名	石橋 太郎	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 4 1 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	選好、情報、不確実性、情報の非対称性、市場の失敗				
授業の目標	上記にあげたキーワードを中心として展開される経済学（応用マイクロ経済学）の基本的理論の概要について理解することを目標とする。				
学習内容	本講義では、情報と不確実性の経済学の基本的な理論について解説す				
授業計画	<p>以下の 6 項目について講義を行う予定である。なお、1 項目あたり、講義 2 回から 3 回分を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 数学的準備 選好体系、期待値と分散の計算 2 情報と不確実性の経済学 不確実性と期待効用—期待効用関数の導出— 3 情報と不確実性の経済学 不確実性と期待効用—期待効用関数をめぐる諸概念— 4 情報と不確実性の経済学 情報の非対称性と市場の失敗—逆選択、モラルハザードの基本的考え方— 5 情報と不確実性の経済学 情報の非対称性と市場の失敗—逆選択、モラルハザードの具体例とその回避について— 6 情報と不確実性の経済学 情報の非対称性の下での消費者行動—探索財、経験財、信用財を中心に— 				
受講要件	必ずしも受講要件ではないが、マイクロ経済学、経済数学、統計学の講義を既に履修済みであることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない				
参考書	授業の中で、適宜、示す。				
予習・復習について	復習の方に重点を置いた学習を心がけてください。				
成績評価の方法・基準	中間試験 50%、期末試験 50%で評価します。中間試験は、5 月下旬から 6 月上旬の適当な時期に行います。				
オフィスアワー	水曜日 12 : 00 から 12 : 45				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワー以外の時間に質問に来たい人は、次のメールアドレスに連絡をしてもらえれば調整します。 jetishijp@gmail.com メールだけの質問も構いません。メールで返答します。				

授業科目名	世界経済論 I				
担当教員名	安藤 研一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	世界経済、国家、貿易、外国為替、為替相場、国際資本移動、直接投資				
授業の目標	世界経済の多様な項目に関する理論の初歩を学ぶ。簡単な四則演算、図表を用い、高度な数学を使うことはしない。				
学習内容	世界経済の基礎単位である国家の経済学的基础の考察から始め、国際貿易、外国為替、資本・労働移動などをを中心に、世界経済の理論について学ぶ。				
授業計画	<p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら、世界経済に関する理論の理解を深めるようにする。その際、理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義経済の特徴と世界経済。 2. 世界経済と国家。 3. 国際貿易の利益と課題。 4. 外国為替の役割と意義。 5. 国際生産要素移動の原因と意義。 6. 直接投資の利益と課題。 7. 国際労働力移動の原因と特殊性 8. 現代世界経済の問題。 				
受講要件	経済学についての初歩的理論を修得していることを前提に講義を進めるので、ミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学などを修得していることが望ましい。				
テキスト	特に、指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については、学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に、指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ、資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて、新聞・テレビなどのニュースをフォローし、現在の世界経済でどのようなことが起きているのか、ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し、学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験、学期末試験では、論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず、ある程度の記事を書くことを求める。				
オフィスアワー	金曜日 17:30～18:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国、社会があり、そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に、国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更、修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	環境政策 I				
担当教員名	水谷 洋一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 401		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地球温暖化、京都議定書、コペンハーゲン合意、ダーバン・プラットフォーム、京都議定書目標達成計画				
授業の目標	主要な環境問題をめぐる国内外の政策動向とそれへの経済学をベースとした政策的アプローチのエッセンスを修得することを目標とする。				
学習内容	・地球温暖化問題を取り上げ、国内外の対策の動向、各分野での様々な政策・措置につき講義する。				
授業計画	(1) 地球温暖化の科学的基礎①・② (2) 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み①～③ (3) 日本における地球温暖化対策の展開①～③ (4) EU とドイツ地球温暖化対策の動向①・②				
受講要件	とくになし				
テキスト	なし（適宜、レジュメや資料プリント等を配布する）				
参考書	授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習合わせて週 1 時間程度レジュメ、資料プリントを読めば十分である。宿題を出す場合がある。				
成績評価の方法・基準	講義前半が終わったところで中間試験を、全講義終了後に最終試験を実施し、その点数の合計により成績評価を行う。				
オフィスアワー	火曜日 11・12 時限を予定。事前連絡が必要。 連絡先メールアドレス（jeymizu@ipc.shizuoka.ac.jp ）				
担当教員からのメッセージ	講義に計画的に遅刻したり、講義中におしゃべりをする等、受講態度がわるい者には単位を認定しないことがあるので、気をつけること。				

授業科目名	統計学 I				
担当教員名	上藤 一郎		所属等	人文社会科学部	
			研究室	共通 L 棟 326	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	データサイエンス、データ解析、統計データ、統計的記述、多変量データ解析				
授業の目標	データサイエンスの視点に立った記述統計学の基本について学習します。				
学習内容	本講義では、統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）の要約を目的とした記述統計学の方法について学習します。社会・経済分析において記述統計学の果たす役割は、データに含まれるさまざまな情報を要約し、データから意味ある情報を読み取ることにあります。そこで本講義では、特にデータサイエンスの視点（データ重視の視点）から、①統計データの持つ特徴や問題点を理解できる能力、②データから何か言えて何が言えないかを判別できる能力を習得してもらうために、記述統計学の諸方法を具体的な事例を用いながら解説していきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを科学する 2. 統計調査の体系－全数調査と一部調査－ 3. 統計調査の実際－さまざまな調査の実施方法－ 4. 統計データの構造－変数とデータ－ 5. 統計データの分布－集計と分類－ 6. 分布の中心の尺度－さまざまな代表値－ 7. 分布のバラツキの尺度－散布度と集中度－ 8. 量的関係の探索－相関と回帰－ 9. 量的現象の予測－重回帰分析－ 10. 質的関係の探索－カテゴリカルデータ解析－ 11. 質的現象の計測－数量化の方法－ 12. 複雑な事象の計測－多変量データ解析の体系－ 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	上藤一郎・森本栄一・常包昌宏『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－』丸善，2007年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②各単元毎の課題（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	金融論 I				
担当教員名	鳥畑 與一	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 4 1 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード	金融危機、金融システム、金融政策				
授業の目標	金融とは何か、金融の社会的役割は何か、金融活動並びに金融政策は今、国内経済並びに国際経済においてどのような課題に直面しているのかの基本的理解を国内的側面を中心に学びます。				
学習内容	「失われた 20 年」と呼ばれる日本の長期のデフレ不況では、金融政策のあり方が問われました。また「100 年に一度」の世界経済危機をもたらしたリーマンショックは、金融活動とは何のために行われているのかが問われました。一方で貧困の克服や経済の持続可能な成長など金融活動に貢献が求められている諸問題も山積しています。基本的な金融知識の学習を行いながら、国内の金融の諸問題を中心に考えていきます。				
授業計画	1 回 ガイダンス 2 回 インフレとデフレとは何か？：デフレは日銀金融緩和政策の不徹底が原因か？ 3 回 中央銀行とは何か？：中央銀行の機能と独立性の意味 4 回 マネーとは何か？：預金通貨と信用創造、マネーストック 5 回 金融システムとは何か？：直接金融と間接金融の役割 6 回 資本市場とは何か？：株、債券、証券会社の役割 7 回 銀行制度とは何か？：貸出・預金、銀行の役割 8 回 いろいろな金融機関①保険会社 9 回 いろいろな金融機関②ノンバンク 10 回 いろいろな金融機関③協同組織金融機関 11 回 いろいろな金融機関④メガバンク 12 回 いろいろな金融機関⑤ファンド 13 回 金融自由化と金融再編成 14 回 金融機関の規制監督と自由化の問題 15 回 講義内容の復習（予備）				
受講要件	「金融論Ⅱ」とセットで履修することで「金融論（4 単位）」に読み替えます。				
テキスト	テキストは使用しません。参考文献は適宜紹介します。講義で使用するレジメと資料については、授業時に配布します。				
参考書	適宜指示します。				
予習・復習について	特に復習を中心とした前向きな自己学習を期待しています。				
成績評価の方法・基準	小テストと期末試験に基づき総合評価で行います。				
オフィスアワー	水曜の 12:00-13:00 を予定しています。				
担当教員からのメッセージ	今、社会に何が起きて何が問題になっているのかを金融的側面から積極的に考える姿勢を期待しています。				

授業科目名	財政学 I				
担当教員名	櫻井 良治	所属等	人文社会科学部		
		研究室	共通 L 棟 4 1 3		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 9・10
キーワード	政府債務、一般会計、特別会計、財政投融资、税の公平、税制、消費税				
授業の目標	国家財政制度の基本構造を学ぶことにより、日本が抱える財政赤字、税制、社会保障、国債累積などの財政問題を理解する。特に、消費税増税問題について、時間をかけて詳しく学ぶ。				
学習内容	財政理論に偏らず、データ・図表を活用し、現代日本の財政問題を理解できるようにする。公務員試験の基礎となる知識が多いが、大学の学術的な授業なので、直接試験問題を取り扱うことはしない。受講者の関心度合いにより多少の変更もありえる。				
授業計画	<p>※ 以下は学ぶ内容の概要であり、特定の項目を深めたり、順序が変わることがある。</p> <p>1. 「財政とは何か」 経済主体としての政府の役割と市場経済 2. 「戦後日本の財政構造」 なぜ国債はここまで累積したか 3. 「財政赤字」 大きな政府と小さな政府 4. 「政府支出」 5. 予算編成（一般会計・特別会計）、6. 財政投融资と特殊法人問題、公共投資、無駄な支出とは？ 7. 中間テスト 8. 税制と税の公平理論論理、9. 現代日本の税 10. 消費税の仕組み 11. 消費税の「逆進性」 12. 消費税はだれが負担するのか：税の転嫁問題 13. 消費税増税問題 14. 増税ごの消費税の形 15. 期末テスト 16. 期末テストの解答と模擬採点：半期の授業のまとめ</p>				
受講要件	新聞やテレビの報道をよく見て、社会の動向に関心があり、質問や応答の出来る学生を歓迎する。				
テキスト	<p>前半：櫻井良治（2004）『政府債務の世紀』新評論 を予定</p> <p>後半：櫻井良治（2011）『消費税は弱者にやさしい』言視者 を予定</p>				
参考書	<p>櫻井良治（2005）『コスト大国日本の財政』勁草書房（前期）</p> <p>〃 『消費税の公平性（仮題）』文眞堂、2021年3月</p> <p>『最新版（平成25年度版）図説日本の財政』東洋経済新報社</p> <p>『最新版（平成25年度版）図説日本の税制』財経詳報社</p> <p>※ 公務員対策『基礎コース財政学』（最新版）林宣嗣 サイエンス社</p>				
予習・復習について	財政学は専門用語が多いので復習を要する				
成績評価の方法・基準	5月待つごろの前半の中間テスト（50%）、7月末の後半の期末テスト（50%）で評価する。試験は予告したうえで、授業時間内に小テスト形式で実施する可能性が高い。 ※定期試験の日は、16回目の授業として、解答を配布して模擬採点をする。				
オフィスアワー	月曜日の7. 8時限				
担当教員からのメッセージ	財政学、特に消費税を中心とした税制に関心のある受講生を歓迎します。				

授業科目名	民族文化論 I				
担当教員名	大野 旭	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 3		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 9・10
キーワード	ポスター、プロパガンダ、社会主義、中国、国際関係、民族問題、日中関係				
授業の目標	社会主義中国が標榜する理想的な境地と実態との乖離についての認識を深め、とりわけ日本をはじめ国際社会との歴史的関係や、国内の少数民族問題を映像資料に依拠して討究すること。				
学習内容	2012年夏に中国各地で発生した反日デモのなかに、毛沢東の肖像画が掲げられていた事実に世界は驚愕した。というのも、毛沢東は自国民を4000万人も餓死させ、10年間に及ぶ動乱・文化大革命を起こした張本人である。にもかかわらず、中国国内では彼を神聖視する風土がある。これは、中国独特な文化的社会的特徴である。この授業では「毛沢東肖像画」のような「中国のプロパガンダ芸術」を基本的な素材としてあつかう。一般的に中国のプロパガンダ芸術用ポスターはナチスドイツや旧ソ連と並んで、「世界三大プロパガンダ作品群」として見られている。講義では具体的なポスターを分析しながら、現代中国の歴史、とくに中国と国際社会や国内の少数民族との関係に重点を置く。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.世界三大プロパガンダ・ポスター:ナチスドイツ、ソ連、中国 2.国造りのものがたり:称揚される共産党と指導者たち 3.社会主義国家の階級と階層:労働者・農民・敵 4.「幸せな社会主義の多民族国家」のイメージと実態 5.「地位が高くなった」女性と子供 6.中国と国際社会—その①兄貴のソ連との関係 7.中国と国際社会—その②アメリカ帝国主義を打倒せよ 8.中国と少数民族—その①「幸せで、立ち遅れた少数民族」 9.中国と少数民族—その②中国のために国境でスパイを捕まえる少数民族 10.中国革命のヒーローたちとヒロインたち 11.社会主義中国をつくるヒーローとヒロインたち 12.中国の科学技術の近代化 13.描かれた「侵略者日本」と反日デモ、そしてナショナリズム 14.中国のプロパガンダ芸術の意義 15.総括 				
受講要件	なし				
テキスト	随時指示する				
参考書	楊海英著『墓標なき草原』上下、2009年、岩波書店 武田雅哉著『よいこの文化大革命』、2003年、廣済堂				
予習・復習について	指示した本を読みましよう				
成績評価の方法・基準	レポート、小テストで総合評価する				
オフィスアワー	月曜 11:45-12:45 用事前予約				
担当教員からのメッセージ	中国の虚像と真実について考えることは、遠くから日本の近代を眺めることを意味しています！ 科目等履修生は面接により決定。難易度 B				

授業科目名	臨床人間学				
担当教員名	堂園 俊彦	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A417		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	倫理学、人間学、メタ倫理学、実在論、反実在論、規範倫理学、功利主義、義務論、徳倫理学				
授業の目標	①倫理学の中心領域であるメタ倫理学および規範倫理学の主要学説を学ぶ。 ②これを通じて、日常的に交わされる議論の前提を問い直しながら、筋道だって考察する能力を身につける				
学習内容	この講義では、メタ倫理学の中心的立場である実在論および反実在論、規範倫理学の中心的立場である功利主義、義務論、徳倫理学を学ぶ。				
授業計画	1回 イン트로ダクション 2回 実在論① 3回 実在論② 4回 実在論③ 5回 反実在論① 6回 反実在論② 7回 反実在論③ 8回 中間テスト 9回 功利主義① 10回 功利主義② 11回 義務論① 12回 義務論② 13回 徳倫理学① 14回 徳倫理学② 15回 まとめ				
受講要件	哲学概論を受講していることが望ましい。				
テキスト	ありません。				
参考書	・マイケル・スミス『道徳の中心問題』，勁草書房，2006年。 ・赤林朗編『入門・医療倫理 II』，勁草書房，2007年。 ・リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』（第二版），ナカニシヤ出版，2001年。 ・J.L. マッキー『倫理学』，哲書房，1990年。 ・岩崎武雄『現代英米の倫理学』，勁草書房，1963年。 ・クリスティーン・コースガード『義務とアイデンティティの倫理学』，岩波書店，2005年。				
予習・復習について	毎回の講義はそれまでの授業内容を前提とします。講義後にプリントなどを見直すようにしてください。				
成績評価の方法・基準	8回目に中間テストを、16回目に最終テストを行います。それぞれ 50 点満点とし、両者の合計によって成績を付けます。なお、中間テストを除いた講義 14 回のうち、4 回以上欠席した場合、テストを受けられなくなります。（出席は毎回とります。）				
オフィスアワー	水曜昼休み（11:50-12:45）。ただし、緊急の用件で不在にする場合がありますので、必ずアポイントメントをとって下さい。また、他の時間でも、相談してもらえれば、できるだけ対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本中世文化史				
担当教員名	湯之上 隆	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟318		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火5・6
キーワード	経典、大乘仏教、大般若経、五部大乘経				
授業の目標	仏教の教義のよりどころとなる経典のなかで最も大部の大般若経の他、これまであまり分析されたことのない五部大乘経を素材として、これらの経典の書写・摺写、法会での講説について明らかにし、貴族社会や武家社会での展開や、地域社会への伝播過程を検討することにより、経典からみた日本仏教史について理解を深めてほしい。				
学習内容	「経典をめぐる日本仏教」をテーマとして、古代・中世・近世における日本人と仏教との関わりの実態と変遷を探る。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教の成立 2. 南伝仏教—スリランカから東南アジアへ 3. 大乘経典の成立と伝播 4. 写経と版経 5. 写経と地域寺院のネットワーク—久能寺大般若経 6. 大般若経の開版と伝来 7. 五部大乘経成立の歴史的な前提 8. 五部大乘経と法勝寺大乘会 9. 五部大乘経と貴族社会 10. 中世における五部大乘経の展開 11. 五部大乘経の値段 12. 五部大乘経の地方への広まり 13. 移動する経典 14. 神仏分離と経典 15. まとめ 				
受講要件	人間の歴史や生き方に関心を持ち、考えようとする姿勢をもってほしい。				
テキスト	各回の講義のたびに、説明のための関連資料を配布する。				
参考書	講義のなかで、説明する。				
予習・復習について	わからないことがあれば、質問して理解を深めるとともに、人名・用語等については、日本史辞典で調べておくと、さらにわかりやすくなるはずである。授業で取り上げる時代の人間の生き方は過去のものであるのではなく、現代に通ずるものを持っているのであり、時には「もし自分であれば」と置き換えて考えてみることも興味をもつことにつながる。				
成績評価の方法・基準	出席、質問用紙(出欠確認を兼ねる)、期末の筆記試験を総合して評価する。特別な理由なく欠席が3分の1を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	水5・6時限、研究室(人文A318)にて。jstyuno@ipc.shizuoka.ac.jp 他の時間も、メールで連絡すれば可能。				

担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）</p> <p>隔年開講。毎回講義の終わりに、質問用紙に記入してもらい、複数のもや重要な質問には次回初めに答える。これは受講者もより良い授業を作る一員であることを認識してもらうとともに、さらに質問力の向上を目指して、授業改善に資するねらいももっている。</p> <p>特別な理由以外による遅刻入室と、携帯電話の使用は認めない。</p>
--------------	---

授業科目名	発達臨床心理学 I				
担当教員名	畠垣 智恵		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文学部 C 棟 304-1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 7・8
キーワード	発達、幼児、児童、障害				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全般的なヒトの発達（特に幼児や児童）に関する理論的知識を習得する。 ・ 領域別のヒトの発達に関する知識を習得する。 ・ 各領域の発達と関連する臨床的問題に関する知識を習得する。 ・ 発達臨床に関わる様々な検査を体験し、検査内容についての理解を深める。 				
学習内容	ヒトは一生を通じて発達し続ける存在である。その発達には、それぞれの時期にそった課題を達成していくことが必要とされるが、時として、その課題につまづいてしまうこともある。本講義では、乳幼児期・児童期を中心に、全般的な発達の理論、各領域の発達（身体・認知・対人関係 etc）を紹介しながら、各時期の問題について論じていく。				
授業計画	<p>以下のように授業を進めていく予定である。ただし、必要な場合には授業の進行順序の入れ替えや、学生のワーク等の実施を行う。また、発達に関わる検査に関しては、学生による検査の体験後、検査について何かしらの発表をしてもらう予定である。</p> <p>第 1 回 ガイダンス 授業の進め方、評価等</p> <p>第 2～4 回 全般的なヒトの発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピアジェ、エリクソン等の全般的な発達に関わる理論 ・ 時期別の心理的な問題の概要 <p>第 5～10 回 領域別のヒトの発達とそれに関わる心理的問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体や運動の発達 ・ 対人関係の発達 ・ 自己の発達 ・ 情緒・感情の発達 ・ 思考の発達 ・ ことばの発達 <p>第 11 回 発達に関わる障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の領域別の発達ではふれられなかった、発達に関わる障害 <p>第 12～14 回 発達に関する検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達に関わる様々な検査についての体験・内容説明 <p>第 15 回 まとめ</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	大石史博・西川隆蔵・中村義行（編）『発達臨床心理学ハンドブック』ナカニシヤ出版 2600円（税別）				
参考書	必要に応じて紹介する				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	出席（40%）・発表（30%）・レポート提出（30%）による総合評価。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（×） 2. 科目等履修生（×） 3. 難易度（B）				

※この授業内容は 23 年度のもので、
25 年度の授業内容とは異なる場合がありますのでご注意ください。

授業科目名	文化人類学学説史 I				
担当教員名	原 知章	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟206		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	文化人類学、学説・理論、西洋／非西洋				
授業の目標	欧米の文化人類学の学説史を学ぶことを通じて、文化人類学で蓄積された知識と探究方法を身につける。あわせて西洋における「非西洋」観の変遷を把握するとともに、人間の文化の多様性に対する理解を深める。レポート作成やレポート発表を通じて、理的思考力、情報リテラシー、協働的対人能力を修得する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代ヨーロッパにおける「非西洋」観 2. 19世紀後半～1910年代の文化人類学の学説 3. 1920年代～1960年代の文化人類学の学説 4. 1970年代以降の文化人類学の学説 5. レポートの提出・ピアレビュー（履修生同士での批評・添削） 6. 授業のまとめ 				
受講要件	やや専門的な講義である。文化人類学概論または文化人類学入門を受講済であること。				
テキスト	指定しない				
参考書	Paul A. Erickson, A History of Anthropological Theory, Third Edition, University of Toronto Press. R. Jon McGee, Anthropological Theory: An Introductory History, McGraw-Hill.				
予習・復習について	次回の授業までに行なうべき小課題を指示する。また、授業の冒頭に、前回の授業内容のポイントを発表してもらう。				
成績評価の方法・基準	小課題20%＋期末レポート80% ほぼ毎回の授業で小課題に取り組んでもらう				
オフィスアワー	初回の授業時にアナウンスする				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	言葉と論理				
担当教員名	上利 博規		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 2 1	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	論理学、記号論、言語学、言葉遊び、神話・伝説、宗教				
授業の目標	生物として生まれたヒトが人間らしさを獲得し、人間のいのちが美しいものとなるのは、言葉を通してであるという大前提から出発します。 この授業の目標は、どのように言葉と関われば、より美しいいのちが可能となるかということに関する構造的な理解と実践的な力を獲得することにあります				
学習内容					
授業計画	<p>言葉を、①身体、②社会、③夢・信、という三つの次元から考えます。</p> <p>I 身体と言葉 心理学、身体表現文化などを手がかりにして考えます。具体的には、生物としてのヒトがいかにして言語を獲得してゆくか、また社会的態勢ができあがる直前にどのような心理的バイアスがかけられるかについて考えます。これは、社会的態勢が崩壊する時言語についてどのような身体的・心理的問題が生じるかという病の問題でもありますが、逆に、身体的・心理的次元に触れることを通して社会的態勢を変容させようとする表現文化の次元にも関わります。</p> <p>II 社会と言葉 言語学、記号論、論理学、言葉遊びなどを手がかりに考えます。ここでは言語学、記号論、論理学などが「正しい言葉」に関する学問であるのに対し、それを転倒し、「正しい言葉」と「正しくない言葉」の境界を抹消することを目指します。その行き着くところに言葉遊びの世界があります。この点で『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』をはじめとする L.キャロルの著作は極めてすぐれていると思います。は言語学、記号論、論理学などが「正しい言葉」に関する学問であるのに対し、それを転倒し、「正しい言葉」と「正しくない言葉」の境界を抹消することを目指します。その行き着くところに言葉遊びの世界があります。この点で『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』をはじめとする L.キャロルの著作は極めてすぐれていると思います。</p> <p>III 夢・信と言葉 宗教、文学、神話・伝説と言葉の関係について考えます。これらは、見えないもの、確証できないものにいかに信を置くかという問題とかかわります。その際、言葉によって語られることが神などへの信仰をもたらすということ、すなわち文学が宗教に先立つという前提に立ち、宗教文学を振り返ります。それは古代文明における宗教文学の問題でもありますし、仏教経典や聖書を文学として読むことでもあります。とはいえ、こうした試みは教義が確立した宗教よりも神話・伝説などにその働きがより明快に現われるでしょう。そして、それは非宗教的な場面では、絵本や童話、あるいは物語の問題でもあります。</p>				
受講要件					
テキスト	資料を配布します。				
参考書					
予習・復習について	授業ではいくつかの実践課題を示すので、それを自分でやってみてください。				
成績評価の方法・基準	簡単な試験を行います。				
オフィスアワー	前期 月曜 11:45-12:45	人文 A 棟 421	研究室		
	後期 金曜 11:45-12:45	共通 L 棟	アジア研究センター		
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	社会学特論Ⅱ				
担当教員名	吉田 崇	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C409		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	職業、社会階層、不平等、非典型雇用、ジェンダー、格差、貧困、社会調査				
授業の目標	社会階層論を軸にして、教育社会学、家族社会学や労働経済学の知見も取り入れながら、格差・不平等問題についての社会的なものの考え方を身につけることを目標とする。また、実証研究の知見を多く紹介し、リサーチリテラシー（調査データの結果を適切に読み解く力）を養うことを副次的な目標とする。				
学習内容	さまざまな社会的不平等について、主として社会階層論の観点から考察することで、格差や不平等についての社会的なアプローチを学習する。具体的には、進学、学校卒業、就職、家族形成、転職・昇進・退職といったライフコース（人生の軌跡）のさまざまな局面で、どのような不平等があるかをみることで、階層構造や制度についての理解を深める。また国際比較によって日本社会の特徴を浮き彫りにする。さまざまな実証研究の知見に基づきながらこれらのトピックを考えることで、調査データを適切に解釈する力も養う。				
授業計画	1回 インTRODクシヨン 2回 職業と社会階層 3回 日本的雇用慣行の特徴 4回 進学か就職か 5回 学校から職場への移行 6回 若年層雇用悪化の背景（1） 7回 若年層雇用悪化の背景（2） 8回 非典型雇用増加の背景 9回 女性の就業とキャリア形成（1） 10回 女性の就業とキャリア形成（2） 11回 労働時間と余暇 12回 労働時間とワークライフバランス 13回 格差と貧困（1） 14回 格差と貧困（2） 15回 まとめ				
受講要件	社会学概論を履修済みであることが望ましい。				
テキスト	使用しない。				
参考書	佐藤博樹・佐藤厚編（2012）『仕事の社会学〔改訂版〕』有斐閣 原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層』東京大学出版会 その他、適宜紹介する。				
予習・復習について	参考書の該当部分を読んで予習する。講義ノートをまとめる。新聞記事や参考書などで取り上げる事象に注目し、レポートの題材を探索する。				
成績評価の方法・基準	授業内で実施する小レポート（30%）、中間レポート（20%）、期末レポート（50%）で評価を行う。				
オフィスアワー	初回授業時に指示する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 最新の研究成果に加え、新聞・雑誌記事やドキュメンタリーなど、受講生が探究心を深めるきっかけとなる素材を提供していく。日頃から雇用や格差の問題に関心を持つとともに、コメントや質問など、積極的な授業参加を望みます。				

授業科目名	地域社会論 I				
担当教員名	長沼 さやか	所属等	人文社会科学部		
		研究室			
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	①文化人類学という学問で地域社会を読み解く際、どのようなテーマで分析することができるか、具体的な事例を通して学ぶ。②異文化社会にまなざしを向けることで、自分が当たり前に思っている考え方や生活様式が、世の中にいくつもある文化の一つであることを理解する。③異なる文化をもつ人々を理解し、交流するために必要なものの見方、考え方を身につける。				
学習内容	中国東南地域、台湾、香港、その他の華僑華人社会といった周辺地域に焦点をあて、重層的な中国社会を読み解く。各回のトピックは、親族、儀礼、ナショナリズム…といった文化人類学の中心的なテーマをもちいて分析する。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 中国概論(1)現代中国の歩み——革命から現代に至るまで 第3回 中国概論(2)重層的な中国社会——周辺地域から何が見えるのか 第4, 5回 つながりの社会——宗族 (親族、家族) 第6, 7回 あの世とこの世の幸せを願う——風水、祖先祭祀 (信仰、儀礼) 第8, 9回 中華人民共和国の民族政策 (民族、ナショナリズム) 第10回 中国でフィールドワークをするには (フィールドワーク) 第11回 漢族と少数民族のはざま——広東の水上市民 (エスニシティ) 第12回 中国の観光——民族観光から無形文化遺産まで (観光) 第13回 台湾の歴史と民族 (ナショナリズム、ポストコロニアル) 第14回 海を渡る華僑・華人 (移民、エスニシティ) 第15回 地域社会を読み解くために (まとめ)				
受講要件	文化人類学、または中国に興味をもっている学生の受講が望ましい。				
テキスト	なし。				
参考書	授業のなかで適宜紹介する。				
予習・復習について	普段から多様な物事の見方ができるよう感覚を磨き、そこからの発見をリアクションペーパーなどに活かしてほしい。				
成績評価の方法・基準	毎回のリアクションペーパー(40%)＋期末試験(60%)				
オフィスアワー	初回の授業時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	考古学研究法 I				
担当教員名	篠原 和大	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 3 1 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	考古学の方法、弥生時代、遺物研究、土器編年、遺構研究、集落研究				
授業の目標	弥生時代の考古学的研究を具体例としながら、遺物、遺構、遺跡を分析して考古学的に社会や文化を復元する方法を学習することを目標とします。				
学習内容	考古学の研究は遺跡・遺構・遺物から、まず型式学や層位学など基本的な方法を用いて過去の情報を復元し、さらに分析を深めて過去の人々の生活や文化、社会、政治や宗教などに迫っていきます。この授業では、弥生時代を具体的な事例として扱いながら、そのような考古学の研究方法について理解を深めていくことを学習の内容とします。				
授業計画	<p>ガイダンス・考古学で読み解く弥生時代-</p> <p>I. 考古学からみた弥生文化</p> <p>①考古資料分析の方法／②農耕文化の道具と機能／③弥生土器の編年</p> <p>④弥生文化の変遷と広がり／⑤弥生時代研究の課題</p> <p>II. 弥生時代研究の歩み</p> <p>①弥生研究の黎明と農耕文化の認識／②大和唐古弥生式遺跡の研究</p> <p>③遺跡群と集団関係／④生産遺跡の解明／⑤植物考古学と弥生文化</p> <p>III. 弥生集落を読み解くー登呂遺跡の調査からー</p> <p>①登呂遺跡と弥生集落の構造／②登呂の出土資料と農耕文化</p> <p>③登呂式土器と登呂集落の変遷／④地域社会と地域間交渉</p> <p>⑤登呂の実験考古学</p> <p>IV. 農耕文化の形成過程ー静岡清水平野に見る農耕文化の動態ー</p> <p>①遺跡の分布とその変遷</p> <p>②石鋤から石斧による木器加工、鉄器へ</p> <p>③弥生集落群の動的視点ー地域社会の展開過程・開発と画期</p> <p>V. さまざまな研究方法</p> <p>①科学の目から考古資料を探る／②実験考古学の成果と展望</p> <p>まとめ</p>				
受講要件	考古学概論 I もしくは II を履修している程度の基礎知識があることを前提に講義を進めます。				
テキスト	特になし。プリントを配布しながら授業を進めます。				
参考書	必要な参考文献については適宜指示します。				
予習・復習について	資料（プリント）の多くは事前に配布します。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。				
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（コメントペーパー・小テストなど）と期末の筆記試験とで評価します。				
オフィスアワー	水曜 3・4 限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jsksino@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	最近再整備された登呂遺跡公園は新たな研究成果を踏まえて弥生集落の姿を復元・展示しているので必見です。また、各地の遺跡公園や博物館についても、機会があれば是非見学しておいてください。 1. 県立大学単位互換（認めます） 2. 科目等履修生（認めます） 3. 難易度（B）				

授業科目名	哲学の歴史 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 7・8
キーワード	哲学史、真理、倫理				
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を身につける。				
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。				
授業計画	1回 インTRODクシヨン：古代ギリシア語の読み方と書き方、哲学史について：アルケー 2回 ギリシア哲学の端緒：パルメニデスと「アキレスとカメ」 3回 パルメニデスの衝撃を受けて：ピュタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス 4回 プラトン（1）：「ソクラテス」と対話 5回 プラトン（2）：イデアへ 6回 プラトン（3）：イデア論再考 7回 アリストテレス（1）：真理を探究するための道具 8回 アリストテレス（2）：存在論と自然学 9回 アリストテレス（3）：形而上学と魂論 10回 アリストテレス（4）：倫理学と政治学 11回 ストア派 12回 ストア派に対して：懐疑主義とエピクロス派、そしてその後の展開 13回 ローマ帝政期の哲学：新プラトン主義からアウグスティヌスへ 14回 中世哲学展望：スコラ 15回 まとめ				
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。				
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。				
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第一巻から三巻は参考になると思います。				
予習・復習について	授業内での小テストは各回授業の初めに行います。復習をしてきましょう。レポートに向けては、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。関心のある思想については、片っ端から図書館で本を借りて読んでください。				
成績評価の方法・基準	授業内での小テスト（60%：毎回の授業の最初に行います）と学期末のレポート（40%）で評価します。				
オフィスアワー	火曜お昼休み（12:00-13:00）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 哲学は暗記物ではありません。唯一の正しい理解を目指すのではなく、（何らかの意味で）有益な理解を目指してください。				

授業科目名	人格心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A420		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水7・8
キーワード	人格、査定、病理と健康、無意識				
授業の目標	人格心理学についての知識と探究方法の学びを通じて、歴史や文化、制度といったさまざまな条件における多様な人間の心のあり方について深く理解しつつ、共生への志向を高めるとともに、そのために必要な論理的思考力と情報リテラシーを修得する。				
学習内容	人間理解の学問としての人格心理学について、臨床事例や映画なども取り上げながら、人格の研究動向、諸理論、形成、査定、病理、健康といった全般的な問題を踏まえて、とくに人間の無意識的な観点に重点を置いて学ぶ。				
授業計画	1回 人格とは 2回 『イヴの3つの顔』：多重人格から人格を考える 3回 人格研究の論点 4回 人格研究の歴史 5回 人格の諸理論 6回 人格研究の最近の動向 7回 人格の精神分析的研究（1）：無意識の発見 8回 人格の精神分析的研究（2）：基本的観点 9回 人格の精神分析的研究（3）：諸理論 10回 人格の精神分析的研究（4）：最近の展開 11回 人格の生物学的基礎 12回 人格の形成 13回 人格の査定 14回 人格の病理 15回 人格と健康				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない（資料を用意する）。				
参考書	本明寛・他（編）『性格心理学新講座』（金子書房）全6巻。河合隼雄・他（編）『臨床心理学大系』（金子書房）全20巻（とくに第2・5・6巻）。その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート（30％）と最後の筆記試験（70％）により評価する。				
オフィスアワー	火曜日7・8限				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	ギリシア語 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 4 1 9	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	古代ギリシア語、文法、語形変化				
授業の目標	人文学領域の基礎である古代ギリシア語文法を学ぶ。				
学習内容	基本的なギリシア語文法の学習を通じて、ギリシア文化の基礎に触れることを目的としています。ギリシア語 I および II を履修した暁には、辞書と首っ引きではあるけれど、自分の力でギリシア古典に直接触れることが可能となる領域にまで導きたいと願っています。				
授業計画	<p>基本的には、下記の教科書の練習問題を解くことが授業の中心となります。文法事項の解説も行いますが、初歩のうちは基本的な変化の暗記と「変化表」を使いこなす訓練が主となります。1 回に 2 課程度、進みたいと思っています。平均的な授業はつぎのように展開されます。</p> <p>1. 前回学習した課の練習問題を解く：受講生はあらかじめ練習問題を解いておく必要があります。その場で解けることは決してありません。</p> <p>2. 新しい課に進み、文法事項などを説明する。</p> <p>以上の繰り返しで、ギリシア語文法を学んでいくことになります。</p> <p>☆初回の授業で、テキストに入ります。受講を決めている学生はあらかじめテキストを購入しておくこと。初回は 2 課ではなく、1 課のみの予定です。範囲は、I 「字母・発音・音韻の分類・氣息記号」です。</p>				
受講要件	とくに履修の条件としていることはありません。				
テキスト	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店（2012）、ISBN978-4-00-022589-2				
参考書	シャルル・ギロー『ギリシア文法[改訳新版]』（クセジュ文庫、ISBN4-560-05868-7）				
予習・復習について	はじめのうちは予習に相当の時間がかかります。ある程度の余裕をもって履修に臨んでください。				
成績評価の方法・基準	毎時間行う練習問題の回答（60%）および筆記試験（40%）				
オフィスアワー	火曜日お昼休み（12：00-13：00）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） ギリシア語と言えば、ヘブライ語と並んで、洋の東西を問わず、難しいという定評があります。決して簡単だとは言いません。しかし、努力をすれば必ず習得できます。				

授業科目名	西洋史概説 I				
担当教員名	藤井 真生		所属等	人文社会科学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	古代文明、ギリシア民主政、ローマ帝国、キリスト教、国家形成、中世都市、大学				
授業の目標	前近代ヨーロッパの歴史の概略を理解する。また、その内容を自分で再構成できることを目標とする。				
学習内容	古代オリエント世界から中世ヨーロッパ世界まで、時代をおっていくつかのトピックをとりあげる。高校で習う世界史よりもテーマを限定し、その分詳しい史料紹介や歴史的意義の考察に重点をおいて学ぶこととする。				
授業計画	1回 古代文明の発生（1） 2回 古代文明の発生（2） 3回 ギリシャの民主政（1） 4回 ギリシャの民主政（2） 5回 ローマ帝国の拡大（1） 6回 ローマ帝国の拡大（2） 7回 キリスト教の誕生（1） 8回 キリスト教の誕生（2） 9回 中世国家の形成（1） 10回 中世国家の形成（2） 11回 中世都市の成立（1） 12回 中世都市の成立（2） 13回 中世の学び（1） 14回 中世の学び（2） 15回 中世の学び（3）				
受講要件	とくになし。				
テキスト	適宜プリントを配付します。				
参考書	各回のテーマごとに、講義内で案内します。				
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、評価方法との関連で、講義内容は自分なりにまとめておくことが必要となります。				
成績評価の方法・基準	テーマごと（「古代文明の発生」「ギリシャの民主政」など）に講義内容を要約した文章を書いてもらいます。評価するポイントは、内容を総合的に理解しているかどうか、それを適切に表現できているかどうかです。各回の平均を最終的な評価とします。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	難 易 度 B 2回に1度は文章にまとめてもらうので、必ず各テーマの1回目の内容を整理してから2回目へのぞんでください。また、適切な日本語表現も評価ポイントとなるため、西洋中世にかぎらず歴史の概説書を読み、文章表現を学んでおくことをおすすめします。				

授業科目名	西洋社会史Ⅱ				
担当教員名	岩井 淳		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟219	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水9・10
キーワード	近世史、近代史、イングランド、ニューイングランド、終末論、千年王国論、大移住、ピューリタン革命				
授業の目標	この授業では、17世紀のイギリスとアメリカにおいて唱えられた千年王国論の意義を、ピューリタンの思想と活動に即して理解します。最初に近世イングランドにおける千年王国論の復活と1630年代の「大移住」について考察し、続いて個別のピューリタンの足跡にしたがって、彼らの思想と活動を検討します。				
学習内容	この講義では、聖書の「ヨハネ黙示録」などを典拠とする千年王国論に注目し、17世紀イングランドにおいて有力であった千年王国論が、アメリカに移住したピューリタンとともに大西洋を渡ったこと、革命中に帰国したピューリタンによって再度イングランドに持ち込まれたことなどを考察します。そうした作業を通じて、千年王国論が新旧イングランドの交流史やピューリタン革命の展開において果たした歴史的役割を考え、宗教と植民地の視点から革命を探求します。				
授業計画	1回 この授業の目的と計画 2回 ピューリタン革命概観(1) 3回 ピューリタン革命概観(2) 4回 映画に見る革命 5回 千年王国論の定義 6回 異端視された千年王国論 7回 よみがえる千年王国論 8回 1630年代の「大移住」 9回 「大移住」の動機 10回 新旧イングランドの交流史 11回 映画に見る移民 12回 独立派ピューリタンの場合 13回 第五王国派の場合 14回 王政復古以降の展望 15回 まとめ				
受講要件	世界史やイギリス史について、基本的知識をもっていることが望ましい。				
テキスト	テキストとして、岩井淳『千年王国を夢みた革命』講談社選書、1700円を用いる予定。				
参考書	必要に応じて、指示します。				
予習・復習について	テキストや配布プリントを使って、予習や復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日3・4時限。				
担当教員からのメッセージ	この授業の難易度は、Cです。				

授業科目名	異常心理学Ⅱ				
担当教員名	田辺 肇	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟412		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金1・2
キーワード	人間理解の認識枠組、人格と自己、現実と経験、意識と自由意志、発達と適応、病理と治療、障害と健康、メンタルヘルス（精神保健）				
授業の目標	人格・現実・自己・意識・自由意志・発達・適応・病理・治療・障害など、異常とは何か、支援とは何か、健康とは何かを考えるための重要な視点を検討します。				
学習内容	<p>異常心理学では「普通に」成り立っている心理過程から逸脱した現象に焦点を当てる。そのような通常態から逸脱した心理現象の検討を通じて、逆照射的に通常の心理過程のあり方を考察する方法を病理法という。本講義では、記憶・意識と体験・事実、人格・自己と自由意志・発達と適応・動機と自己決定性・対人関係などを軸に、異常・病態心理を検討することで、「普通の体験」を成り立たせている心的過程と社会構造について考察する。</p> <p>特に、病理現象を何らかの苦境・ハンディ・障害を持ちながらも人が与えられた環境の中で発達し適応し生きようとする過程として捉える発達精神病理学の視点から、「異常(正常)」とは何か、「病理(健康)」とは何かを批判的に検討し、子どもを含む「こころの障害」とその援助についての根本問題を考察する。</p> <p>この講義は、問いに答えを与えるものではなく、人間理解の難しさと考え方を学び、その中で、日常当たり前のこととしてやり過ごしてきた様々な事柄に興味を抱き、反省を促し、人と前向きに関わる、あるいは人間事象について深く考える力を養うことを目指すものである。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ～2. オリエンテーション（本講義の特徴と進め方）と復習＝心理モデル・治療モデルと人間観（脳機能と精神、精神力動論、学習理論、ストレス理論、システム論、危機理論） 異常心理と病態心理（異常、障害、病理、「病」観と治療・予防・支援・メンタルヘルス、精神保健施策と社会状況） こころの障害と心理臨床の構成（パターナリズム、エンパワメント、認識論的相対主義と構成主義） 精神保健活動の諸相 支援の社会資源・制度と倫理 発達と学習の異常（MR・LD・ADHD・PDD、二次・三次障害、こころの理論） 児童虐待と心的外傷（虐待とは、家族病理、PTSD、対人・自己スキーマの障害、発達精神病理学とエンパワメント、加害者支援と支援者支援、予防とコミュニティアプローチ） ～11. 体験の成立とその異常（物理的現実・社会的現実と体験的現実、既視感と離人感、感覚器官障害、社会的認知と被暗示性、常識と差別、暗黙の性格理論、催眠・夢・空想と現実と二重意識） ～14. 自己の成立とその異常（記憶喪失と多重人格、意志(主体)と正常心理のモデルとしての「大人」の生活、自由意志と合意、潜在意識と意図性・自動性、自伝的記憶と物語的・関係的自己、自動性の暴走と人格の調和） ～15. 試験（あるいは補講） 				
受講要件	心理学概論と基礎心理学Ⅰの履修と人格・発達・社会・臨床心理学の基本的な知識を前提として講義を展開する。				
テキスト	精神看護学Ⅰ〔第5版〕－精神保健学－ 吉松 和哉・小泉 典章・川野 雅資（編） ヌーヴェル ヒロカワ 2,310円 ISBN: 4-86174-031-2				
参考書	<p>松橋・高野(編)『精神保健』(新保育ライブラリ)北大路書房/松田『「知覚不全」の基礎心理学』ナカニシヤ出版/板倉『「私」はいつ生まれるか』(ちくま新書)京都大学学術出版会/ハーマン『心的外傷と回復』/パトナム『解離：若年期における病理と治療』みすず書房/下山・丹野(編)『異常心理学Ⅰ』東京大学出版会</p>				
予習・復習について	講義の他にも、参考文献や新聞・テレビ・出版物・インターネットなど広くアンテナを張り、多くの情報を参照し、自らそれらを整理し統合することが必要である。疑問点を整理し予習・復習を充分に行うこと。特に初回からどんどん授業を進めていくのでシラバスや教科書、辞書、ネットの情報等を参考に充分予習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	受講生の意見を取り入れて評価基準を決定する。授業中の発言、単元毎のまとめレポートの提出等を総合的に評価する予定である。				

オフィス アワー	火3・4限
担当教員か らのメッセ ージ	受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。人間理解の基本問題にも触れるので、人間的・社会的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。ただし、学習内容にあるように、答を教わろうとしている学生には受講は薦められない。受講生の主体的な参加を期待する。(難易度 B) 本講義は、比較的専門性の高い内容を予定している。

※この授業内容は23年度のもので

25年度の授業内容とは異なる場合がありますのでご注意ください。

授業科目名	共生の社会学				
担当教員名	平岡 義和	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文C棟402		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金5・6
キーワード	自然環境と人間の共生、環境リスク、開発と自然環境				
授業の目標	環境リスクという視点から、自然環境と人間、人間同士の共生のありようについて考察する。				
学習内容	人間は、長い歴史の過程において、自然環境と共生して生活するすべを身につけてきた。ところが、近年人間における環境の改変、化学物質の使用によって、両者の共生関係が、壊されつつある。そこで、環境リスクという視点から、人間社会と自然環境の共生のありようについて考えていきたい。それは、同時に、人間同士の共生関係について考察することでもある。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、各1～3回ずつ講義する予定である。なお、問題の理解を深めるために、できるだけビデオ教材を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境リスクという視点 2. 自然環境との共生の歴史 3. ダムなどの開発と共生 4. 化学物質利用と共生 5. 自然の利用と共生 6. 人間社会と共生の課題 				
受講要件	なし				
テキスト	使用しない。プリント資料を配付する。				
参考書	個々の授業に関する参考文献は、授業中に指示する。				
予習・復習について	取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。また、新聞記事を利用することも多いので、新聞を丹念に読むとよい。				
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終レポートの成績で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業の際に指示する。				
担当教員からのメッセージ	<p>授業期間中に起きる問題を随時トピックとして扱うことがあるので、日頃からTV、新聞などの環境問題関連のニュースに注意を向けておいてほしい。</p> <p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)</p>				

授業科目名	フランス事情Ⅲ				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	フランスの社会・文化、異文化理解				
授業の目標	言語と文化は切り離せないものである。目標言語を理解するためにはその背景となる文化を理解することは必須である。この授業では学生がまずフランス文化の基礎的な背景知識（地理的背景、歴史、社会の仕組み、生活習慣、文学など）を学ぶ。本授業ではフランス語のテキストを使用し、フランスの文化をフランス語で読むことによって、その思考過程や構造を理解する。さらに、フランス文化の概念を、具体的な形として認識できるようにテキスト上の情報のみならず、映像なども利用する。様々な活動を通して、最終的に、学生自身が総合的かつ多角的な視点を持って、フランス文化・社会を捉え、個々の事象について自分なりの意見を構築することを一つの目標とし、より高度で具体的なコミュニケーションができることを目指す。				
学習内容	授業の流れとして、まずテキストの内容把握をする。（学生は予習としてテキストを読んできた）テキストに沿って内容を理解し、学生からの質問があればそれに答える。さらに関連してその話題についての補足的な説明も加える。特に各トピックのキーワードについては、その言葉の背景について説明をし、発音や使い方なども指導する。適宜映像も使用し、理解を深める。授業の最後には意見交換や小作文を課す。				
授業計画	1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回				
受講要件					
テキスト	東京大学教養学部フランス語部会（編）『Passages--De France et d'ailleurs』 ISBN 4130821067				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席点、授業への参加（20%） 宿題（20%） 中間テスト（30%） 最終テスト（30%） 3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14：30～16：00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	フランス語コミュニケーション論 I				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス映画、フランス語、文学、比較文化				
授業の目標	フランスは周知の通り、世界有数の映画大国である。映画の歴史は 20 世紀フランス社会を映し出しているともいえる。本授業では、映画を通して、20 世紀のフランス社会、文化を理解することを目的とする。映画の歴史や映画運動（例えば、ヌーヴェル・ヴァーグ）を知ることによってフランスの文化を理解し、逆にフランスの社会や文化を知るによってさらにその映画を深く理解することができる。				
学習内容	具体的な授業の内容として、毎回歴史的に重要な映画の一部（毎回 5～10 分）を視聴し、その解説を行う。その中で映画の注目すべき点を指摘し、20 世紀フランスの文化・言語・社会とどのような関係にあるかを考える。同時に映画に出てくるフランス語の重要な表現・語彙なども学ぶ。学んだこと基に、意見感想などをレポートとしてまとめることを課題とする。				
授業計画	1 回 シラバスの説明／映画の誕生～リュミエール兄弟～／ベル・エポック 2 回 メリエス～史上初のトリック撮影～／フランスの SF 3 回 フランス印象派とアヴァンギャルド 4 回 マルセル・カルネ～詩的なリアリズム～ 5 回 フランスの映画と第二次世界大戦 I 6 回 フランスの映画と第二次世界大戦 II 7 回 ヌーヴェル・ヴァーグとフランス 1950 代末から 1960 代の社会（学生運動など） 8 回 フランスワ・トリュフォーの『大人は判ってくれない』とフランスの家族事情 9 回 フランスワ・トリュフォーの『大人は判ってくれない』とフランスの学校 10 回 ジャン＝リュック・ゴダールの映画 11 回 『地下鉄のザジ』とパリの日常生活 12 回 地下鉄のザジとフランス文学（レーモン・クノー） 13 回 発表 14 回 発表 15 回 フランスの映画と日本の映画／まとめ				
受講要件	フランス語学習歴（入門レベル）があることが望ましい				
テキスト	中条省平（著）『フランス映画史の誘惑』集英社 ISBN 4-08-720179-1				
参考書					
予習・復習について	毎回の授業までに該当の章を予習し、授業日には教科書を必ず持参すること。				
成績評価の方法・基準	出席、授業への参加（30%） 発表（30%） ペーパーテスト（40%） 3 回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14：30～16：00				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本語文化各論Ⅳ				
担当教員名	森本 隆子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟520-2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード	テキスト、近代、個人、文明批評、欲望と自由、恋愛と友愛、ジェンダー&セクシュアリティ				
授業の目標	作品とは、時代を映し出す鏡である。そして、それ以上に、時には強制的に生き方やものの考え方を方向づけようとする社会の動きを敏感にキャッチして、異和や葛藤、あるいは独自性を主張する。夏目漱石とは、<近代>の初めにあつて、<国家・成熟・男らしさ>等の課題を背負わされながら、それと真っ向から向き合った文学者である。現代および現代文学へ通じる感受性を検証してみたい。				
学習内容	おおむね「青年」を主人公に、時代への抵抗、多様な文体、鋭敏な身体感覚を豊富に織り込んだ、『それから』までの漱石前期の作品を中心に、社会への異和、成熟へのためらい、ジェンダーの揺らぎ等、驚くほど今日的なテーマが、どのように語られているかを、優れた先行文献から学びながら、自分の手でときほぐしたい。最終的には、2つのテキスト—時代と作品の双方向的な対話へと視野を広げたい。				
授業計画	第1回 『こころ』より——<男と男・男と女>、編成される近代空間への反逆 第2～4回 『三四郎』——<遅れてきた青年>、遅延とズレの批評性 ・文明の中心——西欧・恋愛・絵画、そして美禰子 ・周縁か外部か——「偉大なる暗闇」をめぐって 第5～7回 『坊っちゃん』と『猫』 ・「虚の中心・うらなり」「男たちのサロン臥龍窟と恋するオス猫」など 第8～9回 『草枕』と『虞美人草』 ・損傷された女＝ファリックガール？への欲望とその回避 第10回～13回 『それから』——<男になること>、文明批評の終焉 ・3つの世界と3つの時間——父と友愛・やすらぎの水底・欲望の三角形 ・死か再生か——反転する<平生の自分> 第14～15回 遺作『明暗』・村上春樹・『崖の上のポニョ』へ				
受講要件	特にありません				
テキスト	生協書籍部にて販売（新潮文庫『三四郎』『それから』の予定）。他はプリント配布します。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』（ちくま新書）、石原千秋『漱石の記号学』（講談社メチエ選書）、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』（ちくま文庫）など。他は各回、授業の中で紹介します。				
予習・復習について	頭の中で予習して授業に臨もう。授業時間最後の問題提起から、復習を兼ねて予習しましょう。				
成績評価の方法・基準	各回出席カードのコメント＋最終レポート				
オフィスアワー	水曜昼休み（可能なら予約をお願いします）＋必要に応じて随時				
担当教員からのメッセージ	「漱石って、社会学の本を読みました？」——毎度、出る質問です。でも、各々の出版年をよく見てみましょう。当然、漱石の方が「先人」です…。漱石に限らず、優れた小説や映画は、「感受性の論理」とでもいうべき武器で、同時代を生き生きと呼吸し、内面化したり反逆を企てたりしています。その葛藤を生き直すことが、読み手にとっての醍醐味ではないでしょうか。				

授業科目名	言語学原書講読 I				
担当教員名	熊谷 滋子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 430		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	イデオロギー、アメリカ英語、映画、政治家のことば				
授業の目標	このクラスでは、アメリカにおける標準英語中心主義におけることばの差別を具体的な事例を通してつかみ、このイデオロギーがどのような弊害をもたらしているのか、考えていきます。				
学習内容	このクラスでは、アメリカでの標準英語中心による言語差別を様々なデータや言説を駆使した英語文献を読み、その実態を把握します。その上で、日本については、どうなっているのかを、受講生とともに議論して、深めていきます。				
授業計画	<p>まず、基本となる英語文献を読み、内容を把握します。その上で、日本語の場合はどうなのか、受講生とともに議論していきます。</p> <p>また、受講生のことばへの興味関心を共有するために、ことばについてスピーチをしてもらいます。今回のテーマについて、以下のポイントを中心に、英語文献を読み解きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語イデオロギーについて 2. 話しことばと書きことばの差 3. 標準語神話 4. 言語支配の様相 5. 標準語教育の推進 6. 映画に見る言語差別 7. ことばをめぐる言説 <p>読むテキストは、例も豊富で、分かりやすいものです。</p>				
受講要件	英語のテキストを読む根気				
テキスト	Lipp-Green(2012) English with an Accent Routledge, (仮) 使用テキストについては、クラスの最初に提示します。				
参考書	随時、クラスで紹介します。				
予習・復習について	英語のテキストの要約をしてもらいます、また、関連する日本語文献についても、随時、参照し、議論への準備をしてもらいます。				
成績評価の方法・基準	英語の読み解き 30%、発表 30%、レポート 40%				
オフィスアワー	水曜日の 7・8 時限目です				
担当教員からのメッセージ	日本において、方言が使われ、もてはやされていますが、それは社会の何を反映しているのか、考えてみたい問題です。				

授業科目名	アメリカ文学文化読解 I				
担当教員名	レッドフォード・スティーブン	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 2 8		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期	必修選択区分	
対象学年		難易度	D	曜日・時限	火 5・6
キーワード	America、 contemporary、 fiction、 discussion、 presentation				
授業の目標	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of post-World War II American culture--and your connection to it.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss J.D. Salinger's FRANNY AND ZOOEY, published in book form in 1961, as well as selected passages from Salinger's THE CATCHER IN THE RYE. Each student will be required to make a presentation in English on a related subject.				
授業計画	<p>Schedule*:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. F & Z (p. 3 ~ p. 23, line 3) 3. F & Z (p. 23, line 4 ~ p. 43) 4. F & Z (p. 47 ~ p. 60, line 15) 5. F & Z (p. 60, line 16 ~ p. 74, line 23) 6. F & Z (p. 74, line 24 ~ p. 91, line 2) 7. F & Z (p. 91, line 3 ~ p. 105, line 5) 8. F & Z (p. 105, line 6 ~ p. 118, line 16) 9. F & Z (p. 118, line 17 ~ p. 127) 10. F & Z (p. 128 ~ p. 143, line 9) 11. F & Z (p. 143, line 10 ~ p. 157) 12. F & Z (p. 158 ~ p. 172, line 18) 13. F & Z (p. 172, line 19 ~ p. 186, line 3) 14. F & Z (p. 186, line 4 ~ END) 15. Final Discussion <p>* = schedule is subject to change, and will include student presentations</p>				
受講要件	英語による読解、ディスカッション、プレゼンテーションに、積極的に取り組むことが前提となる。				
テキスト	FRANNY AND ZOOEY (J.D. Salinger) ISBN 9780316769020 (PUBLISHER: Bay Back Books)				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading and study questions are required preparation for each class.				
成績評価の方法・基準	Final test is 50% of final grade. Weekly reading quizzes, 25%; classroom participation, 15%, presentation, 10%.				
オフィスアワー	Thursday, 10:20 - 11:50, and by appointment, e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	A strong willingness to participate in English is appreciated.				

授業科目名	日本語文化各論Ⅱ				
担当教員名	酒井 英行		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟321	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	漱石、倫理／性愛、狂気				
授業の目標	夏目漱石の『行人』を解説する				
学習内容	漱石の『行人』に散りばめられているエピソード（「精神病の娘さん」、「盲目の女」などのエピソード）が、作品のテーマをどのように生成していくのか、漱石の病気による作品執筆中断が、作品のテーマにどのような影響を及ぼしているか、といった観点から読み解いていく				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 お貞さんの結婚話の進行がもたらす問題を考える 2 「精神病の娘さん」を漱石が設定した意図を考える 3 二郎とお直の微妙な関係性について考える 4 「盲目の女」が明らかにしていく問題を考える 5 漱石の病気による作品執筆中断がもたらしたテーマの変更について考える 6 Hさんとの旅で明かされる一郎の真実について考える 				
受講要件	なし				
テキスト	夏目漱石『行人』（新潮文庫）				
参考書	なし				
予習・復習について	テキストを繰り返し熟読すること				
成績評価の方法・基準	授業時の4回のテストの平均点によって評価する				
オフィスアワー	水曜日9・10（16時05分～17時35分）				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 県立大学単位互換（認めない） 2 科目等履修生（認めない） 3 難易度（B） 				

授業科目名	比較文学概論 I				
担当教員名	田村 充正		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 3 2 0	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	比較文学、日本文学、海外受容				
授業の目標	1. 比較文学の基礎知識を学ぶ。 2. 日本の比較文学の諸問題を考える。 3. 海外の日本文学受容を調べる。				
学習内容	この講義ではまず欧米における比較文学の歴史と方法を概説した後、日本の比較文学がかかえる問題点を考える。明治期以降の日本文学は欧米文学を一方向的に受容することによって展開してきた歴史をもち、比較文学において影響研究や対比研究を実践するにしても、文学的国際交流の密な西欧とは基本的な土壌が異なることを自覚した上で、独自の方法を見い出す必要性に迫られている。				
授業計画	1. 比較文学の基本概念と歴史 (比較文学前史) 18世紀末のドイツで誕生した国文学研究という考え方が外国文学研究を経て、比較文学研究というジャンルを成立させるまでのプロセスをいくつかの焦点を設けて概説する。 (フランスの比較文学) フランスは国文学研究の一分野として比較文学を発展させてきたわけであるが、その文献学の理論と方法を駆使した実証主義研究としての比較文学の特徴を解説する。 (アメリカの比較文学) 第二次世界大戦以降、フランス学派に対する批判として生まれたアメリカ学派の対比研究について、その特徴と文学理論を考察する。 2. 日本の比較文学の歴史と問題点 日本の比較文学に対する関心は早く、明治期にまで遡れるのだが、日本の文学的土壌の個別性を明確に自覚しない、欧米の研究手法の安易な輸入や適用が招いた混乱を整理したうえで、近年における日本の比較文学研究の成果ともういうべき優れた研究を紹介する。 3. 海外の日本文学受容 日本文学の海外受容ではなく、その逆の方向で生じた海外の文学現象を下記の三つの軸を設けて考察する。 ①19世紀後半のジャポニズムから派生した俳句への関心。 ②1920年代のA.ウェイリーによる英訳『源氏物語』の刊行。 ③1960年代の川端康成ノーベル文学賞受賞に端を発し、現代の村上春樹、よしもとばななまで続いている日本近現代文学への注目。				
受講要件					
テキスト	プリントして配布する。				
参考書	講義内容にあわせて教室で指示する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席状況と試験あるいはレポートによって判断する予定である。				
オフィスアワー	木曜日・昼休み 研究室：jjmtamu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	フランス言語文化演習VI				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	D	曜日・時限	水7・8
キーワード	読解力				
授業の目標	フランス語を読む能力をつける・南フランスについて知る				
学習内容	フランス語のテキストを訳読する・南フランスに関連するテーマを見つけて研究する				
授業計画	<p>今回のテーマは南フランス研究。 南フランスを舞台とした A. Daudet の 短編集『風車小屋だより (Lettres de mon moulin)』から、L'Arlésienne などを読む。 1866年に書かれたこの作品は大きな反響を呼び、72年にビゼーがこれを題材として有名な付随音楽『アルルの女』を作曲した。 南フランスは、元々北フランスとは言語も文化も異質な地域で、多くの芸術家はその風土や気候にあこがれ、インスピレーションを得るために好んで住み着いてきたところである。ドーデの作品では、この美しい地域を背景に、人間関係の残酷さや容赦のない近代化の波によって伝統的風土が変容を被ったりする様子を見事に描き出している。文体も気品に満ちて哀愁を帯び、読者に忘れがたい印象を植え付ける。難解と言うよりは飾りがなく、中級者にとって格好の語学教材でもある。</p> <p>使用テキストは、『Les étoiles』A. ドーデ、窪川英水編、第三書房</p> <p>授業ではテキストを訳読しながら、南フランスに関する文化・芸術・産業について考察し、後半には各参加者が特定のテーマを選び研究発表をしてもらいます。</p>				
受講要件	最低でもフランス語の初級を終えていること。				
テキスト	上記。生協の教科書売り場で購入のこと。				
参考書					
予習・復習について	予習が必須				
成績評価の方法・基準	平常点と試験（もしくはレポート）の点数。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	毎年月曜5・6限に開講していますが、今年は前期だけ時間を移動します。				

授業科目名	映像文化論				
担当教員名	コルベイ・スティーブ	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A325		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	映画論、映画史、映像論、比較文化、近代化、ポストモダン				
授業の目標	この授業は映画論の入門である。誕生から 21 世紀の 3D の新ブームまで媒体として映画と関連する映画論の一般的な分析方法を理解することを目標とする。そして、映画を他の媒体（本、カメラ、テレビ、コンピューターなど）と比較し、メディアリテラシーを深める。				
学習内容	具体的な授業の内容として、毎回、世界（特に、日本、仏、米）の映画キャノン(film canon)から映画の一部（1～2 本、5～10 分ずつ）を視聴し、その解説を行う。視聴しながら、注目すべき点、またその歴史的背景や理解に必要な概念を紹介し、映画の重要性への認識を深める。つまり、映画を通じてその分析力を高め、同時にその考え方をを用いて映画を分析する。				
授業計画	1 回 映画の誕生 2 回 映画とモンタージュ（編集） 3 回 映画とストーリー性 4 回 映画と監督 5 回 映画と観客（視覚の問題） 6 回 映画のジャンル I 7 回 映画のジャンル II 8 回 ハリウッド映画 9 回 映画と国家 10 回 映画とオリエンタリズム 11 回 映画とジェンダー 12 回 映画と文学 13 回 アニメーション映画 14 回 3D 映画 15 回 まとめ				
受講要件					
テキスト	山下慧・井上健一・松崎健夫（著）『現代映画用語辞典』 ISBN 9784873763675				
参考書	Jill Nelmes (ed), Introduction to Film Studies, Routledge ISBN9780415582599 宮尾大輔『映画はネコである～はじめてのシネマ・スタディーズ』平凡社新書 ISBN9784582855791				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	授業への参加、出席（30%） 最終テスト（70%）				
オフィスアワー	月曜日の 14：30～16：00				
担当教員からのメッセージ	この授業はすべて日本語で行う。邦画以外の場合は字幕つきで視聴する。				

授業科目名	日本語文化基礎講読VI				
担当教員名	勝山 幸人		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	崩し字、変体仮名、影印本、写本、古文書、古筆				
授業の目標	変体仮名(崩し字)で書かれた写本や古筆の解読ができるようになること。				
学習内容	日本語学・文学を研究する上で、変体仮名(崩し字)で書かれた写本を解読することは、もっとも基礎的な能力の一つです。必ず身につけておかなければなりません。この授業では、さまざまな真仮名の草書の放ち書きを、まず書いたり読み取ったりしっかりと練習したのちに、連綿体の解読へと発展させていきます。あわせてこれをテキストに起こすまで、一連の作業過程についても学びたいと思います。				
授業計画	<p>まず基本的な導入知識として、「ん」を含めた、都合 49 種類の仮名文字が、漢字からどんな形に変じていくか、そういう分化してく諸相について学びながら、さまざまな真仮名の草書体を、書いたり読み取ったりする練習をします。次に、蕎麦屋、うなぎ、すし屋など、身近に見られる崩し字に触れて、二、三・四字程度の続け書きを読む練習をします。これが済んだら、初めは簡単な『古今和歌集』の連綿体を解読していきます。</p> <p>実践編として、芸術的にも高い価値を持つ国宝の仮名資料、写本、古筆、消息を教材にして、読み解きます。このとき、解読という作業が、すなわち古典語文の解釈に関する基礎的な方法論を身につけることにもつながることを、体験してもらいたいと考えています。</p> <p>※卷子本、冊子本、綴葉装、題簽など、和書の歴史や名称といった書誌学的な話もするので、楽しみにしててください。</p>				
受講要件	1年生のみ				
テキスト	コピー				
参考書	中野幸一『変体仮名の手引』(武蔵野書院)600+税				
予習・復習について	半年程度でスラスラ読めるようになるわけがありません。毎回、練習課題を出します。予・復習をかねて、相当時間はこれに費やしてもらうことになります。				
成績評価の方法・基準	随時、テストを実施します。提出物も評価の対象とします。実技系の内容になりますから、出席はとりません。すべて自己責任で判断してください。				
オフィスアワー	水曜日 16:00-17:00				
担当教員からのメッセージ	活字になったテキストは、確かに便利ではありますが、研究資料にはなりえません。これまで、句読点、かっこ、改行、ルビ、イラストかつて本で満足していた人は、このさい目を覚ましましょう。この授業は、日本の言語文化に触れる第一歩になるはずです。				

授業科目名	英米言語文化基礎論				
担当教員名	鈴木 実佳,久木田 直江		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟517	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	United Kingdom、王室、英語、文学、キリスト教、図像学、巡礼				
授業の目標	<p>特に、人文社会科学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2・3及び言語文化学科のディプロマ・ポリシー1に示されているような知識と教養を得ることを目標とする。</p> <p>言語文化学科の教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）1に示されているように、導入的基礎知識を得るための基礎科目として設定されている。</p> <p>（鈴木）主にイギリスや英文学・文化の基礎的な事柄を学び、関心を広げて、今後の学習の準備となるようにする。</p> <p>（久木田）イギリスの文学・文化を西洋古典・中世文学・文化の伝統のなかに位置づける。</p>				
学習内容	<p>（鈴木）「イギリス」について歴史的経緯や現在の立場、過去の帝国の遺産などについて、講義形式を基本として進める。</p> <p>（久木田）ヨーロッパ各地に広がる巡礼地について学び、巡礼が西洋文学・文化にどのような共通性と意味を与えているか考える。</p>				
授業計画	<p>（鈴木）2012年のロンドンオリンピック開会式を出発点に、主に以下の事項を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ UK ・ 王室 ・ 文化的帝国・英語 ・ 茶 ・ 児童文学 <p>（久木田）巡礼の文化を以下の作品や図像を通して検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンテ『神曲』、 ・ チョーサー『カンタベリー物語』、 ・ 『マージェリー・ケンプの書』、 ・ 古代から中世末の世界地図 				
受講要件	受講希望者数により制限を課す（言語文化学科の1年生を優先）。				
テキスト	<p>（鈴木） ハンドアウト</p> <p>（久木田） ハンドアウト</p>				
参考書	必要に応じて指定。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパーと筆記試験により総合的に評価する。基本的に2教員の担当分を合わせて成績を定める。なお試験の実施方法等については、各教員が授業時に行う指示を確認すること。				
オフィスアワー	<p>（鈴木） 前期 火曜 8:40～10:10、後期 木曜 10:20～11:50（メールにて事前に連絡を！）</p> <p>（久木田） 水曜 11:45－12:45 （事前にメールで連絡してください。）</p>				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度（A）				

授業科目名	英語学各論 I				
担当教員名	大村 光弘	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 4 2 7		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期	必修選択区分	
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	認知意味論、モダリティ、発話階層構造、歴史言語学、語用論				
授業の目標	認知意味論・語用論・歴史言語学を中心に、生成文法研究の方法と分析に関する専門的知識を深める。				
学習内容	2年次に英語学概論や英語学基礎読解で学んだ生成文法の基礎知識を基にして、より専門的見地から生成文法が実際の言語資料をいかに分析するかを観察する。授業は基本的に講義形式で進める。ただし、内容理解のために受講生に質問をしたり、理解度を測る小テストを課す。				
授業計画	<p>講義全体のテーマは言語変化の結果としての多義性(polysemy)である。多義性を生み出す言語変化の過程を分析するために、1つの階層意味論(layered-structure semantics)モデルを提示する。具体的手順は、以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 扱うべき言語事実 法助動詞 shall, should 2) 階層意味論 文の意味構造 モダリティ(modality)と命題(proposition) 意味論と語用論の接点 3) 史的意味論(historical semantics)・史的語用論(historical pragmatics) 文法化(grammaticalization) 主観化(subjectification) 意味の漂白(semantic bleaching) 機能推移(functional shift) 4) 法助動詞 shall, should における機能推移 				
受講要件	英語学概論 I & II、英語学基礎読解を履修していることが望ましい。				
テキスト	配付資料を用いて授業を行う。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	復習に重点を置き、講義内容の理解に努めてほしい。				
成績評価の方法・基準	欠席(30分以上の遅刻は欠席1回とみなす)は4回までとする。 数回の小テストの結果(90%)＋平常点(10%)で評価する。				
オフィスアワー	月曜日(12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認めない) 3. 難易度(C)				

授業科目名	日本・アジア言語文化基礎論 I				
担当教員名	小二田 誠二		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 322	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード	江戸/現代、戯作、見立て、歌舞伎/文楽、浮世絵/おもちゃ絵、解釈/表現、型				
授業の目標	江戸時代の様々な言語表象を読み解きながら、現代に活かせるヒントを探ります。好奇心を発揮して魅力をたくさん発見すること、それをわかりやすく誰かに伝えることの両方を目指します。				
学習内容	副 題 【 江戸に、(≧◇≦) 】 高校までの授業で殆ど触れることのない江戸時代の文芸には、思いがけない深さもあり、びっくりするような豊かな表現にも溢れています。この授業では、皆さんと一緒に江戸時代の様々な作品を読み解きながら、その魅力を、授業を取っていない同世代の人たちに伝え、活かしていくためのガイドブック (のような物) を作ろうと思っています。				
授業計画	<p>以下の項目は、授業一回ごとの内容を示す物ではありません。 途中でゲストによる特別講義を入れるかもしれません。 受講生の動向によって内容を大きく変える場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 江戸に驚いた話 私の大学一年生当時の記憶をたどりながら、この授業の狙いについて話します。 皆さんの予備知識も確認し、授業の進め方を調整します。 戯作とオタクカルチャーの親和性に驚く 二次創作ばかりちゃん。 冒険活劇のリアリティに驚く ハードボイルドはリズムで読み、ビジュアルを考える。 観察力と再現力に驚く 江戸には隠しマイクがあった。 擬人化のセンスに驚く 大人絵本の想像力をまねる。 素人文芸に驚く 投稿サイトの仕組みとは？ あそびの絵画に驚く 絵文字の発想を真面目に考える。 人形の動きに驚く 悲しくなくても悲しい表情を作る技術。 実用書に驚く ロコミあり、ステマあり、占い本あり、知ったかぶり本あり。 等々。 切りが無いんですが、こういうのを適宜紹介します。 それらをもとにして、皆さんが、私も気づかないような魅力を見つけること、それを、ふさわしいメディアで発信すること、までが授業です。 私は情報提供とヒントを出すだけ。 毎回わいわい話し合ったり、みんなで書いたりする時間を取ります。 				
受講要件	古文が苦手でも構いませんが、無理、と言う人は無理です。 若干ですが、性的表現/暴力表現等を含む事を予め承知して下さい。				
テキスト	授業中に配布します。 かなり大量になりますが、配布された物は次回までに全部しっかり読むこと。				
参考書	授業中に適宜紹介しますが、さしあたり、江戸時代の大雑把な歴史と文化史・文学史に関する参考書や教科書などを読んでおいてください。 最初の回に予備知識チェックをします。 江戸時代の作品を読んでおいてくれればなお良い。				
予習・復習について	・日常的に様々な事に興味を持ち行動すること。 ・授業で気になったことは、その日のうちに調べて、「書く」こと。				
成績評価の方法・基準	最終レポートのみ。出欠は評価の対象にしません。ただし、欠席して書けるような課題は出しません。 任意のレポートによって得点加算、遅刻による減点等あり。 最終レポートは公開します。 詳細は最初の回に。				

<p>オフィス アワー</p>	<p>あなたと私の空き時間。 私の時間割は http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jjskoni/time.html に掲載します。 確認の上、連絡してください。</p>
<p>担当教員か らのメッセ ージ</p>	<p>一年生向けの専門科目としては、かなり「大変」な授業だと思いますが、「本で読めばわかること」ではない、 学問の意味みたいな事を含め、多くを学べる時間にするつもりです。一緒に楽しみましょう。 1 県立大学単位互換（認める） 2 科目等履修生（認める） 3 難易度（A）</p>

授業科目名	フランス文学概論 I				
担当教員名	安永 愛	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化				
授業の目標	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。				
学習内容	中世から 18 世紀にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。基本的に講義形式であるが、いくつかのフランス語作品の抜粋の講読や、関連の映像の鑑賞も取り入れる。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・フランス文学の基盤 ・中世フランス文学の諸ジャンル ・フランス・ルネサンスの文学—ラブレーなど ・モラリストの系譜—モンテーニュなど ・17 世紀の思想家たち—デカルトとパスカル ・啓蒙の時代の思想家たち—モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロなど 				
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	義務としては特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみてほしい。				
成績評価の方法・基準	出席状況 (20%)、期末レポート (80%)				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアポイントにより随時対応します。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	この講義が作家や作品と出会う機縁となることを願っています。				

授業科目名	日本語文化基礎講読Ⅱ				
担当教員名	袴田 光康		所属等	人文社会科学部	
			研究室	323	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	日本と東アジアの基層文化に関する基礎的知識を習得する。				
学習内容	2013年は、伊勢神宮の式年遷宮の年です。式年遷宮とは、二十年に一度、新神殿に神霊を遷す儀式で、古代から脈々と伝えられてきたものです。この機会に日本における伊勢神宮の意味についてみなさんと考えてみたいと思います。伊勢神宮に祀られたアマテラスは、日本神話だけでなく、広く東アジアの太陽信仰と繋がっていると考えられます。伊勢神宮を東アジア的視点からとらえ直すとともに、独特な齋宮忌詞や遷宮祭の儀式、また神国観や海外神社の問題などにも視野を広げていきます。なお、講読科目ですが、グループによる発表も計画しています。発表を通して、調査方法、資料作成、発表技術なども併せて学んでください。				
授業計画	1回 東アジアの太陽信仰 2回 アマテラスの誕生 3回 対馬の天道信仰 4回 アメノヒボコ伝承 5回 韓国の古代神話 6回 伊勢というトポス 7回 中国思想と伊勢神宮 8回 神功皇后伝承 9回 遷宮祭 10回 伊勢神道 11回 「神国」という発想 12回 植民地と海外神社 13回 齋宮の文学 14回 伊勢参り 15回 まとめ				
受講要件					
テキスト	千田稔,『伊勢神宮—東アジアのアマテラス』,中公新書,2008年				
参考書	授業時に紹介。				
予習・復習について	テキストの予習・復習は当然ですが、テキストにあげられている参考資料についても目を通して頂くことが望ましいです。				
成績評価の方法・基準	平常点(20%)、発表(30%)、レポート(50%)を総合して評価をします。				
オフィスアワー	火曜・金曜のお昼休み(なるべく事前連絡をしてください)。				
担当教員からのメッセージ	古代や神話に興味を持っている方にお勧めですが、伊勢神宮くらいは日本人の一般教養として、おさえておきたいところです。 1 県立大学単位互換(○)、2 科目等履修生(○)、3 難易度(B)				

授業科目名	会社法				
担当教員名	西川 義晃	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文 A 棟 6 階		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 3・4/木 3・4
キーワード	会社法、商法、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス				
授業の目標	1. 会社法制について基礎知識を得、理解を深める。 2. 会社法をもとに企業社会に生じる諸問題を読み解き、これを解決するための専門知識を修得する。 3. 会社法を通してリーガルマインドに触れることにより、社会と人間に対する洞察力と理解力を身につけることを目指す。				
学習内容	会社法について、株式会社法を中心に講義する。 現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。平成 17 年に成立した会社法は非公開会社を想定した改正であり、上場会社は例外という位置づけにある。しかし、株式会社は本来、証券市場において資金を調達し、大規模な企業経営を行う仕組みであり、そうした株式会社の特質は、株式会社法全体に反映されている。本講義はそうした観点に留意しつつ、会社法について解説していく。				
授業計画	《授業の進め方》 レジュメを配布し、レジュメを中心に講義するが、教科書も適宜参照するため毎回持参すること。教科書は特に、予習・復習に利用すること。 なお、会社法は現在、改正作業中である。改正の内容については、随時、講義で取り上げる。 《計画》 講義期間の前半には、特に機関関係、すなわち取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて考察する。 後半には、特に企業の資金調達、会社の計算、設立、企業再編 (M&A) に関する問題を扱う。会社の資金調達の仕組み、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、企業買収がどのように行われるのか・その際利害関係者はどのように保護されるのかなどについて考察する。 以下の項目を 1、2 回で講義する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社の種類 2. 株式会社の特質 3. 証券市場と株主の地位 4. 株主総会の役割 5. 取締役と取締役会 6. 取締役の義務と責任 7. 委員会設置会社の意義と仕組み 8. 会計参与 9. 監査役・監査役会 10. 会計監査人 (ここまで講義したのち、レポートの提出、または中間試験を実施) 11. 株式 12. 募集株式の発行 13. 社債 14. 新株予約権・ストックオプション 15. 会社の計算 1: 開示規制 16. 会社の計算 2: 剰余金の分配規制 17. 株式会社の設立 18. 企業再編 (学期末にここまでを予定、学期末試験を実施) 				
受講要件	特になし。				
テキスト	伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『LEGAL QUEST 会社法 [2 版]』(有斐閣、2011 年)を使用する。 最新の六法を持参すること (『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい)。				
参考書	初回の講義において紹介する。				
予習・復習について	随時レジュメを配布するので、レジュメに対応する教科書の該当ページに、事前に目を通してることが望ましい。				
成績評価の方法・基準	講義内容の前半部分を終えた時点でレポートの提出を求めるか、または中間試験を実施する。学期末に筆記式の試験を実施し、総合評価する。出席点は設けない。				

<p>オフィス アワー</p>	<p>水曜日の 5・6 時限をオフィスアワーとする。 これ以外は、事前にメールでアポイントを取ること。jynishi@ipc.shizuoka.ac.jp</p>
<p>担当教員か らのメッセ ージ</p>	<p>1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (C) 4. 会社法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い。特に民法(「民法総論」など)と同時履修、または履修済みであることを強く求める。 注意：平成 22 年度以前の入学生は「企業法」(4 単位)に読替え。</p>

授業科目名	法学入門				
担当教員名	横濱 竜也	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟619室		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月7・8
キーワード	法と道徳				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目はほぼ毎回の授業内容に対応する。但し授業の進捗状況や展開によって若干の変更があり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakション（六法の選び方、判例の調べ方） 2 六法と判例の読み方 <p>【第1部 法学基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 法とは何か（1）（法はなぜ必要か、法と道徳①：リーガル・モラリズム） 4 法とは何か（2）（法と道徳②：悪法問題） 5 裁判制度（司法制度、裁判官の独立、民事裁判、刑事裁判） 6 法源（制定法、慣習、判例、条理、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力） 7 法解釈の方法（事実認定と法適用、解釈方法の分類と方法） 8 法の歴史（西洋法制史：大陸法系とコモンロー法系、ローマ法とその継受、日本近代法史：明治期の法典編纂とくに民法制定過程をめぐって） <p>【第2部 実定法基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 日本国憲法の歴史（大日本帝国憲法の基本理念、日本国憲法制定過程、平和主義） 10 憲法の基本原理（1）（基本的人権の保障） 11 憲法の基本原理（2）（権力分立、立憲主義と民主主義） 12 民法の基本原理（1）（所有権絶対の原則） 13 民法の基本原理（2）（契約自由の原則、過失責任主義） 14 刑法の基本原理（1）（罪刑法定主義、犯罪の成立要件、刑罰の目的） 15 刑法の基本原理（2）（令状主義、起訴状一本主義、犯罪被害者への配慮） 				
受講要件					
テキスト	石山文彦編『ウォーミングアップ法学』（ナカニシヤ出版、2010年）、初回授業前に授業支援システムより配布する講義案、六法（購入すべき六法については初回授業時に説明する）。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2005年）、田島信威『法令入門－法令の体系とその仕組み』（法学書院、2008年）、川崎政司『法律学の基礎技法』（法学書院、2011年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第5版〕』（有斐閣アルマ、2008年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁判物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：講義案および教科書の該当箇所を読んだ上で、小テストに取り組む。 復習：授業内容を振り返り疑問点をまとめる。疑問点は授業時やオフィスアワーなどに質問し解決する。さらに、学期中に課すレポート課題に取り組む。				
成績評価の方法・基準	期末試験50%、平常点30%（小テストへの応答15%+レポート課題提出15%）、学期中に1回実施する中間テストの得点20%。評価方法の詳細は初回授業の際に示す。				
オフィスアワー	金曜日14時25分～15時55分（同じ時間に相談者が重なることを避けるために、事前に予約をお願いします）。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（A） この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要な不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。				

授業科目名	民事訴訟法				
担当教員名	坂本 真樹	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文学部A棟615		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月9・10/金7・8
キーワード	特にありません				
授業の目標	民事訴訟法制度の把握と、私たちが持っている権利・法的利益の現実社会における実現の方法を理解することを目的とします				
学習内容	民事訴訟法の基礎を、教科書・判例を通じて学ぶことを目的とします				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 民事訴訟の目的：刑事訴訟、行政訴訟との違い 3回 裁判外の紛争解決手続 4回 訴え(1) 5回 訴え(2) 6回 訴え(3) 7回 訴え(4) 8回 訴訟物(1) 9回 訴訟物(2) 10回 訴訟の主体(1) 11回 訴訟の主体(2) 12回 訴訟の主体(3) 13回 訴訟の過程・審理(1) 14回 訴訟の過程・審理(2) 15回 訴訟の過程・審理(3)				
受講要件	特にありません				
テキスト	上原敏夫・池田辰夫・山本和彦著『民事訴訟法 第6版』(有斐閣Sシリーズ)、六法				
参考書	『民事訴訟法判例百選』(第4版)高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂編 その他、特に指定はしませんが、授業で適宜示します				
予習・復習について	次回の講義範囲を指定しますので必ず予習の上、講義を受けること				
成績評価の方法・基準	期末テスト 抜き打ち小テスト(出席確認も含む) レポートにて評価します				
オフィスアワー	授業時間以外で、事前にメールにてアポイントメントをとってください				
担当教員からのメッセージ	メールアドレス jmsakam@ipc.shizuoka.ac.jp です メールでも質問等を受け付けます 県立大学単位互換性(認める) 科目履修生(認める) 難易度 B				

授業科目名	憲法総論・統治機構				
担当教員名	小谷 順子		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文A棟612	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	憲法、法の支配、立憲主義、権力分立、人権保障、基本的人権、自由、権利、統治				
授業の目標	国家の最高法規である「憲法」の歴史的背景、意義、及び機能に関する基礎知識を習得した上で、日本国憲法の基本原則及び統治機構をめぐる各種論点（時事的な論点も含む）に関する詳細な知識・応用力を習得することを目標とする。				
学習内容	まず、「憲法」の歴史的背景・近代的意義を確認した上で、日本における「憲法」の変遷、「日本国憲法」の基本的原理について学ぶ。その後、国会・内閣・裁判所を主軸とする統治機構に関する日本国憲法の規定を確認した上で、この分野における憲法学上の各種問題点について、国内の判例・学説や外国の例を参照しつつ学ぶ。				
授業計画	1回 法とは何か、憲法・憲法学とは何か 2回 憲法と立憲主義（憲法の意味・分類） 3回 憲法と立憲主義（憲法の特質・立憲主義） 4回 日本憲法史（明治憲法、日本国憲法） 5回 国民主権の原理（国民主権） 6回 国民主権の原理（天皇制） 7回 平和主義の原理 8回 国会（権力分立、政党） 9回 国会（国会の地位・組織・活動） 10回 国会（国会の地位・組織・活動） 11回 内閣 12回 裁判所（裁判所の組織・権能、司法権の意味と範囲） 13回 裁判所（司法権の意味と範囲、裁判員制度） 14回 憲法の保障（違憲審査制） 15回 憲法の保障（憲法改正）				
受講要件	とくになし				
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）				
参考書	六法： 出版社問わず 判例集（例）： 野中俊彦・江橋崇編著『憲法判例集』（有斐閣新書）、『憲法判例百選II（第5版）』（有斐閣）など 用語集（例）： 大沢秀介編『確認憲法用語300』（成文堂）など				
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で、学務情報システム上の「授業支援システム」にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。				
成績評価の方法・基準	授業支援システムの「小テスト」の成績20-40%程度、期末試験60-80%程度で評価する。期末試験は、教科書等の一切の資料の参照不可。 ※授業支援システムについては、授業中に説明する。				
オフィスアワー	毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(O) 2. 科目等履修生(O) 3. 難易度(B) 難易度(A)は高校の公民（現代社会、政治経済）レベルの知識を当然に修得していることを前提としています。				

授業科目名	地方自治論				
担当教員名	日詰 一幸	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟621		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	地域主権、広域行政、基礎自治体、市民参加、協働、行政経営、自治体改革				
授業の目標	地域主権時代における地方自治のあり方について検討し、受講生が地方自治の担い手としての役割を認識する機会となるよう促す。				
学習内容	地域主権時代における地方自治のあり方について、これまでの成果と課題を整理するとともに、今後自治体行政はどうあるべきかについて検討する。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 日本の地方自治制度の概要 3回 日本の地方自治制度の歴史 4回 地方分権改革と地域主権改革 5回 都道府県と市区町村 6回 自治体の政治機構 7回 自治体の行政機構 8回 自治体の政策と総合計画 9回 政策法務と条例 10回 自治体の組織管理 11回 財政運営と財政改革 12回 職員の職務と人事管理 13回 行政統制と自治体改革 14回 住民と自治体 15回 市民参加				
受講要件	特にない。				
テキスト	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック 地方自治 改訂版』北樹出版				
参考書	講義の中でその都度紹介する。				
予習・復習について	地方自治関連の様々なテーマに関心を持ち、主体的に関連書を読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験の成績を総合的に評価する。				
オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00				
担当教員からのメッセージ	特にない。				

授業科目名	政治思想 I				
担当教員名	井柳 美紀		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 605	
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	デモクラシー、公共性、主権、国家、権力分立、リベラリズム、自由、政治参加				
授業の目標	今日、私たちが用いている基本的な政治学上の理念や価値の歴史と意義を学ぶ。				
学習内容	政治思想の中でもヨーロッパの政治思想を中心に、古代ギリシアの政治思想から出発して、近代政治学までを主な対象として、各々の時代の主要な政治思想家の政治思想を検討して、政治学上の理念や価値の変遷、及びその意義を学ぶことで、現代政治の諸価値を再検討するための手がかりを得る。				
授業計画	1回 プラトンの政治思想 2回 アリストテレスの政治思想 3回 キリスト教とアウグスティヌス 4回 マキアヴェリと近代政治学 5回 ボダンと主権論 6回 グロチウスと近代自然法論 7回 ホッブズ 8回 ロック 9回 モンテスキュー 10回 文明社会とルソー 11回 アメリカ革命の政治思想 12回 保守主義－バーク、ヘーゲル 13回 社会主義－マルクス 14回 自由主義－ミル、トクヴィル 15回 20世紀の自由民主主義				
受講要件	特になし。				
テキスト					
参考書	・岡崎晴輝・木村俊道編『はじめて学ぶ政治学』（ミネルヴァ書房、2008年） ・佐々木毅・鷺見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年） ・福田歓一『政治学史』（東京大学出版会、1985年）				
予習・復習について	テキスト、及び授業中の配付物を、予習・復習用の資料として参照されたい。				
成績評価の方法・基準	論述式による期末試験を中心に、小レポートを加味して評価する。				
オフィスアワー	授業終了後のお昼休み。もしくは、事前にご連絡の上お越し下さい。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（A） 西洋の政治思想の歴史を学ぶが、現代政治への関心をもった学生の参加も歓迎する。				

授業科目名	国際人権法				
担当教員名	板倉 美奈子	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文学部 A 棟 5 3 2		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 9・10
キーワード	国際人権保障、国際人道法、人権・人道条約と日本				
授業の目標	国際人権法に関する基本的知識を修得し、国内外の諸問題を国際人権法の観点から把握できるようになり、グローバルな視野を持つ人権感覚を身につけられるようにすること				
学習内容	<p>基本的人権を国際的な枠組みで保障するという「国際人権保障」の概念が生まれ、「国際人権法」という法領域が成立したのは、第二次世界大戦後、国連が成立してからのことである。その後、半世紀あまりを経て、国際人権法は急速に整備され、各国の国内法制にも多大な影響を及ぼしている。</p> <p>この講義では、国際人権保障の歴史、国際的な人権保障の枠組みについて概観したのち、主要な人権条約・人道条約を軸にしなが、個別的人権をとりまく国内外の状況や課題について考察する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際人権法成立の歴史 2. 国際的な人権保障の枠組み①—国連による人権保障のしくみ 3. 国際的な人権保障の枠組み②—主要な人権条約・人道条約 4. 社会権規約—貧困からの自由、教育の権利、労働権など 5. 自由権規約—表現の自由・メディアの自由、法の支配と公正な裁判、民主主義に対する権利など 6. 女性差別撤廃条約—女性の人権 7. 子どもの権利条約—子どもの人権 8. 人種差別撤廃条約—無差別 9. 拷問等禁止条約—拷問の禁止 10. 国際人道法—武力紛争における人権 <p>* 4～10 までの個別的人権については、順番や取り上げる人権のリストを変更する場合があります。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	徳川信治・中坂恵美子『ワークアウト国際人権法』（東信堂、2010年）。このほか、授業中にレジュメ・資料を配布する。				
参考書	特に指定しない。詳細については、授業時間中に随時紹介する。				
予習・復習について	授業中にしっかりとノートを取り、授業後にテキスト、ノート、配布資料をもとに復習をすること。各論部分については、各章ごとに簡単な課題レポートの提出を求めることがある。				
成績評価の方法・基準	成績評価は期末試験（論述式）を中心として、授業期間中に行う小テストないし課題レポートの結果に基づき行う。				
オフィスアワー	初回講義時に指示する。事前のメール連絡が必要（jmitaku@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） <p>グローバル化の時代、国際人権法について知っておくことは、これからますます重要になってきています。この授業をきっかけにして、みなさんが国内外の人権問題に目を向け、関心を持ってくれるように期待します。</p>				

授業科目名	微分積分学基礎				
担当教員名	大田 春外		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	B組	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 1・2
キーワード	極限、関数、連続関数、微分、自然対数				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。				
授業計画	1回 数列と極限 2回 関数と極限 3回 連続関数 4回 微分法の公式1 5回 微分法の公式2 6回 指数関数・対数関数 7回 指数関数と対数関数の微分法 8回 中間テスト 9回 三角関数の微分法 10回 対数微分法 11回 逆三角関数の微分法 12回 n 次導関数 13回 ライブニッツの定理 14回 平均値の定理 15回 不定形の極限值				
受講要件	数学教育専修以外の学生であること。				
テキスト	石原繁・浅野重初著『理工系の基礎・微分積分・増補版』裳華房 ISBN978-4-1508-5				
参考書	初回の講義で紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	代数学 I				
担当教員名	谷本 龍二		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	1次結合、1次従属、1次独立、基、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	本講義の主題は、基と線形写像にある。この2つの概念を習得できるよう、以下3つの目標を立てている。第1の目標は、線形代数学の基礎的概念の定義を記憶し再生できることである。第2の目標は、具体的なベクトル空間の基を計算できることである。第3の目標は、具体的な線形写像の表現行列を計算できることである。				
学習内容	直観的に述べれば、ベクトル空間内の、原点を通るまっすぐな図形は、座標軸を持つ。このことを正確に述べれば、ベクトル空間内の、部分空間は、基を持つである。それゆえ、いろいろな具体的な部分空間についての基を計算し、また、具体的な線形写像の表現行列も計算する。				
授業計画	1回 1次結合 2回 有限個のベクトルで生成される部分空間 3回 まとめ 4回 1次関係 5回 1次従属と1次独立 6回 1次独立なベクトルの最大個数 7回 まとめ 8回 ベクトル空間の基と次元 9回 解空間の基と次元 10回 有限個のベクトルで生成される部分空間の基と次元 11回 まとめ 12回 線形写像 13回 線形写像の表現行列 14回 線形写像の核と像 15回 総まとめ				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること。				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる。				
参考書	必要があれば適宜紹介する。				
予習・復習について	予習・復習とも電子メール等により適宜連絡する。				
成績評価の方法・基準	小テスト20点、レポート20点、試験60点を用いて成績評価をする。				
オフィスアワー	水曜日 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	線形代数学の基礎的概念（1次独立、1次従属、線形写像など）を、幾何学的にイメージしつつテキストを読むと、得るところが大きい。				

授業科目名	基礎生物学				
担当教員名	伊藤 富夫	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部C棟505		
分担教員名					
クラス	理科	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	新しい生物学、複合の生物学、バイオテクノロジー、ライフサイエンス				
授業の目標	大学で初めて専門を受ける学生を対象に、高校時代、生物学を学んできたか否かに関わらず、楽しく聞けるようにした。				
学習内容	現在、生物学は著しい発展をとげ、連日のように、バイオテクノロジー、ライフサイエンス、遺伝子移植、ガンやエイズの征圧などの話題が新聞紙上ににぎわし、21世紀は生物学の時代だといわれている。本講義では、新しい生物学をわかりやすく、楽しく紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物とは何か 2. 生物学の歴史 3. バイオテクノロジー 4. 細胞の構造と行動 5. 細胞の一生 6. セントラル・ドグマ 7. 物質の合成、毒の話 8. 遺伝の話 9. 組織 10. 体型(体制)、器官 11. 恋のしくみ 12. 外界の影響、花の話 13. 環境の話Ⅰ (パワーポイント) 14. 環境の話Ⅱ (ビデオ) 15. 社会の話 				
受講要件					
テキスト					
参考書	胚という名の宇宙から(サイエンスハウス) 複合の生物学(杉山書店) 海と生物の世界が人間に教えてくれること(サイエンスハウス)				
予習・復習について	1時間ほどの予習、1時間ほどの復習を期待します。				
成績評価の方法・基準	出席と試験				
オフィスアワー	上記研究室へ				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合と論理基礎				
担当教員名	大田 春外		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	集合、集合の演算、命題、真理値、論理演算、直積集合、写像、関数、同値関係				
授業の目標	すべての数学の基礎である「集合と論理」について、基本的事項を学ぶ。目標は、集合を正しく書き表し、具体的な集合の演算ができるようになること、集合演算と論理演算の関係を理解すること、写像と関数の概念を理解し、数学のいろいろな場面で使えるようになること。				
学習内容	下記の授業計画に従い、集合とその基本演算、命題と論理演算、直積集合と写像、同値関係と分類について講義します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合とその表し方 2. 部分集合と集合の相等 3. 集合の演算 4. 補集合とド・モルガンの公式 5. 命題と論理演算 6. 真理値と論理演算の基本性質 7. 命題 $p \rightarrow q$ と $p \leftrightarrow q$ 8. 中間テスト 9. 直積集合 10. 写像 11. 像と逆像 12. 全射, 単射, 全単射 13. 関係と集合の分割 14. 同値関係 15. 同値類と商集合 				
受講要件					
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社				
参考書	最初の講義で紹介します。				
予習・復習について	数学の授業で学べることはごくわずか。各自の予習と復習が大切です。教科書を予習して、問と演習問題を解いておこう。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績。授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、初めて学ぶ内容。毎回出席することが大切です。				

授業科目名	幾何学 I				
担当教員名	大田 春外		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前学期		必修選択区分 必,選択
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	1次変換、合同、相似、放物線、楕円、双曲線、円周率				
授業の目標	1次変換が1次関数の2次元版であることを理解し、幾何学的な計算ができるようになること。合同と相似の意味を理解すること。2次曲線の方程式を標準形に直すことにより、どんな曲線であるかを判定できるようになること。				
学習内容	下記の教科書の第8,9,10章について講義します。内容は、1次変換の基本性質を学び、それらを使って「合同と相似」について考える。2次曲線の基本性質と分類。時間に余裕があれば、円周率についても解説します。				
授業計画	1回 1次変換とその性質 1 2回 1次変換とその性質 2 3回 1次変換と表現行列の正則性 4回 合同と相似 5回 合同変換と相似変換 6回 直交行列と直交変換 7回 2次曲線とその標準形 8回 中間テスト 9回 焦点と接線の性質 10回 2次曲線の分類 1 11回 2次曲線の分類 1 12回 円錐曲線 13回 アルキメデスの漸化式 14回 無限級数による円周率の近似 15回 円周率の無理性				
受講要件	集合と論理基礎と線形代数基礎を受講していること。				
テキスト	大田春外著『高校と大学をむすぶ幾何学』日本評論社 ISBN978-4-535-78619-6				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	教科書を予習すること。教科書の問題を解いておくこと。また、復習用の補充問題を配付します。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に、授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、はじめて学ぶ内容が多い。毎回、出席することが大切です。				

授業科目名	解析学 I				
担当教員名	谷本 龍二		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	数学	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	不定積分、定積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	1回 不定積分の計算 (基本公式 1) 2回 不定積分の計算 (基本公式 2) 3回 不定積分の計算 (分数式、無理式) 4回 不定積分の計算 (部分積分) 5回 不定積分の計算 (三角関数) 6回 不定積分の計算 (無理関数) 7回 総合演習 1 8回 不定積分の計算 (有理関数 1) 9回 不定積分の計算 (有理関数 2) 10回 不定積分の計算 (有理関数 3) 11回 定積分の定義 12回 定積分の性質 13回 微分積分の基本定理 (その 1) 14回 微分積分の基本定理 (その 2) 15回 総合演習 2				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	授業中に行う小テストを中心として、レポートおよび出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	火曜日の午後。				
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。				

授業科目名	書写基礎				
担当教員名	杉崎 哲子	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部A棟602		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	木1・2
キーワード	書写、字形、字体、筆順				
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。				
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①（長短、画間、方向） 4. " ②（交わり方、接し方） 5. " ③（組立て方・左右） 6. " ④（ " ・上下） 7. " ⑤（ " ・内外） 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①（変化・連続） 11. " ②（省略） 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. まとめ 				
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、火5・6は国語教育専修と書文化専攻、水9・10は他の専修・専攻。				
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編				
参考書					
予習・復習について	適宜宿題を課す				
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題（毛筆・硬筆）と筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めない。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。				

授業科目名	線形代数学基礎				
担当教員名	山田 耕三	所属等	教育学部		
		研究室	教育学部 I 棟 401		
分担教員名					
クラス	B組	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金 9・10
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 x 、 y はベクトル、 A は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立一次方程式、行列式について学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。				
授業計画	1. 行列の定義と例 2. 行列の和とスカラー倍 (1) 3. 行列の和とスカラー倍 (2) 4. 線形写像の定義 5. 線形写像と行列 (1) 6. 線形写像と行列 (2) 7. 行列の積 8. 行列の演算のまとめ (1) 9. 行列の演算のまとめ (2) 10. 行列の分割 11. 回転移動の合成 12. 2次行列の行列式 13. 一般の行列の行列式の定義 14. 行列式の基本性質 (1) 15. 行列式の基本性質 (2) 16. 期末試験				
受講要件					
テキスト	浅芝秀人著 『基礎課程 線形代数』 培風館				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	シミュレーション数理科学Ⅱ				
担当教員名	清水 扇丈		所属等	理学部	
			研究室	理 C510	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	常微分方程式、初期値問題、解の存在と一意性、2階線形微分方程式、1階微分方程式				
授業の目標	本授業では常微分方程式について講義する。				
学習内容	前半では、常微分方程式の初期値の解の存在と一意性について述べる。局所解の存在と一意性に基づき、解の延長定理の下で大域解の一意存在を示す。後半では、ニュートンの運動方程式に代表される自然界で最も良く現れ重要な2階線形微分方程式の解法と、求積法で解を求めることが可能な1階微分方程式の解法を考察する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 常微分方程式の初期値問題に対する解の存在と一意性 <ol style="list-style-type: none"> 1階微分方程式系の初期値問題、リプシッツ条件と大域解の存在 局所解の存在と一意性、解の延長定理、階の爆発 2階線形微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 斉次2階線形微分方程式の一般解と基本解 非斉次2階線形微分方程式の一般解と基本解 定数係数2階線形微分方程式 1階微分方程式 <ol style="list-style-type: none"> 変数分離形、同次形、線形に帰着できる1階微分方程式、完全微分方程式、積分因子 				
受講要件	微分積分学 I, II, III, IV を受講していることが望ましい。				
テキスト	大谷光春「理工基礎 常備分方程式論」(サイエンス社) ISBN978-4-7819-1273-8				
参考書	中尾慎宏「概説 微分方程式」(サイエンス社) ISBN4-7819-0907-8				
予習・復習について	講義ノートおよびテキストで予習・復習を行い、理解度を高めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果(80%)、受講態度・レポート(20%)により総合的に判断する。				
オフィスアワー	月曜 5・6時限				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	幾何学				
担当教員名	保坂 哲也	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 606 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 5・6
キーワード	多様体、微分可能多様体、写像の微分、ベクトル場				
授業の目標	微分可能多様体の基礎を学ぶ。				
学習内容	<p>n次元のユークリッド空間の性質を局所的にもっている空間を「多様体」という。したがって、多様体上では、局所的に微分を考えることができる。また n次元ユークリッド空間では線形代数という非常に強力な道具があるが、その手法も多様体上で（局所的に）使うことができる。この授業では、この「多様体」の基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 多様体 (2) 微分可能多様体 (3) 写像・写像の微分可能 (4) 微分同相 (5) 接ベクトル空間 				
受講要件					
テキスト	松本幸夫(著)「多様体の基礎」 東京大学出版会				
参考書					
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので、予習復習を良くして下さい。また、授業中に課題を出すので、課題を解くことを通じて理解を深めてほしい。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです（それが普通です）。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習を始めて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通じて理解を深めてください。				

授業科目名	線型代数学Ⅲ				
担当教員名	毛利 出		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟511	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	月7・8
キーワード	内積、正規直交系、2次形式、ジョルダン標準形				
授業の目標	線型代数で重要なジョルダン標準型を理解する。				
学習内容	線形代数学Ⅱの続きとして内積、正規行列の対角化、2次形式、ジョルダン標準型などについて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内積の定義 2. エルミート行列とユニタリ行列 3. 正規直交系 4. 正規行列の対角化 5. 実正規行列の標準形 6. 正規変換とスペクトル分解 7. 2次形式 8. ジョルダン標準型 				
受講要件	線形代数学Ⅰ・Ⅱの内容を理解していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学（二木昭人、培風館）ISBN978-4-563-00275-6				
参考書					
予習・復習について	授業を受ける前には前回までの内容を確実に理解してくること。また授業が分かりにくい学生はテキストを授業前に読むなどして予習すること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート・試験などにより評価する。				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する。				
担当教員からのメッセージ	学期が始まる前に線型代数学Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておくこと。				

授業科目名	解析学				
担当教員名	清水 扇丈	所属等	理学部		
		研究室	理 C510		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Riemann 積分と面積 2. σ 集合体 3. 測度の定義と諸性質 4. 測度空間の完備化 5. 外測度 6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 7. Lebesgue 測度 8. 可測関数の定義と諸性質 9. 積分の定義 10. 積分に関する諸性質 11. 収束定理 12. 直積測度 13. Fubini の定理 				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト	測度と積分、鶴見茂、理工学社、4-8445-0115-1				
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	代数学				
担当教員名	毛利 出	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟511		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火3・4
キーワード	環、整域、イデアル、環準同型、剰余環、多項式環、加群				
授業の目標	環の基本的性質と例に精通する。				
学習内容	大雑把に言って、足し算、引き算、掛け算が定義できる集合を環といい、さらに割り算も定義できる集合を体という。体の代表的な例には、有理数の集合、実数の集合、複素数の集合など、体でない環の代表的な例には、整数の集合、多項式の集合、正方行列の集合などがある。この講義では、環の基本的な性質をこれらの代表的な例を通して徹底的に学習する。また時間があれば加群についても触れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環、体 2. 整域、ユークリッド整域 3. 多項式環 4. イデアル、単項イデアル整域 5. 剰余環 6. 環準同型 7. 局所化、商体 8. 素元分解整域 9. 加群 				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	テキストは指定しないが環論を含む代数学の入門書を1冊は購入すること。				
参考書	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 代数入門一群と加群（堀田良之著）裳華房 代数概論（森田康夫著）裳華房				
予習・復習について	授業内容はその日のうちに復習すること。分からないところはその週のうちに質問し解決しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート・試験などにより評価する。				
オフィスアワー	授業開始後にアナウンスする。				
担当教員からのメッセージ	環は群よりも親しみやすいと思うので、群が難しかった学生も頑張ってほしい。				

授業科目名	複素解析学				
担当教員名	奥村 善英	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 613		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標	<p>正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。 はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Cauchy の積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理そして最大値の原理等を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理等を扱います。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouché の定理を説明します。</p>				
学習内容	<p>複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。</p> <p>本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「複素解析学 II」です。</p> <p>第一部および第二部では、複素解析学の基礎の習得を目標とします。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積分定理. 2. 積分公式. 3. 整級数. 4. Taylor 展開. 5. 正則関数の性質. 6. 有理型関数. 7. Laurent 展開. 8. 孤立特異点. 9. 留数定理. 10. 実定積分の計算. 11. 偏角の原理. 12. Rouché の定理. 				
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	<p>藤本 淳夫著、複素解析学概説（培風館）。</p> <p>洲之内治男著、演習 関数論（サイエンス社）。</p>				
参考書	<p>神保道夫著、複素関数入門（岩波書店）。</p> <p>林一道著、初等関数論（裳華房）。</p> <p>野口潤次郎著、複素解析概論（裳華房）。</p> <p>L.V.アールフォルス著、複素解析（現代数学社）。</p> <p>佐藤宏樹著、複素解析学（近代科学社）。</p> <p>谷口雅彦・奥村善英共著、双曲幾何学への招待（培風館）。</p> <p>辻正次・小松勇作共編、大学演習関数論（裳華房）。</p>				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第二部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	集合・位相				
担当教員名	横山 美佐子	所属等	理学部		
		研究室	理 C614		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	集合、写像、連続、開集合、閉集合				
授業の目標	現代数学の基礎である集合や写像、位相の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合論と位相空間論の基本的事項について講義します。 写像と集合について学んだ後、距離空間上の位相について講義します。				
授業計画	<p>おおむねテキストに沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 写像 3. 集合族の演算 4. 同値関係 5. 無限集合 6. ここまでのまとめ 7. 関数空間 8. 距離空間 9. 開集合と閉集合 10. ここまでのまとめ 11. 収束性 12. 連続 13. 一様連続 14. 完備距離空間 15. ここまでのまとめ 				
受講要件					
テキスト	横浜図書 数理解析入門シリーズ1 距離空間と位相空間 高橋渉				
参考書	集合と位相, 内田伏一, 裳華房				
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	テストや授業への取り組みを総合的に評価して判断する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	演習の授業で積極的に問題を解いてください。				

授業科目名	統計処理論				
担当教員名	板津 誠一	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 605		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	回帰分析、多変量解析				
授業の目標	データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することです。				
学習内容	<p>自然現象や社会現象を説明するとき割合などのデータが用いられる。確定的な現象を記述した場合と異なり、偶然による変動にともなう、自然現象を記述するときに多くの可能性を伴う表現をするが、その方法が客観的である必要がある。統計での推論は論理により説明することになる。</p> <p>数理統計学の理論を統計の概念とその応用によって展開する。変数の多いデータの解析に用いられる多変量解析の方法について説明する。</p> <p>データを記述する統計の方法やデータの背景となる理論を理解することが重要です。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データと統計計算のソフトウェア 2. 1変量データの記述 3. 多変量データの記述 4. 最小二乗法と回帰分析 5. 多変量解析 6. 主成分分析 7. 判別分析 				
受講要件	前提は大学1, 2年の微分積分学, 線形代数学です。				
テキスト					
参考書	「統計 第2版」, 竹村彰通著, (共立講座 21世紀の数学 14), (共立出版), 2007, ISBN:978-4-320-01851-8				
予習・復習について	配布するレジюмеおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	成績評価はレポートおよび試験による。				
オフィスアワー	講義の時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	数理論理学				
担当教員名	依岡 輝幸	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 C616		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎である古典論理とその完全性の理解を目指します。				
学習内容	まず、命題論理とそのコンパクト性を学びます。そのあと、述語論理の形式論と意味論を学び、完全性定理の証明を解説します。				
授業計画	<p>教科書に沿って授業を行います。教科書の第2章から始めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 命題論理とそのコンパクト性（教科書第2章） 2. 述語論理の形式論（教科書第3章） 3. 述語論理の意味論（教科書第4章） 4. 述語論理の完全性定理（教科書第5章） 				
受講要件	この授業は3年生の必修授業です。				
テキスト	数理論理学の基礎・基本（理工系数学の基礎・基本），坪井明人，牧野書店，2012，978-4434164651.				
参考書	<p>A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523</p> <p>数学基礎論, 新井敏康, 岩波書店, 978-4-00-005536-9</p>				
予習・復習について	毎回、しっかり復習してください。教科書の第1章は既に知っていることだとは思いますが、あらかじめ復習しておいてください。				
成績評価の方法・基準	レポートと小テスト 30%, 期末試験 70%で評価します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	3年生前期は専門科目が目白押しです。どの授業も最後まで諦めずに勉強しましょう。				

授業科目名	線型代数学 I				
担当教員名	鈴木 信行		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	行列、行列式、連立 1 次方程式、行列の階数				
授業の目標	行列の計算とその応用に親しむ。				
学習内容	線形代数学は微分・積分学と並んで、大学初年度で学習する最も基本的な数学である。線形代数学 II 以降に学習する抽象的な代数学の準備として、線形代数学 I では行列の演算を中心とした具体的な計算力を養う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 群と写像 2. 行列 3. 正則行列 4. 置換 5. 行列式 6. 余因子展開 7. 基本変形と連立 1 次方程式 8. 行列の階数 9. 連立 1 次方程式 				
受講要件	理学部数学科 1 年生の必修科目です。				
テキスト	二木昭人著、『基礎講義 線形代数学』, 培風館, 1999, 978-4-563-00275-6				
参考書	線形代数の図書はたくさんあります。図書館へ行って、いろんな本を手にとってみてください。				
予習・復習について	概ね教科書に沿って講義する予定です。予習と復習を必ずしてください。特に復習が大切です。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などで評価します。				
オフィスアワー	授業の始めにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	数学は積み重ねの学問なので、前回の授業の内容を確実に理解したうえで授業に参加してください。また概ね教科書どおりに授業を進めていきますので、事前に教科書に目を通して授業に参加してください。				

授業科目名	複素解析学Ⅱ				
担当教員名	奥村 善英	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 613		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	Riemann 計量、双曲平面、鏡映変換、3反転定理、不連続群、軌道空間、局所構造、Riemann 面、キリンゲーホップの定理				
授業の目標	距離空間上 M に作用する不連続群 G とその軌道空間（商空間） M/G の解説を行う。この応用として、閉 Riemann 面の構造に関する結果を説明する。				
学習内容	<p>はじめに、距離空間を復習し、Riemann 計量を持つ平面 M の説明を行う。この例として、Euclid 平面と双曲平面を導入する。また、平面 M 上の等長変換と「3反転定理」を説明する。</p> <p>次に、平面 M に作用する不連続群 G と軌道空間（商空間）M/G を説明し、軌道空間 M/G の構造を調べる。これらの議論から、局所 Euclid 構造を持つ曲面とその決定を行う。また、局所双曲構造を持つ曲面を考える。</p> <p>さらに応用として、閉 Riemann 面に関する次の結果を説明する：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種数が 1 の閉 Riemann 面は、複素平面上に作用する二重周期群の軌道空間として表現される。 ・種数が 2 以上の閉 Riemann 面は、双曲平面上に作用する固定点なしの双曲型 Fuchs 群の軌道空間として表現される。 ・局所 Euclid 構造が入る閉 Riemann 面は種数が 1 の場合だけで、種数が 2 以上の閉 Riemann 面には局所双曲構造が入る。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離空間、Riemann 計量を持つ空間、 2. Euclid 平面と双曲平面。 3. 等長変換、鏡映変換。 4. 不連続群と軌道空間の構造。 5. 局所 Euclid 構造を持つ曲面とその決定 6. 曲面論の話題。 7. 局所双曲構造を持つ曲面 8. Killing-Hopf の定理。 9. 閉 Riemann 面の局所構造の決定。 				
受講要件	「関数論入門」及び「複素解析学」を受講していることが望ましい。				
テキスト	テキストは指定しない。				
参考書	<p>楠幸男著、関数論（朝倉書店）。</p> <p>及川廣太郎著、リーマン面（共立出版）。</p> <p>戸田暢茂著、リーマン面（サイエンス社）。</p> <p>谷口雅彦・奥村善英共著、双曲幾何学への招待(培風館)。</p> <p>河野俊丈著、曲面の幾何構造とモジュライ（日本評論社）。</p> <p>G. A. Jones and D. Singerman, Complex Functions, Cambridge, 1986.</p> <p>J. Stillwell, Geometry of Surfaces, Universitext, Springer, 1992.</p>				
予習・復習について	説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや参考書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	出席、レポート、テスト等で評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				

担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第四部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。
--------------	---

授業科目名	微分積分学Ⅲ				
担当教員名	田中 直樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	偏微分、全微分、テイラーの定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題				
授業の目標	多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分についての基本的内容を学ぶ。				
学習内容	数学科では1・2年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1年次では主に実数論と1変数関数の微分積分学を、2年次では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で微分積分学では主に多変数の微分法に関する基本的内容を、テイラーの定理などを初めとし、陰関数の定理、陰関数の定理、条件付極値問題までを解説することを目指して講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユークリッド空間の点列と部分集合 2. 連続写像 3. 線形写像、写像の微分 4. 全微分 5. 偏微分 6. 高次導関数 7. テイラーの定理 8. 極値問題 9. 逆関数定理 10. 陰関数定理 11. 条件付極値問題 				
受講要件	微分積分学 I,II および線形代数学 I,II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。				
テキスト	白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ数学 12）				
予習・復習について	多変数関数の微分積分学は、1変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や2年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。 試験やレポートでの評価は論理的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	最初の授業時に述べる。				
担当教員からのメッセージ	1変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされる。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して欲しい。				

授業科目名	物理数学 I				
担当教員名	松山 晶彦	所属等	理学部		
		研究室	共通教育C棟C414		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分方程式について、一般解と特殊解 2. 1階微分方程式、変数分離型、同次型 3. 1階線形微分方程式、定数変化法、ベルヌーイ方程式、リカッチ方程式 4. 定数係数線形微分方程式の解空間、線形独立性、ロンスキアン 5. 線形非斉次微分方程式、共鳴 6. 特異点、形式解、フロベニウスの方法 7. フーリエ級数とフーリエ変換 8. フーリエ変換の応用 				
受講要件	基礎物理学 I, 基礎物理学 II, 力学 I, 力学 II の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹				
参考書	「理工系の数学入門コース 微分方程式演習」 岩波書店 和達・矢嶋 著				
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	素粒子宇宙物理学				
担当教員名	青山 昭五	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 402		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（前半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	素粒子論からみた宇宙像				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 素粒子物理学概観 2. 弦理論とは 3. 重力とは 4. 光と電子の相互作用 5. 宇宙の晴れあがり <ul style="list-style-type: none"> ・光の凍結 ・水素原子核の再結合 6. 宇宙背景放射 				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	試験あるいはレポート。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎物理学 I				
担当教員名	溜瀧 継博		所属等	理学部	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期 (前半)		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6,水 5・6
キーワード	力学、微分、積分				
授業の目標	物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。「基礎物理学 I」では、これから必要になる基礎的な数学の習得に重点が置かれる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分積分の復習 2. 複素数、スカラーとベクトル, ベクトルの内積, ベクトルの外積 3. ベクトルの微分, 速度ベクトル, 加速度ベクトル 4. ニュートンの運動の 3 法則 5. テイラー展開 6. 偏微分, 全微分 7. 多変数関数のテイラー展開 8. 微分方程式 <p>この講義は週に 2 回開講され, 前期の前半 1 6 回分をもって終了する。前期の後半は, 「基礎物理学 I I」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	和達 三樹著「物理のための数学 (物理入門コース 10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
参考書	吉岡 大二郎著 「力学(朝倉物理学選書)」 (朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み, よく考えて, 手を動かし計算して, 復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも, 授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので, なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	基礎物理学Ⅱ				
担当教員名	溜瀧 継博		所属等	理学部	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（後半）		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6,水 5・6
キーワード	微分、積分、力学				
授業の目標	基礎物理学Ⅰに引き続き、物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な運動の解析 2. 力積と運動量保存則 3. 極座標 4. 角運動量と力のモーメント 5. 中心力と角運動量保存則 6. 線積分と仕事 7. 保存力と力学的エネルギー保存則 8. 重積分 9. 万有引力のポテンシャルエネルギー <p>この講義は週に2回開講され、前期の後半16回分をもって終了する。前半は、「基礎物理学Ⅰ」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	基礎物理学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	吉岡 大二郎著「力学(朝倉物理学選書)」(朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
参考書	和達 三樹著「物理のための数学(物理入門コース10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	物理数学Ⅱ				
担当教員名	土屋 麻人		所属等	理学部	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	複素関数論				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複素関数とその解析性 2. 等角写像 3. コーシーの積分定理 4. コーシーの積分公式 5. テイラー級数とローラン級数 6. 特異点と留数 7. 留数の定理の積分計算への応用 8. コーシーの主値積分 9. 解析接続と多価関数 				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	寺沢貫一「数学概論」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、中山恒義「物理数学(II)」裳華房、スミルノフ「高等数学教程 第6巻、第7巻」共立出版				
予習・復習について	復習をすること。				
成績評価の方法・基準	期末試験とレポート。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	電磁気学 I				
担当教員名	松本 正茂	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A棟 A501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	電磁気学、電場、電位、ベクトル解析				
授業の目標	ベクトル解析を用いて静電場を理解することを目標とする。				
学習内容	物理学科で学ぶ電磁気学ではベクトル解析を用いる。ベクトル解析の意味や計算方法を詳しく説明し、電磁気学にどのように応用されているかを解説する。ベクトル解析を用いることで、電磁気学は簡潔に表現されることを学ぶ。				
授業計画	<p>テキストの第4章までの内容を、次の順に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場 <ul style="list-style-type: none"> クーロン力 電場 表面積分、体積分、ガウスの発散定理 ガウスの法則 2. 電位 (スカラーポテンシャル) <ul style="list-style-type: none"> 線積分、ストークスの定理 保存力 スカラーポテンシャル ポアソン方程式 3. 導体と静電場 <ul style="list-style-type: none"> 静電容量 コンデンサー 				
受講要件	一年次の物理学科専門科目と理系基礎科目を修得していることが望ましい。				
テキスト	電磁気学 I 長岡洋介 著 岩波書店 ISBN 400076434 (電磁気学 II の授業でも使用する)				
参考書	<p>ファインマン物理学 (3) 電磁気学 ファインマン 著 岩波書店 ISBN 400077139</p> <p>例解 電磁気学演習 長岡洋介・丹慶勝市 著 岩波書店 ISBN 400077929</p> <p>電磁気学演習 (基礎物理学選書 (21)) 小出昭一郎 著 裳華房 ISBN 4785321237 (現在絶版)</p>				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	電磁気学がわかるかどうかは、 ∇ (ナブラ) 演算子の意味と使い方を理解できるかどうかにかかっている。授業ではこの点を詳しく説明するので、 ∇ を攻略して欲しい。				

授業科目名	電磁気学Ⅲ				
担当教員名	鈴木 淳史		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A棟 502	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	Maxwell 方程式、古典場の理論、電磁波の伝搬、電磁波の屈折、電磁輻射				
授業の目標	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の振る舞いを理解する。				
学習内容	電磁波にかかわる様々な現象を、Maxwell 方程式に基づいた論理体系によって記述し、理解する。				
授業計画	0.電磁気学に必要な基礎事項の復習 1. Maxwell 方程式の復習 2. 電磁場のエネルギーと運動量 3. 電磁波の伝搬, 反射, 屈折 4. ベクトルポテンシャルとゲージ対称性 5. 電磁輻射 (荷電粒子) 6. 多重極輻射、磁気双極子輻射				
受講要件	原則として、数学 I,II,III,IV, 力学 I,II, 物理数学 I, 電磁気学 I,II が履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	必ず復習すること。				
成績評価の方法・基準	授業の進行にあわせて数回提出してもらったレポートおよび学期末試験により評価をおこなう				
オフィスアワー	学生諸君と相談して決定する。				
担当教員からのメッセージ	電磁気学は概念的にも技術的にも簡単なものではありませんが、光ファイバーやアンテナなどわれわれに身近な豊かな応用をもちます。それらを理解する上での基礎を学習しましょう。				

授業科目名	物理光学				
担当教員名	富田 誠	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	理学部A棟510		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（前半）	必修選択区分	
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木1・2
キーワード					
授業の目標	光学現象の背景にある基本的な物理を理解する。身の回りの現象、先端技術、一見意外な現象、などに光学がどのように現れているか、例示しながら講義を進めたい。				
学習内容	波動光学、電磁光学を中心に、レーザーの原理など量子光学の入門的な内容				
授業計画	<p>(1) 電磁波 Maxwell の方程式、偏光、波長板、右手系、左手系、</p> <p>(2) スネルの法則 全反射、ブリュスター角、</p> <p>(3) 回折 フレネル回折、フランソワ回折、ポアソンの輝点</p> <p>(4) 共振器 分解能、レーザー共振器、</p> <p>(5) レーザー 自然放出、誘導放出 3準位系レート方程式(反転分布)、 レーザーの原理(半導体レーザー)、</p> <p>(6) ファイバー、光検出器 など 物理学実験 II、IV における「レーザー実験」と関連づけた内容になる予定です。</p>				
受講要件	波動現象、電磁気の話が中心になります。				
テキスト	講義開始時に案内します。				
参考書	講義開始時に案内します。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポートを予定している。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	光学は先端的な技術以外にも幅広く使われています。身の回りにもオプトロニクス（光+電子技術）を使った製品があふれています。物理学科を卒業後に、(本人には意外でも) 光学分野で仕事をする人も多いと思います。				

授業科目名	統計力学 I				
担当教員名	青山 昭五		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計力学の基礎 2. ミクロカノニカル分布とエントロピー 3. カノニカル分布と自由エネルギー 4. 古典統計力学の近似 				
受講要件					
テキスト	「統計力学」 岩波書店 長岡洋介 著				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 共立出版 久保亮五 著				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射線物理学概論				
担当教員名	奥野 健二	所属等	放射科学研究施設		
		研究室	理学部 A 棟 204		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 5・6
キーワード	放射線、放射性核種、取扱主任者				
授業の目標	全学科の 2・4 年生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、各種放射性崩壊、各種核反応および各放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行い、理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X 線、オージェ効果 2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギーと原子核の大きさ 3. 放射性核種 α 壊変、β 壊変、γ 線の放出と原子核のエネルギー準位、自発核分裂、壊変の法則 4. 核反応、核分裂、核融合反応 核反応の表示、核反応断面積、放射性核種の生成、核反応の種類、放射化 5. 加速器 加速器の原理、加速器の種類 6. 荷電粒子と物質の相互作用 電離と励起、阻止能と飛程、電子と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用 7. 光子と物質の相互作用 光電効果、コンプトン効果、電子対生成、光子の減弱と物質へのエネルギー伝達、衝突カーマ、吸収線量、照射線量 8. 中性子と物質の相互作用 中性子捕獲反応、弾性散乱、その他の中性子反応 				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田 博美 編、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第 1 種、第 2 種 (発行：通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページ (http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~srkokun/) に公開している教材を活用して、予習・復習をすること				
成績評価の方法・基準	期末試験および演習を重視				
オフィスアワー	8 : 00-21 : 00				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を目指す学生は、放射化学概論 (化学科の学生には別途放射化学の講義があり)、放射線生物学概論、放射線計測・管理概論等を受講する事が望ましい。 放射線主任者資格を取り、自らに付加価値を付けよう!!				

授業科目名	量子力学 I				
担当教員名	土屋 麻人	所属等	理学部		
		研究室	理 A 4 0 1		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	波動、波動関数、確率振幅、Schrodinger 方程式、エネルギー固有状態、トンネル効果				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	指定しているテキストにそって講義する。授業内容は以下の通り。 1. 波動について 2. 量子力学的世界観 3. 平面波 4. 調和振動子 5. 波束 6. 量子力学の理論形式				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学」 小形正男／著 (裳華房) 2900 円				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験結果によって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。量子力学を理解するためには、自ら手を動かして問題を解くことが不可欠である。物理学演習 III の授業には量子力学の演習が含まれているので、よく勉強してほしい。				

授業科目名	量子力学Ⅲ				
担当教員名	嘉規 香織		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A 棟 405号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	4年	難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 磁場中の荷電粒子（復習） 2. 摂動論（復習） 5. WKB 近似 4. 同種粒子 5. 散乱問題 6. 原子・分子・原子核・素粒子 7. 電磁場の量子化 8. Dirac 方程式 				
受講要件	量子力学 I、II を履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義時間の 2 倍の自習が標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理実験学Ⅱ				
担当教員名	三重野 哲	所属等	理学部		
		研究室	三重野研究室。理学部 A408 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面でしばしば実験・観測が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短期間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験・観測の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理実験の経験				
テキスト	プリントを配布する。ファイルに綴じること。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の 13 章（兵藤、東大出版会）。あなたも狙えノーベル賞（石田、化学同人）。セレンディピティ（化学同人）など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、レポートにて成績を出す。レポートは複数回課す。レポートは、自分の力で調べてまとめてください。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16 時~18 時を予定しています。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。				

授業科目名	物理実験学 I				
担当教員名	嶋田 大介		所属等	理学部	
			研究室	理 A 4 0 7 (理学部 A 棟)	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード					
授業の目標	物理学科 2 年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。				
学習内容	物理学実験 I と並行して実験を行うのに必要な事柄に関する講義を行う。さらに、物理実験で行う電気回路に関する基礎的な理論を修得する講義がないので、前半は交流回路の基礎に関する講義を行う。後半は物理学実験 I および物理学実験 I I の中からいくつかの実験テーマを選び、理論的な原理などを紹介する。				
授業計画	単位について 電気回路の基礎 直流回路の解き方 交流回路の解き方 I 交流回路の解き方 I I 共振回路 誤差について 最小 2 乗法 グラフとレポートの書き方 学生実験のいくつかのテーマについて				
受講要件	物理学科 2 年生の必修科目。				
テキスト	講義の中で必要なときに紹介する。				
参考書	講義の中で必要なときに紹介する。				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べられることを勧める。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、試験の結果により評価する				
オフィスアワー	金曜日の 12 時-14 時 理学部 B 棟 207 室にて				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。				

授業科目名	放射線計測・管理学概論				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。(放射線取扱主任者試験の計測・管理科目に該当する。)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線量と単位 2. 気体の検出器 3. 固体・液体の検出器 4. 個人被ばく線量の測定 5. その他の測定器 6. 放射線測定の実際 7. 演習(1) 8. 放射線管理と防護の基準 9. 防護量と実用量・防護の基準 10. 体外放射線に対する防護 11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断 12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設 13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理 14. 放射性物質の保管～平成 17 年度法令改正の要点 15. 演習(2) <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田博美、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第 1 種、第 2 種 (通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページ(http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~srkokun)で公開している講義資料にあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の演習(30%)および試験(70%)。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論 (化学科は放射化学 I)、放射線生物学概論も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				

授業科目名	構造有機化学				
担当教員名	坂本 健吉		所属等	理学部	
			研究室	理学部B棟 301号室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルカン、シクロアルカン、立体異性体、ハロアルカン				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	1年次の基礎有機化学IおよびIIでは有機化学の全体像を概説した。これを踏まえて、2年次以降は有機化合物の構造とその反応について、より詳しく講義する。有機化合物の構造を理解するため、まず、結合の電子状態について学ぶ。次いで、最も基礎的な化合物であるアルカンおよびハロアルカンについて、分子構造と反応性の関係を学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1章 有機分子の構造と結合 2章 構造と反応性 3章 アルカンの反応 4章 シクロアルカン 5章 立体異性体 6章 ハロアルカンの性質と反応 7章 ハロアルカンの反応</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人) HGS 分子構造模型 有機学生用セット (丸善)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修) (化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間のある限り対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	熱化学 I				
担当教員名	小堀 康博		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟 513 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	熱力学第 2 法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、相平衡、化学平衡				
授業の目標	化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	熱力学第 2、第 3 法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。法則に関連する熱力学関数が、どのようにして実測データから求められるかを学び、法則の応用に習熟する。				
授業計画	<p>以下の要領で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱力学第 2 法則、エントロピーの定義、およびエントロピー変化。 2. エントロピーと自発性の関係、第 2 法則のエントロピーによる表現。 3. エンジンとその効率。 4. 状態量としてのエントロピー。 5. 絶対零度でのエントロピー変化。 6. 熱力学第 3 法則および化学変化の方向とエントロピーの関係。 7. エントロピーの分子論的基礎。 8. エントロピー計算および Trouton の法則。 9. 自由エネルギーと自発性の関係、自由エネルギー変化の意味、および標準生成自由エネルギー。 10. 自由エネルギーと圧力の関係。 11. 熱力学関係式。 12. 自由エネルギーと平衡条件。 13. 自由エネルギーと温度の関係および相平衡の温度・圧力依存性。 14. 自由エネルギーと化学平衡の分子論的解釈。 15. 非理想気体の平衡の取扱い。 				
受講要件	基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	G. M. Barrow 著「バーロー物理化学 (上)」(東京化学同人)、第 4, 5 章。				
参考書	章末問題を解く時間がないので「バーロー物理化学問題の解き方」第 6 版 (東京化学同人) 参照。				
予習・復習について	一読程度でよいから予習をしてほしい。予習で生じた疑問や不明の部分が授業時にわかると学習効果が大きい。また、速やかな復習は学習効果を上げるのに役立つ。				
成績評価の方法・基準	期末試験、レポート、および出席状況による。				
オフィスアワー	口頭かメール (scjaiha@yahoo.co.jp) でアポを取ってほしい。出来るだけ受講生と対応できるように努める。				
担当教員からのメッセージ	エントロピーという不可思議な物理量の役割を実感してほしい。				

授業科目名	放射化学Ⅱ				
担当教員名	矢永 誠人		所属等	放射科学研究施設	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、放射化学分離、放射化分析、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されている。それらの典型的なものおよび基礎を学ぶ。</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 核反応 <ol style="list-style-type: none"> 核反応 核反応断面積と生成放射能 核反応の種類 核分裂反応 核融合反応 元素の起源 <ol style="list-style-type: none"> Hubble の法則 宇宙温度変化と物質の創成 年代測定法 <ol style="list-style-type: none"> 宇宙年代学 放射性壊変を利用する年代測定の原理 年代測定 核・放射化学的分析 <ol style="list-style-type: none"> 放射化学的分離法 放射化分析 放射分析 同位体希釈分析 				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましいが、これらの科目を履修していない者に対しては配慮する。				
テキスト	放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会）				
参考書	適宜、資料を配布する。				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習課題と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	午前9時頃から午後6時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	情報生化学				
担当教員名	瓜谷 眞裕	所属等	理学部		
		研究室	理学部 A 棟 312 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA 複製、DNA 組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。また現代社会ではこの仕組みを応用した遺伝子操作技術が発展し、多大な変化をもたらしていますが、この技術についても解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヌクレオチド代謝 2. 核酸の構造 3. DNA の複製、修復、組み換え 4. 転写と RNA プロセッシング 5. 翻訳 6. 遺伝発現の制御 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学 I・II を履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第 3 版 (東京化学同人)				
参考書	細胞の分子生物学・第 4 版 (ニュートンプレス)、アメリカ版大学生物学の教科書 1～3 巻 (講談社ブルーバックス)				
予習・復習について	テキスト、ノート of 予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験 (70%) とレポート (30%) により評価する。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも OK。				
担当教員からのメッセージ	DNA の構造が解かれてから 50 年間の分子生物学の歴史と基礎を学んでください。ちなみに、アメリカ版大学生物学の教科書は、高校で生物を学ばなかった人にも理解できる内容なので参考書としておすすめで				

授業科目名	基礎量子化学				
担当教員名	村井 久雄	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟503室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード	量子数、波動関数、原子構造、元素の周期表、化学結合、分子軌道、状態方程式、結晶構造				
授業の目標	化学のすべての分野の基礎としての量子化学の入門である。この講義においては、原子構造、周期律、化学結合、気体の性質、固体の構造などを量子化学的見地から理解を深める。				
学習内容	基礎的な量子化学を、分かりやすく解説し、化学における最新の基本的量子論の理解と、物質の成り立ちに関する概念を確立する。この講義においては、原子の構造、元素の周期的性質、化学結合、気体の性質、固体と結晶構造をテキストに沿って学習する。適宜レポートを課し、具体的問題を解いてもらう。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全般的な解説 2. 原子の構造_1 3. 原子の構造_2 4. 原子の構造_3 5. 元素の周期的性質_1 6. 元素の周期的性質_2 7. 元素の周期的性質_3 8. 化学結合_1 9. 化学結合_2 10. 化学結合_3 11. 化学結合_4 12. 気体の性質_1 13. 気体の性質_2 14. 固体と結晶構造_1 15. 補充授業・演習 16. 期末考査 授業の進捗状況により。授業計画の変更はありうる。				
受講要件					
テキスト	「物理化学の基礎」、柴田茂雄著、共立出版（株）（ISBN4-320-04351-0）				
参考書	バーロー物理化学、Gordon M. Barrow、大門寛、堂免一成訳、東京化学同人				
予習・復習について	各自、授業の前にテキストに目を通しておくこと。テキストの章末の演習問題を各自解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験および課題提出による				
オフィスアワー	できるだけ電話かEメールにて、前もって連絡を取ってから訪問してください。				
担当教員からのメッセージ	内線4753、Eメールアドレスは講義時間にお知らせいたします。積極的に質問をしてください。また、研究室にもお立ち寄りください。				

授業科目名	有機化学 I				
担当教員名	小林 健二	所属等	理学部		
		研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、有機電子論、有機反応機構、構造有機化学、立体化学、アルカン、シクロアルカン、立体異性体				
授業の目標	有機化学の基礎概念を学び、構造有機化学を理解する。				
学習内容	有機化学の基礎概念として、共有結合の電子状態と混成軌道について学ぶ。次に、構造と反応性の基本概念を学ぶ。そして、構造有機化学に関して、立体配座、立体配置、光学異性体について学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1章 有機分子の構造と結合 2章 構造と反応性 3章 アルカンの反応 4章 シクロアルカン 5章 立体異性体</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。				
オフィスアワー	平日午後				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	基礎生化学				
担当教員名	大吉 崇文		所属等	理学部	
			研究室	大吉研究室（理学部A棟 310）	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生体分子、分子構造、タンパク質、糖、核酸、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	タンパク質、糖、脂質、核酸などの生物特有の物質の構造、働き、および生物学の基礎を学ぶ				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械はDNAという核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生化学の基礎を学びます。				
授業計画	1回 核酸およびその構造（1） 2回 核酸およびその構造（2） 3回 アミノ酸 4回 タンパク質の一次構造 5回 タンパク質の高次構造（1） 6回 タンパク質の高次構造（2） 7回 タンパク質の機能（1） 8回 タンパク質の機能（2） 9回 糖と多糖（1） 10回 糖と多糖（2） 11回 脂質 12回 生体膜（1） 13回 生体膜（2） 14回 酵素触媒 15回 酵素の反応速度論				
受講要件	特になし。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第3版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学・第4版（ニュートンプレス）				
予習・復習について	テキストやノートをよく読むなど、予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の方法・基準 単位の認定と成績の評価は、期末試験の点数で判断する。ただし、単位の認定にあたっては、原則として3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	午後1時から5時。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機反応論				
担当教員名	塚田 直史	所属等	理学部		
		研究室	理 B312		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する				
学習内容	2年次の反応有機化学の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	15章 ベンゼンと芳香族性：芳香族求電子置換反応 16章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃：置換基による位置選択性の制御 17章 アルデヒドとケトン：カルボニル基の化学 18章 エノール、エノラートとアルドール縮合： α, β -不飽和アルデヒドおよびケトン 19章 カルボン酸 20章 カルボン酸誘導体				
受講要件	特になし				
テキスト	ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下巻（第6版） （古賀憲司・野依良治・村橋俊一監訳）（化学同人）				
参考書					
予習・復習について	予習・復習は必須である。どのような反応にも反応機構がある。置換・付加・脱離・転位という素反応の組み合わせで反応を考えてみよう。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する				
オフィスアワー	随時（9:00-18:00）				
担当教員からのメッセージ	解らない点、疑問点があれば、授業時間外でも気軽に居室に来てください				

授業科目名	溶液化学				
担当教員名	加藤 知香		所属等	理学部	
			研究室	理学部A棟 307	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。				
授業計画	1回 第1章 溶液と濃度 (モル濃度、規定度、式量濃度) 2回 第1章 溶液と濃度 (重量パーセント、ファクター、規定液の調製) 3回 第2章 活量と濃度 (活量と活量係数、イオン強度) 4回 第2章 活量と濃度 (デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質) 5回 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー) 6回 第3章 溶液内化学平衡 (化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算) 7回 第4章 酸塩基平衡 (酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液) 8回 第4章 酸塩基平衡 (緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線) 9回 第5章 沈澱平衡 (溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡) 10回 第5章 沈澱平衡 (分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線) 11回 第6章 錯体平衡 (安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響) 12回 第6章 錯体平衡 (錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線) 13回 第7章 酸化還元平衡 (半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位) 14回 第7章 酸化還元平衡 (起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線) 15回 第8章 溶液内イオン平衡とグラフ				
受講要件					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)				
参考書					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度や小テストも加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。				

授業科目名	量子化学Ⅱ				
担当教員名	三井 正明		所属等	理学部	
			研究室	三井研究室（共通教育 C 棟 303）	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	化学結合、分子軌道法、シュレーディンガー方程式、共有結合、イオン結合、分子の対称性、群論				
授業の目標	分子軌道法の考え方を理解する。さらに分子軌道や分子振動について群論を用いた考察ができるようになることを目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ原子に関する量子力学的考察の結果をもとにして、化学結合の成り立ちと分子軌道法について学ぶ。さらに群論の基礎を学ぶことにより、分子の形（対称性）から分子の性質に関する有益な情報を得ることができることを学ぶ。				
授業計画	0. はじめに 1. 化学結合と分子軌道法 1.1 水素分子イオン 1.2. 原子価結合法と分子軌道法 1.3. 等核二原子分子の分子軌道 1.4. 異核二原子分子の分子軌道 1.5. 混成軌道 1.6. 分子軌道法と永年方程式 2. 分子の対称性と群論 2.1. 対称要素と対称操作 2.2. 点群 2.3. 対称操作と表現行列 2.4. 可約表現と既約表現 2.5. 相似変換と表現行列の簡約 2.6. 指標と指標表 2.7. 指標表を用いた表現の簡約 2.8. 分子軌道と既約表現 2.9. 混成軌道と既約表現 2.10. π 分子軌道と既約表現 2.11. 電子遷移の選択則と既約表現 2.12. 分子振動と既約表現				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容程度の知識、行列や行列式に関する初歩的知識があることが望ましい。				
テキスト	「バーロー物理化学（下）」第10章後半（二原子分子）、第11章、第12章（12.5）				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)、「初等量子化学 その計算と理論」(化学同人)、「分子の対称と群論」(東京化学同人)、「物質の対称性と群論」(共立出版)				
予習・復習について	予習・復習合わせて、週1時間程度はテキスト・ノートを読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート(10%)と期末試験(90%)で評価する。				
オフィスアワー	特に定めないが、なるべく講義の直後に質問してください。				
担当教員からのメッセージ	群論に対して、最初は抽象的な印象を持つかもしれませんが、分子のいろいろな性質について具体的な結論を明快に与えてくれます。分子軌道や分子スペクトルを理解する上でとても有用な道具となりますので、よく復習して内容の理解に努めてください。自分でよく考えても分からない事があれば、質問してください。				

授業科目名	構造錯体化学				
担当教員名	近藤 満	所属等	機器分析センター		
		研究室	総合研究棟501		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁気的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	1回 6章 配位化学：序論、配位数と立体構造 2回 6章 配位化学：配位子のタイプ 3回 6章 配位化学：配位化合物の異性現象 4回 6章 配位化学：配位化合物の命名法 5回 6章 配位化学：配位化合物の安定度 6回 23章 遷移元素入門：結晶場理論 7回 23章 遷移元素入門：配位子場理論 8回 23章 遷移元素入門：分子軌道理論 9回 23章 遷移元素入門：遷移金属錯体の磁気的性質 10回 23章 遷移元素入門：電子吸収スペクトル 11回 23章 遷移元素入門：配位子場安定化エネルギー 12回 24章 第一遷移系列元素：チタン、バナジウム 13回 24章 第一遷移系列元素：クロム、マンガン 14回 24章 第一遷移系列元素：鉄、コバルト 15回 24章 第一遷移系列元素：ニッケル、銅				
受講要件	「無機化学I」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳 「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	出席状況と期末試験の得点で評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	無機化学Ⅱ				
担当教員名	菅野 秀明	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟3階 A306室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金1・2
キーワード	無機化学、溶媒の性質、酸と塩基、典型元素の性質、無機化合物				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。 酸と塩基の概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。 テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>7章：溶媒の性質、酸と塩基の定義、酸の種類と性質 9章：水素 10章：1族元素 11章：2族元素 12章：ホウ素 13章：13族元素 14章：炭素 15章：14族元素 16章：窒素 17章：15族元素 18章：酸素 19章：16族元素 20章：ハロゲン元素 21章：貴ガス元素</p>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I				
担当教員名	徳元 俊伸	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 625 室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生生物学の隆盛 2. 発生における一般的な問題 3. 発生に関わる重要な分子群(1) 4. 発生に関わる重要な分子群(2) 5. 発生における共通現象(1) 6. 発生における共通現象(2) 7. 発生における共通現象(3) 8. 発生遺伝学 9. 実験発生学(1) 10. 実験発生学(2) 11. 発生研究に必要な技術(1) 12. 発生研究に必要な技術(2) 13. モデル生物・アフリカツメガエル(1) 14. モデル生物・アフリカツメガエル(2) 15. モデル生物・ゼブラフィッシュ 16. 試験 				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト	エッセンシャル発生生物学、羊土社、 Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 5,700 円（生協で販売）				
参考書	ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分-3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学				
担当教員名	栗井 光一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月3・4
キーワード	光合成、エネルギー変換、光化学系、電子伝達系、炭酸固定反応、ATP合成、光呼吸、糖代謝				
授業の目標	植物の光合成反応、葉緑体のバイオジェネシスなどの基礎について学び、植物のエネルギー獲得について理解を深める。また、植物の炭酸固定反応と糖代謝についても学ぶ。				
学習内容	植物の光合成反応、葉緑体のバイオジェネシスなどの基礎について解説する。植物の生化学および生体光反応の基本法則、測定法などの基礎知識を基盤として、光合成の電子伝達構成成分、光合成電子伝達系、ATPの生成反応、炭酸固定反応と糖代謝を学び、エネルギー獲得を中心とした植物の基本的な反応の仕組みについて理解する。				
授業計画	1回 序論：光と生物の光利用-エネルギーおよび情報としての光 2回 分光測光法と作用スペクトル 3回 光合成1：光合成の意義、研究小史、光合成の型 4回 光合成2：光合成器官の構造と電子伝達構成成分 5回 光合成3：光合成電子伝達系の構成と酸化還元電位 6回 光合成4：電気化学ポテンシャルと光リン酸化反応 7回 光合成5：炭酸固定 8回 光合成と呼吸：電子伝達系の構成とATP合成系の比較生化学 9回 植物色素の生合成：クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド 10回 植物の光情報伝達1：クリプトクロム 11回 植物の光情報伝達2：フィトクロム 12回 トピックス1：植物生理学における分子生物学的アプローチと最近の成果 13回 植物における糖の代謝I 14回 植物における糖の代謝II 15回 植物によるエネルギーおよび情報としての光の利用の総括				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	ベーシックマスター植物生理学（オーム社）、必要があればそのつど紹介する。				
参考書	植物生理学（培風館）ほか、プリントを適宜配布する。				
予習・復習について	出欠の代わりに前回の復習を兼ねた小テストをするので、予習・復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席、レポートの提出および試験の結果より総合的に判断する 試験は、期末試験1回で終了する予定。プリント、自筆ノートは持ち込み不可。講義した植物生理学の基本的な理解ができていないかを判断する。				
オフィスアワー	月曜日7-8時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、生体の工場としての葉緑体や生態系でのエネルギーの流れなど、単に植物の持つ機能だけでなく、地球上のすべての生物と環境を含めた諸問題と関連しているので、その意味も含めて学んで欲しい。				

授業科目名	生化学				
担当教員名	天野 豊己	所属等	理学部		
		研究室	総 721		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生化学は、生体物質の性質を解明する研究と、それらが生体内でどのように結びつき合っているのかを明らかにする研究の2つから成り立っている。前者の研究によって、アミノ酸、タンパク質などが見つかかり、後者の研究によって、アルコール発酵などの代謝系のメカニズムが解明された。この講義では生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH と緩衝液 2. 生体物質 3. アミノ酸 4. タンパク質の二次構造 5. タンパク質の三次構造 6. タンパク質の四次構造 7. タンパク質間相互作用 8. 酵素反応 9. 酵素反応速度論 10. タンパク質の沈殿 11. クロマトグラフィー 12. 電気泳動 				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学 (第5版) の第2章と第3章に目を通して、分子の世界に慣れておくと良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	しっかりやりましょう。				

授業科目名	内分泌学				
担当教員名	鈴木 雅一		所属等	理学部	
			研究室	理 A616	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化、病気				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。また、折に触れてホルモンの関わる病気についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌学の歴史 2. 内分泌学研究の技術 3. 内分泌腺とホルモン I 4. 内分泌腺とホルモン II 5. 性と性分化、生殖周期 I 6. 性と性分化、生殖周期 II 7. ストレスとホルモン 8. 水・電解質調節 9. カルシウムの調節 10. 甲状腺ホルモン 11. 糖分の調節 12. 消化管とホルモン 13. 妊娠・出産・授乳とホルモン 14. 松果体とホルモン 15. 無脊椎動物とホルモン 16. 試験 				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	<p>生命をあやつるホルモン（編；日本比較内分泌学会：講談社）</p> <p>比較内分泌学序説（編；日本比較内分泌学会：学会出版センター）など</p>				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	基礎生物学 I				
担当教員名	丑丸 敬史	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 702		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	遺伝子と細胞、ヒトゲノム、遺伝子診断、遺伝子治療、癌とタバコ、エイズウイルス、組換え植物、iPS 細胞とクローン、老化と死				
授業の目標	細胞とゲノムについての基礎を学んだ後に、現代生命科学の進展のキーワードを理解する。				
学習内容	学習計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球上の全ての細胞の共通点。 2. ゲノムの多様性と生物の多様性。 3. 真核生物の遺伝情報。 4. ヒトのこんなことまで遺伝子で決定されている。 5. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う）。 6. ヒトゲノムが決定されると社会は、個人はどう影響を受けるか。 7. 遺伝子治療はどこまで進んでいるのか。 7. 遺伝子組換え植物は必要なのか、本当に危険なのか。 8. クローンと臓器移植。 9. 癌とタバコ。 10. 生物はなぜ老化して死ぬのか。 11. 寿命の生物学。 12. 生物は遺伝子の乗り物 				
受講要件	特に定めない。				
テキスト	『細胞の分子生物学』（第1章）				
参考書	<p>参考書『科学でわかる男と女の心と脳 男はなぜ若い子が好きか？女はなぜ金持ちが好きか？』ソフトバンククリエイティブ 麻生一枝</p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の出席代わりの小問、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、午後がありがたい。いない場合もあるので、来る前には連絡を下さい。				
担当教員からのメッセージ	質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	丑丸 敬史	所属等	理学部		
		研究室	総合研究棟 702		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的な真理とモデル生物 2. モデル生物としての酵母 3. 細胞内のシグナル伝達 4. G1 期に起きるイベント (中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通じた挙動) 5. S 期に起きるイベント (DNA 複製。なぜ複製は一回しか起こらないか) 6. DNA 複製チェックポイント (DNA 複製が遅れた場合に S 期から脱出しない機構) 7. M 期に起きるイベント・1 (染色体の分離。正確に 1 コピーずつ分配する機構) 8. M 期に起きるイベント・2 (染色体分離の完了と M 期からの脱出) 9. DNA ダメージチェックポイントと細胞周期 (DNA ダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構) 10. 細胞分化と細胞周期 (増殖か分化か? G1 期での選択) 11. アポトーシス 12. 癌 (癌発症の機構) 				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』(第 15, 17, 18 章)。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。 sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	植物系統分類学				
担当教員名	徳岡 徹	所属等	理学部		
		研究室	理学部A棟 517		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上におよそ25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まり DNA データまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	1回 ガイダンス：植物の多様性 2回 分類とは 3回 系統解析の基礎 1 4回 系統解析の基礎 2 5回 系統解析の基礎 3 6回 生活環、藻類、コケ類 7回 シダ植物 1 8回 シダ植物 2、裸子植物 1 9回 裸子植物 2 10回 被子植物の共有派生形質 11回 原始的被子植物 12回 単子葉植物 13回 離弁花植物 14回 合弁花植物 15回 まとめ				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学				
担当教員名	山内 清志		所属等	理学部	
			研究室	総合研究棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々の RNA を介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	1回 ゲノム解析からわかること 2回 遺伝子調節蛋白質 3回 DNA 結合モチーフ 4回 オペロン説 5回 原核生物の遺伝子発現制御 6回 λファージの溶菌・溶原コントロール 7回 真核生物の転写 8回 RNA プロセッシング 9回 転写制御 10回 シグナル伝達系 11回 翻訳後修飾 12回 タンパク質にならない RNA の機能 13回 DNA のメチル化とヒストンのアセチル化 14回 遺伝子発現と機能解析技術 15回 まとめ				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学(第5版)」(ニュートンプレス)				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	生物環境科学概論 I				
担当教員名	生形 貴男	所属等	理学部		
		研究室	共通 C 棟 312		
分担教員名	塚越 哲				
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>進化古生物学の背景（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化古生物学の概要（化石とは何か、進化の定義、進化古生物学の方法、関連諸分野） 2. 進化学関連学史（自然神学、自然哲学、進化論の登場、集団遺伝学の確立、総合説） 3. 化石の保存と記録の不完全性（保存の条件、化石化作用、自生・他生、化石の発見確率） <p>個体レベルの進化古生物学（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 成長と個体発生（成長型、絶対成長と相対成長、アロメトリー） 5. 生活様式と個古生態（生活型、摂食様式、古生態と地質学的情報、機能形態） <p>化石記録と進化（生形が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 化石に見られる進化速度（系統的速度と分類学的速度、生きた化石、断続平衡論争） 7. 多様性変遷史の解釈（大量絶滅と適応放散、完全性と多様性の補正、分類群生存曲線） 8. 中間試験 <p>初期生命の記録（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ストロマトライト、真核生物の出現 10. 多細胞生物の出現 <p>進化のバタンと化石生物（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. エディアカラ化石群 12. カンブリア紀の化石群と進化の大爆発 <p>地球環境と大量絶滅（塚越が担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大量絶滅の認識、主な大量絶滅 14. 大量絶滅の要因 15. 先カンブリア時代の地球環境 <p>16. 期末試験</p>				
受講要件	なし				
テキスト	特に定めないが、塚越担当分受講の際は、地球科学入門 II（塚越担当分）で配布したプリントを持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。試験で合格点に達しなかった場合、出席優良者に限って、再試験代わりのレポートを課すなどの救済措置を取る。				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	多様性生物学				
担当教員名	塚越 哲	所属等	理学部		
		研究室	理学部C棟 507		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（前半）	必修選択区分	
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性はどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の種数 ・ヒトの認識と分類 ・個体発生と系統発生 以上の内容をオムニバス形式で行う。				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<satukag@ipc.shizuoka.ac.jp>もしくは電話054-238-4800（直通）であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい（当たり前のことですが）。				

授業科目名	層序学				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 311		
分担教員名	生形 貴男				
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード					
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 層序学とは何か（地層体系化の手順，様々な層序学，層序学関連小史）（生形） 2. 層序学の基本原理（公式層序单元，岩相層序单元各説）（生形） 3. 層序区分の標準化（年代層序尺度，地質年代单元，GSSPと“黄金の楔”）（生形） 4. 層序单元の命名（模式，国際層序ガイド，地層命名法，先取権の原則）（生形） 5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)，誘導・導入化石，異時性，生層序帯各説，示準化石各説）（生形） 6. 生層序学の実際（CSRS，グラフ対比法，AEO，CONOP，RASC，生層準の区間推定）（生形） 7. 層序と編年（GSSA，複合年代尺度の構築，年輪・骨格編年，交差年代決定）（生形） 8. 中間試験（生形） 9. 微化石層序・古地磁気層序（概念，事例）（北村） 10. 火山灰層序学（概念，事例）（北村） 11. サイクル層序1（サイクル層序の概念，生態層序，海洋酸素同位体層序）（北村） 12. サイクル層序2（海洋酸素同位体層序）（北村） 13. 第四紀の層序（北村） 14. シーケンス層序1（シーケンス層序の原理）（北村） 15. シーケンス層序2（海水準変動）（北村） 				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時，プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート，配布プリントを使って，予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から，成績評価を行う。				
オフィスアワー	教員ごとに異なるので，授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球環境学				
担当教員名	加藤 憲二		所属等	理学部	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火3・4
キーワード	気候変動、大気環境、海洋環境、生物圏、地球環境問題				
授業の目標	地球環境の様々な問題に対する論理的考え方、見方を養い、問題解決への能力を磨くこと。				
学習内容	人間をとりまく環境は、文明の発展とともに変貌し、また悪化してきた。地球環境問題と言われる「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「酸性雨」「砂漠化」「熱帯林の破壊」「海洋汚染」等は地球規模の気候変動あるいは生態系変動に大きな影響を及ぼしている。2000年11月にオランダのハーグで開かれた「第6回気候変動枠組み条約締結国会議」での議論に見られるように地球温暖化の原因物質とされている二酸化炭素の削減に関して、十分な削減方式が合意されなかった。本授業では現在の地球環境問題の科学的側面を中心として解説する。				
授業計画	(1)地球環境を決める要因 エネルギー循環(放射平衡温度、温室効果、顕熱、潜熱) 気候変動と異常気象(異常気象、エネルギー収支、氷期と間氷期のサイクル) エルニーニョと南方変動(海面水温、貿易風、気圧の逆転、湧昇、ENSO) (2)大気の化学 大気の構造と循環(大気構造、気温分布、大気循環の四つの基本パターン) 大気の化学組成(空気の組成、大気組成の変遷、水蒸気の役割) 雲の形成と降水(凝結核、雨滴の成長、エアロゾル) (3)海洋の化学 海洋水の循環(塩分、水温の分布、密度、風成循環、熱塩循環) 海水の化学成分(主成分、微量成分) 海洋における生物過程(生物生産、食物網、生物ポンプ、クロロフィル) (4)地球環境問題 酸性雨(酸性雨の原因物質、pH、広域汚染、酸性雨の影響) オゾン層破壊と紫外線(オゾンの生成と消滅、フロン、極渦、オゾン層の役割) 地球温暖化ガスとその変動(温室効果気体、温暖化指数、放射強制力) 海洋汚染(油汚染、放射性物質、環境ホルモン、汚染の広がり)の要因)				
受講要件	出席回数を極めて重視する。				
テキスト	プリント				
参考書	「地球の大気と環境」田中・竹内共著、三共出版 「海洋生物と炭素循環」鈴木 款編、東大出版会、1997 「水の科学」北野著、NHKブックス、1995				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読む。				
成績評価の方法・基準	成績はレポートと試験による。				
オフィスアワー	水曜日昼休み、5・6時限(12時45分-14時15分)を予定				
担当教員からのメッセージ	地球環境および地球環境問題は極めて複雑で、かつダイナミクスである。これらの問題を考える力を通じて未来思考を養い、将来の環境、人生等の設計に自信を持って欲しい。私の授業は生きる力の源の一つになると思う。				

授業科目名	地球科学入門 I				
担当教員名	石橋 秀巳	所属等	理学部		
		研究室	理 C 棟 405		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	地球システム、鉱物、岩石、火山、マグマ、噴火、火成活動				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、地球科学の基本的な考え方と、鉱物・岩石・火山に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	1. Introduction to Earth Science Unit One: Earth Materials 2. Matter and Minerals 3. Rocks: Materials on the Solid Earth Unit Three: Forces Within 9. Volcanoes and Other Igneous Activity				
受講要件	特になし				
テキスト	Tarbuck, E. J., Ludgens, F. K., Tasa, D., Earth Science. 13th Edition. Prentis Hall, 740pp (2012) ISBN-13:978-0-321-68850-7, ISBN-10:0-321-68850-3				
参考書					
予習・復習について	英語辞書などを使って教科書をよく読み、十分に予習してきてください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポート、期末の試験の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー	相談などの際には、メールで事前連絡してください。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球ダイナミクス概論 I				
担当教員名	和田 秀樹		所属等	理学部	
			研究室	理学部 C 棟 501 室	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	地球物理学的に固体地球を概観し地球物理学の基礎を学ぶとともに、地球をはじめとする固体惑星を構成する最も基本的な単位である鉱物と岩石の性質と産状について学習する。				
学習内容	講義の前半では、固体地球物理学の分野である、測地学と地震学の基礎的な事柄について概説する。また、鉱物は地球をはじめとする固体惑星を構成する最も基本的な最小単位であり、岩石は鉱物の集合体である。後半では、鉱物と岩石の性質と産状について概説する。				
授業計画	1 回 地球の形 2 回 重力 3 回 重力と地下構造 4 回 地震とは、震度とマグニチュード 5 回 地震波、地震の発生機構 6 回 地震に伴う現象 7 回 地震波でみた地球内部構造 8 回 地磁気 9 回 結晶の幾何学、鉱物の結晶化学 10 回 造山鉱物の構造と分類 11 回 鉱物の物理的・化学的性質 12 回 鉱物の組成変化と構造変化 13 回 熱力学と相平衡 14 回 鉱物の融解と結晶作用、流体からの結晶化 15 回 地球を構成する岩石・鉱物				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	新版地学教育講座 1 巻, 地球をはかる, 東海大学出版会 新版地学教育講座 2 巻, 地震と火山, 東海大学出版会 新版地学教育講座 3 巻, 鉱物の科学, 東海大学出版会 新版地学教育講座 4 巻, 岩石と地下資源, 東海大学出版会				
予習・復習について	レポートと合わせて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める。授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートと試験。講義の期間に複数のレポートを課す。成績は、試験結果とレポートの内容で総合評価。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	堆積学				
担当教員名	北村 晃寿	所属等	理学部		
		研究室	共通教育 C 棟 311		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（前半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆積作用—砕屑物の運搬と沈降 2. 堆積構造とベッドフォーム 3. 堆積重力流 4. 生物攪拌 5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物 6. 浅海・海底扇状地の堆積物 7. 海水準変動 				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造（八木下晃司著・古今書院）。 毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球環境微生物学				
担当教員名	加藤 憲二		所属等	理学部	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期（後半）		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	多様な地球環境、微生物生態系、物質循環				
授業の目標	地球環境を理解する上で微生物の働きを理解することは必須である。多様な地球環境の中で理解するための基本を学ぶ。				
学習内容	原核生物（細菌）は地球上に最初の生命として登場してから37億年の間に地球環境を変え、また新たなエネルギー生産系を作り出し、その分布域を地球のあらゆる空間へと広げた。研究は、暗黒で無酸素の地下圏にも広大な微生物による生命圏が存在することを明らかにしはじめた。生命の持続的維持装置である生態系には、必ず原核生物が主要メンバーとして含まれており、その維持に重要な役割を果たしている。さまざまな地球上の生態系で、原核生物がどのような活動をしているかを水圏から地下圏にわたって講義し、地球環境における原核生物の位置づけを、その役割と生態と進化から明らかにする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原核生物の特徴； <ul style="list-style-type: none"> ・どこにでもいる、<小さい>、<早い>、ウイルスと細菌の違い 2. バクテリアの四態； <ul style="list-style-type: none"> ・ Free-living, Aggregated and Biomat, Infection, Symbiosis. 3. 研究の流れと方向 <ul style="list-style-type: none"> ・ Robert Koch と Louis Pasteur, 自然界は未知の原核生物であふれている。 4. 水圏生態系の構造と微生物ループ：炭素循環と好気性従属栄養細菌、トップダウンとボトムアップ 5. 窒素循環と脱窒細菌 <ul style="list-style-type: none"> 窒素は地球内部に大きなリザーバーを持たない、ほか 6. 温泉バイオマットとシアノバクテリア：イオウ酸化と硫酸還元菌 7. 極限環境と独立栄養細菌：化学合成細菌と光合成細菌 8. 地下圏における微生物の分布と地球化学作用：メタン生成古細菌 9. 地球圏外生命 				
受講要件	化学と生物学について必要に応じて高等学校程度の知識は整理、理解しておくこと。				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	配付された資料を次回までに理解すること。講義の前に前回の講義内容を見直すこと。これらは必須。また次に語られる内容について自分なりに少しイメージを持つことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				
オフィスアワー	講義終了後と月曜日の昼休み時間ありがたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球変動学				
担当教員名	道林 克禎		所属等	理学部	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード					
授業の目標	地球の誕生と熱移動の過程を核からマントル、地殻まで解説し、現在の地球表層の変動の原因を理解する。その上で世界の変動帯について学ぶ。				
学習内容	『地球ダイナミクス概論 II』に引き続き、地球内部のダイナミクスからプレートテクトニクスによる造山運動・変動地形について解説する。				
授業計画	<p>予定している授業計画は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球変動学について 2. 地球の誕生と層構造の形成 3. 地球内部物質科学の進展 4. マントルの熱移動とブルームの役割 5. 中央海嶺：海洋プレート生成の場 6. プレートテクトニクス 7. 沈み込み帯：プレートの収束場 8. 強大火成岩区とホットスポット 9. オフィオライト 10. 世界の造山帯 11. 東アジア周辺のテクトニクス 12. グローバルテクトニクス 				
受講要件	特になし				
テキスト	指定なし				
参考書	随時指定				
予習・復習について	随時指示				
成績評価の方法・基準	レポート、授業中の態度、期末テスト、出席状況などを総合して評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	地球科学入門Ⅱ				
担当教員名	鈴木 雄太郎	所属等	理学部		
		研究室	理学部 C 棟 502		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	金 7・8
キーワード	風化・土壌、水、氷河・砂漠・風、地質年代、地球史				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って地球科学全般を学習しながら英語表現や専門用語に慣れる。3・4年で学習する英語の論文を読み・理解する能力を身につける。				
学習内容	地球科学全般の基礎知識を学習し、習得する。特に地形と地球史について学ぶ。				
授業計画	UNIT TWO Sculpturing Earth's Surface UNIT FOUR Deciphering Earth's History				
受講要件	特になし。				
テキスト	Tarbuck, E.J. and Ludgens, F.K., Earth Science, 13th Edition, Prentis Hall, 740pp (2012)				
参考書	特になし。				
予習・復習について	十分に英語辞書を使って教科書を予習しておくことをすすめる。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を総合的に評価して成績とする。 出席率も評価に加味する。				
オフィスアワー	相談などは、事前にメールで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	遺伝学				
担当教員名	大村 三男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 339 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	遺伝子・ゲノム				
授業の目標	最近のゲノム解析の進展により、遺伝現象を遺伝子の発現と機能から解明する研究が急速に進んでおり、生命現象の解明や作物育種の進展に大きく関わってきている。古典的な遺伝解析から最近のゲノム解析研究情報を加えながら、植物中心に幅広く講義することで、生命現象の基礎としての遺伝学を理解するとともに、育種学及びゲノム科学履修のための基礎知識を得る。				
学習内容	近代遺伝学は、メンデル遺伝法則の再発見後急速な発展をとげ、突然変異、分子生物学、進化生物学など生命科学の基盤に関わる幾多の輝かしい成果を上げている。遺伝学をめぐるこれらのトピックスを紹介しながら、遺伝学各分野の進歩などを概説する。また、イネ、シロイヌナズナなどのゲノム解析は、最近の遺伝学や生命科学に大きな影響を与えてきているため、その手法や進展、応用などと関連させて講義する。				
授業計画	1 回 講義の概要 2 回 遺伝の仕組みと古典遺伝学 3 回 多様な遺伝現象 4 回 遺伝分離の検証 5 回 表現型と遺伝子 6 回 連鎖とその検定 7 回 変異 8 回 DNA 多型の解析 9 回 連鎖地図とポジショナルクローニング 10 回 遺伝学の技術 11 回 ゲノムの構造 12 回 ゲノムの解析特徴 13 回 ゲノムのもつ情報の解析 14 回 ゲノムダイナミズムとゲノム分化 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目：分子生物学序論、植物分子生物学、育種学、植物ゲノム科学				
テキスト	プリントを準備する。				
参考書	植物遺伝学入門（三上哲夫編著）朝倉書店 ほか 講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義内容が多岐にわたるので、上記参考書を含めた遺伝学関連の教科書、一般向け著書など事前の一読しておく。				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点を主に、小レポート、アンケートなどを加味して評価する。				
オフィスアワー	(月・木曜日)				
担当教員からのメッセージ	興味・疑問があれば、遠慮せずに研究室を訪問してください。不在ならメール質問可。				

授業科目名	植物繁殖学				
担当教員名	原田 久	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 433 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	種子繁殖、栄養繁殖、種苗生産				
授業の目標	植物の種子繁殖および栄養繁殖について理解し、種苗生産に関する基本的な知識を得ることを目標とする。				
学習内容	種苗生産や採種の基礎となる植物繁殖・生殖の一般的な現象を説明した後、種子繁殖と栄養繁殖の原理と技術について講義する。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス、種苗生産の歴史と現状 2 回 生殖器官の構造と発育 3 回 受粉 4 回 受精 5 回 自殖性植物の採種 6 回 他殖性植物の採種 7 回 一代雑種品種の採種 8 回 種子の発育と収穫 9 回 種子の取り扱いと貯蔵 10 回 種子の発芽と休眠 11 回 さし木繁殖 12 回 接ぎ木繁殖 13 回 組織培養による繁殖 14 回 その他の栄養繁殖 15 回 品種の保護と種苗法				
受講要件	組織培養については植物細胞工学で主に講義する。				
テキスト	使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	園芸種苗生産学（朝倉書店）				
予習・復習について	授業後に専門用語を復習し覚えること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験（90%）と小テスト（10%）の成績で評価する。 評価基準は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	随時（事前にメール等で連絡してください）				
担当教員からのメッセージ	授業中、授業後に積極的に質問してください。				

授業科目名	植物病理学				
担当教員名	平田 久笑	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 238 研究室		
分担教員名	瀧川 雄一				
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	植物の病気、病原微生物、病原性（病原力）、抵抗性、遺伝子・タンパク質、病原体感染に伴う植物生理学、植物保護、病気の診断と管理、農薬				
授業の目標	植物病原微生物（細菌、糸状菌、ウイルスなど）と、それらの感染メカニズムについて理解を深める。植物の病気の防除や診断方法について学ぶ。				
学習内容	植物病原微生物が、どのように植物に感染し、病気をもたらすのか。植物と病原体のどのような遺伝子やタンパク質が関わっているのか。どのようにして病気を防ぐことができるのか。				
授業計画	1 回 植物病理学と植物の病気ー1 2 回 植物病理学と植物の病気ー2 3 回 糸状菌の感染機構 4 回 細菌の感染機構 5 回 ウイルス・ウイロイドの感染機構 6 回 ファイトプラズマの感染機構 7 回 感染と防御応答のサイエンス（病原性と抵抗性）ー1 8 回 感染と防御応答のサイエンス（病原性と抵抗性）ー2 9 回 病原性関連遺伝子の解析と耐病性植物の作出ー1 10 回 病原性関連遺伝子の解析と耐病性植物の作出ー2 11 回 病気の診断と管理ー1 12 回 病気の診断と管理ー2 13 回 病気の診断と管理ー3 14 回 農薬ー1 15 回 農薬ー2				
受講要件	植物微生物学（共生バイオサイエンス学科 2 年次 後期）を受講済みであることが望ましい。				
テキスト	植物病理学（大木理 著、東京化学同人）				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	期末筆記試験と授業態度（出席、積極的な質問等）で評価する。				
オフィスアワー	研究室に直接、または電子メール等で予定を確認・相談する。				
担当教員からのメッセージ	新しい研究事例や知見も紹介しながら進めます。積極的に学ぶ姿勢で臨んでください。				

授業科目名	栄養化学				
担当教員名	森田 達也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 602 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	1 回 栄養素の消化・吸収・代謝 (1) 2 回 栄養素の消化・吸収・代謝 (2) 3 回 糖質 (1) 基礎 4 回 糖質 (2) 基礎 5 回 糖質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 6 回 脂質 (1) 基礎 7 回 脂質 (2) 基礎 8 回 脂質 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 9 回 タンパク質・アミノ酸 (1) 基礎 10 回 タンパク質・アミノ酸 (2) 基礎 11 回 タンパク質・アミノ酸 (3) 生活習慣病との関連から眺めて 12 回 ミネラル 13 回 ビタミン 14 回 運動と栄養代謝ミネラル (1) 15 回 エネルギー代謝				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編 (朝倉書店)				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績から評価する。ただし、出席率は2/3以上であること。				
オフィスアワー	特に指定なし				
担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の消化吸収・代謝に焦点を合わせた講義に努める。				

授業科目名	森林土木工学				
担当教員名	近藤 恵市	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 511 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造				
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。				
学習内容	<p>森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)、(D) に対応する。</p>				
授業計画	<p>1 回 授業ガイダンス、運材方法の歴史</p> <p>2 回 林道の機能と分類</p> <p>3 回 林道密度理論</p> <p>4 回 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画</p> <p>5 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距)</p> <p>6 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距)</p> <p>7 回 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距)</p> <p>8 回 曲線設定法</p> <p>9 回 曲線設定法</p> <p>10 回 縦断測量、横断測量</p> <p>11 回 縦断測量、横断測量</p> <p>12 回 林道の路面と路体</p> <p>13 回 林道の施工法・土工機械</p> <p>14 回 林道の施工法・土工機械</p> <p>15 回 排水施設、のり面保護</p>				
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。				
テキスト	森林土木学 小林洋司 他 (朝倉書店)				
参考書	酒井秀夫：作業道 (全国林業改良普及協会)				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート (合計 30%)、学期末試験 (70%) の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール (afkkond@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	育種学				
担当教員名	大村 三男	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 339 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期	必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	品種、DNA マーカー、遺伝資源、交雑、選抜、遺伝子組換え				
授業の目標	人類は、自然に対する営みから品種を選び、改良することを学び、育種として発達させてきた。そして、品種の改良を通じて農業の生産構造に大きな影響を与えてきている。品種育成に関わる技術と理論について幅広く講義することで、品種改良の方法と意味を理解するとともに、その基盤となる遺伝資源の保存を考える				
学習内容	育種学は、品種を作り出す育種という技術を理論化するユニークな研究分野である。作物ごとの生殖様式、繁殖法により特徴的な育種技術が発達してきているので、作物品種の育成事例を紹介しながら、育種を進めるために開発されてきた技術やその理論を概説する。また、新育種技術 (NBT)、ゲノム選抜など DNA マーカーを利用した最近の育種トピックスを組み込みながら講義を進める				
授業計画	1 回 講義概要 2 回 品種と育種 3 回 育種の歴史 4 回 遺伝資源の多様性と探索 5 回 遺伝資源の保存と技術 6 回 交雑育種の原理 7 回 交配の技術 8 回 選抜の理論 9 回 育種技術 10 回 交雑限界の拡大 11 回 突然変異と育種 12 回 細胞工学と遺伝子組換え育種 13 回 植物新育種技術 (NBT) とその問題 14 回 ゲノム育種とゲノム選抜 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目として、遺伝学、分子生物学、遺伝子工学、植物繁殖学、植物組織培養学などがあります。				
テキスト	プリントを配布しますが、『西尾剛・吉村淳編 『植物育種学』第 4 版 文永堂出版を参照して下さい。				
参考書	鵜飼保雄『植物育種学』東京大学出版、藤巻宏『植物育種原理』養賢堂など				
予習・復習について	講義をよく理解するために、テキスト、参考書を事前によく読んでおく。				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点を主に、小レポート、アンケートなどを加味して評価する。				
オフィスアワー	(月・木曜日)				
担当教員からのメッセージ	興味・疑問があれば、遠慮せずに研究室を訪問してください。不在ならメール質問可				

授業科目名	生化学概論				
担当教員名	平井 浩文		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 633-1 研究室	
分担教員名	村田 健臣				
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生化学、生体分子、生命科学				
授業の目標	生化学は、化学的立場から生命現象を究明することを目的とする分野で、ここでは生化学の動的諸原則を学ぶ前段階として、基本となる分子レベルでの構造と特性に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	この講義では生化学を理解する上で基礎となる生物を構成する生体成分（タンパク質、糖質、核酸、脂質）の構造と特性について学び、生物学の背後にある化学現象を理解するための礎とする。				
授業計画	1. 序論、生化学入門（1回） 2. タンパク質の構造と機能（4回） アミノ酸の構造と特性、タンパク分子の構造と特性 3. 糖質（3回） 単糖とオリゴ糖の構造と性質、多糖の構造と特性 4. 核酸（3回） ヌクレオシドとヌクレオチドの構造、DNAとRNAの構造と特性 5. 脂質（3回） 脂肪酸の構造、脂質（中性脂質、グリセロリン脂質、スフィンゴ脂質）の構造と機能				
受講要件	この科目は、後に続く生化学、分子生物学、酵素科学と関連を持たせており、順番に従って履修されることを望む。				
テキスト	「ホートン生化学」 Horton ら著、鈴木絃一ら訳				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験で評価する。筆記試験は講義内容の理解度を試す。				
オフィスアワー	火曜日 12:45～14:15。質問は随時受け付けますので、まずはメール（ahhirai@ipc.shizuoka.ac.jp）にて連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	応用微生物学				
担当教員名	徳山 真治	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 630 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素				
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。				
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで 2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ 3. 微生物遺伝学と遺伝子工学 4. 微生物の細胞構造 5. 細胞の調節とシグナル伝達 6. 微生物の分類 7. 微生物の分離と増殖 8. 微生物の代謝 9. タンパク質と酵素 10. 微生物の多様な栄養形態 				
受講要件	生化学				
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店				
参考書	授業で紹介。				
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。				
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。				
オフィスアワー	月・金：9-21 時				
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。				

授業科目名	果樹園芸学				
担当教員名	向井 啓雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 412 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	果樹、栽培管理、生理生態				
授業の目標	主要栽培管理の理論的背景の習得と今後新たに発生する問題点に対する応用力を目標とする。				
学習内容	果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要栽培管理の現状と今後の展望について講義する。				
授業計画	1 回 ガイダンス，果樹園芸の概要，果樹の分類と形態 2 回 育種と品種Ⅰ 3 回 育種と品種Ⅱ 4 回 繁殖と台木 5 回 開園と栽植 6 回 生長，開花と結実Ⅰ 7 回 生長，開花と結実Ⅱ 8 回 生長，開花と結実Ⅲ 9 回 結実管理 10 回 樹体生育と果実の発育・成熟 11 回 樹体管理 12 回 土壌管理，施肥管理 13 回 気象環境と災害，病害，虫害 14 回 高付加価値・高収量・省力生産技術 15 回 果実の流通利用				
受講要件	特になし				
テキスト	「新編果樹園芸学」，間苧谷徹ら，化学工業日報社，2002，ISBN4-87326-396-4				
参考書	授業中に紹介する。				
予習・復習について	教科書での予習復習，ならびに専門用語を正確に理解すること				
成績評価の方法・基準	筆記試験において成績評価する（100%）。				
オフィスアワー	火曜 16 時以降（研究室 A412） 電子メールによる質問は随時， abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。				

授業科目名	植物バイオサイエンス入門				
担当教員名	切岩 祥和		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 343 研究室	
分担教員名	山脇 和樹,本橋 令子,西東 力,田上 陽介,平田 久笑				
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	園芸学、植物保護、バイオテクノロジー				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科において専門教育を履修するための導入科目で、特に農学バイオサイエンス講座で履修する園芸学、バイオテクノロジーおよび植物保護について広く学び、農学バイオサイエンスを学ぶための動機づけとする。				
学習内容	農業関連産業の発展に欠かすことのできない植物の多様な機能について理解し、農業、バイオ、食品産業等自然科学関連産業の基盤として発展を続ける基礎と応用研究の実情に触れる。				
授業計画	<p>ガイダンス (切岩 祥和)</p> <p>植物の不思議 ～ミクロの世界から環境応答まで～ (山脇 和樹)</p> <p>植物保護 ～作物の病気と害虫防除～ (西東 力・田上 陽介・平田久笑)</p> <p>遺伝子組み換え技術の基礎と応用 ～GM作物と機能解析～ (本橋 令子)</p> <p>園芸作物生産 ～果樹・野菜・花卉の生産とその利用～ (切岩 祥和)</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科の専門科目への導入科目である。				
テキスト	特に使用しない。				
参考書	講義の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	植物の基本構造、光合成や呼吸の仕組み、植物の環境応答などの高校生物の知識についてきちんと理解しておくこと。				
成績評価の方法・基準	受講態度やレポート評価による。 レポートでは各講義に関する理解度と関心度に加え、応用力についても評価する。				
オフィスアワー	特に設けないので、随時メールにて問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	「農学バイオサイエンスってなんだろう？」って講義を通じて一緒に考えてみましょう。				

授業科目名	室内環境学					
担当教員名	渡邊 拓	所属等	農学部			
		研究室	共通教育 C 棟 307-2 号室、農学部 A 棟 506 号室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源					
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。					
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。					
授業計画	1 回 住宅の種類、安全性 2 回 建築材料の種類 3 回 建築材料の種類 4 回 建築材料の種類 5 回 住宅の工法 6 回 住宅の工法 7 回 住宅内の温度、湿度、音 8 回 住宅内の温度、湿度、音 9 回 住宅内の光、視覚 10 回 住宅内の光、視覚 11 回 住宅内の空気 12 回 住宅内の空気 13 回 住宅と健康 14 回 住宅と健康 15 回 建築材料に関わる環境問題					
受講要件						
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。					
参考書	講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	出席（50%）及びレポート2回（50%）の合計で評価する。 レポートは講義内容の理解度をみる。					
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。					
担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。					

授業科目名	測量学				
担当教員名	近藤 恵市		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 511 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	距離測量、コンパス測量、トランシット測量、水準測量				
授業の目標	測量及び測量器械に関する基本的な知識を理解するとともに、測量結果の数値的な処理方法と作図方法を理解する。				
学習内容	<p>地表における相対的な位置関係の決定や、地形の具体的な把握に必要な測量技術を取得するため、その基本となるトランシット、レベル、コンパス等の測量器械の構造的特性及び作動原理と、器械の利活用技術等について講義を行う。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離測量の基礎概念について 2. 水準測量の基礎概念について 3. コンパス測量の基礎概念について 4. トランシット測量の基礎概念について 5. トラバース測量の基礎概念について 6. 測量による観測値の精度と誤差について 				
受講要件	本科目は、「測量学実習」と密接な関係にあるので、「測量学実習」と併せて受講する必要がある。				
テキスト	測量学 大木正喜著 森北出版				
参考書	長谷川昌弘：基礎測量学（電気書院）				
予習・復習について	受講前にテキストの該当部分を読んでおくこと。また復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A511室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	人間環境科学論				
担当教員名	鈴木 恭治		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 503 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	環境問題、農業環境問題、地域環境問題、環境保全、環境倫理、資源、循環				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科に入学した学生を主な対象にした初年次教育科目と位置づけている。入学後、人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題などの幅広いテーマについて段階的に学習できるようにカリキュラムを構成している。その起点となるのがこの科目である。前半は主に農業環境問題の入門編、後半は地域環境問題の入門編となるように構成している。				
学習内容	人間環境科学講座各教員により、下記授業計画に沿って講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス（講義責任者） 2. 第1章 エネルギーと食料生産（澤田 均） 3. 第2章 生物多様性（山下雅幸） 4. 第3章 持続可能型農業科学（南雲俊之） 5. 第4章 土壌環境（鮫島玲子） 6. 第5章 微生物と環境（小川直人） 7. 第6章 水環境（釜谷保志） 8. 第7章 バイオマス及びリサイクル（鈴木恭治） 9. 第8章 住環境の健康論（渡邊 拓） 10. 第9章 農業の近代化と環境問題（柴垣裕司） 11. 第10章 人間 - 自然系における社会の作用（富田涼都） 12. 第11章 武谷三段階論と環境問題 - 実体論(もの)と実証論(こと)（野上啓一郎） 13. 第12章 生命環境倫理学 - スウェーデンで考えたこと（竹之内裕文） 14. 第13章 生命環境倫理学 - ポスト 3.11 の社会構築へむけて（竹之内裕文） 15. 第14章 総括（講義責任者） <p>なお、上記はあくまでも予定であり、変更することもある。</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科カリキュラムの起点科目である。				
テキスト	特になし。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	実施前の章及び実施後の章について、本やインターネット検索等により情報を収集、整理すること。				
成績評価の方法・基準	レポートと授業への取り組み(遅刻・欠席を含む)で評価する。レポートは4回課す(ガイダンスで担当者を紹介)。配点はそれぞれ20%。4回以上の欠席は落第とする。評価基準は、科目の目標に沿って、特にレポートは講義テーマの理解度と関心度、論理的思考力、文章表現力をみる。				
オフィスアワー	各教員の開講科目のシラバスにオフィスアワーを記載してある。				
担当教員からのメッセージ	初回は欠席しないこと。				

授業科目名	園芸生産学				
担当教員名	向井 啓雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 412 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	園芸、栽培、生理				
授業の目標	園芸学の基礎を理解し、園芸各分野（果樹園芸学、野菜園芸学、花卉園芸学、園芸利用学等）への橋渡しを行う。				
学習内容	園芸植物生産の基礎となる理論、とくに植物の成長と発育、物質生産についてテキストに沿って講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園芸と園芸作物 1 園芸の特色, ガイダンス 2. 園芸と園芸作物 2 生産と消費の動向 3. 種類と分類 4. 形態 1 栄養器官 5. 形態 2 生殖器官 6. 育種 7. 繁殖 8. 発育の生理 1 植物の生活環 9. 発育の生理 2 開花の生理 10. 発育の生理 3 果実の発育と成熟 11. 生育環境と栽培 1 気象条件と水分生理・光合成 12. 生育環境と栽培 2 土壌環境と養分吸収・施肥 13. 生育環境と栽培 3 立地と栽培環境 14. 施設園芸 15. 園芸生産物の利用 16. 定期試験 				
受講要件	受講要件は特にないが、植物に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。				
テキスト	『園芸学入門』、今西英雄編著、朝倉書店、2006、9784254405422 テキストの購入を義務付けないが、講義はテキストに沿って進める。また、試験はテキストの文章を用いて出題される。				
参考書	参考書については授業中に紹介する。				
予習・復習について	予習： テキスト・参考書を読んで内容を理解する。 復習： 講義において生じた疑問を調べる。				
成績評価の方法・基準	定期試験により 100% 評価する。試験ではテキストの内容の理解度を判断する。 試験： 5 択 50 問のマークシート方式。1 問 1 点で 50 点満点。 テキストの記述から出題され、出題箇所は授業支援システム等で示される。 評価点： （試験の得点から求められる）偏差値+30。 共生バイオサイエンス学科 2 年生の受験者における平均値と標準偏差を偏差値の計算に用いる 評価点の上限を 100 点とする。 試験を受けなかった人の評価点を 0 点とする。				
オフィスアワー	火曜日 16:00~20:00 授業終了後、当該講義室あるいは研究室（A412、入り口は A413） 電子メールでの質問は随時（返信メールあるいは次回の講義において回答する）。 abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	疑問があればできるだけ授業中に質問してください。 園芸生産学の過去の試験結果・授業アンケート結果が果樹園芸学研究室オリジナル HP に記載されているので、参考にしてください。 http://www.agr.shizuoka.ac.jp/b/pomology/index.html				

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	笹浪 知宏	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 232 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	細胞小器官、細胞膜、核、リボソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期				
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス、細胞生物学分野の実験手法 2 回 原核細胞と真核細胞 3 回 細胞膜、細胞外被の分子構成と機能 4 回 核、クロマチン、染色体 5 回 核、クロマチン、染色体のつづき 6 回 リボソーム、核小体 7 回 内膜系：細胞の分泌と消化作用 8 回 内膜系：細胞の分泌と消化作用のつづき 9 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：ミトコンドリア 10 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：ミトコンドリアのつづき 11 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：葉緑体 12 回 エネルギーを伝達する細胞小器官：葉緑体のつづき 13 回 細胞骨格 14 回 細胞周期と細胞分裂 15 回 定期試験				
受講要件	特になし				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学（南江堂）				
参考書	細胞の分子生物学、教育社				
予習・復習について	授業内容について復習をすること。不定期に小テストを行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験（80%）および不定期に課すレポートや小テスト（20%）を総合して評価する。また、1/3 以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。				
担当教員からのメッセージ	生物学概論 A・B の内容を理解していること。				

授業科目名	バイオマス利用論					
担当教員名	鈴木 恭治	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 503 研究室			
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	前学期		必修選択区分	選択
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	バイオマス、地球温暖化、化石資源、循環型社会					
授業の目標	石油等の化石資源に換わる持続可能型資源としてバイオマスが注目されている。そこでバイオマスの特性、種類を理解し、地球環境並びに地域の環境との係わりを学ぶとともに、バイオマスの変換技術および利用技術を習得することを目標とする。					
学習内容	まず近年の地球温暖化についてその経緯と問題点を把握し、バイオマス利用の意義を学ぶ。次にバイオマスの種類、構成成分を理解した上で、バイオマスの生産技術、変換技術並びに各種利用技術を学ぶ。					
授業計画	1 回 地球温暖化について 2 回 なぜ今バイオマスか 3 回 バイオマスの種類 4 回 バイオマスの特性 5 回 バイオマスの構成成分 (その 1) 6 回 バイオマスの構成成分 (その 2) 7 回 キチン・キトサンについて 8 回 バイオマスの変換技術 (その 1) 9 回 バイオマスの変換技術 (その 2) 10 回 バイオマスの変換技術 (その 3) 11 回 バイオマスの利用 (その 1) 12 回 バイオマスの利用 (その 2) 13 回 バイオマスタウン並びにエコタウン構想 14 回 地域のバイオマス利用状況 15 回 バイオマスの将来					
受講要件	関連科目：化学概論 A 及び B、生物学概論、有機化学概論					
テキスト	プリントを配布					
参考書	環境白書、その他は講義の過程で適宜紹介する。					
予習・復習について	板書内容やプリントを読み返すこと。					
成績評価の方法・基準	出席状況と定期試験により評価する。出席状況を重視する。秀 90 点以上、優 90 未満～80 点、良 80 点未満～70 点、可 70 点未満～60 点、不可 60 点未満					
オフィスアワー	月曜日 16 時から 17 時をオフィスアワーとする（農学部 A 棟 503 室にて）。					
担当教員からのメッセージ	質問がある場合は予め E-mail にて日時を予約してください。					

授業科目名	生物工学				
担当教員名	朴 龍洙	所属等	自然科学系教育部		
		研究室	共通教育C棟 211 号室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん				
授業の目標	1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。				
学習内容	生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。				
授業計画	1 回 遺伝子の発現機構 2 回 遺伝子の調節機構 3 回 遺伝子とゲノム 4 回 ゲノムの進化 5 回 ゲノムの解析 6 回 タンパク質の輸送 7 回 タンパク質の分泌経路 8 回 細胞間シグナル伝達 9 回 Gタンパク質共役型受容体 10 回 酵素共役型受容体 11 回 細胞間マトリックス 12 回 細胞の組織 13 回 幹細胞 14 回 がん 15 回 ライフサイエンスのトピック				
受講要件	2年前学期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者				
テキスト	Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）				
参考書					
予習・復習について	授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。				
成績評価の方法・基準	2/3以上の出席、筆記試験で評価する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・共通教育C-211へ直接又は電話、E-mail等				
担当教員からのメッセージ	積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。				

授業科目名	森林生態管理学				
担当教員名	今泉 文寿	所属等	農学部		
		研究室	農学 A 棟 512		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	森林の健康、樹木の健康、攪乱と多様性、森林の管理				
授業の目標	樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける 森林が周囲の環境からどのような影響を受けて成立しているのか、森林が周囲の環境にどのような役割を果たしているのかについての理解を深める 持続的に機能を発揮できる森林の管理に必要な考え方を身につける				
学習内容	森林へのニーズが資源から環境へシフトする中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林と周囲の環境の相互作用や生態の多様性を維持しているメカニズムについて学び、森林の持つ役割や意義を理解する。本科目は技術者教育プログラムの学習教育目標 B と D に対応する				
授業計画	1: ガイダンス 授業内容の紹介, 森林の保全・管理に関する諸問題 2: 森林をどうして保全・管理するのか (森林の持つ多面的機能) 3: 樹木を知る (樹木の形態と機能) 4: 樹木の生態と環境 (森林の成立基盤: 地盤, 土壌, 水, 気候) 5: 樹木の生態と環境 (樹種ごとの環境適性) 6: 樹木のストレス 7: 樹木の被害 (病虫害, 獣害, 気象災害) 8: 樹木の被害 (病虫害, 獣害, 気象災害) 9: 森林の攪乱 (攪乱の種類, 多様性) 10: 森林の攪乱 (攪乱の種類, 多様性) 11: 森林の診断法 (調査・計測法, 攪乱の履歴の調査) 12: 森林の診断法 (森林の機能の評価法) 13: 森林の保全手法 (樹木・森林管理) 14: 森林の保全手法 (国際社会, 国, 地方の取り組み) 15: まとめ				
受講要件	関連科目: 森林生態学 造林学 森林計画学実習 森林環境学 森林環境水文学 山地保全学				
テキスト	なし, プリントによる。				
参考書	講義中に随時紹介する				
予習・復習について	十分な復習を行い, 理解できない点は教員へ質問すること				
成績評価の方法・基準	期末試験 (50%) 小レポート (50%) 成績の秀は 90%以上, 優は 80%以上, 良は 70%以上, 可は 60%以上とする。				
オフィスアワー	随時可 (メール等でアポイントがあればより確実に対応可)				
担当教員からのメッセージ	受身にならずに積極的に授業へ参加してほしい。 説明がわかりづらい場合は指摘, 質問をしてほしい。				

授業科目名	山地保全学				
担当教員名	逢坂 興宏	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 507 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	砂防、緑化、土砂災害				
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
学習内容	主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。 講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、森林の多面的な機能 2. 日本の自然災害 3. 土砂災害とその対策の歴史 4. 地形過程に伴う自然災害 5. 斜面における土砂移動現象の分類 6. 表面侵食と植生の効果 7. 表層崩壊（森林と山崩れ） 8. 山腹緑化工 9. のり面緑化工 10. 地すべり、大規模崩壊 11. 地すべり対策 12. 土石流 13. 火山活動に伴う土砂移動現象 14. 雪崩 15. 斜面安定解析 				
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。				
テキスト	保全砂防学入門（電気書院） また、随時プリントを配布する。				
参考書	新砂防工学（朝倉書店）、環境緑化工学（朝倉書店）、山地保全学（文永堂出版） その他適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート（10%）および期末筆記試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。				

授業科目名	収穫後生理学				
担当教員名	加藤 雅也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 408 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分				
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。				
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義） 2 回 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動 3 回 クライマクテリック呼吸と果実の追熟 4 回 呼吸 1 5 回 呼吸 2 6 回 エチレンの生合成機構 1 7 回 エチレンの生合成機構 2 および中間テスト 8 回 エチレンのシグナル伝達 1 9 回 エチレンのシグナル伝達 2 10 回 エチレン生合成・作用の調節、制御 11 回 エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割 12 回 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1 13 回 カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2 14 回 アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動 15 回 まとめ				
受講要件	関連科目：植物生理学，園芸利用学				
テキスト	使用しない。 資料は印刷して配布する。				
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館），兵藤宏・楊祥発著「エチレン」				
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し，専門用語も憶えるように努める。 授業毎に簡単に復習することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%），中間テスト（35%），最終テスト（35%）による評価で行う。				
オフィスアワー	随時（昼休み時間，夕刻等）				
担当教員からのメッセージ	身近な果物，野菜，花の生理現象に関心を持ち，講義に臨んで欲しい。				

授業科目名	木質機能科学				
担当教員名	安村 基		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 426 研究室	
分担教員名	小林 研治				
クラス	環境森林	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	木質資源としての木材の機能について学ぶ。 木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材と含有水分の関係、木材の熱・電気・音響等の物理的特性、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関して基本的な考え方を述べ、応用として木材利用との関連や環境への影響について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	1 回 木材の利用と環境への負荷 2 回 木材の密度とその変動 3 回 木材の含水率とその変化 4 回 水分の吸着とその理論 5 回 木材中での水分の移動と拡散の理論 6 回 木材の膨潤および収縮と異方性 7 回 木材の熱・電気に関する特性 8 回 動的弾性－振動現象と木材の音響特性 9 回 力の釣り合い 10 回 弾性－ヤング係数と強度 11 回 応力とひずみの成分 12 回 木材の圧縮、曲げ、引張り 13 回 一般化されたフックの法則 14 回 粘弾性－クリープと応力緩和 15 回 各種強度と力学的性質に影響を及ぼす因子および破壊				
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、木質バイオマス科学等の講義、および環境木質機能学実験、環境木質材料学実験等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	高橋・中山 編「木材科学講座 3 物理」(海青社)				
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」(裳華房)、日本木材学会 編「木質の物理」(文永堂出版)、 伏谷 他 著「木材の科学 2 木材の物理」(文永堂)、北原 著「木材物理」(森北出版)				
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 426, 428 室で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。				
担当教員からのメッセージ	授業開始時に出席を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。				

授業科目名	木質利用化学				
担当教員名	西田 友昭		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 527 研究室	
分担教員名	河合 真吾, 米田 夕子				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性				
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す				
学習内容	<p>木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。</p> <p>さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。</p>				
授業計画	<p>1 回 パルプ原料とその化学</p> <p>2 回 機械パルプの製造</p> <p>3 回 化学パルプの製造</p> <p>4 回 機械パルプおよび化学パルプの漂白</p> <p>5 回 授業 1～4 回目のまとめ</p> <p>6 回 抽出成分の化学構造決定法（NMR）（1）</p> <p>7 回 抽出成分の化学構造決定法（NMR）（2）</p> <p>8 回 抽出成分の化学構造決定法（質量分析）（1）</p> <p>9 回 抽出成分の化学構造決定法（質量分析）（2）</p> <p>10 回 授業 6～9 回目のまとめ</p> <p>11 回 抽出成分の生合成（フェニルプロパノイド経路）（1）</p> <p>12 回 抽出成分の生合成（フェニルプロパノイド経路）（2）</p> <p>13 回 抽出成分の生合成（メバロン酸経路）</p> <p>14 回 抽出成分の生理活性とその利用</p> <p>15 回 授業 10～14 回目のまとめ</p>				
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、2 年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	<p>木材学会編：木質の化学（文永堂）、中野準三ら：リグニンの化学（ユニ出版）</p> <p>日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔（海青社）</p> <p>福島和彦ほか 編集：木質の形成・バイオマス科学への招待（海青社）</p>				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。 				
オフィスアワー	農学部 A 棟、531 室（西田）、527 室（河合）、540 室（米田）で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	分析化学				
担当教員名	原 正和	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A棟 704室		
分担教員名	森田 明雄				
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分 選択
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	化学平衡論、酸・塩基反応、機器分析				
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。				
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。				
授業計画	1回 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い 2回 酸・塩基反応と中和滴定Ⅰ 3回 酸・塩基反応と中和滴定Ⅱ 4回 沈殿と重量分析 5回 錯化合物とキレート滴定Ⅰ 6回 錯化合物とキレート滴定Ⅱ 7回 酸化還元反応と酸化還元滴定Ⅰ 8回 酸化還元反応と酸化還元滴定Ⅱ 9回 溶媒抽出 10回 クロマトグラフィーによる分析Ⅰ 11回 クロマトグラフィーによる分析Ⅱ 12回 光による分析法 13回 X線と分析化学 14回 電気伝導度と分析化学 15回 同位体の性質とその利用				
受講要件	理系基礎科目の化学概論A、化学概論Bの内容を十分理解しておくこと。				
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。 その他、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学Ⅰ,Ⅱ」(丸善) など。				
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験(50%)ならびに期末試験(50%)の合計で評価する。 評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。				
担当教員からのメッセージ	小テストを授業開始時に行い、前回講義の復習をします。 授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。				

授業科目名	基礎微生物学				
担当教員名	瀧川 雄一	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 236 研究室		
分担教員名	小川 直人, 鮫島 玲子				
クラス	共生バイオ	学期	前期	必修選択区分	選択
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に 2 回の試験を行う。その成績の合計で評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎微生物学				
担当教員名	徳山 真治	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 630 研究室		
分担教員名	朴 龍洙,小谷 真也				
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に 2 回の試験を行う。その成績と出席率を総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	花卉園芸学				
担当教員名	大野 始	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 342 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、流通、ライフサイクル、花色				
授業の目標	花卉の生産と利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。				
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 序論：花と花卉園芸、生産の状況、花の消費と国民性 3. 種類と分類：学名と命名規約、人為分類 4. 産地形成の条件と生産および経営形態：生産形態、産地形成の条件、経営形態 5. 花卉の形態と構造：花の器官と構造、花の器官の相互関係 6. 育種と新品種の保護：花卉のライフサイクルと育種の役割、日本の花卉育種、育種の目的・方法 7. 繁殖：種子繁殖、栄養繁殖、組織培養 8. 種苗生産：組織培養と種苗生産、プラグ苗生産 9-13. 生育と開花の調節 14. 花卉の鮮度保持と貯蔵、品質評価：切り花の鮮度保持と品質評価、鉢物の鮮度保持 15. 花色：花色と花色素 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：植物分類および形態学、土壌学、植物病理学、応用昆虫学、育種学、遺伝学、造園学 施設園芸学、植物組織培養学				
テキスト	使用しない。				
参考書	花卉園芸総論（養賢堂）、園芸事典(朝倉書店)、花卉園芸学（朝倉書店）、花卉入門(実教出版)、球根の開花調節（養賢堂）				
予習・復習について	多くの種類の花卉が出てくるので、どのようなものかを確認しておくこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト(30%)および定期試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい。）				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	食品分析化学				
担当教員名	河岸 洋和		所属等	自然科学系教育部	
			研究室	農学部 A 棟 711 研究室	
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法（クロマトグラフィー，機器分析）の理論と実例を解説する。				
授業計画	1 回 食品分析学の意義と概観 2 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4 回 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5 回 UV の解説 6 回 IR の解説 7 回 MS の解説 8 回 MS の解説 9 回 NMR の解説 10 回 NMR の解説 11 回 NMR の解説 12 回 NMR の解説 13 回 NMR の解説 14 回 最新のトピックスの紹介 15 回 最新のトピックスの紹介				
受講要件	化学を基礎とするので，化学概論 AB，有機化学概論，生化学概論，生物有機化学,分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験（約 75%）と出席（約 25%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	木材接着学				
担当教員名	山田 雅章		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 535 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法				
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものもものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。				
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
授業計画	1 回 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察 2 回 木材接着の基礎 その1 3 回 木材接着の基礎 その2 4 回 接着の界面科学 5 回 接着のレオロジー 6 回 接着剤の分類と固化様式 7 回 木材用接着剤の種類 その1 8 回 木材用接着剤の種類 その2 9 回 木材用接着剤の種類 その3 10 回 木材接着に関する因子 その1 木材の因子 11 回 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子 12 回 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置 13 回 木材接着の性能評価と耐久性 14 回 木材接着の実用 15 回 木材接着と環境・健康問題				
受講要件	2 年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や 3 年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	木材接着の科学 (海青社)				
参考書	木材の接着 (日本木材加工技術協会)				
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート (30%)、期末筆記試験結果 (70%) を総合して評価する。成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	木曜日の昼食時 17 時 30 分～18 時 30 分。農学部 A 棟 534 室				
担当教員からのメッセージ	1・2 限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。				

授業科目名	基礎生態学				
担当教員名	澤田 均	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 306 研究室		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法				
授業の目標	主な目標は次の 2 点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。				
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。				
授業計画	1. 授業ガイダンス、生態学とは何か 2, 3.生態学の実例 1－生物階層 4. 生態学の実例 2－時間スケール 5. 生態学の実例 3－長期研究 6. 生態学の実例 4－数理モデル 7, 8.生態系 1－一次生産力 9, 10.生態系 2－物質の流れ 11. 群集 1－種の豊かさ 12. 群集 2－種の豊かさに影響する要因 13. 群集 3－種の豊かさのパターン 14. 群集 4－食物網 15. 群集 5－安定性 16. 筆記試験				
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。本講義は 2 年生後期の「応用生態学」を受講するために必要である。				
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend,C.R.(2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell.に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。				
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。また遅刻はしないように。遅刻すると、最初から聴けない分、授業内容を理解しにくい、また他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	環境微生物学				
担当教員名	小川 直人		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 708 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B-C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	微生物の多様性、微生物の代謝、環境問題、微生物の環境応答				
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物による環境修復などに関する専門知識を理解することを目指す。				
学習内容	微生物の種類・代謝・生息環境などの多様性を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で環境中での微生物の活動の生物学的機構、及び環境問題との関わりを学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の研究史 2. 微生物の細胞構造の特徴 3. 微生物の基本代謝と増殖 4. 微生物の代謝の多様性 1 5. 微生物の代謝の多様性 2 6. 微生物の代謝の多様性 3 7. 微生物の進化と系統学 8. 微生物生態学の方法 9. 地球環境における物質循環と微生物 10. 微生物の機能を利用したバイオレメディエーション <ol style="list-style-type: none"> 1 1. 微生物の環境応答 1 1 2. 微生物の環境応答 2 1 3. 微生物遺伝子の環境中での動態 1 4. 微生物のゲノム解析研究 				
受講要件	関連科目：基礎微生物学、生化学概論、物質循環学、資源生態科学論、土壌学				
テキスト	環境微生物学（久保幹・他著、化学同人）				
参考書	Brock 微生物学（オーム社（原書第 9 版））、ベーシックマスター微生物学（オーム社）、微生物生態学入門（日科技連）、Brock Biology of Microorganisms（Pearson（第 13 版））				
予習・復習について	とくに指定しない				
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。				
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。				

授業科目名	動物生命科学				
担当教員名	高坂 哲也	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 241 研究室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生殖科学、哺乳動物				
授業の目標	本講では、食資源動物を含む哺乳動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。				
学習内容	動物の生殖戦略、性の決定と分化、配偶子（精子、卵子）の形成、受精と発生、妊娠と分娩などについて講義し、哺乳動物の生命科学、とくに生殖生理全般について理解を深める。				
授業計画	1 回 生殖とは 2 回 生殖細胞系列 3 回 性の決定と分化 4 回 雄の生殖：精巣の構造とその機能 5 回 精子形成 6 回 精液と精漿 7 回 精子の構造と機能 8 回 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞 9 回 卵子形成・成熟と排卵 10 回 精子の受精能獲得について 11 回 受精 12 回 初期胚の発生 13 回 妊娠：胚と子宮のコミュニケーション（母体の妊娠認識）と着床 14 回 分娩 15 回 試験				
受講要件	関連科目：動物生理学				
テキスト	「動物生殖学」佐藤英明編（朝倉書店）				
参考書					
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。				
成績評価の方法・基準	期末試験（90%）、授業への積極的な取り組み・出席状況（10%）を総合して評価する。				
オフィスアワー	適宜対応（事前にメール等で知らせてください）。				
担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。				

授業科目名	木質材料学				
担当教員名	鈴木 滋彦	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 403 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	循環型社会、木質資源、再生利用技術				
授業の目標	再生産可能な木質資源を人間の生活に必須な材料として有効に利用するための手法を、科学技術的な視点から理解することを目標とする。				
学習内容	木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性等について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(B)および(D)に対応する。				
授業計画	1) 木質資源利用のあり方 2、3) 木質材料の基礎技術 4、5) 材料開発の方向とエンジニアードウッド 6～9) 軸材料：集成材、単板積層材、P S L 軸材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。 1 0～1 1) 面材料：合板、O S B、パーティクルボード、M D F 面材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。エレメントの形状と種類による材質の違いを説明する。 1 2～1 3) 面材料：ハードボード、インシュレーションボード湿式と乾式製法の相違点を材質の違いを説明する。 面材料：窯業系ボードについて解説する。 1 4) 木質材料技術開発と倫理 1 5) 木質材料の世界の生産動向と今後の方向性 1 6) 筆記試験				
受講要件	関連科目：木質バイオマス科学、木質機能科学、木材接着学、環境木質材料学実験				
テキスト	鈴木正治他編： 「木材科学講座 8 木質資源材料」海青社				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	・5 回のレポートは復習が中心です。レポートのとりまとめを行うことで、技術的な課題全体が理解できるように配慮してあります。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (15%)、5 回のレポートおよび学期末試験 (合計 85%) の結果を総合して評価する。評価基準は、科目の目標に沿って行い、筆記試験は講義内容の理解度を判断基準とする。 ・「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み、木曜日の昼休み 農学部 A 棟 403 号室				
担当教員からのメッセージ	資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。海外の最新の資料も提供しますので、質問等はメールで：s-suzuki@agr.shizuoka.ac.jp までお寄せ下さい。				

授業科目名	造園学				
担当教員名	藤本 征司		所属等	フィールド科学教育研究センター	
			研究室	農学部 A 棟 113 研究室	
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	景観、出会いの集合、ガーデニング、森林整備、無主・無縁、物象化批判				
授業の目標	人間の自然との関わりの総体史としての造園史の概略の習得。 次世代的な自然-人間関係論の伝達・習得。 ガーデニング、森作りを事例とした、自然の親しみかたの伝達。				
学習内容	造園学の対象領域、造園空間（自然生活空間）の史的変遷とその背景にある思潮・思想史との関連、造園学の現況や今後の造園学の課題・方法について概説する。また、実際の自然生活空間作りの事例として、ガーデニングと森林景観の造成・整備問題を取り上げ、基礎、実践の両面から、いくつかの話題を提供する。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の（B）、（D）に対応する。				
授業計画	Introduction 現代における自然と人間、造園学とは？ 「造園学」の対象領域 I. 造園空間（自然生活空間）の史的変遷 自然生活空間（景観）としての造園空間、自然生活空間の原型（無主・無縁）、庭園・公園史、近代的自然生活空間の成立と展開など II. 現代における自然生活空間と造園学の課題と方法 現代における自然生活空間（自然景観）のレベル（個人・趣味のレベルから地球レベルまで）ごとの特徴、課題など。方法論の検討（特に、既存の風景論、自然-人間関係論、環境倫理学、廣松哲学とドゥルーズの生命哲学・倫理学の検討）に基づくランドスケープ学の体系化。 III. 趣味の造園学—ガーデニング入門 ガーデニングブームを探る、私のガーデニング、庭造りと栽培・鑑賞法など。 IV. 森林景観の造成・整備—その理論と実践 「出会いの連続」としての森林景観、森林景観の生態学的・文化的基本構造、自然景観モデル 林の造成・整備など おわりに				
受講要件					
テキスト	特になし。プリント配布				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	3 年次後期に開講されている「森林学」は本講義と密接に関わりあっており、予習的意味を持つ講義である。特に、「森林学」において展開される、自然の総体を「景観(landscape)」として把握する考え方の習得は、「造園学」習得の基礎となる。				
成績評価の方法・基準	履修態度（30%）とレポート（70%）。履修態度は出席率と授業への積極的参加度合いにより評価。レポートは、講義内容の理解度、授業目標の達成度によって評価する。成績評価は、これらを総合し、「秀」は 90%、「優」は 80%、「良」は 70%、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	木、金の昼休み。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	材料力学				
担当教員名	安村 基		所属等	農学部	
			研究室	農学部 A 棟 426 研究室	
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 選必
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ				
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形の関係を理解することを目標とする。				
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	1 回 材料力学の歴史 2 回 環境問題と力学 3 回 応力とひずみ (1) 4 回 応力とひずみ (2) 5 回 軸力を受ける棒 (1) 6 回 軸力を受ける棒 (2) 7 回 曲げを受けるはり (1) 8 回 曲げを受けるはり (2) 9 回 断面の性質と材料の特性 10 回 応力とたわみ (1) 11 回 応力とたわみ (2) 12 回 応力とたわみ (3) 13 回 トラスの解法 14 回 柱の座屈 15 回 材料力学の応用				
受講要件	木質機能科学、3 年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。				
テキスト	裳華房「基礎演習シリーズ・材料力学」				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール (afmyasu@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。				

授業科目名	食料経済学					
担当教員名	柴垣 裕司	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 326 研究室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	フードシステム、食の需給、食料政策、食料問題					
授業の目標	学生が経済学の理論を習得し、毎日口にする食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題についての理解を深めることを目指す。					
学習内容	我々が毎日口にしている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について改めて考えてもらうよう問題提起を行う。					
授業計画	1 : ガイダンス、フードシステムの概要 2 : 食生活の変遷と特徴 3・4 : 食の需給 5・6 : 食生活の外部化 7・8 : 農畜水産物の生産 9・10 : 食品製造業・農産加工 11・12 : 食品の流通 13 : 世界の食料問題 14・15 : 我が国の食料政策と食料問題 16 : 期末試験					
受講要件	特になし。					
テキスト	なし。プリントを配布する。					
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会					
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。					
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）で評価する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。					
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。					
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持って下さい。経済学の理論は社会に出てからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。 ・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はあり得ません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。 					

授業科目名	植物栄養学				
担当教員名	森田 明雄	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A棟 704室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境				
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。				
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。				
授業計画	1回 植物科学と植物栄養学 2回 窒素の代謝Ⅰ 3回 窒素の代謝Ⅱ 4回 多量必須元素Ⅰ 5回 多量必須元素Ⅱ 6回 多量必須元素Ⅲ 7回 微量必須元素Ⅰ 8回 微量必須元素Ⅱ 9回 植物の生育に関連深い元素 10回 肥料の種類と選択Ⅰ 11回 肥料の種類と選択Ⅱ 12回 施肥の原理と施与法 13回 植物の栄養診断 14回 環境、農業および肥料Ⅰ 15回 環境、農業および肥料Ⅱ				
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店） 「現代植物生理学（全5巻）」宮地ら編（朝倉書店） 「植物生化学」金井龍二訳（シュブリンガー・フェアラー東京）				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	授業終了後教室にて				
担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。				

授業科目名	一般昆虫学					
担当教員名	田上 陽介	所属等	農学部			
		研究室	農学部 A 棟 334 研究室			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	前期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	昆虫、分類、形態、発生、生理、生態、遺伝					
授業の目標	昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。その一端に触れてもらい、一般生物学では学べない「昆虫学」に慣れ親しんで頂く授業にします。					
学習内容	昆虫とはどのような生き物であるかを理解してもらうため、その特徴（起源、分類、形態、生理など）を詳しく解説します。					
授業計画	1回 昆虫の起源 2回 昆虫の分類 3回 昆虫の形態Ⅰ 4回 昆虫の形態Ⅱ 5回 昆虫の発生Ⅰ 6回 昆虫の発生Ⅱ 7回 昆虫の生態Ⅰ 8回 昆虫の生態Ⅱ 9回 昆虫の生態Ⅲ 10回 昆虫の生理Ⅰ 11回 昆虫の生理Ⅱ 12回 昆虫の遺伝Ⅰ 13回 昆虫の遺伝Ⅱ 14回 昆虫の内部共生 15回 環境保全と昆虫					
受講要件	2年後期の「応用昆虫学」に向けての予備知識の習得を目指しています。					
テキスト	「新応用昆虫学」（朝倉書店）を予習、復習に活用して下さい。 必要に応じて資料を配布します。					
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店）					
予習・復習について	適宜テキストや配付資料を用いて、予習・復習を行ってください。					
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。					
オフィスアワー	昼休み等に応用昆虫学研究室やA334に直接来るか、電話やE-mailで連絡してください。					
担当教員からのメッセージ	私たちの身のまわりにはたくさんの昆虫がいます。よく観察すると、それら昆虫の興味深い暮らしぶりが見えてきます。					

授業科目名	生物有機化学 1				
担当教員名	轟 泰司	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 702 号室		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	分子軌道法、反応の遷移状態、求核置換反応、脱離反応、付加反応、立体化学				
授業の目標	有機化学概論で学んだ内容を基礎として、有機化学反応の仕組みを電子論的に解説し、多様な化学反応が統一された理論に基づいて整然と起こっていることを理解させる。				
学習内容	有機化学反応の基礎となる反応各論とその反応機構の考え方、生物現象との関連など。				
授業計画	1 回 ガイダンス、電子構造と結合・酸と塩基 1 2 回 電子構造と結合・酸と塩基 2 3 回 有機化合物の基礎：命名法、物理的性質、および構造の表示法 4 回 求電子付加反応、立体化学、および電子の非局在化 5 回 アルケンの反応 6 回 立体化学：原子の空間配置：付加反応の立体化学 1 7 回 アルキンの反応：多段階合成の基礎 8 回 非局在化電子と安定性、反応性、および pKa に及ぼすその効果・より詳しい分子軌道理論 9 回 ハロゲン化アルキルの置換反応 1 10 回 ハロゲン化アルキルの置換反応 2 11 回 ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 1 12 回 ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 2 13 回 アルコール、アミン、エーテル、エポキシド、および含硫黄化合物・有機金属化合物の反応 14 回 ラジカル・アルカンの反応 15 回 NMR 分光法				
受講要件	化学概論 A, B, 有機化学概論を基礎としている。また生物有機化学 2 に引き継がれるのでここで学ぶことながらを確実に身につける必要がある。				
テキスト	ブルース有機化学第 5 版 上 (化学同人), ブルース有機化学問題の解き方第 5 版 (化学同人)				
参考書	生物有機化学がわかる講義 (清田洋正著, 講談社)				
予習・復習について	授業中に課す小テストに沿った内容の宿題を必ず課すので復習が必須である。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (70 %) および講義中に実施する小テスト (30 %)				
オフィスアワー	授業終了時、事前にメール等で連絡があれば時間を調整する。				
担当教員からのメッセージ	反応機構を書きながら考えること。手を動かすことが大切。				

授業科目名	樹木生化学				
担当教員名	西田 友昭	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 531 研究室		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、生合成、生分解				
授業の目標	樹木および森林微生物（木材腐朽菌）の生化学的機能を理解し、主体的関心を持つことを目指す。				
学習内容	樹木主要成分であるセルロース、ヘミセルロースおよびリグニンの生合成と生分解機構について講述し、これらの機構を解明することでどのような工業的応用が期待されているのかについて概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	1 回 バイオテクノロジーと森林資源、樹木成分の種類、含有量、化学構造および生理的役割 2 回 光合成機構(1) 3 回 光合成機構(2) 4 回 セルロースおよびヘミセルロースの生合成機構(1) 5 回 セルロースおよびヘミセルロースの生合成機構(2) 6 回 リグニンの生合成機構(1) 7 回 リグニンの生合成機構(2) 8 回 樹木成分生合成のまとめ 9 回 セルロースおよびヘミセルロースの生分解機構(1) 10 回 セルロースおよびヘミセルロースの生分解機構(2) 11 回 リグニンの生分解機構(1) 12 回 リグニンの生分解機構(2) 13 回 リグニンの生分解機構(3) 14 回 リグニン生分解技術の工業的応用とそのあり方 15 回 樹木成分生分解のまとめ				
受講要件	2 年生後学期の「樹木成分化学」、3 年生前学期の「木質利用化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	樋口隆昌ら：木質生化学（文永堂出版） 日本木材学会編：木質の化学（文永堂出版）				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 531 室で随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。				

授業科目名	樹木・組織学				
担当教員名	水永 博己	所属等	農学部		
		研究室	農学部 A 棟 612 研究室		
分担教員名	小島 陽一				
クラス	環境森林	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	針葉樹、広葉樹、形態、分布、生態、材の形成、細胞、構造				
授業の目標	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について解説する。また木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等を中心に講義する。樹木の形態・生態および成長・組織に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について学ぶ。木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等について学ぶ。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	<p>1. 木材組織学 (8 回) 木材の組織学・解剖学的見地から樹木の生長・細胞構成、さらには細胞壁微細構造について学ぶ。 樹木の成長と樹幹の形成 (2 回) 針葉樹の細胞構成 (1 回) 広葉樹の細胞構成 (2 回) 木材のマクロ構造と細胞壁の微細構造 (1 回) 木材の欠点と材質 (1 回) 筆記試験 (1 回)</p> <p>2. 樹木学 (8 回) 樹木の同定方法や生活史あるいは森林植生の分布について学ぶ。陸域自然生態系の環境を学習するための基礎となる知識を身につける。 1: 樹木の生活戦略 針葉樹 V S 広葉樹 常緑樹 V S 落葉樹 2: 多様な森林植生タイプと分布 3: 樹木の検索技術の基礎 4-6: 身近な樹木の同定 (野外講義) 7: 樹木同定小テスト: 樹木紹介のプレゼンテーション演習 8: 森林植生論小テスト: 樹木紹介のプレゼンテーション演習</p>				
受講要件	「造林学」・「森林生態学」・「木質機能科学」等の講義、「樹木学実習」等の実習、「環境木質材料学実験」等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	尼川・長田著 「検索入門 樹木 (総合版)」(保育社) 古野・澤辺 編「木材科学講座 2 組織と材質」(海青社)				
参考書	「日本の野生植物 木本 (フィールド版)」(平凡社) 矢頭 著「樹木学」(朝倉書店), 島地・伊東 著「図説 木材組織」(地球社), 島地・須藤・原田 著「木材の組織」(森北出版)				
予習・復習について	身近な野山など自然フィールドや緑地公園に積極的に足を運び、樹木と触れ合う時間を積極的に設けること。復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	プレゼンテーション・レポート・中間テスト・学期末試験の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	随時・但し事前にメール等で連絡すること (水永) 毎週木曜日の昼休み・農学部 A 棟 405 室 (小島)				
担当教員からのメッセージ	樹木学および木材組織学の両者を総合して成績評価します。				

授業科目名	フランス語学概論				
担当教員名	浅野 幸生	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人文A棟408		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード	基礎力				
授業の目標	1年間フランス語初級を学んだ人を対象に、中級以上のレベルに到達できるよう指導する。				
学習内容	語学力の核は語彙と文法の正確な知識です。これらは継続的で地道な努力によってのみ獲得しうるものです。今年は、少し高度な文法書と豊富な読書（もちろんフランス語の）量でこの目標を達成したいと思います。通年の授業なので、易しめのテキストから始め、徐々にレベルを上げていくようにします。				
授業計画	<p>通年の授業ですが、前半と後半の二つに分けてそれぞれの課題を達成したいと思います。</p> <p>この授業は1年間（またはそれ以上）フランス語を学んである程度の基礎ができている人を対象としますが、（おそらく今まで使ってきたものよりは）少しだけレベルの高い文法書を用いて中級レベルの基礎をしっかり身につけたいと思います。今年は「仏作文をしながら文法を身につける」教材を選択したので、下記のテキストを生協で調達しておいてください。</p> <p>量が多いので勉強の仕方が正しければ相当の効果が期待できると思います。</p>				
受講要件	フランス語を1年（以上）学習した人。				
テキスト	『初歩のテーマ』（石井晴一、三修社）を生協で購入してください。				
参考書	フランス語の辞書。				
予習・復習について	予習が大切。				
成績評価の方法・基準	平常点と試験による。				
オフィスアワー	月14:20～15:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	民法総論				
担当教員名	藤巻 梓	所属等	人文社会科学部		
		研究室	人 A617		
分担教員名					
クラス	人文専門	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	民法、民法総論、民法総則				
授業の目標	私たちが社会生活を送るうえで最も基本的な法律である「民法」の意義と、その社会的機能を考える。私法の一般法と呼ばれる民法を学ぶことは、法律学の重要な基礎となるものであり、他の法律を学ぶにおいても重要な意義を有する。この講義では、民法の体系を把握したうえで、その基本的な考え方を身に付けてもらいたい。民法総則という領域は、抽象的な規定も多く、難易度も高いので、講義では、判例や具体例を用いながらできるだけ平易に解説をすることを心がけたい。				
学習内容	民法の全体像を把握したうえで、民法全体を規律する総則について学修する。				
授業計画	1回 イン트로ダクション 民法の意義と基本原理 2回 民法の全体像（1） 3回 民法の全体像（2） 4回 権利能力、意思能力 5回 未成年者 6回 成年後見制度 7回 意思表示 8回 心裡留保 9回 虚偽表示（1） 10回 虚偽表示（2） 11回 錯誤（1） 12回 錯誤（2） 13回 詐欺と強迫 14回 法律行為の有効要件（90条・91条） 15回 消費者契約法				
受講要件	平成16年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法」に読み替える。平成22年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法総論・不法行為法」に読み替える。				
テキスト					
参考書	田山輝明『民法総則（第三版）』（成文堂）、佐久間毅『民法の基礎Ⅰ総則（第3版）』（有斐閣）、池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）、「民法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔別冊ジュリスト）』（有斐閣）等。詳細は講義時に指示する。				
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易ではない分野も多いので、講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	学期末の試験期間内に実施する試験で評価する。その他、講義期間内に小テストを実施する予定であるが、詳細は講義の際に適宜指示する。				
オフィスアワー	初回講義時に指定する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） 教科書は必ず購入すること。また、「六法」については、いずれの出版社でもよいが、最新のものを購入し、授業時には必ず毎回持参すること。その他、講義の進行に関する注意事項は、初回の講義時に説明する。				

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	藤間 信久		所属等	工学部	
			研究室	共 307	
分担教員名					
クラス	工C 2	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11回 ビオ・サバールの法則、ソレノイド（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、およびソレノイドコイル内に発生する磁場について述べる） 12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14回 回路の過渡現象（抵抗 R、コンデンサー C、コイル L からなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す） 				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が 70%程度、演習・レポート等が 30%程度である。				
オフィスアワー	質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				
担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、藤間、中島がそれぞれ担当する。				

授業科目名	微分積分学 I				
担当教員名	足達 慎二	所属等	工学部		
		研究室	共通棟 404 室		
分担教員名					
クラス	工 5	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	逆三角関数、連続、微分、テイラーの定理、ロピタルの定理、定積分、原始関数				
授業の目標	項目としては高等学校で学んでいるものもかなりある。それらの理論を再度学習し、その概念を理解することに努め、それらを発展させる。特に、新しい内容である逆三角関数、テイラーの定理については十分理解できるようになること。				
学習内容	微分積分学については既に高等学校でかなり学んできているが、それらをさらに発展させた 1 変数関数の微分積分学についての学習。				
授業計画	1 回 ガイダンス、極限・連続性 2 回 三角関数・逆三角関数 3 回 指数関数・対数関数、微分可能性・導関数 4 回 合成関数の微分法、逆関数の微分法 5 回 高次導関数 6 回 テイラーの定理 7 回 テイラー級数 8 回 ロピタルの定理 9 回 定積分の定義とその性質 10 回 定積分の定義とその性質 11 回 部分積分法 12 回 置換積分法 13 回 有理関数の積分 14 回 無理関数・三角関数の積分 15 回 まとめと演習				
受講要件	この科目はクラス指定がある。指定されたクラス以外での履修は無効となるので注意すること。再履修生についても同様である。(クラスの指定は学期前に別途掲示する)				
テキスト	「工学系の微分積分学」 星賀彰 他著 (学術図書出版社)				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	この講義の内容は多く、また数学は聞いているだけでは身につかないので、必ず予習・復習を行うこと。課題が課せられることも多い。				
成績評価の方法・基準	次の基準に基づき評価する。 秀 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。 優 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。 良 = 1 変数の微分積分学の基礎を十分理解している。 可 = 1 変数の微分積分学の基礎をおおよそ理解している。 不可 = 1 変数の微分積分学の基礎を理解していない。 期末試験を行う。期末試験では、全クラス同じ問題を出題する。 前期試験の成績によって、後期は習熟度別のクラス編成を行う。				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟 1 階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	力学・波動 I				
担当教員名	藤間 信久		所属等	工学部	
			研究室	共 307	
分担教員名					
クラス	工 3	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	運動の 3 法則、力、運動量、運動エネルギー、位置エネルギー、力のモーメント、角運動量				
授業の目標	1. 力学の基礎概念を数学的に表現する方法の修得 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解				
学習内容	1. 位置、速度、加速度、力など、力学における基本的概念の、ベクトルおよび微分積分法を用いた表現方法を修得する。 2. 運動の 3 法則と 1 質点の運動の理解。基本的な法則を理解し、これを工学の各分野で応用するためには、力学・波動の概念を自分のものにすることが必要である。 この講義では高校の物理学で学んだ内容を、より応用範囲の広い微分積分を用いた厳密な形で学ぶ。それを基礎的な問題に適用することや、運動の 3 法則から様々な物理法則が導かれることも学ぶ。				
授業計画	1 回 概要（講義の目的、必要性。高校での物理学および数学の復習） 2 回 質点の位置、速度、加速度とそのベクトル表示（ベクトル関数の微分・積分） 3 回 簡単な運動の表現。位置から速度、加速度、あるいはその逆を求める 4 回 運動の 3 法則（慣性の法則、運動方程式、作用反作用の法則）、慣性系 5 回 運動量と力積。運動量保存則 6 回 物体に働く力と運動方程式 I（重力、摩擦力） 7 回 物体に働く力と運動方程式 II（ばねの力） 8 回 運動方程式を解く I（等加速度運動） 9 回 運動方程式を解く II（2 階常微分方程式の解法） 10 回 運動方程式を解く III（振子の運動） 11 回 仕事と保存力（位置エネルギー） 12 回 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 I 13 回 運動エネルギーと力学的エネルギー保存則 II 14 回 角運動量と力のモーメント（ベクトル積による表現） 15 回 角運動量保存則と中心力				
受講要件	特になし。ただし、講義内容をスムーズに理解するためには、高校での数学(微分・積分・ベクトル等)や物理学の修得が必須。				
テキスト	テキスト：「力学・波動」（浅田他著，日新出版）ISBN978-4-8173-0196-3				
参考書	物理入門コース 1「力学」（戸田盛和著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000076418 同「例解 力学演習」（戸田盛和・渡辺慎介著，岩波書店）ISBN-13: 978-4000077910				
予習・復習について	本授業はある概念を理解し、それを用いて次の概念を理解するという積み上げの学習である。各項目は別々に理解できるものではないので、その意味でも予習・復習は欠かせない。 特に教科書の例題・章末問題、授業中行う演習問題やレポート問題について十分な予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	1. 講義の際に行われる演習問題（小テスト，レポートを含む） 20% 2. 全クラス統一期末試験 80%				
オフィスアワー	教員によって異なります。講義時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	この講義は、学科単位ではなく、センター試験・個別試験等の成績に基づいたクラス編成で行う。受講クラス・教室などをよく確認すること。				

授業科目名	離散数学				
担当教員名	中谷 広正		所属等	情報学部	
			研究室	J-1605	
分担教員名					
クラス	情CS	学期	前学期		必修選択区分 必,選必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月9・10
キーワード	集合、関数、論理、関係、順序、グラフ、代数系				
授業の目標	集合・写像・論理・関係・グラフ理論・代数系などの概念を講義し、離散数学の考え方・証明法を教授する。集合論を理解した上で、その上に定義された概念を理解し、定義・定理・原理の抽象的表現から共通の性質を見いだす能力を養成する。これにより、情報の分析能力および論理的思考能力・理解力・表現力・問題解決能力の養成の基盤を形成することが本科目の目的である。情報科学専門家として問題を表現するときや解決法を表現するときに基本的な道具としてそれらを使えるようになることが目標である。				
学習内容	1. 集合と論理 集合・集合の演算・要素の個数・命題・論理演算・論理式・証明 2. 関係と写像 関係・直積集合・関係の表現・同値関係・写像・置換・可付番集合 3. 代数系 代数系・交換律と結合律・単位元と逆元・半群・群・巡回群・対称群・環・体・多項式環 4. 順序集合と束 半順序と全順序・ハッセ図・上限と下限・束・ブール代数 5. グラフ グラフ・経路・いろいろなグラフ・平面的グラフ・オイラーグラフ				
授業計画	1. 論理計算 2. 離散集合 3. 写像 4. 剰余演算 5. 離散代数 6. 離散代数 7. (試験) 8. (復習) 9. 離散関係 10. 離散関係 11. 離散グラフ 12. 木グラフ 13. 順序の数学 14. (試験) 15. (復習)				
受講要件					
テキスト	宮崎,新谷,中谷, 理工系のための離散数学, 東京図書, 2013.				
参考書	小倉久和, はじめての離散数学, 近代科学社, 2011. ISBN978-4764910546 石村園子, やさしく学べる離散数学, 共立出版株式会社, 2007. ISBN978-4-320-01845-4 Seymour Lipschutz, マグロウヒル大学演習 離散数学, オーム社, 1995. ISBN4-274-13005-3 M. A. アービブ他, 計算機科学入門, サイエンス社, 1984. ISBN 978-4-7819-0375-0				
予習・復習について	復習: 学習項目に関して教科書にある問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	小試験・定期試験・報告書の成績を合計する。				
オフィスアワー	木金 12:30-13:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	岡部 拓也	所属等	工学部		
		研究室	共通 303		
分担教員名					
クラス	工A	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11回 ビオ・サバールの法則（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる） 12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14回 回路の過渡現象（抵抗 R、コンデンサー C、コイル L からなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す） 				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が 70%程度、演習・レポート等が 30%程度である。				
オフィスアワー	質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				
担当教員からのメッセージ	システム工学科は1つのクラスのみで、岡部が担当する。				

授業科目名	哲学				
担当教員名	吉田 寛	所属等	情報学部		
		研究室	J-2735		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード					
授業の目標	自分の身の回りのこと、社会と自分の生き方との関係、自然と人間の関わり、文化とライフスタイルなどについて実在論を中心として哲学的に考える経験を通して、哲学的に考える力を養う。				
学習内容	<p>哲学的実在論をめぐるさまざまな論点を検討する。</p> <p>哲学にはさまざまな問題があるが、今回はそれらに実在論／反実在論という哲学的立場を意識してアプローチする。</p> <p>実在論とは、人間の意識や認識、関わりとは独立に自立存在する存在者があるという立場である。ふつう、人間は自分の意識や認識が断絶しても、たとえ人間が絶滅しても、何か世界は存続しているはずだと考えるかもしれない。しかし、我々は自分が認識しているものしか認識できないのであるから、我々が認識していない生の実在については普通のいみでは認識できていないはずである。</p> <p>今回の議論では、こうしたいみでわれわれが普通に認識している彼方にある「何か」をめぐって哲学的思考を展開したい。できるだけ身近な題材を取り上げて、受講者が自分の身の回りの問題として考えられるようにしたい。</p>				
授業計画	<p>だいたい下記を順に扱いたい。</p> <p>できるだけ新聞や雑誌などの文章、映像などの資料を用いて、具体的なイメージを湧かせながら議論したい。</p> <p>1：哲学的実在論 哲学史を解説 2：実在と認識 意識の問題、クオリア、バーチャルリアリティと虚構 3：実在と意味 真理と意味、規約主義とナンセンス、アフォーダンス 4：実在と身体 感覚とは何か、健康とは何か、整形とエンハンスメントについて 5：実在と社会 人工物と社会、自然と災害、共生の技術、教育と成長</p>				
受講要件	「問い」を楽しむ力				
テキスト	なし				
参考書	<p>授業中に紹介しますが、とりあえず下を挙げておきます。</p> <p>野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書 鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』講談社現代新書 永井均『ウィトゲンシュタイン入門』ちくま新書</p>				
予習・復習について	自分で本を探して読んだり、授業で提示されたことについて考えたり書いたりしてみてください。そういう経験自体がこの授業の目的です。				
成績評価の方法・基準	最終レポート（60-70%）と授業内での数回の小レポート（30-40%）				
オフィスアワー	水曜お昼休み 情報学部 2号館 7階 2735室				
担当教員からのメッセージ	<p>哲学の問いは、いわば私たちの生活や社会の「前提」「ルール」に関わるものです。生活や社会は、前提を前提として何かを考え、ルールをルールとしてゲームとしての活動を行っているわけです。</p> <p>したがって、哲学は通常の意味での「考え」や「活動」とは異なる営みだと思います。そこに関心を持つことにどういう意味があるか、関心を持つ必要があるのかについては、授業で検討しましょう。少なくとも、そうしたいみでの前提やルールへの哲学的な関心や問いに興味を持っている人は、授業を楽しんでもらえると思います。</p>				

授業科目名	経済と社会				
担当教員名	高口 鉄平	所属等	情報学部		
		研究室			
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	経済問題、さまざまな政策、経済学				
授業の目標	日々、経済に関するさまざまな政策が立案、施行されている。それらの政策はどういう考えに基づいて立案されているのか。それらの政策はほんとうに望ましいのか。この授業では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指す。				
学習内容	経済学と一口に言っても、考え方を異にするさまざまな経済学が存在する。また、歴史的に見ると、これまで支持される経済学は変わってきた。この授業では、現在中心的な存在となっているミクロ経済学・マクロ経済学を中心にその考え方を解説するが、その他の経済学についても可能な限り取り上げる。特定の経済学を深く学ぶよりも、さまざまな経済学を幅広く知ることができるような内容とする。また、理論的な解説に終始することなく、時事問題を取り上げ、経済学が現実の問題を考えるうえで一定の有効性があることを実感できるような内容とする。				
授業計画	<p>授業の構成はつぎのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（1回） ・経済学とはなんだろうか（1回） ・ミクロ経済学の考え方（4回） ・マクロ経済学の考え方（4回） ・新たな経済学①：組織の経済学（3回） ・新たな経済学②：行動経済学、実験経済学（1回） ・経済学に対する批判（1回） <p>回数の割り当ては、授業の進行により適宜調整する。</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	毎回、復習および授業内容に対する自分なりの検討を行うことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	数回実施するレポートにより評価する。				
オフィスアワー	随時対応しますが、事前にアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	関心の中心は他にあるかと思いますが、経済にも興味を持ってくれることを期待しています。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	藤井 史朗		所属等	情報学部	
			研究室	J-2829	
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	現代社会、歴史、産業、社会学、社会システム、情報、メディア、共同、コミュニケーション				
授業の目標	主に現代日本社会を念頭において、現代社会の歴史的成り立ちと基本構造、世界の中での現代日本社会について、社会学的視点から全体連関を明らかにさせつつ描写したい。				
学習内容	現代社会の構造理解に連なる形で、人類史上のトピックについて、相互連関を含めて理解する。また現代日本社会の基本的問題について、歴史経過と世界社会のインパクトとの関係で理解する。				
授業計画	<p>1回 現代社会を捉える基本的視点と論点。講義の全体概要。ヒト社会の特徴。</p> <p>2回 現代社会の歴史的背景①—人類初期の共同社会と相互抗争・戦争。奴隷制の成立。古代アジア社会の特徴。</p> <p>3回 現代社会の歴史的背景②—西洋奴隷制社会の崩壊と封建制社会の成立。中国の宋王朝の特質。</p> <p>4回 現代社会の歴史的背景③—西洋資本制社会の成立と植民地拡張の軌跡。</p> <p>5回 現代社会の歴史的背景④—二度の世界大戦と日本。</p> <p>6回 現代社会の歴史的背景⑤—冷戦体制と戦後日本社会の特徴。</p> <p>7回 現代社会の歴史的背景⑥—冷戦体制の崩壊とグローバル化下の日本社会。9.11事件の意味。</p> <p>8回 現代社会の歴史的背景⑦—21世紀の世界動向と日本社会の基本的問題。</p> <p>9回 現代日本社会の基礎構造①—「日本の経営」の解体と日本企業の展開。</p> <p>10回 現代日本社会の基礎構造②—ICTの発展と情報産業の展開。</p> <p>11回 現代日本社会の基礎構造③—外国人労働者問題。</p> <p>12回 現代日本社会の基礎構造④—ワーキング・プア問題。</p> <p>13回 現代日本社会の基礎構造⑤—学校社会と「いじめ」問題。</p> <p>14回 現代日本社会の基礎構造⑥—マス・メディアの問題。</p> <p>15回 現代日本社会の基礎構造⑦—今後の日本社会を拓く課題と自己形成。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	指定した重要な文献については、できる限り独習してほしい。また、関心を持ったテーマについて、自ら調べ、考えることを期待する。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の最後に「質問票」を配り、記入してもらおう。その累積点と最終レポートによって評価する。				
オフィスアワー	原則として講義・ゼミ以外で研究室にいるときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、私がこれまで検討してきた大卒の世界観を再吟味・再構成する機会としても考えている。部分内容としては、情報学部における私の講義(情報学概論I、情報職業論、現代社会システム論など)と重なるところもある。				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	梅本 宏信		所属等	工学部	
			研究室	共 504	
分担教員名					
クラス	情	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学(科学)」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとって、現代化学(科学)の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学(科学)の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。具体的内容は、受講生の希望によって、変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学 2. 銅と酸化還元(10円玉とブロンズ像の化学) 3. 鉄と磁性(磁石は日本のお家芸) 4. 水銀と環境問題(科学進歩の立役者との惜別) 5. 環境問題パート2(公害問題から環境問題へ) 6. エネルギーに関する基本法則 7. エネルギー資源1(化石燃料) 8. エネルギー資源2(核エネルギー) 9. 新エネルギー1(太陽光発電) 10. 新エネルギー2(燃料電池) 11. 地球環境問題(地球大気の変遷、酸性雨、温暖化、オゾン層の破壊とフロン) 12. 化学反応動力学と薄膜堆積技術(ちょっと我田引水) 13. みえるものとみえないもの(走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか?) 14. 科学と似非科学(カール・セーガンの遺書) 15. 科学者の直感と倫理(メンデル、ミリカン、そしてファン・ウソク(黄禹錫)) 				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	<p>芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4</p> <p>今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3</p> <p>カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」 新潮社 ISBN4-10-519203-5</p>				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	月曜日の午前8時から9時を予定しているが、変更の可能性もある。これ以外でも受け付けるが、事前にメールで予約することを勧める。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	地球科学				
担当教員名	岩崎 一孝	所属等	情報学部		
		研究室	J-2721		
分担教員名	岩田 太				
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	自然地理学、気候学、大気大循環、降水量分布、砂漠、オーストラリア				
授業の目標	大気大循環によってもたらされる様々な気候地域について、自然地理学の立場から解説することをこの授業の第一の目的とする。全陸地面積の3分の1を占めると言われ、砂漠化などの環境の劣化が問題になっている乾燥地域、半乾燥に焦点を当て、オーストラリアを例として、最近の環境問題について解説を試みる。				
学習内容	大気大循環と世界の降水量分布。オーストラリアの自然環境。				
授業計画	1回 授業内容、評価の仕方などの説明。 2回 大気の鉛直構造と水平構造。 3回 大気の大循環と世界の気候分布。 4回 前線帯、気団とアリソフの気候区分。 5回 地図実習。世界の降水量分布。 6回 熱帯の気候 アフリカの気候地域。 7回 地図実習。アフリカの降水量分布。 8回 中緯度の気候 「日本の季節は6つある」。－日本の気候 その1－ 9回 日本の気候 その2 冬季の気候。 10回 乾燥の大陸としてのオーストラリア大陸。 11回 地図実習。オーストラリアの降水量分布。 12回 オーストラリアの自然環境。海洋島としてのオーストラリア大陸。特異な生物相。 13回 オーストラリアの自然環境。平坦な大陸。 14回 オーストラリアの土地利用と砂漠化問題。 15回 授業のまとめ。				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキスト 指定しない。プリントを配布。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	レポート作成においては、授業内容を理解していることを前提にした課題を課します。				
成績評価の方法・基準	2回のレポートに、授業中に行う3回の地図実習を加味して判断します。評価基準については、第1回目の授業時に説明します。				
オフィスアワー	火曜日昼休み～第5/6時限目、変更の場合は授業中に明示します。				
担当教員からのメッセージ	受講生が授業に毎回出席していることを前提に授業を進めます。				

授業科目名	法と社会				
担当教員名	橋本 誠一		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 609	
分担教員名					
クラス	情工 1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	法の支配、国際政治、歴史、理論				
授業の目標	「法の支配」をめぐる国際政治の現状を踏まえながら、その概念的意味を歴史的・理論的に考察します。その際、授業で重視しているのは、基礎的知識を身につけるだけでなく、「概念で思考する」訓練を行うことです。そうした作業を通して、「法の支配」をめぐる基礎的教養の修徳を目指します。				
学習内容	「法の支配」の歴史・理論・現状を学ぶ。				
授業計画	1回 はじめに 2回 「法の支配」の古典的起源 3回 「法の支配」の中世的淵源 4回 「法の支配」と自由主義 5回 ロック、モンテスキューなど 6回 保守主義者の警告 7回 急進左派の役割 8回 第1回小テスト 9回 「法の支配」の形式論 10回 「法の支配」の実質論 11回 「法の支配」をめぐる3つのテーマ 12回 「法の支配」の国際水準 13回 「法の支配」は普遍的善か？ 14回 補論－「法の支配」と法治国家論 15回 第2回小テスト				
受講要件	とくになし。				
テキスト	Brian Z. Tamanaha, <i>On the Rule of Law: History, Politics, Theory</i> , Cambridge University Press, 2004 (四本健二監訳／神戸大学大学院国際協力研究科四本ゼミ訳『「法の支配」をめぐる－歴史・政治・理論』現代人文社、2011年。ただし誤訳が多すぎる。)				
参考書	各講ごとの参考文献は、その都度紹介します。				
予習・復習について	小テストに合格するためには、ある程度の復習が必要です。				
成績評価の方法・基準	①小テストと②Enmaカードの合計点で成績を評価します。①小テストは《1回35点満点×2回＝70点満点》とし、穴埋め式と論述式の問題を出題します。なお、ノートや資料の持ち込みは「可」とします。②Enmaカードは《15回×2点満点＝30点満点》です。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	原田 伸一郎	所属等	情報学部		
		研究室			
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	立憲主義、リベラル・デモクラシー、個人主義、人権、統治機構				
授業の目標	この講義は、日本国憲法の内容や、それにまつわる議論の紹介を通じて、日本国憲法の全体像を理解することと、およそ憲法とは何か、憲法がなぜ必要なのかを原理的に思考することをねらいとしています。到達目標は、憲法について、中学・高校での学習よりも理解を深めるとともに、新しい見方・パースペクティブをも獲得することです。				
学習内容	下記の予定で、ほぼテキストの構成に沿って授業を行います。テキストの内容を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。授業では、テキストの内容を踏まえたうえで、その問題意識や議論の争点を、より正確に、多面的に理解できるよう、さまざまな素材を提供します。それらを思考のヒントとして、憲法が個人の生き方とどう関わるのか、自分なりに考えていただきたいと思います。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 オリエンテーション／立憲主義 3回 表現の自由 4回 学問の自由／信教の自由と政教分離 5回 財産権／職業選択の自由 6回 人身の自由 7回 社会権 8回 参政権 9回 平等 10回 包括的基本権 11回 誰の権利を保障するのか 12回 代表民主政の原理 13回 代表民主政の機構 14回 平和主義 15回 憲法の改正				
受講要件	特にありません。				
テキスト	長谷部恭男、『憲法入門』、羽鳥書店、2010、9784904702055、2200円＋税				
参考書	授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	テキストの該当する部分を読んでください。1回につき10ページ前後です。テキストを読んでから授業を受けるか、授業を受けてからテキストを読むか（あるいはその両方か）は自由です。				
成績評価の方法・基準	平常点40%、学期末試験60%とします。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーにより評価します。試験では、憲法に関する知識・理解度と、思考力・論述力の双方を評価します。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	この授業をきっかけとして、どうか自分なりの「憲法観」を築いてください。それが私の望みです。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	坂井 敬子	所属等	大学教育センター		
		研究室	共C401		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	心理学、心、社会、人間				
授業の目標	1. 主に人間の認知や行動のメカニズムについて知識を習得する。 2. 心理学の知識に基づいて、社会における様々な現象を考え、説明することができる。 3. 自らの生活への応用を積極的に考えようとする。				
学習内容	初回はガイダンス。授業の進め方など事務的事項の他に、この授業で何を目標としてほしいのかを説明する。 2回目から14回目までは、社会心理学、認知心理学、学習心理学、神経心理学、発達心理学などにおける興味深いトピックを紹介する。15回目では、最終レポートに向けてまとめを行う。				
授業計画	1. ガイダンス：授業の概要・評価方法、授業「心理学」で何を目標として欲しいか 2. 対人認知：印象形成、ステレオタイプ etc. — 私たちは他者をどう捉えるのか 3. 対人関係：説得、対人魅力 etc. — 良好な人間関係の秘密 4. 自己：自己の二重性、ポジティブ幻想 etc. — 私たちは自分をどう捉えるのか 5. 対人行動：援助行動、攻撃行動 etc. — なぜあの人はそうしたのか 6. 社会的圧力：同調、服従、監獄実験 etc. — 状況が私たちを変える 7. 記憶：記憶モデル、文脈との関連 etc. — 記憶促進へのヒント 8. 学習：条件づけ、観察学習 etc. — 経験が私たちを変える 9. 神経：大脳機能の側性化、神経伝達物質 etc. — 脳の深い謎 10. 知覚：アフォーダンス、錯視 etc. — 私たちは外界をどう捉えるのか 11. 思考：知識・言語、エラーやバイアス etc. — 私たちの思考の特徴とクセ 12. 子どもの発達：認知や言語の発達、養育者 etc. — 赤ちゃんを理解する 13. 青年の発達：思春期、アイデンティティ etc. — 私たちの長い迷い 14. 大人の発達：職場、家族、高齢者 etc. — 多様な人生、豊かな人生 15. まとめ：これまでのまとめと考察 ※上記授業計画は、授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。				
受講要件	特になし。				
テキスト	特にテキストは設けないが、下記に参考書を挙げる。				
参考書	※A・Bのリストから、それぞれ少なくとも1冊を選び読んで欲しい。 A (心理学の概論書；順不同) ・兵藤宗吉・緑川晶編『心の科学—理論から現実社会へ』(ナカニシヤ出版, 2010年) ・無藤隆ら編『よくわかる心理学』(ミネルヴァ書房, 2009年) B (心理学的読み物；順不同) ・下條信輔『サブリミナル・マインド—潜在の人間観のゆくえ』(中央公論社, 1996年) ・市川伸一『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』(中央公論社, 1997年) ・山岸俊男『社会的ジレンマ—「環境破壊」から「いじめ」まで』(PHP研究所, 2000年)				
予習・復習について	【予習】授業計画における用語を参照しながら、上記Aで挙げた概論書に目を通しておく。 【復習】授業を踏まえ、再度概論書を理解する。授業で話されなかったトピックについては、随時質問を受け付ける。 【レポート】Bリストの書籍から1冊を選んでもらいレポートの課題とする予定。書籍は変更となる場合があるので注意のこと。				
成績評価の方法・基準	学期中間レポート(40%)、学期末レポート(60%)。 ※レポート締切の予定は、中間レポートが5月下旬、期末レポートが8月初旬。詳細は後日連絡。 ※規定回数以上の出席がないと単位は認められない。出席はコメントペーパーで報告。 ※コメントペーパーには、感想、意見、質問、要望などを記述し、毎回授業後に提出のこと(内容は採点の対象とならない)。次回の授業で一部をフィードバックする。				
オフィスアワー	この授業の前後(火曜日9:30-12:00)。授業前ならば講師控室、授業後なら教室で。 研究室は静岡にあるので、上記以外の時にはメールで。アドレスは授業内で告知。				

担当教員からのメッセージ	座学が中心となるが、日々のコメントペーパーや不定期に行うディスカッションなどで、大いに意見を表明して欲しい。
--------------	--

授業科目名	科学と技術				
担当教員名	平田 邦夫		所属等	工学部	
			研究室	R504	
分担教員名	中村 篤志				
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード					
授業の目標	「科学と技術」では、科学（物理界を支配する理論や原理を明確にする）と技術（科学的な知識を基にして実用的な機械を生産する）の実例を学ぶことにより、科学と技術のかかわりについて学生の理解を深め、今日の高度に発達した科学技術社会に対応する力を養うことを目的とします。				
学習内容	この授業では、機械分野の「ロケットの宇宙飛行」と「光とレーザーの精密計測」を取り上げ、先端技術のロケット、光やレーザーについて、科学（理論：唯一解）の観点と技術（実用：多様解）の観点から解説し、科学や技術に関する教養的基礎知識を習得します。				
授業計画	1. ロケットの宇宙飛行（担当：平田） 0.0 受講者の決定・・・抽選作業 1.1 軌道力学・・・宇宙空間とは、人工衛星の飛行軌道 1.2 重力飛行・・・ロケットの飛行経路、誘導制御、打上げ運用 1.3 ロケット・・・ロケットの飛行原理、実用ロケットの技術 1.4 エンジン・・・エンジンの推進原理、実用エンジンの技術 1.5 信頼性・・・ロケットの故障、信頼性の向上 1.6 水素燃料・・・液化水素（未来エネルギー）の特徴、取扱技術 1.7 開発手法・・・ロケット（大型プロジェクト）の技術開発 2. グリーンテクノロジーとナノ材料（担当：中村） 2.1 再生可能エネルギー・・・太陽エネルギー、風力、バイオマス、水力、地熱 2.2 要素技術・・・エレクトロニクス、材料技術、ナノテクノロジー 2.3 半導体製造技術・・・バルク結晶、薄膜成長、グリーン半導体材料 2.4 太陽電池と周辺技術・・・発電原理と種類、メガソーラー 2.5 二次電池技術・・・蓄電池（リチウムイオン電池他）、自動車の電化 2.6 燃料電池と水素利用・・・原理と種類、水素社会 2.7 スマートエネルギー・・・エナジーハーベスティング、省エネ技術				
受講要件	授業に出席し、受講、議論参加、レポート提出に積極的に取り組むことを約束できること。				
テキスト	特にテキストは使用せず、随時プリントを配布します。				
参考書	ロケットを飛ばす（上條謙二郎・平田邦夫共著、オーム社） 光とレーザー（陳・山本、オーム社）				
予習・復習について	授業に関連して予習および復習のレポートを課すので、レポートに十分な時間を費やすことが求められます。				
成績評価の方法・基準	学習に積極的に取り組んだか、教養的基礎事項を理解できたかを評価基準として、記述試験およびレポート提出を勘案して総合的に評価します。				
オフィスアワー	毎週木曜日の5・6時限をオフィスアワーとして設けています。				
担当教員からのメッセージ	この授業では、現代社会に溢れる高度な科学技術上の事柄を理解する力を養うために、学生が主体的に自らの力で考えて理解する習慣を身に付けることに重点を置きます。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ				
担当教員名	田中 終子		所属等	情報学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード					
授業の目標	フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するときに、すぐ使えるフランス語を身に付けることを目的とします。				
学習内容	教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	1回 Lecon 0 フランス語の基礎 2回 Lecon 1 自己紹介をする1 3回 Lecon 1 自己紹介をする2 4回 Lecon 2 今住んでいるところや出身地について話す 5回 Lecon 3 交通手段について話す 6回 Lecon 4 アルバイトについて話す 7回 復習 8回 小テスト 9回 Lecon 5 ペットなどについて話す 10回 Lecon 6 科目・先生について話す 11回 Lecon 7 食べ物について話す 12回 Lecon 8 家事について話す 13回 Lecon 9 家族について話す1 14回 Lecon 9 家族について話す2 15回 復習				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト30%、期末試験40%				
オフィスアワー	前期 水曜7・8限 研究室（情報学部2号館7階2707）				
担当教員からのメッセージ	この授業ではあまり細かいことは考えずに、フランス語の表現をそのまま、まるごと覚えてもらいます。フランスを旅行したときや、フランス人と出会ったときに「自然に」フランス語が出てくるといいですね！				

授業科目名	線形代数学 I および演習				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 8	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6,火 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。 2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。 3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。 4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。 5、平面上の一次変換と2次正方行列との関係を理解する。 6、2次および3次の行列式の取り扱いに慣れる。 7、固有値・固有ベクトルを求め、2次対称行列の対角化ができるようになる。 				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な2本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 平面ベクトル・平面図形 2回 空間ベクトル、外積とその性質 3回 ベクトルの一次独立・一次従属 4回 空間内の直線 5回 空間内の平面 6回 一次変換の定義と例 7回 より複雑な一次変換 8回 一次変換の像 9回 逆変換と行列式 10回 一次変換と連立一次方程式 11回 面積・体積と行列式 12回 2次対称行列の固有値・固有ベクトル 13回 2次対称行列の対角化 14回 2変数の二次形式 15回 2次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」「数学 C」のすべてを履修していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の2回試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	心理学				
担当教員名	漁田 武雄		所属等	情報学部	
			研究室	J-2525	
分担教員名					
クラス	情工2	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	自己理解、学習、自己、自我				
授業の目標	この講義では、「自分を知る」ということをテーマとして、心理学の基礎理論やそれを実証するために行われた実験を理解することを目的とする。				
学習内容	<p>心理学は「こころ」の科学である。すなわち、研究対象が「こころ」、研究方法が「科学」という学問である。科学とはいうものの、「こころ」という得体の知れないものを対象としているだけに、なかなか一筋縄では行かない。またそれが心理学の楽しさでもある。</p> <p>また、これらの基礎理論や実験とともに、現実場面へのさまざまな応用例も取りあげる。まだまだわからないことだらけの心理学であるが、これまでに明らかになってきた「こころ」の法則は、教育や治療などの世界で応用され、着実な成果をあげている。</p>				
授業計画	<p>オリエンテーション この講義について、評価の方法、レポートの書き方、受講のQ&A</p> <p>第1章 自分の心 自分の感情 感情の認知説、デートはつり橋で 自分の心と体 空腹感、ダイエット、拒食症 自分の目と他人の目 ごほうびの効果、勉強しなさい</p> <p>第2章 心の形成 パブロフの条件反射 因果関係スキーマ、恐怖の学習、恐怖症の治療 オペラント条件づけ ほめること叱ること、無気力の学習、トイレット・トレーニング 観察学習 テレビと暴力、体罰 学習と目標 算数嫌いがなおった</p> <p>第3章 自己と自我 自我の機能 認知、適応、統合 適応 ストレス、防衛機制 自我同一性 アイデンティティ、多重人格 自己概念 ロジャースの理論、カウンセリングの基礎</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	テキストは使用せず、資料としてプリントを配布する。				
参考書	参考書は、オリエンテーションの際に、参考図書リストを配付して解説する。				
予習・復習について	毎回復習することが望ましい。そうすればレポート作成も楽になる。				
成績評価の方法・基準	3回のレポートによって評価する。各レポートのテーマ、配点、書き方のポイント等は、オリエンテーションの際に、プリントを配布して解説する。				
オフィスアワー	原則として随時。電子メールによる質問も可。詳細は、オリエンテーションの際に紹介する。				
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	中 正樹	所属等	情報学部		
		研究室	J2831		
分担教員名					
クラス	情工3	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	社会問題、現代社会、社会学				
授業の目標	私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。				
学習内容	社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。				
授業計画	1回 オリエンテーション 2回 社会学の視点 3回 意思決定と行為 4回 集団と規範 (1) 5回 集団と規範 (2) 6回 家族と結婚と性 7回 職業と就職 8回 都市と人間 9回 社会階層と社会移動 10回 権力と参加 11回 科学時代の宗教 12回 スポーツの社会学 13回 メディアと疑似現実 14回 高齢化と社会福祉 15回 国際化と日本				
受講要件	特になし。				
テキスト	中野秀一郎『ソシオロジー事始め』[新版] (有斐閣ブックス、2005年)				
参考書	伊藤公雄・橋本満『はじめて出会う社会学』 (有斐閣アルマ、1998年)				
予習・復習について	毎回の授業において、テキストの該当箇所をあらかじめ目を通しておくこと。				
成績評価の方法・基準	①期末試験の配点を70%、随時実施する小レポートの配点を30%とする。 ②期末試験は指定の持込用紙のみを持込可とする。複写、印刷物は認めない。 ※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。 ※出席にあたり、代返行為が認められた場合には厳しく対処する。				
オフィスアワー	水曜日 5・6限 (12時45分～14時15分) を予定。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	田中 終子		所属等	情報学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情工1	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年,3年,4年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	妖精や魔法使いは怖くないのに、なぜ幽霊や吸血鬼は恐怖の対象となるのでしょうか。同じ非現実なものでも、怪物が得体の知れない「不気味なもの」であるのに対し、なぜロボットは謎めいていないのでしょうか。「ことばの表現」がどのようにして読者に「幻想」として受容されるのか考えてみましょう。				
学習内容	幻想文学と呼ばれる文学ジャンルに注目し、読者がテキストから「幻想」を読み取るための形式上の条件や工夫を分析します。いくつかの幻想文学論をもとに幻想文学の定義や歴史に関する知識を得た上で、実際に「幻想文学」作品を読み解きます。文学におけるジャンルの問題、娯楽作品と本質的な文学作品を隔てる違いの問題なども取り上げます。				
授業計画	1回 ガイダンス 2回 幻想文学について (1) 「幻想」の定義 3回 幻想文学について (2) 「幻想文学」というジャンル 4回 幻想文学について (3) 「幻想文学」の歴史 5回 作品分析 (1) E.T.A. ホフマン『砂男』など 6回 作品分析 (2) ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』など 7回 作品分析 (3) ブラム・ストーカー『ドラキュラ』など 8回 作品分析 (4) グスタフ・マイリンク『ゴーレム』など 9回 幻想文学と映画 10回 映画鑑賞 11回 日本における「幻想文学」の受容 12回 日本の幻想文学的作品 (1) 谷崎潤一郎『人面疽』など 13回 日本の幻想文学的作品 (2) 泉鏡花『夜叉ヶ池』など 14回 現代と幻想文学 15回 まとめ				
受講要件	特になし				
テキスト	授業時にプリントを配布します。				
参考書	ジャン＝リュック・スタインメッツ著、中島さおり訳、『幻想文学』、文庫クセジュ・白水社、1993年 ISBN : 9784560057414、951円(税抜)				
予習・復習について	興味をもった作品をどんどん読んで、作品について人と話してみましょう。				
成績評価の方法・基準	平常点(毎回提出のコメントシート)40%、レポート60%				
オフィスアワー	毎週水曜の昼休み、または7・8限 研究室(情報学部2号館7階2707)にて				
担当教員からのメッセージ	幻想文学は、数ある文学ジャンルの中でも特に強烈な感覚を読者に感じさせるジャンルです。みなさんが今まで読んだ本の中にも、幻想文学に属する作品があったかもしれません。幻想文学をもう少し知って、読書の楽しみを増やしてみませんか。				

授業科目名	線形代数学 I および演習				
担当教員名	中島 徹	所属等	工学部		
		研究室	共 403		
分担教員名					
クラス	工 4	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6,水 7・8
キーワード	ベクトル、一次変換				
授業の目標	<p>高等学校でも学んだ平面のベクトル、空間のベクトル、平面上の一次変換をさらに発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、平面および空間のベクトルの演算を身につける。特に外積の取り扱いに慣れる。 2、ベクトルの一次独立・一次従属について理解する。 3、空間図形の取り扱いに慣れる。特に直線の方程式と平面の方程式を身につける。 4、平面上の変換の具体例を知り、一次変換の考え方を理解する。 5、平面上の一次変換と2次正方行列との関係を理解する。 6、2次および3次の行列式の取り扱いに慣れる。 7、固有値・固有ベクトルを求め、2次対称行列の対角化ができるようになる。 				
学習内容	<p>線形代数学は、微分積分学と並んで理工系の学生にとって重要な2本柱のひとつである。高等学校では、平面および空間のベクトル、2×2の場合を中心に行列について取り扱っているが、線形代数学はこれに続くものと位置づけられる。また「図形と方程式」とも密接なつながりがある。線形代数学 I では高等学校で学んだ幾何ベクトルの復習から始まり、外積、一次独立・一次従属などについて学ぶ。さらにその応用として空間内における直線および平面の方程式について学ぶ。後半は平面上の一次変換について学び、できるだけ具体例を通して一次変換を理解することを目指す。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 平面ベクトル・平面図形 2回 空間ベクトル、外積とその性質 3回 ベクトルの一次独立・一次従属 4回 空間内の直線 5回 空間内の平面 6回 一次変換の定義と例 7回 より複雑な一次変換 8回 一次変換の像 9回 逆変換と行列式 10回 一次変換と連立一次方程式 11回 面積・体積と行列式 12回 2次対称行列の固有値・固有ベクトル 13回 2次対称行列の対角化 14回 2変数の二次形式 15回 2次曲線 				
受講要件	高等学校において「数学 I」「数学 II」「数学 III」「数学 A」「数学 B」「数学 C」のすべてを履修していること。				
テキスト	「工学系の線形代数学」 菊地光嗣 他著 (学術図書出版)				
参考書					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問である。前回の内容がわからないまま授業に臨んでも今回の内容を理解することは難しいであろう。予習・復習、特に復習を欠かさず行うことが肝要である。				
成績評価の方法・基準	<p>次の基準に基づき評価する。</p> <p>秀＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用力に優れる。</p> <p>優＝線形代数学の基礎を十分理解しており、かつ応用できる。</p> <p>良＝線形代数学の基礎を十分理解している。</p> <p>可＝線形代数学の基礎をおおよそ理解している。</p> <p>不可＝線形代数学の基礎を理解していない。</p> <p>中間・期末の2回の試験を行う。</p>				
オフィスアワー	各担当者が時間中に指示する。また、共通棟1階に「数学の広場」があり、質問や相談を受け付けているので、気軽に訪れて欲しい。 広場のホームページは http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~tmath/mathsquare/index.html				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	植田 一正	所属等	工学部		
		研究室	共通棟 5 階 507 室（不在時は 511 室も）		
分担教員名					
クラス	M (クラス II)	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	平川 和貴		所属等	工学部	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	S	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	植田 一正		所属等	工学部	
			研究室	共通棟 5 階 507 室（不在時は 511 室も）	
分担教員名					
クラス	C	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置（1） 原子と分子 2 原子の構造と電子配置（2） 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性（1） 周期律 4 元素の周期性と属性（2） 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門（1） 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門（2） 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合（1） 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合（2） 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造（1） 混成軌道 11 共有結合分子の構造（2） 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合（1） イオン結合 13 イオン結合と水素結合（2） 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学（1） 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学（2） 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	電磁気学				
担当教員名	岡部 拓也	所属等	工学部		
		研究室	共通 303		
分担教員名					
クラス	EM2	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電場、磁場、電流、電磁誘導、ガウスの法則、アンペールの法則、ファラデーの法則、キルヒホッフの法則、ビオ-サバールの法則				
授業の目標	本講義では、電磁気現象、主に、静電場、電流と磁場、電磁誘導、直流および交流回路に関連した原理・法則を理解し、それを体系的に記述する物理数学的技術を修得する。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場の性質の把握と記述方法の修得 2. ガウスの法則の理解と応用力養成 3. 電位と静電場エネルギーの記述方法の修得 4. 電流と磁場および電場と磁場の間に存在する法則の理解と応用力養成 5. 抵抗、コンデンサー、コイルからなる基本的な電気回路の特性の修得 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 概要（電磁気学の発展の歴史について概説し、現代の科学技術における役割と重要性について述べる） 2回 クーロンの法則、静電場（点電荷およびその集合による静電気力に関する法則とその数学的記述法、ベクトル場の概念とそれによる静電場の記述） 3回 ガウスの法則（積分形）（静電場と電荷密度の関係を、ベクトル場とその積分によって記述する方法について述べる） 4回 ガウスの法則の応用（この法則を用いて電場を求める幾つかの例を示す） 5回 電場と電位（電場の線積分による電位の定義と、電位の勾配から電場を求める方法について述べる） 6回 導体の性質、電気容量（導体および静電場中の導体の特性について述べる。さらに、導体平板および導体球からなるコンデンサーの電気容量、静電場エネルギーについて説明する） 7回 誘電体と静電場（誘電体の基本的性質と、誘電体中の静電場の性質について述べる） 8回 電流密度、オームの法則、キルヒホッフの法則（導体を流れる電荷から電流および抵抗を定義し、電気回路における電流、電圧の基本法則について述べる） 9回 電流と磁場、ローレンツ力（磁束密度および磁場の強さの定義、荷電粒子および電流が流れている導線が磁場中で受ける力の法則について述べる） 10回 静磁場の基本法則とアンペールの法則（磁場に関するガウスの法則、電流の強さとその周りにできる磁場の間に成り立つ法則について述べる） 11回 ビオ・サバールの法則（任意の曲線導体を流れる電流によってできる磁場の計算方法、および応用例について述べる） 12回 電磁誘導、コイルの自己誘導現象（閉じた回路を貫く磁場の時間変化により生じる起電力の法則、コイル中の磁場の時間変化により自己誘導される起電力について述べる） 13回 変位電流と誘導磁場（平行板コンデンサー間の時間変化する電場から変位電流を定義し、変位電流の周りに発生する誘導磁場について述べる） 14回 回路の過渡現象（抵抗 R、コンデンサー C、コイル L からなる回路に、直流電圧をかけた場合の電流の過渡的变化を求め、回路の基本的性質について述べる） 15回 交流回路（交流電圧をかけた回路の電流の変化を交流抵抗（インピーダンス）を用いて表す） 				
受講要件	微分・積分、線形代数、常微分方程式、ベクトル解析の理解が必要となるので、関連する数学の講義および演習は必ず履修しておくこと。				
テキスト	「ビジュアルアプローチ 電磁気学」（前田和茂，小林俊雄 著，森北出版）ISBN978-4-627-16221-1				
参考書	「大学演習電磁気学」（霜田・近角 編，裳華房）ISBN-13:978-4785380106 「電磁気学の考え方」（砂川重信著，岩波書店）ISBN-13:978-4000078925				
予習・復習について	講義時間内に行える演習課題数には限りがあるので、教科書および参考書の例題・練習問題は各自よく自習しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電磁現象の理論的解析と工学的考察を行うための基礎能力があるかどうかを評価する。評価の配分は、試験が 70%程度、演習・レポート等が 30%程度である。				
オフィスアワー	質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知して下さい。				
担当教員からのメッセージ	学生名簿に基づいて分けられた2つのクラスを、岡部、中島がそれぞれ担当する。				

授業科目名	異文化と出会う				
担当教員名	許山 秀樹		所属等	情報学部	
			研究室	J-2805	
分担教員名	浜村 和明, 田中 柊子, 森野 聡子, 竹林 洋一, 八柳 良次郎, 鈴木 益子, 堀内 裕晃				
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	3年, 4年	難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード	多言語、多文化、自言語、自文化、多文化共生社会、方言				
授業の目標	英語のみに偏らず、さまざまな言語と文化を知ること、グローバルな視野の獲得をめざすと同時に、地球社会の中にある日本語と日本文化に関する認識を深めます。				
学習内容	下記学習計画を参照。()内は担当教員名。				
授業計画	<p>■授業計画■</p> <p>【1】 ガイダンス (許山)</p> <p>【2】 英語圏1 (浜村) [テーマ: 米国の宗教と学問 内容: 米国の宗教の歴史を概観して、宗教と学問の関係を探る。]</p> <p>【3】 英語圏1 (浜村) [テーマ: 米国の宗教と学問 内容: Ralph Waldo Emerson の論文「米国の学者」を読む。]</p> <p>【4】 英語圏2 (堀内) [テーマ: ことばと文化の比較対照 内容: 英語と日本語の対照的特徴を手がかりに英語圏と日本語圏の文化的特徴(「甘え」と「けじめ」)を探る。]</p> <p>【5】 英語圏2 (堀内) [テーマ: ことばと文化の比較対照 内容: 英語と日本語の対照的特徴を手がかりに英語圏と日本語圏の文化的特徴(「連続性」と「不連続性」の捉え方の相違)を探る。]</p> <p>【6】 アラビア語圏 (竹林) [テーマ: コモンセンスの観点からの異文化理解の深化内容: 映像を使ってサウジアラビアと日本の文化や考え方・価値観の違いについて検討します]</p> <p>【7】 ロシア語圏 (八柳) [テーマ: ロシアの文化と政治内容: ロシアの文化と政治のかかわりを小説やアネクドータを手がかりに考えます]</p> <p>【8】 フランス語圏 (田中柊子) [テーマ: アルザス地方の歴史と文化 内容: フランスとドイツの支配を交互に受けながら、独自色を培ってきたアルザス地方の歴史と文化を学ぶ。]</p> <p>【9】 チェコ語圏 (田中柊子) [テーマ: チェコ文化の平民主義的伝統 内容: 18世紀末から19世紀前半にかけて起こったチェコ民族再生運動や、被支配者の歴史を背景とした独特の精神風土を学ぶ。]</p> <p>【10】 ケルト語圏1 (森野) [テーマ: ブリテン諸島の少数言語と少数民族 内容: ゲール語とウェールズ語をとりあげ、それら言語の成り立ち、歴史的・社会的背景を知る。]</p> <p>【11】 ケルト語圏2 (森野) [テーマ: 多言語と多文化 内容: アイルランドとウェールズにおける二言語併用(英語と少数言語)の意味について考える。]</p> <p>【12】 ポルトガル語圏1 (鈴木) [テーマ: ポルトガル語の挨拶と基本文型 内容: 挨拶や自己紹介などの簡単なフレーズからポルトガル語の基礎的な文型を学ぶ。]</p> <p>【13】 ポルトガル語圏2 (鈴木) [テーマ: ブラジル社会での日系人の歴史と役割 内容: 伯国社会で信頼高い日系人、歴史的背景やその足跡から多文化共生社会に役立つものを学ぶ。]</p> <p>【14】 中国語圏1 (許山) [テーマ: 漢字の伝来と日本語 内容: 中国から漢字がもたらされて日本語はどのような影響を受けたか、音声・文化面などから考える。]</p> <p>【15】 中国語圏2 (許山) [テーマ: 新文化と新語 内容: 西洋から新しい文化がもたらされた時、漢字文化圏はどのように対応したかを学ぶ。]</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	各担当教員の指示に従ってください。				
予習・復習について	ガイダンス時における注意事項に留意し、各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価の方法・基準	各担当教員が授業時間内に10点満点でミニ・レポートを課す。担当する教員は全員で8名ですので、ミニ・レポート分が小計80点満点となります。これに期末レポート60点満点を加算し、合計140点満点を100点満点に換算し、最終評価とします。				
オフィスアワー	各担当教員にメールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	特に許可された場合を除き、■パソコン・携帯電話・その他、授業に関係ない物を授業中に使用しないこと。■授業内容が多彩、多岐にわたるので、欠席せずによりしっかり内容を理解してください。なお担当教員の事情により順番が入れ替わる可能性があることを予めご了解ください。				

授業科目名	ことば				
担当教員名	近藤 真	所属等	情報学部		
		研究室	J-1313		
分担教員名	北澤 茂良,竹内 勇剛,田村 敏広				
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分 選必
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード	コミュニケーション、言語学、自然言語処理、認知科学				
授業の目標	ことばは人間が生得的に備えている能力のひとつであり、すべての人々のあらゆる知的活動にことばが関わっていると言える。この講義では、私たちの日常生活に遍在することばにあらためて関心を向けることによって、ことばについての認識を深めることを目標とする。				
学習内容	授業では、ことばの本質についての理論的取り組み、情報技術的取り組み、コミュニケーションにおけることばの働きなどに焦点をあて、各講師が言語学、情報科学、認知科学といった視点から、ことばの諸側面について概説する。				
授業計画	<p>北澤（工学・音声処理）、竹内（認知科学）、田村（言語学）、近藤（言語学）、の4名が分担して講義を担当する。</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回・第3回：コミュニケーションにおけることばの役割とその特徴（近藤）</p> <p>第4回・第6回：言語のリズムについての情報科学的アプローチ（北澤）</p> <p>第7回・第9回：ことばの文法についての理論的アプローチ（近藤）</p> <p>第10回・第12回：ことばの意味についての理論的アプローチ（田村）</p> <p>第13回・第15回：ことばのコミュニケーションについての認知科学的アプローチ（竹内）</p> <p>※各講師の順序および担当回数に変更される場合がある。</p> <p>【各教員への連絡方法について】</p> <p>各教員への連絡は、メールを利用すること。直接、話をしたい場合でも、まずメールでアポイントを取ること。</p> <p>北澤： kitazawa@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>竹内： takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>田村： tamura@inf.shizuoka.ac.jp</p> <p>近藤： mkondo@inf.shizuoka.ac.jp</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	各講師が必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介する。				
予習・復習について	各トピックの講義では、そのトピックに関する前回の講義内容を理解していることが前提となって講義が進められる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するよう努めること。				
成績評価の方法・基準	各トピックごとにレポートを課し、各レポートをそれぞれ20%とし、それらの合計点で評価する。 ※未提出のレポートがある場合には、提出されたレポートの合計点に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは水曜5・6時限。各教員への連絡方法は授業計画欄を参照。				
担当教員からのメッセージ	普段、あたりまえのように使っていることばを見直すことが、みなさんの知的好奇心を刺激することを願っています。				

授業科目名	浜松市の交通を考える				
担当教員名	戸田 三津夫		所属等	工学部	
			研究室	C西406	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	金3・4
キーワード					
授業の目標	これから出生数の減少により若年人口が減り、日本国民の年齢構成が変化することにより高齢化が進む。産業構造の変化、CO2削減圧力、石油枯渇など、日本と浜松市を取り巻く環境はこれから激変する。それを乗り越えるには何が必要だろうか。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化と自動車に頼らなくても大丈夫な交通を実現するためにコンパクトシティと公共交通の拡充を目指さなければならないこと。そのための有効なツールとしてLRTや運輸連合があることなどを紹介する。受講生諸君にそれらを学んだのちに、講義の最終回までに自由な発想で今後の浜松や日本の未来を考え、活発に論じてもらうことを目標とする。				
学習内容	浜松を取り巻くさまざまな状況：産業や交通の歴史、技術、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。そのことから将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通を軸とした都市デザインを各自が考え発表する。				
授業計画	1回 講義内容とスケジュールの紹介（戸田） 2回 交通と文明、近代都市と交通が支える物流、経済と環境への影響（戸田） 3回 動力の歴史と交通（人力、風、家畜、エンジン、モータ）（松田） 4回 交通がもたらす災い：社会的費用：交通事故、環境被害（武田） 5回 日本と浜松の交通史（戦前くらいまで）（戸田） 6回 日本と浜松の交通史（戦後くらいから現在まで）（塩川） 7回 交通装置の主役たち：自動車とは、鉄道とは、航空機とは、船舶とは（戸田） 8回 浜松市の現状と将来予測：高齢化、工場の移転、モータリゼーション、高齢ドライバー、中心市街地空洞化、大型ショッピングセンター乱立、交通事故政令市ワースト、財政の不安、浜松市の将来ビジョン（戸田） 9回 西遠都市圏の都市計画と交通：パーソントリップ調査をふまえて（未定） 10回 交通と環境負荷（松田） 11回 世界のLRTとその機能と可能性（栗田） 12回 浜松型次世代交通システムの提案（内田） 13回 浜松型交通のデザイン（河岡） 14回 浜松と日本の未来を語る1（受講生によるアイデア、プランの発表と討論1） 15回 浜松と日本の未来を語る2（受講生によるアイデア、プランの発表と討論2）				
受講要件	浜松市の市政に関心のある学生の受講を望む。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、鉄道だいすき人、自動車産業への就職希望者、自転車ツーガキスト（造語）など、歓迎です。				
テキスト	定めません。				
参考書	テーマが非常に多岐にわたるため、各自が探して下さい。問い合わせをいただければ紹介もします。浜松分館には交通や都市運営の関連書籍を用意しました。和地山公園の城北図書館も利用して下さい。				
予習・復習について	日ごろから講義内容に関することに問題意識を持って生活して下さい。自転車交通、高齢者の交通事故、インフラの維持、第二東名、中央リニア、東海地震、富士山噴火、地方財政逼迫ほか。				
成績評価の方法・基準	期末試験はしませんが、随時小テストなどを行います。				
オフィスアワー	特に定めません。メールしてから来て下さい。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	自動車など輸送機メーカーへの就職を希望している人、公務員となって都市政策にたずさわることを希望している人には役立つと思います。浜松市広報物（広報はままつ、HPパブリックコメント情報など）、電車やバス・駅の広告、新聞記事、雑誌など情報に気を配っておいて下さい。				

授業科目名	こころの深層				
担当教員名	太田 裕一	所属等	保健センター		
		研究室	浜松合同棟 1 号館 1 F		
分担教員名					
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年,4 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード					
授業の目標	臨床心理学、民俗学、社会学などの学問を借りつつ、いつも違う視点からものを眺め、考えてみることを通じて、与えられた問題に対する解答を見つけ出すのではなく、「問題」そのものを発見することの重要性について学びたいと思います。 学習内容 主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
学習内容	主にアニメーションを題材にして、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを新たな角度から解釈し直します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「アルプスの少女ハイジ」の象徴表現 2. 「アルプスの少女ハイジ」とヒステリー 3. 「となりのトトロ」の象徴表現 4. 「パンダコパンダ」と異類婚 5. 「千と千尋の神隠し」と父親はなぜ暴走する 6. 「おジャ魔女どれみ」における鏡の役割 7. 「おジャ魔女どれみ」と情緒的恒常性の確立 8. 「秒速5センチメートル」における幻想の北関東 9. 戦隊ヒーローの名乗りの意味 10. 「デジタルモンスター」における象徴表現 11. 「ぼくらの」と家族/集団療法 12. 「新世紀エヴァンゲリオン」とトラウマ 13. 「魔法少女まどか☆マギカ」と罪悪感 <p>内容は皆さんの毎回のレポートの希望を取りいれて適宜、変更します。</p>				
受講要件	アニメーションが好きで、レポートを毎回提出する意欲のある人。				
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	<p>毎回電子メールによる小レポート(400字以上)、学期末に最終レポートを提出してもらい評価します。最終レポートが提出できるのはミニレポートを 2/3 以上提出している人に限ります。成績の比率は S : A : B : C : D = 1 : 2 : 5 : 1 : 1 を目安にしています。期末レポートの題は「自分の好きなアニメの分析」などを考えています。</p> <p>講義のパワーポイント用の絵、アニメーション、コスプレ、音楽などの投稿を受けつけています。講義で採用されたものは加点します。ふるってご投稿ください。</p> <p>自分自身のオリジナルなものの見方や感覚を評価します。講義のまとめを書く必要はありません。インターネットのコンテンツを無断転載(コピー&ペースト)した人は不可とします。</p>				
オフィスアワー	オフィスアワーは学生相談室の太田担当の開室日(月曜と金曜 1:30-5:00 の予定)とします。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(hyoota@ipc.shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからの方が確実です				
担当教員からのメッセージ	過去の抽選状況は抽選がある年が半分くらいありました。優先シールを使えば受講できる可能性が高いですが、使わない人は抽選になるかもしれません。新鮮な視点を提供してくれる受講生の方をお待ちしています。				

授業科目名	エネルギーと環境				
担当教員名	大矢 恭久		所属等	理学部	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年,4年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (奥野) 2. エネルギー・環境問題(2) (奥野) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (奥野) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電:岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電:岡田) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電:岡田) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県:神村) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	【基礎講座】エネルギーと地球環境				
参考書	原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門 I				
担当教員名	田中 終子		所属等	情報学部	
			研究室		
分担教員名					
クラス	情	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年,2年,3年,4年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。				
学習内容	教科書に沿ってフランス語文法を丁寧に学び、練習問題を繰り返し解くことで、フランス語の構造を理解し、フランス語独特の構文、表現に慣れます。授業ではたくさんフランス語を書き、声に出してフランス語を覚えます。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	1回 Lecon 0 発音の基礎 2回 Lecon 1 動詞 <i>etre</i> はい/いいえで答える疑問文 3回 Lecon 1 否定形 男性形と女性形 4回 Lecon 2 規則動詞 エリジョン 5回 Lecon 3 疑問詞を使った疑問文 動詞 <i>venir</i> 6回 Lecon 4 不定冠詞と定冠詞 動詞 <i>travailler</i> 7回 復習 8回 小テスト 9回 Lecon 5 動詞 <i>avoir</i> <i>qu'est-ce que</i> ~ <i>comme</i> ~ の使い方 10回 Lecon 6 直接目的語代名詞 形容詞 11回 Lecon 7 部分冠詞 12回 Lecon 8 人称代名詞の強勢形 所有形容詞 強調構文 13回 Lecon 9 基本的な動詞のまとめ 14回 復習 15回 映画鑑賞				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuisse など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。 フランス語をめきめき上達させたい人には教科書と同じシリーズの文法版の購入をおすすめします。 『Moi, je...文法』 2625 円（税込） アルマ出版 ISBN 978-4-905343-02-8				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	前期 水曜 7・8 限 研究室（情報学部 2 号館 7 階 2707）				
担当教員からのメッセージ	お店やマンション、洋菓子の名前など、普段の生活の中でもフランス語が溢れています。フランス語を勉強することで、いつもの風景が少し変わって見えてくるのではないのでしょうか。旅先でフランス語が使えたら、楽しさも倍増することでしょう。				

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	植田 一正	所属等	工学部		
		研究室	共通棟 5 階 507 室（不在時は 511 室も）		
分担教員名					
クラス	工（再履修生）	学期	前学期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	金 9・10
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進度によっては、中間試験（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置（1） 原子と分子 2 原子の構造と電子配置（2） 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性（1） 周期律 4 元素の周期性と属性（2） 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門（1） 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門（2） 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合（1） 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合（2） 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造（1） 混成軌道 11 共有結合分子の構造（2） 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合（1） イオン結合 13 イオン結合と水素結合（2） 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学（1） 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学（2） 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	<p>「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1</p>				
参考書	<p>化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9</p>				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	電気電子材料				
担当教員名	喜多 隆介		所属等	工学部	
			研究室	工学部 E 棟 320	
分担教員名					
クラス	共通	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、IC プロセス				
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。				
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的な応用例について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子材料の種類とその機能 2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・金属中の電気伝導とバンド理論 ・金属導電体材料の特性（導線材料） ・特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等） ・超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体） 3. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> ・電流による抵抗体の発熱機構 ・精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料 ・特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料） 4. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・磁気モーメントと磁性、磁性体の種類 ・磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料 ・磁気記録材料 5. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散 ・強誘電体材料の種類 ・圧電効果 ・焦電効果 ・絶縁体の電気伝導 6. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用材料 ・炭素材料 ・レーザ材料他 				
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい				
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。				
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善				
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行い、レポート提出を課す。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。 terkita@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。				

授業科目名	塑性加工学				
担当教員名	田中 繁一	所属等	工学部		
		研究室	M230		
分担教員名					
クラス	機械知能	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火5・6
キーワード	塑性力学、圧延、曲げ加工、鍛造、板成形				
授業の目標	材料の塑性変形能を利用した各種加工法についてまた、その基礎となる塑性力学について理解する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・塑性力学の基礎 ・圧延加工 ・曲げ加工 ・鍛造加工 ・引抜き、押出し加工 ・せん断加工 ・板成形加工 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塑性加工の意義, 塑性力学の基礎 (1) 金属材料の塑性変形 (早川) 2. 塑性力学の基礎 (2) 応力とひずみ (早川) 3. 塑性力学の基礎 (3) 降伏条件 (早川) 4. 塑性力学の基礎 (4) 塑性構成式 (早川) 5. 圧延加工 (1) (早川) 6. 圧延加工 (2) (早川) 7. 曲げ加工 (1) (早川) 8. 曲げ加工 (2) (早川) 9. 鍛造 (1) (田中) 10. 鍛造 (2) (田中) 11. 引抜き加工 (田中) 12. 押出し加工 (田中) 13. せん断加工 (田中) 14. 板成形加工 (1) (田中) 15. 板成形加工 (2) (田中) <p style="text-align: center;">期末試験</p>				
受講要件	材料力学, 材料加工学を修得していることが望ましい				
テキスト	基礎からわかる塑性加工 (長田・柳本, コロナ社)				
参考書	塑性加工入門 (日本塑性加工学会編, コロナ社) 基礎塑性力学 (野田・中村, 日新出版)				
予習・復習について	復習レポートをほぼ毎回出すので, 提出すること. これをもって出欠を判断する.				
成績評価の方法・基準	復習レポートを毎回提出することが期末試験を受ける前提となる. 成績は期末試験で評価する. 評価区分は以下の通りである. 秀・・・・「塑性加工学」の全般が理解に優れ, かつ応用に優れる 優・・・・「塑性加工学」の全般が理解でき, かつ応用できる 良・・・・「塑性加工学」の全般が理解できる 可・・・・「塑性加工学」の基本が理解できる 不可・・・・「塑性加工学」の基本が理解できない 再試験: 再試験は行わない.				
オフィスアワー	特に定めていない. 可能な限り随時受け付ける.				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	弾性力学				
担当教員名	島村 佳伸		所属等	工学部	
			研究室	M229	
分担教員名					
クラス	機械宇宙	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金7・8
キーワード	応力、ひずみ、構成方程式、2次元弾性問題、有限要素法				
授業の目標	<p>材料・部材・構造物に生じる応力・変形を取り扱う弾性力学について学習する。特に、弾性体の力学の基礎知識とその体系について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応力の概念とその性質の修得 2. ひずみの概念とその性質の修得 3. 構成方程式の修得 4. 平面問題の解析法の理解と応用力の養成 5. 有限要素法の理解 				
学習内容	弾性力学は材料力学の基礎知識をベースに、固体の応力や変形挙動を正確に求める学問である。そのため、弾性力学では応力・ひずみ・構成方程式・弾性ひずみエネルギーについての理論体系を学習する。さらに、それらを基礎として材料・部材・構造物に生じる応力や変形を予測する方法を習得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回 授業ガイダンス（授業内容、注意点）。緒論（弾性力学とは） 2回 基礎理論（応力1） 3回 基礎理論（応力2） 4回 基礎理論（変形とひずみ1） 5回 基礎理論（変形とひずみ2） 6回 基礎理論（構成式、降伏条件） 7回 基礎理論（弾性力学の問題の解法） 8回 基礎関係式のまとめ、中間試験 9回 二次元問題1（2次元問題の基礎、平面ひずみ、平面応力） 10回 二次元問題2（諸関係式の極座標表示） 11回 二次元問題3（応力関数） 12回 二次元問題4（応力集中問題） 13回 数値解法1（有限要素法、仮想仕事の原理） 14回 数値解法2（ひずみ-変位マトリックス、剛性方程式） 15回 数値解法3（境界条件と解の求め方、解析手順） 				
受講要件	材料力学I、材料力学IIの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「弾性力学入門—基礎理論から数値解法まで」、竹園 茂男、埜 克己、感本 広文、稲村 栄次郎（共著）、森北出版、ISBN：9784627666412				
参考書	「弾塑性力学の基礎」、吉田 総仁（著）、共立出版、ISBN：9784320081147				
予習・復習について	関連科目の復習を含め、予習・復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験：全講義終了後に期末試験を実施する。 2. 評価割合：中間試験・期末試験 80%，レポート 20% 3. 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 秀・・・「弾性力学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「弾性力学」の全般が理解でき、かつ応用できる 良・・・「弾性力学」の全般が理解できる 可・・・「弾性力学」の基本が理解できる 不可・・・「弾性力学」の基本が理解できない 4. 再試験：実施しない。 				
オフィスアワー	毎週木曜日の9・10時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知ください。				
担当教員からのメッセージ	この授業は、構造設計のための基本的な概念とその応用を習得することを目的としています。また、強度信頼性評価の基礎となる学問です。興味を持って授業に臨み、基本をきっちり身に付けて下さい。				

授業科目名	博物館概論				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック				
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総合的な理解を図る。				
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているのかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。				
授業計画	<p>1回 博物館学と博物館学芸員資格 博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2回 博物館の分類 設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3回 博物館の歴史1 ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4回 博物館の歴史2 アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5回 博物館の歴史3 アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6回 博物館の歴史4 日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7回 博物館関連法規 博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8回 学芸員の職務 学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9回 博物館の組織と設備 博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10回 博物館の運営 博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11回 博物館資料の収集と保存 博物館資料の収集、保管について論及</p> <p>12回 調査研究機関としての博物館 博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13回 博物館における展示 博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14回 生涯学習機関としての博物館 博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15回 まとめ コミュニティの拠点としての博物館の役割</p>				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する				
参考書	鈴木真理編『博物館概論』（大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻）樹村房 1999				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である				
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート（10%）、期末試験（90%）により評価する				
オフィスアワー	授業中に指示する				

担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。
--------------	--------------------------------

授業科目名	博物館経営論				
担当教員名	高松 良幸	所属等	情報学部		
		研究室	J-2629		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード					
授業の目標	<p>この講義は、博物館経営論・博物館情報論の2分野にわたる内容を取り扱う。各分野の目的・目標は、以下の通り。</p> <p>【博物館経営論】現在日本の博物館が抱える組織、人材、資金などの運営等に関する諸問題について論じるとともに、それらに立ち向かっていくための方策を、ミュージアム・マネジメントの立場から考察する。また、コミュニティの文化コアとして、今後求められる博物館像とはいかなるものか考える。</p> <p>【博物館情報論】博物館と情報の関わり、博物館における情報の意義に関する理解を深めることを目的とする。具体的には、情報機関としての博物館のあり方、博物館における情報管理、発信のあり方を理解することを目標とする。</p>				
学習内容	<p>授業の前半は博物館経営論、後半は博物館情報論の内容について講義する。</p> <p>博物館経営論では、博物館の運営、教育普及その他の事業に関する現状と、今後のあり方について論じる。</p> <p>博物館情報論では、情報機関としての博物館の位置づけや理念について考察するとともに、その具体的な方法としてのホームページやデジタル・アーカイブ等のシステムやコンテンツについて紹介する。</p>				
授業計画	<p>1回 博物館運営戦略 各博物館の使命の確立と、それを具体化する運営戦略</p> <p>2回 博物館資金戦略 博物館における財政の現状と今後</p> <p>3回 展示の運営 展示を演出するエデュテイメント手法</p> <p>4回 ミュージアム・マーケティング ミュージアム市場の特徴と適応化策</p> <p>5回 利用者と対話する博物館 博物館と利用者の双方向コミュニケーションのあり方</p> <p>6回 ミュージアム・リスク・マネジメント 博物館における防災、防犯、著作権問題、情報管理等</p> <p>7回 今後の博物館運営に求められるもの パブリック・コアとしてのミュージアム</p> <p>8回 情報機関としての博物館 情報伝達機関としての博物館の位置づけ</p> <p>9回 博物館が取り扱う情報 博物館が取り扱う情報の種類と、そのためのメディア</p> <p>10回 インターネットと博物館 1-博物館のホームページ 博物館における情報伝達・交流手段としてのホームページの役割</p> <p>11回 インターネットと博物館 2-デジタル・アーカイブ I 博物館におけるデジタル・アーカイブの意義と、そのシステム概要</p> <p>12回 インターネットと博物館 3-デジタル・アーカイブ II 国際的な博物館資料情報の共有化のためのメタデータ標準</p> <p>13回 博物館と知的財産権 博物館情報の知的財産権取り扱い</p> <p>14回 博物館と情報倫理 博物館が各種情報を取り扱う際の情報倫理</p> <p>15回 まとめ</p>				
受講要件					
テキスト	適宜教材資料を配布する				
参考書	<p>参考書 大堀哲他編『ミュージアム・マネジメント—博物館運営の方法と実践—』 東京堂</p> <p>坂井知志編『博物館情報論』 樹村房</p>				
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習が必要である				

成績評価の方法・基準	博物館経営論・博物館情報論の両分野についてのレポートにより評価する。両者の配点は50%ずつ。各レポートとも、評価は、講義内容の理解度を50%、応用・発展度を50%で行う。なお、単位修得のためには、両レポートとも60%以上の評価が必要である（両レポートの合計点が60%以上であっても、一方のレポートが60%未満の評価である場合は、合格とならない）。
オフィスアワー	授業中に指示する
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	笹原 恵	所属等	情報学部		
		研究室	J-2825		
分担教員名					
クラス	1クラス	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード					
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、ジェンダーエクイティ（ジェンダー平等、男女平等）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なのかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。				
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー 性教育や性暴力の問題等などセクシュアリティに関わる問題やセクシュアルマイノリティが抱える悩みなどから、身体と精神の両方にかかわるセクシュアリティsexuality概念を深く見つめる。これらの問題から現代社会を照射することによって、近代社会システムの限界やこれからあるべき姿について考えていくことにしたい。セクシュアルマイノリティとしては、主にトランスジェンダー（性同一性障害を含む）と同性愛者や両性愛者の抱える問題点を考える。</p> <p>3. 現代社会とジェンダー～現状と課題～ 現代社会を「ジェンダー」の視点から分析し、メディア、学校、職場、家族におけるジェンダーの実態をとりあげながら、ジェンダー研究の基礎視角を学ぶ。また女性差別撤廃条約をはじめとする世界的な男女平等の流れを振り返り、日本における男女共同参画政策について概観する。</p>				
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーとは何か： *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー *性暴力とは何か *セクシュアリティの今日的課題 *セクシュアルマイノリティ</p> <p>3. ジェンダーの現状と課題 1) ジェンダーの社会化～ひととはどのようにして女/男になるか *メディアの中のジェンダー 2) 学校・教育とジェンダー *学校におけるジェンダー問題－隠れたカリキュラムを考える－ 3) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？－ *性別職域分離とは 4) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ *家事・育児は誰の仕事？ *夫婦別姓を考える まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か ジェンダーの変革のために何が必要か</p>				
受講要件	特にありませんが、ジェンダーについて真摯に学ぼうとすることが要件です。				
テキスト	特に用いず、適宜、プリントを配付します。				
参考書	授業中に紹介します				
予習・復習について	最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）などを課しますが、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連図書を積極的に読むことを期待します。				

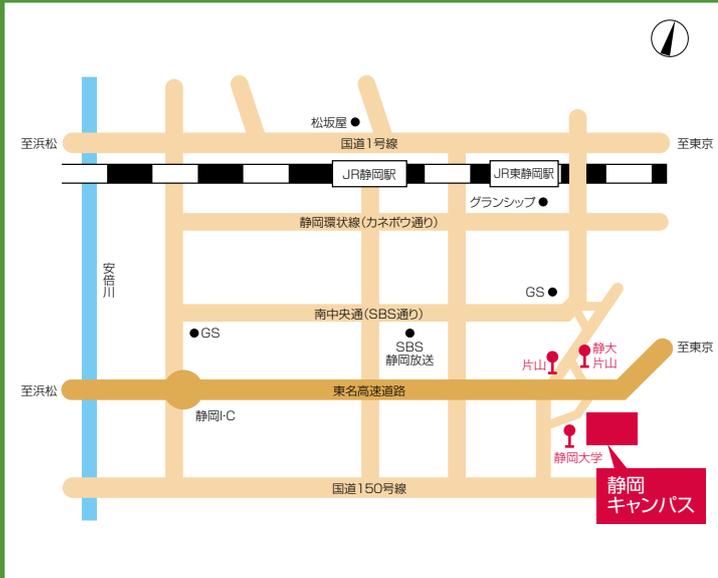
成績評価の方法・基準	予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：2割 中間レポート（冬休み課題）：2割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割
オフィスアワー	金曜5・6限
担当教員からのメッセージ	例年の受講生をみていると、「ジェンダー」というと女性の問題と思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性関係性にかかわる重要な問題です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれていますが、性概念の多様性に気づき、さまざまな性の存在に気づくことができれば、社会のあり方が違ったものを感じられるようになり、現代社会を考える上での重要な視点を得られると思います。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化することが必要になります。その学びが、皆さんの人生に、豊かさと幸福とをもたらすことを願っています。

授業科目名	情報学概論				
担当教員名	藤井 史朗		所属等	情報学部	
			研究室	J-2829	
分担教員名	渡辺 尚, 竹林 洋一				
クラス	1クラス	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金1・2
キーワード					
授業の目標	「情報学」って何？情報学部ではどんなことを勉強するの？この講義はこれらの疑問に答えることが目的である。すなわち、皆さんがこれから学んでいく「情報学」とは何かについて、3人の教員が分担して授業を展開していく。情報学の内容と範囲は幅広い。この講義によって皆さんが情報学のイメージをつかみ、それがこの学部における今後の学習への鳥瞰図の働きをすることを期待する。				
学習内容	この授業は次の3部から構成されている。 第1部：「情報技術の進歩を将来」急速な進歩を遂げた情報技術について、発展の歴史、今後の進歩の予測とさまざまな可能性を述べる。(竹林) 第2部：「情報とコンピュータ」基礎として、情報とは何か、情報を扱う（伝える、処理する、記憶する）とはどういうことを学ぶ。(渡辺) 第3部：「社会と情報」情報と社会との関係、さまざまな新しい可能性と問題点を取り上げ、情報の可能性と問題点を説明する。(藤井)				
授業計画	第1部：情報技術の進歩と将来 第1週 ヒューマンインタフェースの進化 第2週 ウェアラブルコンピュータ 第3週 情報環境の進歩の光と影 第4週 情報から人・社会へ 第5週 情報技術と新しい学問産業の創出 第2部：情報とコンピュータ 第6週 情報とは何か、情報とは、「情報を扱う」とは 第7週 情報を伝える（1） 第8週 情報を伝える（2） 第9週 情報を処理する 第10週 情報を記憶する 第3部 社会と情報 第11週 社会の発展にとって情報とは何か 第12週 情報社会の変遷と情報社会論の諸論点 第13週 情報化と個人・社会・コミュニケーションの展望 第14週 ITの活用と、新たな情報社会コミュニティの形成 第15週 情報とシステム（まとめ） 第16週 全体のまとめ				
受講要件	なし。				
テキスト	各教員が必要に応じてプリントを配布する。参考書も各教員が授業中に適宜指示する。				
参考書	第1部の参考書：『ミンスキー博士の脳の探検一常識・感情・自己とは一』、共立出版 2009 第2部の参考書：授業時に指示する 第3部の参考書：岡田・藤井編『情報社会の見える人、見えない人』、公人社、2000				
予習・復習について	1回の授業につき、予習と復習合わせて週1時間程度。				
成績評価の方法・基準	情報学について「初歩的な知識を得て理解する」ことや「考える」こと、「学習する習慣をつける」ということを目的としている。 竹林・渡辺の担当部分はレポートによる。藤井の担当部分は質問票及びレポート、小テストによる。最終的に3部を統合し、授業の出席数、授業態度を考慮して成績を評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

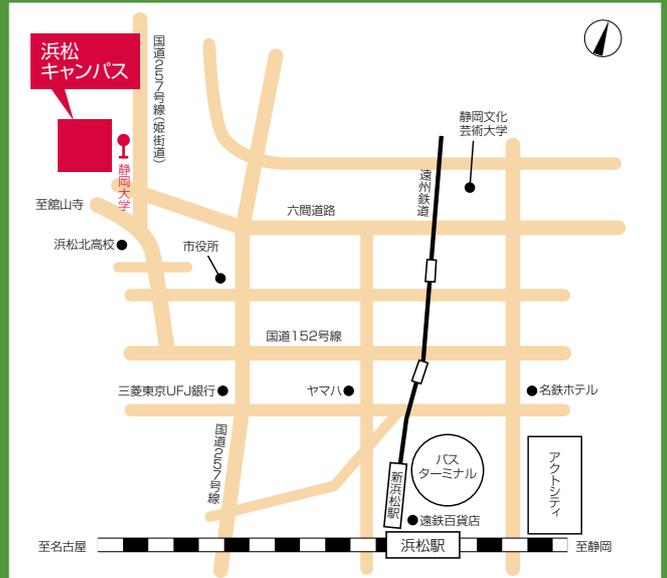
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



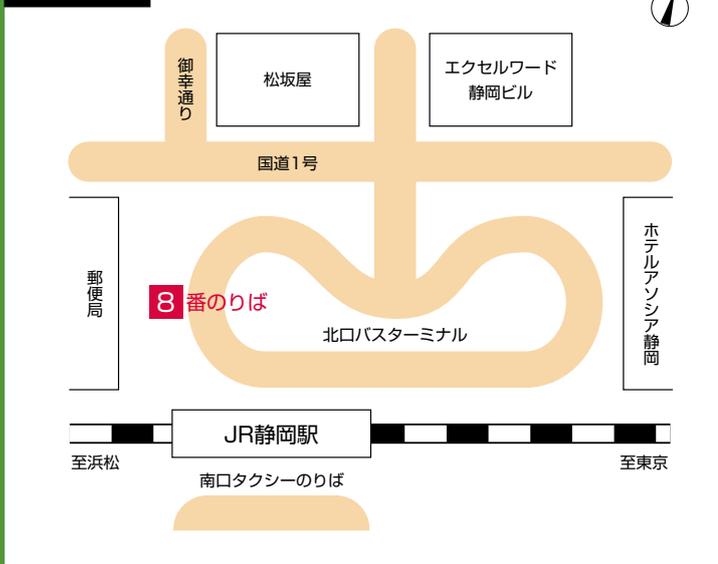
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

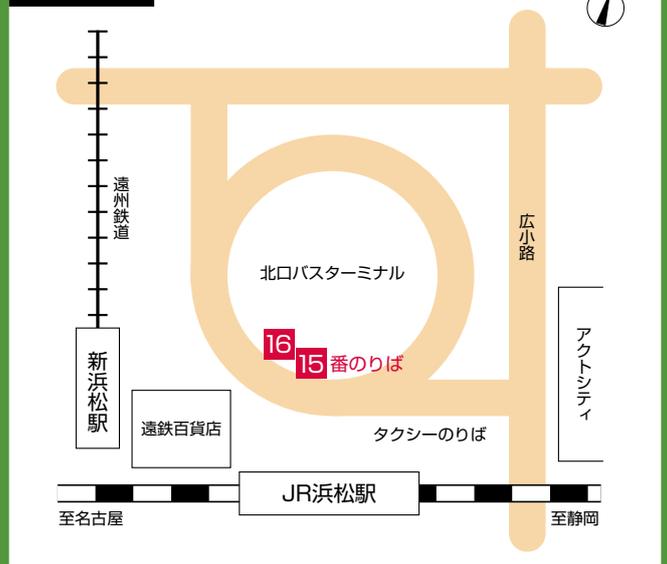


バス停案内図



1. JR静岡駅北口しずつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。



イノベーション
静岡大学社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡県駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/